

初等中等教育における教育財政に関する調査研究
最終報告書

平成24年（2012年）3月

研究代表者 長屋 正人
(国立教育政策研究所 研究企画開発部)

はじめに

本報告書は、国立教育政策研究所における平成 23 年度プロジェクト研究「初等中等教育における教育財政に関する調査研究」の最終報告書である。この研究はもともと「教育財政及び教育費負担の在り方等に関する基礎的研究」（平成 22 年度より 2 か年計画）（「教育財政及び教育費負担の在り方についての調査研究」（平成 21 年度より 2 か年計画）を発展的に解消したもの）という呼称であったが、平成 23 年度において研究のテーマを初等中等教育に絞ることになったことから、現在の呼称に改めたものである。

逼迫する中央・地方政府財政のもと、公教育分野に充てる予算総額の適切性および教育分野内部における有効な資源配分の在り方は、教育行財政上の重要な検討課題となっている。さらには、総額裁量制に代表される近年の教育行財政制度の地方分権化の流れは地方における教育資源や教育条件をより多様な状況へと変化させる誘因となっている。しかしながら、このような地方における教育資源配分の変化とその多様性が、教育分野や社会全体におよぼす効果については、未だその因果関係に不明な点が多く、特に公的な資源投入に大きく依存する初等中等教育分野においては、その検証が急がれる状況にある。

このような問題関心のもと、本プロジェクト研究では、初等中等教育にかかる公的資源投入やその他の社会経済的な要因と教育達成との関連性について基礎となる実証的研究を執り行うものとした。今年度の研究活動に際し、データ収集作業の一環として市区町村教育委員会を対象とした全国調査を実施したが、その調査結果は本報告書では十分に反映されていない。調査に際し貴重な時間を提供いただいた関係者各位にはお詫び申し上げますとともに、引き続きこれらのデータを活用した研究成果の報告に向けて努力していきたい。

平成 24 年 3 月

研究代表者 長屋 正人

○研究組織

	氏名	所属・職名	備考
研究代表者	長屋 正人	研究企画開発部長	
研究分担者（所内）	大槻 達也	次長	
	北風 幸一	研究企画開発部 総括研究官	
	田中 充	高等教育研究部 総括研究官	
	妹尾 渉	教育政策・評価研究部 主任研究官	
	樺山 敏郎	教育課程研究センター研究開発部学力調査官・教育課程調査官	
	杉本 直美	教育課程研究センター研究開発部学力調査官・教育課程調査官	
	磯部 年晃	教育課程研究センター研究開発部学力調査官・教育課程調査官	
	清水 宏幸	教育課程研究センター研究開発部学力調査官・教育課程調査官	
	日下田 岳史	国研研究協力者・東京大学大学院博士課程院生	
	小川 和孝	国研研究協力者・東京大学大学院博士課程院生	
	須原 三樹	国研研究補助者・大阪大学大学院博士課程院生	
研究分担者（所外）	篠崎 武久	早稲田大学理工学術院創造理工学部 准教授	
	末富 芳	日本大学文理学部 准教授	
	北條 雅一	新潟大学経済学部 准教授	
合計		15 名	

目 次

はじめに

目次

第1章	就学援助比率が示すもの：児童・生徒質問紙の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・北條雅一・・・・・・・・	1
第2章	就学援助率と学力、学校の取組との関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・日下田岳史・北條雅一・・・・・・・・	65
第3章	学力および学習状況の男女差とその経年変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・日下田岳史・北條雅一・・・・・・・・	110
第4章	学校運営関係変数と学校別平均正答率との関連性の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・末富芳・・・・・・・・	137
第5章	学力と市町村指標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・篠崎武久・・・・・・・・	180
第6章	学力層別の学力達成の規定要因分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・妹尾渉・北條雅一・篠崎武久・・・・・・・・	203
第7章	新体力テストとその他諸変数との関連性分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・妹尾渉・日下田岳史・篠崎武久・・・・・・・・	220
論文要旨	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	259

第1章 就学援助比率が示すもの：児童・生徒質問紙の分析

1. はじめに

本稿では、学校レベルで計測される就学援助比率の指標と、児童・生徒質問紙への回答から得られる種々の指標の関係を整理する。より具体的に言えば、就学援助比率の高い学校に通う児童・生徒に見られる傾向を網羅的に把握することを目的としている。本稿が就学援助比率に着目する理由は、以下の2点に集約される。

1 点目は、児童・生徒の学力達成に対して、家庭環境の影響が大きいことを示す研究が蓄積されていることである。文部科学省は、平成25年度に家庭の経済状況等を含めた「きめ細かい調査」の実施が予定されていると公表している⁽¹⁾。家庭環境の影響を無視できないことを踏まえれば、このような調査の拡充は望ましい方向性である。一方で、すでに実施された調査において家庭環境を代理しうる調査項目は限られている。その中で、学校レベルの就学援助比率は、学校立地地域の家庭の平均的な経済水準を示す数少ない指標であるため、この指標に着目して詳細な分析を実施する必要性は高いと考えられる。

2 点目は、主に教育経済学の先行研究において、就学援助比率の指標を用いている分析が数多くみられることである。例えば、学級規模縮小の効果を準実験的な手法によって識別したAngrist and Lavy (1999) では、イスラエルの学校において「経済的に恵まれない生徒の比率 (Percentage of economically disadvantaged students; PD)」が生徒の学力水準を強く規定していることを指摘し、学級規模変数と同時にPDの指標を回帰分析の説明変数として加えている。同様に、国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS) の日本のデータを用いて学級規模縮小の効果を検証したHojo (2011) においても、学校レベルで計測された「経済的に恵まれない生徒の比率」を説明変数に加えており、この指標が高い学校（に通う生徒）は学力が低くなる傾向を指摘している。このように、学力の決定要因を分析する際にPDやそれに近い指標を考慮することの必要性は、教育経済学者を中心に広く認識されている。本稿の分析は、上記のような研究成果を踏まえつつ、就学援助比率そのものの性質に着目するものであるといえる⁽²⁾。

本稿の分析結果から、就学援助比率は、児童・生徒質問紙から観察される幅広い側面と

関連していることが明らかとなったが、中でも「学習に対する関心・意欲・態度」、「学習時間」、「基本的生活習慣」、「学習塾・補充指導」、「社会に対する興味関心」の 5 側面との関連が強いことが明らかとなった。

学習塾への通塾は追加の経済的負担を伴うものであるため、就学援助率の高い学校で通塾率が低くなることは容易に想定される結果である。しかしながら、本稿の分析結果は、就学援助率の高低が通塾以外の側面、すなわち学習や社会に対する関心・意欲や学習・娯楽時間、さらには基本的生活習慣にまで関連していることを示唆している。言い換えれば、就学援助率という指標は、学校立地地域の経済的な困窮度合いを単に代理するだけでなく、児童生徒の学習面や生活面を含む幅広い側面と関連しているということである。この結果は、就学援助率の高い学校への支援に際して経済面以外の側面を考慮することの重要性を示唆している。

2. 使用データ

本稿の分析は、平成 21（2009）年度の全国学力・学習状況調査の個票データをもとにしている⁽³⁾。分析対象は、公立の小学校・中学校に通う児童（小学校 6 年生）・生徒（中学校 3 年生）の個票である。

就学援助比率は、同年度学校質問紙の設問 14「調査対象である第 6 学年の児童のうち、就学援助を受けている児童の割合は、どれくらいですか。」に対する回答の選択肢「1：在籍していない 2：5%未満 3：5%以上、10%未満 4：10%以上、20%未満 5：20%以上、30%未満 6：30%以上、50%未満 7：50%以上」をそのまま用いている⁽⁴⁾。

児童・生徒質問紙には合計 77 の設問があるが、設問の内容は小学校・中学校で細かな部分を除いてほぼ共通である。児童・生徒質問紙の回答も、それぞれの設問の回答に対応する選択肢をそのまま用いている⁽⁵⁾。

就学援助比率ごとの回答傾向の差を測る具体的な方法として、就学援助比率ごとのクロス集計とともに、本稿では四分位数の変化にも注目する。四分位数および最小値・最大値は表 1.3 と表 1.4 にまとめられている。回答傾向の変化に伴って就学援助比率ごとの四分位数が異なるケースに注目する。各設問の集計結果は文末にまとめて報告している。

3. 回答分布の分析

3.1 就学援助比率と正答率

まず、分析対象である公立の小学校・中学校に通う児童・生徒の各教科の正答率を、就学援助比率ごとに表したものが図 1.1（小学校）と図 1.2（中学校）である。同様のグラフは国立教育政策研究所ホームページ『平成 21 年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書』および『平成 21 年度 全国学力・学習状況調査【中学校】報告書』にも示されている通りであり、就学援助を受けている児童・生徒の割合が高い学校に通う児童・生徒のほうが、その割合が低い学校に通う児童・生徒に比べて平均正答率が低く、平均正答率のばらつきも大きくなっている。

小学校 6 年生に関して詳細に見ると、国語 A、算数 A、算数 B において、就学援助比率が 30%を超える学校で中央値（メディアン）の低下が顕著に確認される。国語 B については、就学援助比率が 50%を超える学校で平均正答率の中央値が顕著に低下している。就学援助比率別の平均正答率とその標準偏差は表 1 に報告されている。就学援助比率が高い学校で平均正答率が低く、そのばらつきが大きくなっていることが確認されている。

中学校 3 年生については、国語 B において、就学援助比率が 30%を超える学校で正答率の中央値が顕著に低下している。同様に、数学 B については、就学援助比率が 20%を超える学校から中央値の低下が確認されている。これに対し、主として「知識」を問う国語 A と算数 A では、就学援助比率 10%を境に正答率の中央値が漸減している。表 2 によれば、小学校 6 年生と同様、就学援助比率の高い学校ほど平均正答率が低く、その標準偏差が大きくなっていることがわかる。

3.2 就学援助比率と児童・生徒質問紙の回答傾向

ここでは、国立教育政策研究所ホームページ『平成 21 年度 全国学力・学習状況調査【小学校／中学校】報告書』に示されている各質問項目の趣旨別に当該質問項目を分類し、就学援助比率別の回答分布を確認する。

(1) 「学習に対する関心・意欲・態度」について

「学習に対する関心・意欲・態度」に関する設問は、児童・生徒質問紙の設問（４４）以降に対応する（設問（５５）を除く）。まず国語について確認していく。就学援助比率によって回答傾向に差が確認されるのは、「（５４）国語の授業の内容はよくわかる」の小学校６年生である。具体的には、就学援助比率が５０％を超える学校において否定的な回答の増加が見られ、第３四分位が選択肢「３：どちらかといえば、当てはまらない」に変化している。

同様の傾向は、中学校３年生の「（５７）国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」および「（５８）国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」によりはっきりと表れている。ここでは、就学援助比率の高い学校において否定的な回答が増加し、第３四分位が「４：当てはまらない」に変化している。また、これら２つの設問においては、小学校６年生で中央値が変動している。具体的には、設問（５７）では就学援助比率が３０％を超える学校で、設問（５８）では就学援助比率が５０％を超える学校で、それぞれ中央値が「３：どちらかといえば、当てはまらない」と否定的な方向に移動している。また、「（５９）国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気を付けて書いている」については、小学校６年生において、就学援助比率が１０％を超える学校で変化が見られ、肯定的な回答の減少とともに選択肢「１：当てはまる」が四分位範囲から外れている。また中学校３年生では、就学援助比率が３０％を超える学校において、否定的な回答の増加とともに中央値が「３：どちらかといえば、あてはまらない」に移動している。設問「（６１）この問題にあるような、長い文章を読むのは難しい」については、就学援助比率が高い学校で第１四分位が「１：難しい」に変化しているものの、小学校６年生においては０％の学校でも同様の傾向が見られる。

解答時間に関する設問（７４）（７５）では、小学校６年生の国語Ａにおいて、就学援助比率が５０％を超える学校で「１ 時間が余った」および「２：ちょうどよかった」の回答が減少し、「３：やや足りなかった」の回答が増加している。

次に算数（数学）に関する設問への回答を見ていく。「（６３）算数（数学）の勉強は好きだ」に対して、就学援助比率の高い学校で否定的な回答の増加が確認される。また、「（６４）算数（数学）の勉強は大切だ」および「（６５）算数（数学）の授業の内容はよくわか

る」に関しても、就学援助比率の高い学校でそれぞれ否定的な回答の増加が確認されている。同様に、「(67) 算数(数学)の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」の小学校および「(68) 算数(数学)の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える」の中学校についても、就学援助比率の高い学校で否定的な回答が増加している。

小学校の算数では、「(70) 算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」、「(71) 算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」、「(72) 算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いている」の3つの設問において、就学援助比率が高い学校で否定的な回答がやや増加している。

総合的な学習の時間に関する設問では、「(44)「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ」に対して、小学校6年生では就学援助比率が20%を超える場合に第3四分位が選択肢「3：どちらかと言えば、当てはまらない」に変化していることがわかる。同設問の中学校3年生では、就学援助比率が0%の学校で第1四分位が選択肢「1：当てはまる」となっているが、就学援助比率の高い学校では否定的な回答が増加している。また、「(45)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、ふだんの生活や社会に出たときに役立つ」に対しても、就学援助比率の高い学校で否定的な回答が増加していることがわかる。

ふだんの授業に関する設問では、「(46) ふだんの授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う」に対して、小学校では就学援助比率が30%を超える学校で中央値が「3：どちらかといえば、当てはまらない」に移動している。中学校でも回答傾向に変化がみられ、就学援助比率が0%の学校で肯定的な選択肢への回答が多く、就学援助比率の高い学校では選択肢「4：当てはまらない」の回答が増加している。設問「(47) ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」に対しては、就学援助比率の高い中学校で否定的な回答の割合が大きくなっている。設問「(48) ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」についても、中学校で回答傾向に顕著な差がみられており、就学援助比率が20%を超える場合に中央値が否定的な回答のほうへ移動していることが確認される。

(2) 「学習時間等」について

学校以外での学習時間については、「(16) 学校の授業時間以外に、ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。)」に回答傾向の変化がみられている。小学校6年生では、就学援助比率が0%の学校を除き、就学援助比率の高い学校で「5:30分より少ない」および「6:全くしない」の回答が増加している。0%の学校は「3:1時間以上、2時間より少ない」の回答が多い。中学校3年生では、就学援助比率の高い学校で選択肢3および「4:30分以上、1時間より少ない」の回答が減少し、選択肢5および6の回答が増加している。

また、「(17) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。)」に関しては、就学援助比率の高い学校で「3:2時間以上、3時間より少ない」および「4:1時間以上、2時間より少ない」の回答が減少し、「6:全くしない」の回答が増加している。

家での学習に関する設問では、「(27) 学校の宿題をしている」に対して、中学校3年生の中央値が変化している。具体的には、就学援助比率が30%未満の学校では中央値が「1:している」であるのに対し、就学援助比率が30%を超える学校で中央値が「2:どちらかといえば、している」へと変化している。また、「(28) 学校の授業の予習をしている」については、小学校・中学校ともに中央値に変化はないものの、就学援助比率の高い学校で否定的な回答の増加が確認される。「(29) 学校の授業の復習をしている」については、就学援助比率が0%の学校では中央値が「2:どちらかといえば、している」となっているが、それ以外では中央値が「3:あまりしていない」となり、就学援助比率の高い学校では「4:まったくしていない」との回答が増加している。「(30) 苦手な教科の勉強をしている」についても同様に、就学援助比率の高い学校で否定的な回答が増加し第3四分位が「4:まったくしていない」に変化している。

学校以外での読書時間に関する設問「(19) 家や図書館で、ふだん(月曜日から金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)」では、中学校で回答傾向に顕著な差がみられる。就学援助比率が5%未満の学校では「4:10分以上、30分より少ない」が中央値となっているが、5%~50%未満の学校では「6:全くしない」の増加とともに中央値が「5:10分より少ない」となり、就学援助比率が50%を超える学校では中央値が「6:全くしない」となっている⁽⁶⁾。また、設問「(20)

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）」についても、就学援助比率の高い学校で選択肢「4：年に数回程度行く」や「5：ほとんど、または、全く行かない」の回答が増えている。とはいえ、「(55) 読書は好きだ」への回答は、就学援助比率の高い中学校で肯定的な回答の減少が見られるものの、読書時間や図書館の利用頻度ほど顕著な差は確認されていない。

携帯電話に関する設問「(15) 携帯電話で通話やメールをしていますか。」に関して、携帯電話の保有率を就学援助比率ごとにまとめた図を見ると、小学校・中学校ともに、就学援助比率が高くなるにつれ、携帯電話の保有率が上昇していることが確認される。次に、携帯電話を保有している児童・生徒を対象に、その使用頻度をまとめたグラフを見ると、小学生では就学援助比率が高くなるにつれ「1：ほぼ毎日している」の回答割合が増加していることが確認される。これについては、設問「(25) 携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」への回答が参考になる。携帯電話を保有している児童・生徒を対象に、家の人との約束を守っているかどうかをまとめたグラフを見ると、小学校6年生、中学校3年生ともに、就学援助比率が高くなるにつれ、携帯電話の使い方に関する保護者との約束を守らない児童・生徒の割合が増加していることがわかる。同時に、就学援助比率の高い中学校では「5：携帯電話は持っているが、約束はない」との回答も多くなっている。

家での娯楽に関する質問では、「(12) ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除きます。）」に対する回答に傾向の差がみられる。就学援助比率が20%未満の学校では選択肢「2：3時間以上、4時間より少ない」から「4：1時間以上、2時間より少ない」に回答が集中しているが、就学援助比率が20%を超える学校では「1：4時間以上」との回答が増加し、就学援助比率が50%を超える学校では中央値が選択肢2となっている。テレビゲームに関する設問「(13) ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲームをふくみます。）をしますか。」においても、就学援助比率の高い学校でより長い時間に対応する選択肢への回答が増加し、小学校6年生では就学援助比率が30%を超える学校で中央値が「4：1時間以上、2時間より少ない」と時間が増える方向へ移動している。一方、「(14) ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、インターネットをしますか。」に対する回答では、

就学援助比率の高い学校および0%の学校で「6：全くしない」の回答がやや増加している。

(3) 「学校生活」について

学校生活に関する設問「(3 2) 友達に会うのは楽しい」および「(3 3) 好きな授業がある」については、回答の傾向に顕著な差は確認されない。

(4) 「学習塾・補充指導」について

学習塾に関する設問「(1 8) 学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合もふくみます。)で勉強をしていますか。」については、小学校6年生については就学援助比率が高くなるにつれ通塾率がやや低下していることが確認されるが、中学校3年生では就学援助比率が20%を超える学校でのみ同様の傾向が確認されている。なお、小学校6年生、中学校3年生ともに就学援助比率が0%の学校で通塾率が明らかに低くなっており、就学援助率の高いカテゴリと傾向が近くなってことに注意が必要である。

通塾率の差は、小学校6年生で最大7.9%ポイント、中学3年生では最大5.2%ポイント(就学援助比率0%を除く)となっている。塾での学習内容も示しているが、ここでも就学援助比率が0%の学校と50%を超える学校の回答傾向が近いものとなっている。

(5) 「基本的生活習慣」について

基本的な生活習慣に関する設問では、設問「(3) 毎日、同じくらいの時刻にねている」について、中央値に変動はないものの、小学校6年生において、就学援助比率が10%を超える学校で否定的な回答が増加している。また、「(1) 朝食を毎日食べている」や「(2) 学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている」への回答についても、就学援助比率の高い学校で否定的な回答の増加が見られる。

具体的な起床時刻に関する設問「(9) ふだん(月曜日から金曜日)、何時ごろに起きますか」に関して、小学校6年生では中央値に変化はないものの、就学援助比率の高い学校で起床時刻が遅い方向に回答傾向が変化している。中学3年生でも同様であり、就学援助比率が30%を超える学校で中央値が「4：午前7時以降、午前7時30分より前」と遅く

なり、回答も選択肢4および「5：午前7時30分以降、午前8時より前」の遅い時間が増加していることが確認される。就寝時刻を問う設問（10）においては、起床時刻ほどの差は確認されないものの、就学援助比率が高まるにつれ就寝時刻が遅くなっている傾向が確認される。一方、睡眠時間を問う設問（11）については、中央値に変動はないものの、就学援助比率の高い学校で長い睡眠時間への回答が若干ではあるが増加している。

(6) 「家庭でのコミュニケーション」について

家庭での保護者や兄弟姉妹とのコミュニケーションに関する設問は、「(21) ふだん（月曜日から金曜日）、朝食をいっしょに食べる」「(22) ふだん（月曜日から金曜日）、夕食をいっしょに食べる」「(23) 学校での出来事について話をする」「(24) 家の手伝いをしていますか。」の4つであるが、いずれも中央値の変動を伴うような回答傾向の差は確認されない。この中で回答傾向にやや変化があるのは設問（21）の中学生である。就学援助比率の高い学校で「4：全くしていない」の回答が増加している。

(7) 「社会に対する興味・関心」について

これに関する設問は3つである。設問「(34) 新聞やテレビのニュースなどに関心がある」については、中央値の移動を伴うような回答傾向の変化は確認されない。「(35) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」および「(36) 今住んでいる地域の行事に参加している」については、就学援助比率が0%の学校で肯定的な回答が多く、就学援助比率が高くなるにつれて否定的な回答が増加している。

(8) 自尊意識

自尊意識を問う設問は4つである。「(7) 自分には、よいところがあると思う」については、小中学校ともに中央値に差は見られないものの、就学援助比率の高い学校では否定的な回答の増加が見られる。「(8) 将来の夢や目標をもっている」「(41) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」「(43) 人の役に立つ人間になりたいと思う」に関しては、顕著な回答傾向の差は確認されない。

(9) 規範意識

規範意識を問う設問は5つである。このうち、「(37) 学校のきまりを守っている」「(38) 友達との約束を守っている」「(39) 人が困っているときは、進んで助けている」「(40) 近所の人に会ったときは、あいさつをしている」の4つについては、中央値の変動は確認されないものの、就学援助比率の高い学校で肯定的な回答の減少が見られる。

いじめに関する設問「(42) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については、顕著な回答傾向の差は確認されない。

4. まとめ

国立教育政策研究所ホームページ『平成21年度 全国学力・学習状況調査【小学校／中学校】報告書』では、児童・生徒質問紙の回答と正答率の関係を分析しており、多くの質問項目について、肯定的な回答や望ましいと思われる回答をしている児童・生徒ほど、正答率が高くなる傾向を報告している。

こうした先行分析を踏まえつつ、本稿では、就学援助比率の違いによって児童・生徒質問紙の回答傾向が異なっているか否かを確認した。その結果、「学校生活」、「家庭でのコミュニケーション」、「自尊意識」、「規範意識」の4側面については、就学援助比率の高低による回答傾向の差はあるものの、中央値の変動を伴うような顕著な差は確認されなかった。回答傾向に顕著な差が確認されたのは、「学習に対する関心・意欲・態度」、「学習時間」、「学習塾・補充指導」、「基本的生活習慣」、「社会に対する興味関心」の5側面に含まれる設問である。これらの5側面の設問に対し、就学援助比率の高い学校において、学習に対する関心・意欲・態度および社会に対する興味関心では否定的な回答が、学習時間ではやや短いとする回答が、娯楽時間ではやや長いとする回答が、また基本的生活習慣についてはやや望ましくないと考えられる回答が多くなる傾向にあり、設問によっては中央値の変動を伴っていることが確認された。また、通塾率にも最大で5～8%ポイント程度の差があることが確認されたが、就学援助比率が0%の学校で通塾率が明らかに低くなっていること、中学校3年生では通塾率の差が小さくなっていることが併せて確認された。

就学援助比率という指標は、学校立地地域の経済環境や平均的な所得水準を代理してい

と考えられる。その意味においては、この指標は、児童生徒を送り出す家庭の経済的な困窮度合いを示すものとするのが一般的である。上述のように、就学援助比率が高い学校では通塾率がやや低くなっていることが確認された。追加的な費用負担を伴う通塾の差が、就学援助比率ごとの学力の差に結びついている可能性は高い。

しかしながら、本稿の分析結果によれば、就学援助比率によって変化が見られるのは通塾率だけではない。児童・生徒の学習に対する関心・態度、基本的生活習慣、学習時間・娯楽時間の量、社会に対する興味関心といった側面とも関連していることが示された。中でも、小学校 6 年生の携帯電話の保有率およびその使用頻度については明確な回答傾向の差が確認され、就学援助比率の高い学校に通う児童は携帯電話の保有率が高く、保有者の使用頻度も高いことが明らかとなった。このことは、経済面の困窮が子どもたちの生活習慣や時間の使い方を変化させている可能性を示唆する典型的な例といえる⁽⁷⁾。

なお、やや異なる観点からの指摘となるが、設問によっては、就学援助を受けている児童・生徒が存在しない、すなわち就学援助比率が 0% という学校の回答傾向のみが他と異なっているケースが散見された。上述の通塾率もその例である。就学援助を受ける生徒が全く存在しない学校は、それが僅かでも存在する学校と区別して考える必要があるのかもしれない。この点とも関連するが、就学援助比率の高さが学習意欲や生活面に及ぼしている負の影響は、就学援助率の高さがもたらす直接的な負の効果と同時に、就学援助比率の高い学校で負の「ピア・グループ効果」が発生していると解釈することもできる。現状の分析ではピア・グループ効果のみを識別することはできない。データの拡充と蓄積によって、就学援助比率の真の効果の識別が可能になることを期待したい。

本稿の分析は就学援助率という学校レベルで計測される指標をもとに、それぞれの学校に通う児童・生徒に観察される特徴を探索したものである。結果の解釈に際しては、「就学援助率の高い学校にある特徴がみられる」ことが、「経済的に困窮している生徒にはある特徴がある」とは必ずしもならないことに注意が必要である。しかしながら、本稿の分析から少なくともいえることは、就学援助比率という指標が、学校立地地域の経済面の困窮度合いを単に示す指標ではなく、子どもたちの学習に対する意欲・関心や生活習慣等も含め、学力に影響を及ぼし得るさまざまな側面と関連する多面的な指標であるということである。

北條雅一（新潟大学経済学部）

注

- (1) 「全国的な学力調査に関する専門家会議」による取りまとめの結果が報告されている。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/085/houkoku/1316096.htm
- (2) 国立大学法人大阪大学（2011）においても、「全国学力・学習状況調査」の平成19年度から平成21年度の調査結果を用いて、就学援助率に注目した分析が一部行われているが、本稿とは分析目的が異なるものとなっている。
- (3) 悉皆調査の最終年度であることから、平成21年度調査を使用した。
- (4) この設問に対して無回答の学校に通う生徒は分析から除外している。また、本報告書第2章が示すとおり、学年生徒数が極端に小さい学校は被就学援助者が一人増えるだけで就学援助比率に大きな変動をもたらすため、本稿でも学年生徒数が5人未満の学校に通う生徒は分析から除外している。なお本稿では、市町村ごとに就学援助の認定基準が異なる点については考慮していない。
- (5) 各設問に対して無回答としている児童・生徒は、対応する設問の分析から除外している。
- (6) 本報告書第2章では、就学援助率が高い学校ほど、学校での一斉読書の取り組みが困難になっている一方で、学校図書館を活用した授業については積極的に取り組んでいることが明らかとなっている。本稿の結果と併せて考えると、就学援助比率の高い学校では、児童生徒の学校外での読書時間の少なさを授業内で補っている可能性がある。
- (7) 本報告書第2章の分析結果によると、就学援助比率の高い学校ではPTAや地域住民からの協力が得られにくいことが明らかとなっている。携帯電話の所有や使用頻度が保護者による規律付けに強く左右されるものであるとすれば、就学援助比率の高い学校ではこうした面でも保護者の協力が得られにくい、と解釈できる。

参考文献

- Angrist, J.D. and V. Lavy (1999) “Using Maimonides’ rule to estimate the effect of class size on scholastic achievement,” *Quarterly Journal of Economics*, 114, pp. 533-575.
- Hojó, M. (2011) “Education Production Function and Class-Size Effects in Japanese Public Schools,” Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series No. 194,

Hitotsubashi University.

国立大学法人大阪大学（2011）『子どもたちの学力水準を下支えしている学校の特徴に関する調査研究』平成22年度文部科学省委託研究「学力調査を活用した専門的課題分析に関する調査研究」研究成果報告書

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1315088.htm

国立教育政策研究所ホームページ『平成21年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書』『平成21年度 全国学力・学習状況調査【中学校】報告書』

<http://www.nier.go.jp/09chousakekkahoukoku/index.htm>

図表

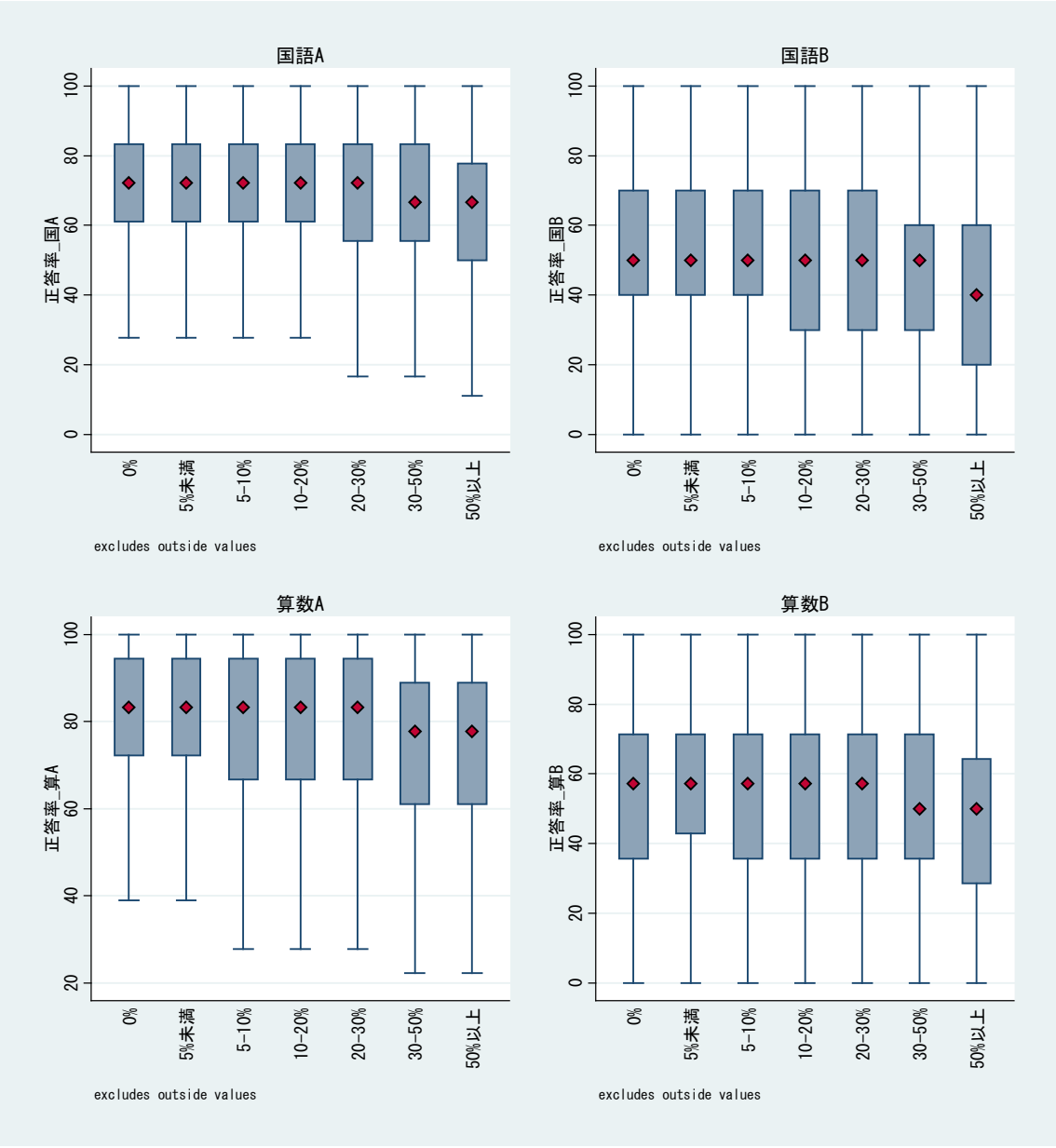


図 1.1 : 就学援助比率と正答率 (小学校, 公立, 2009 年)

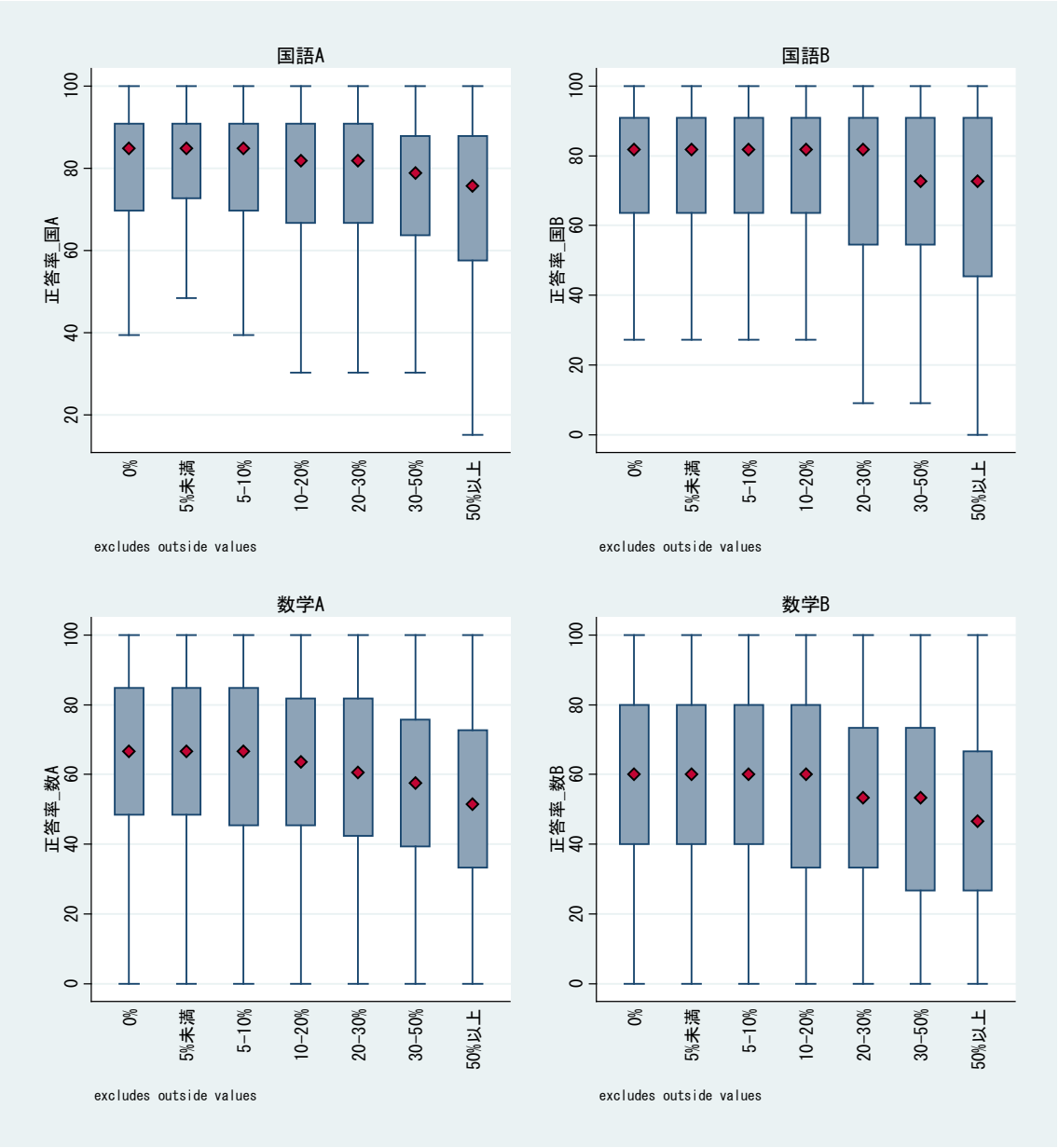
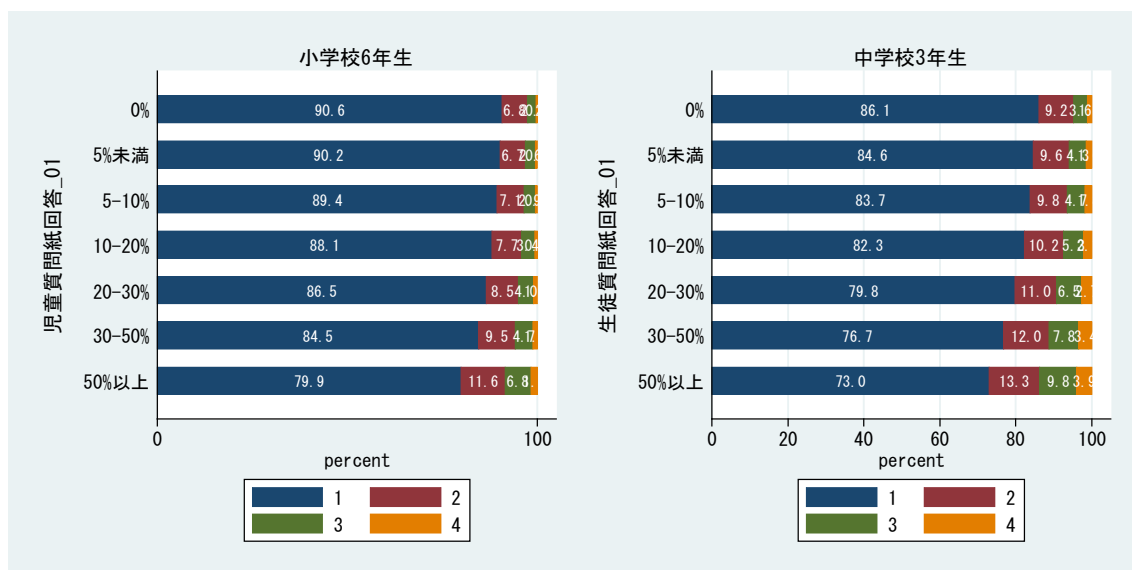


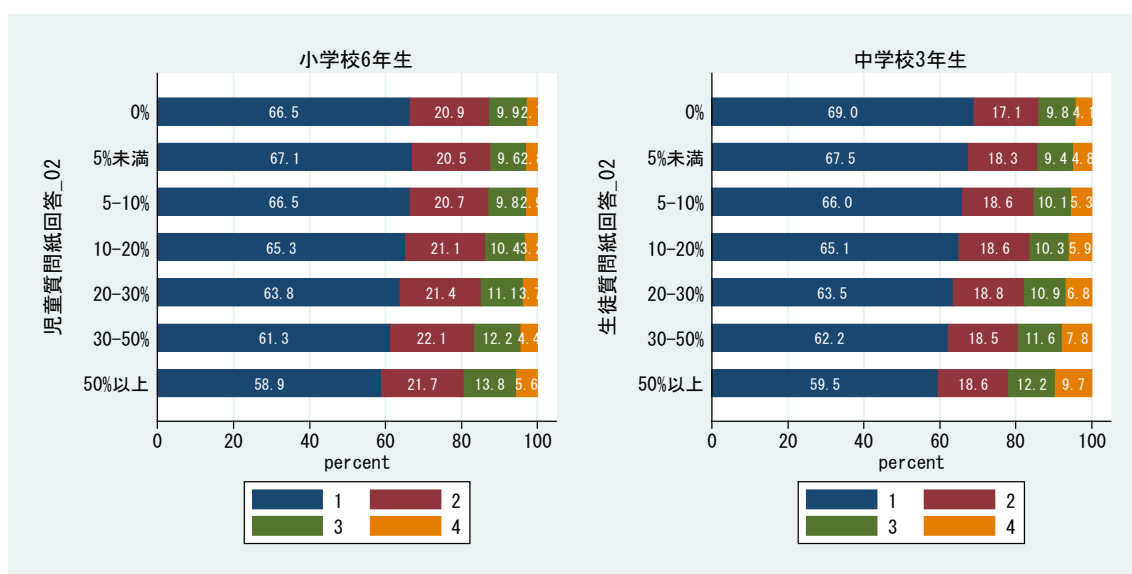
図 1.2 : 就学援助比率と正答率 (中学校, 公立, 2009 年)

1 あなたは、生活の中で次のようなことをしていますか。当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

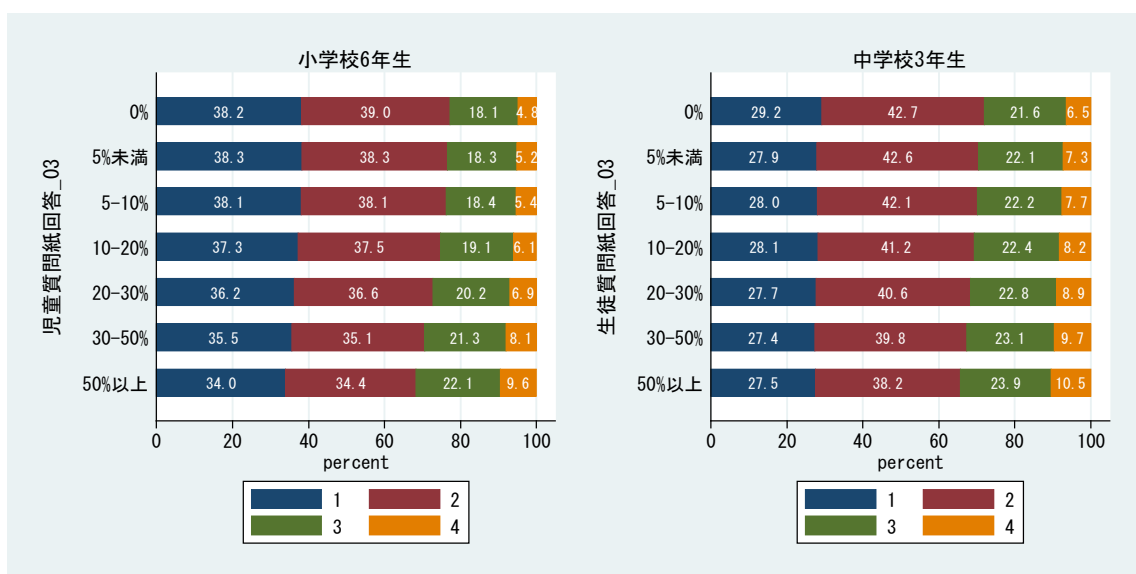
1：している 2：どちらかといえば、している 3：あまりしていない 4：全くしていない



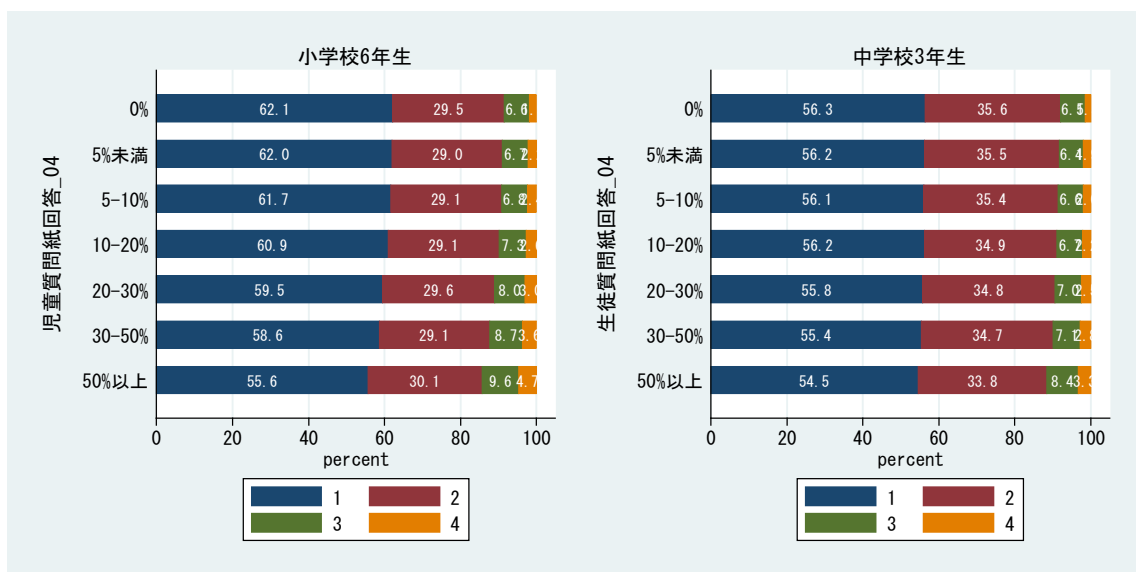
(1) 朝食を毎日食べている



(2) 学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている



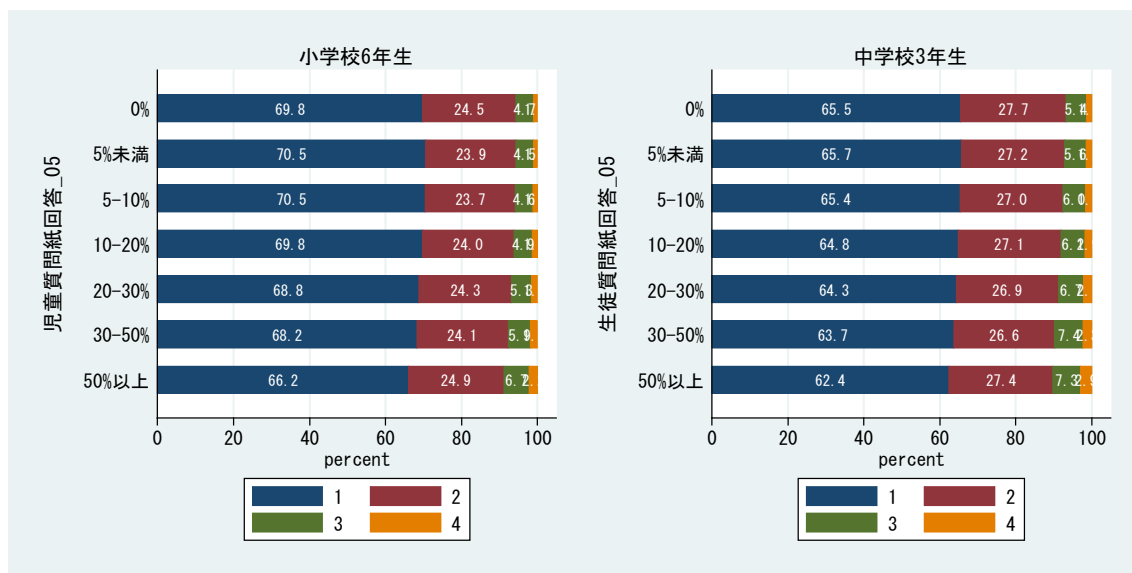
(3) 毎日、同じくらいの時刻にねている



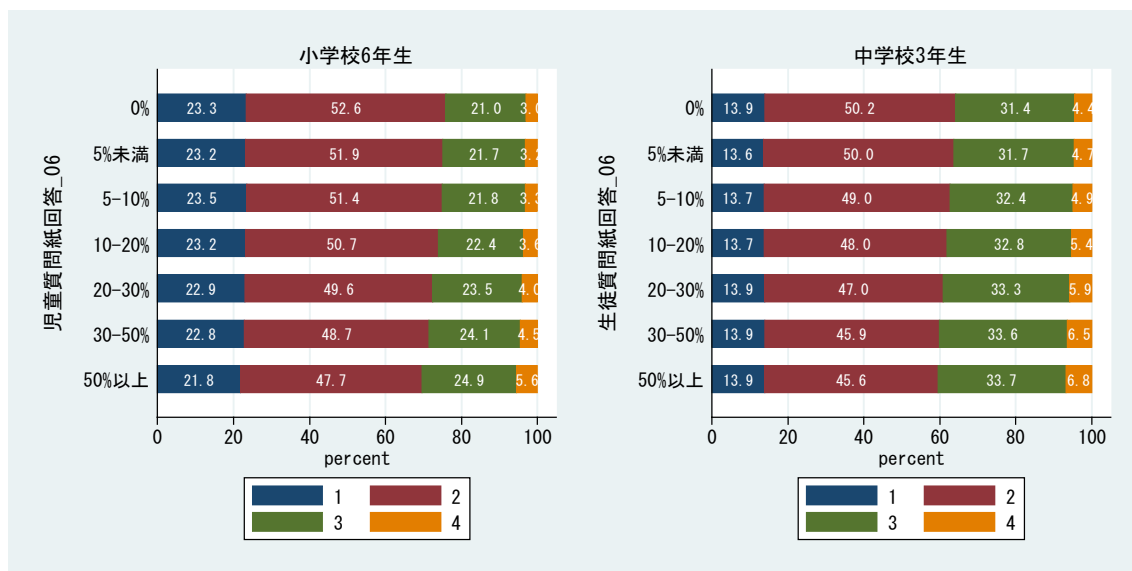
(4) 毎日、同じくらいの時刻に起きている

2 次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。当てはまるものを右の1から4のなかから1つずつ選んでください。

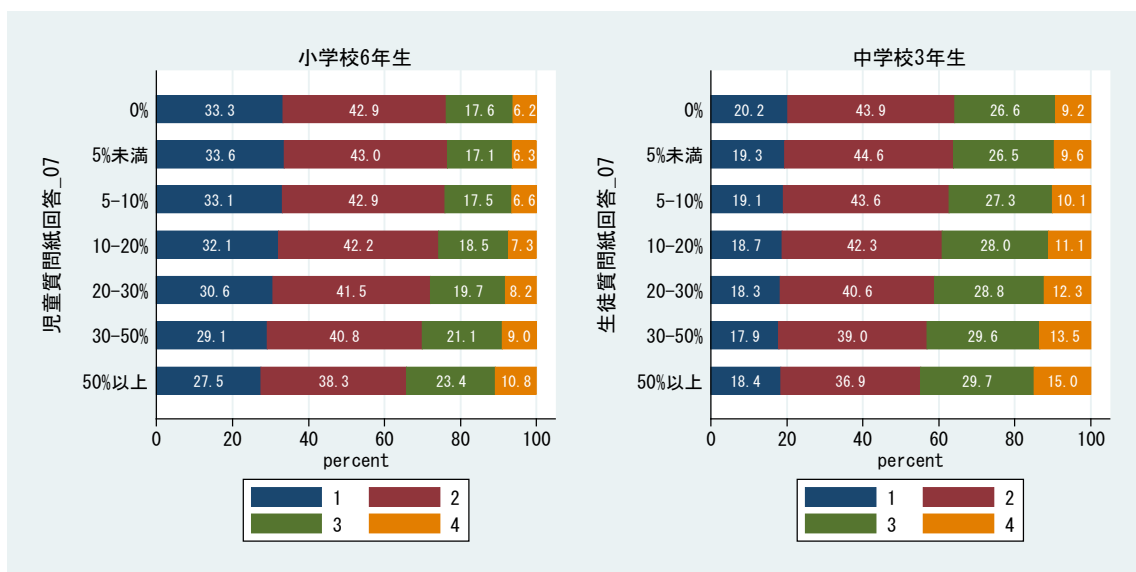
1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない



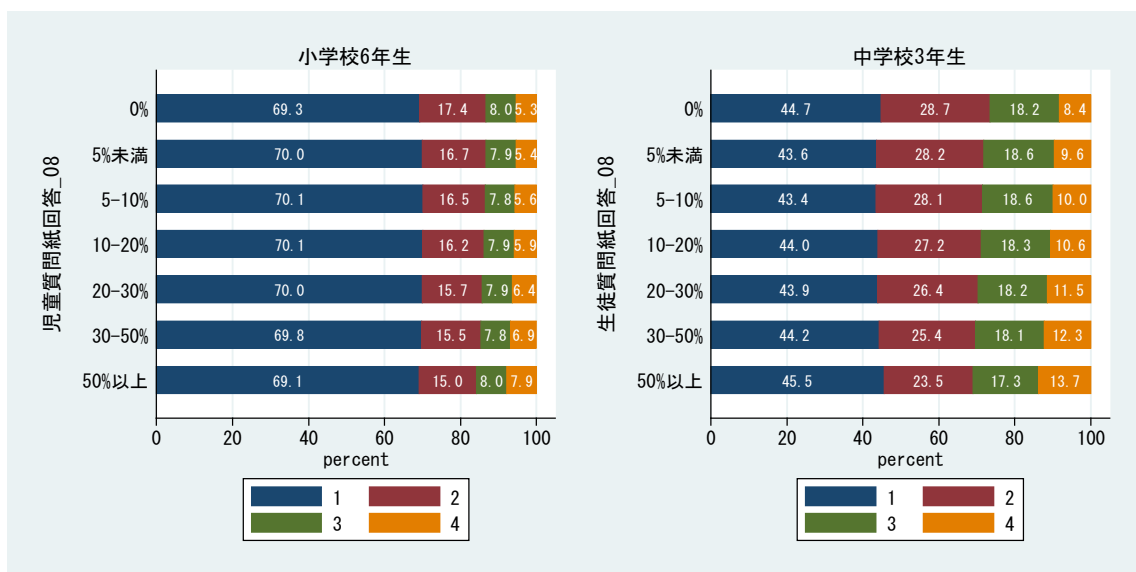
(5) ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある



(6) 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している

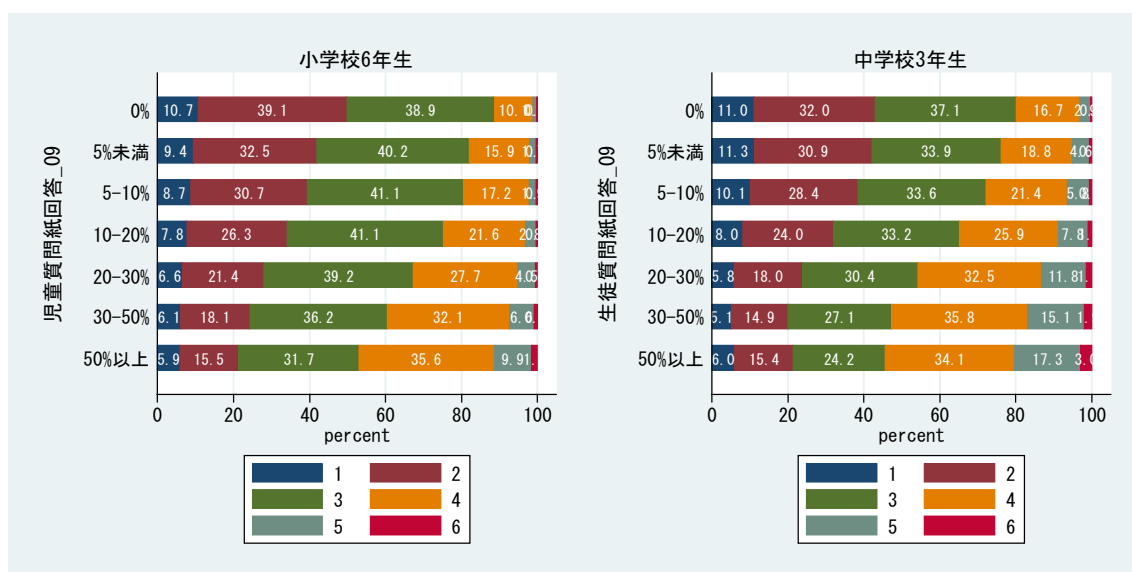


(7) 自分には、よいところがあると思う



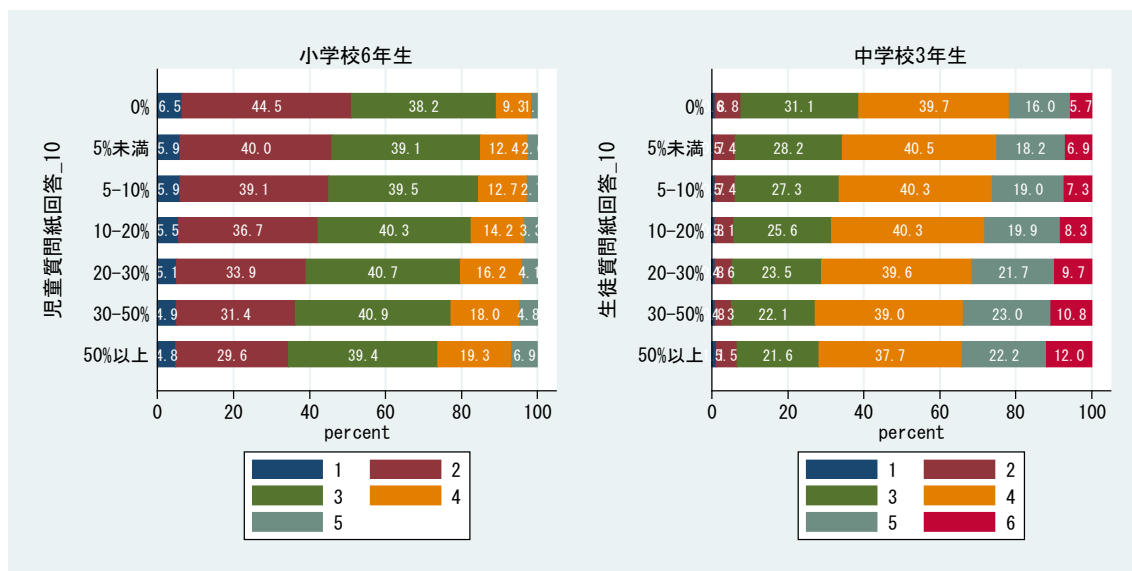
(8) 将来の夢や目標をもっている

3 次の（９）から（２０）までのそれぞれについて、当てはまるものを１つずつ選んでください。



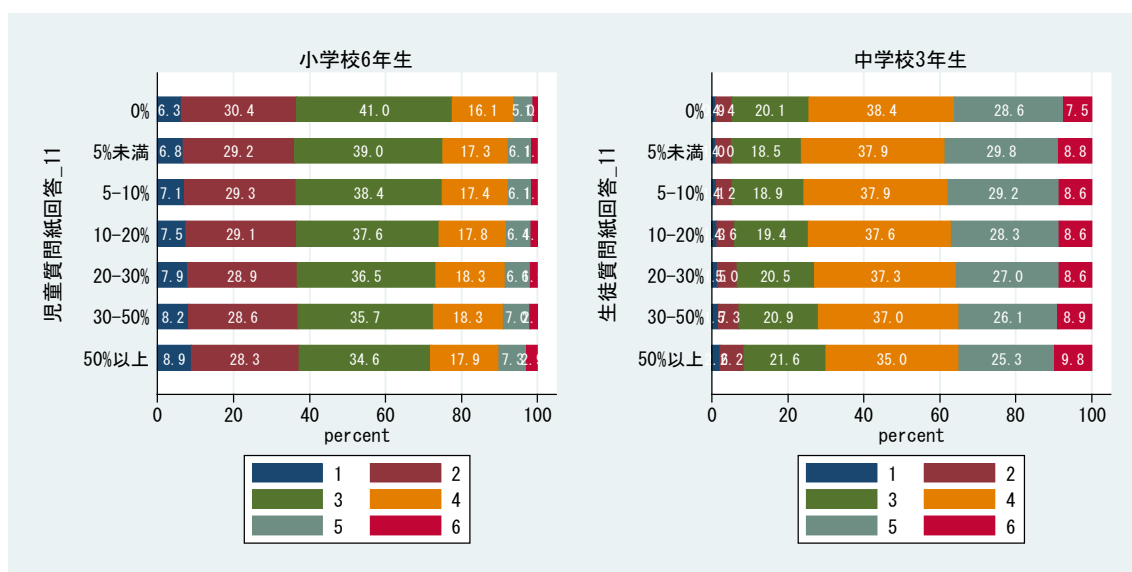
（９）ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろに起きますか。

1：午前6時より前 2：午前6時以降、午前6時30分より前 3：午前6時30分以降、午前7時より前 4：午前7時以降、午前7時30分より前 5：午前7時30分以降、午前8時より前 6：午前8時以降



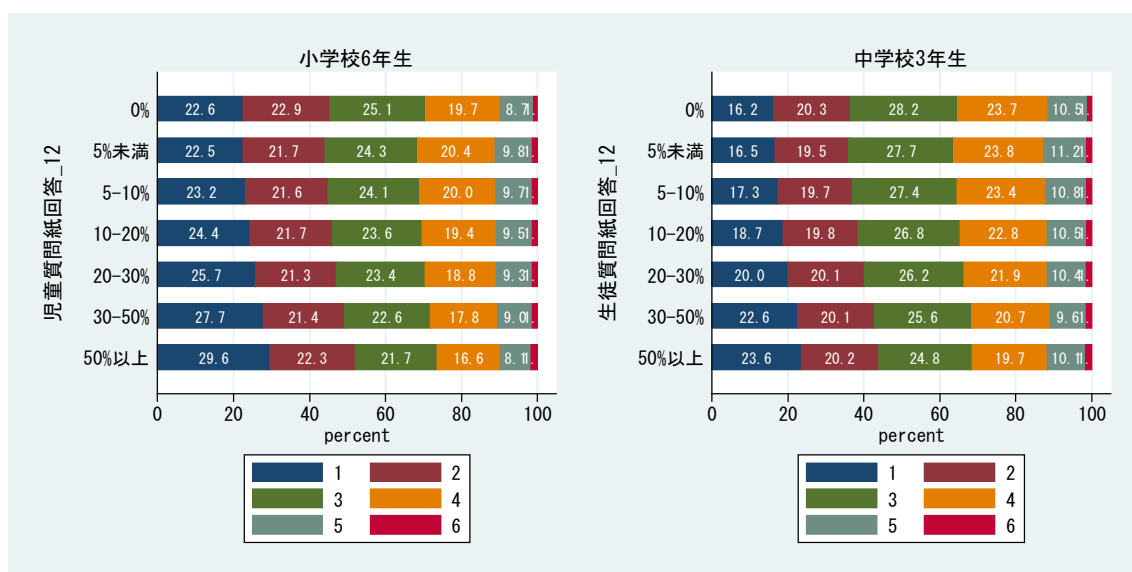
（１０）ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろにねますか。

1：午後9時より前 2：午後9時以降、午後10時より前 3：午後10時以降、午後11時より前 4：午後11時以降、午前0時より前 5：午前0時以降



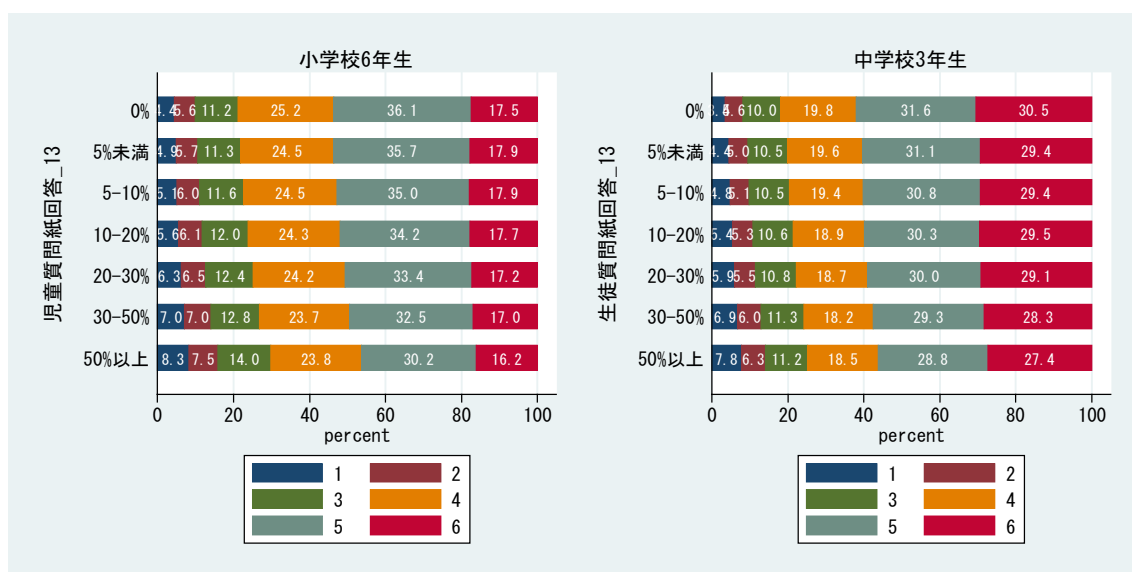
(11) ふだん（月曜日から金曜日）、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか。

1：10時間以上 2：9時間以上、10時間より少ない 3：8時間以上、9時間より少ない 4：7時間以上、8時間より少ない 5：6時間以上、7時間より少ない 6：6時間より少ない



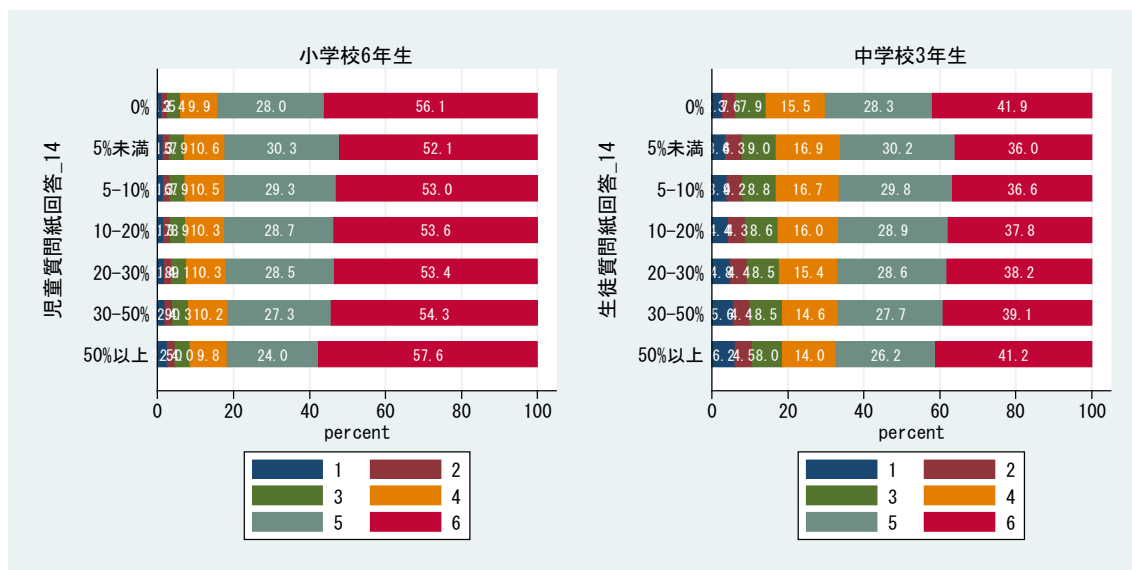
(12) ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除きます。）

1：4時間以上 2：3時間以上、4時間より少ない 3：2時間以上、3時間より少ない 4：1時間以上、2時間より少ない 5：1時間より少ない 6：全く見たり、聞いたりしない



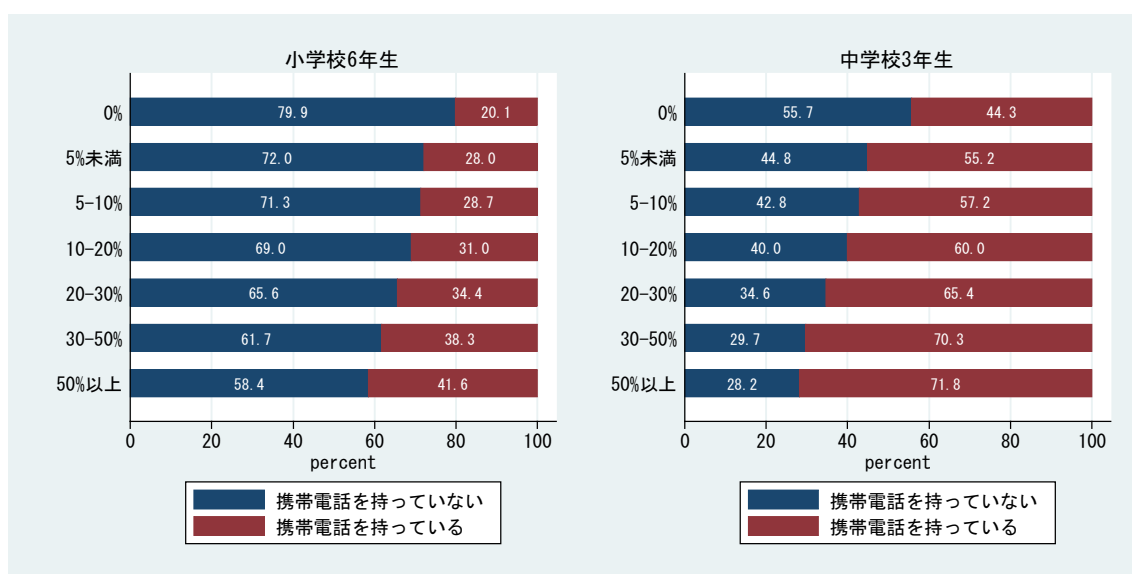
(13) ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームをふくみます。)をしますか。

1 : 4時間以上 2 : 3時間以上、4時間より少ない、3 : 2時間以上、3時間より少ない 4 : 1時間以上、2時間より少ない 5 : 1時間より少ない 6 : 全くしない



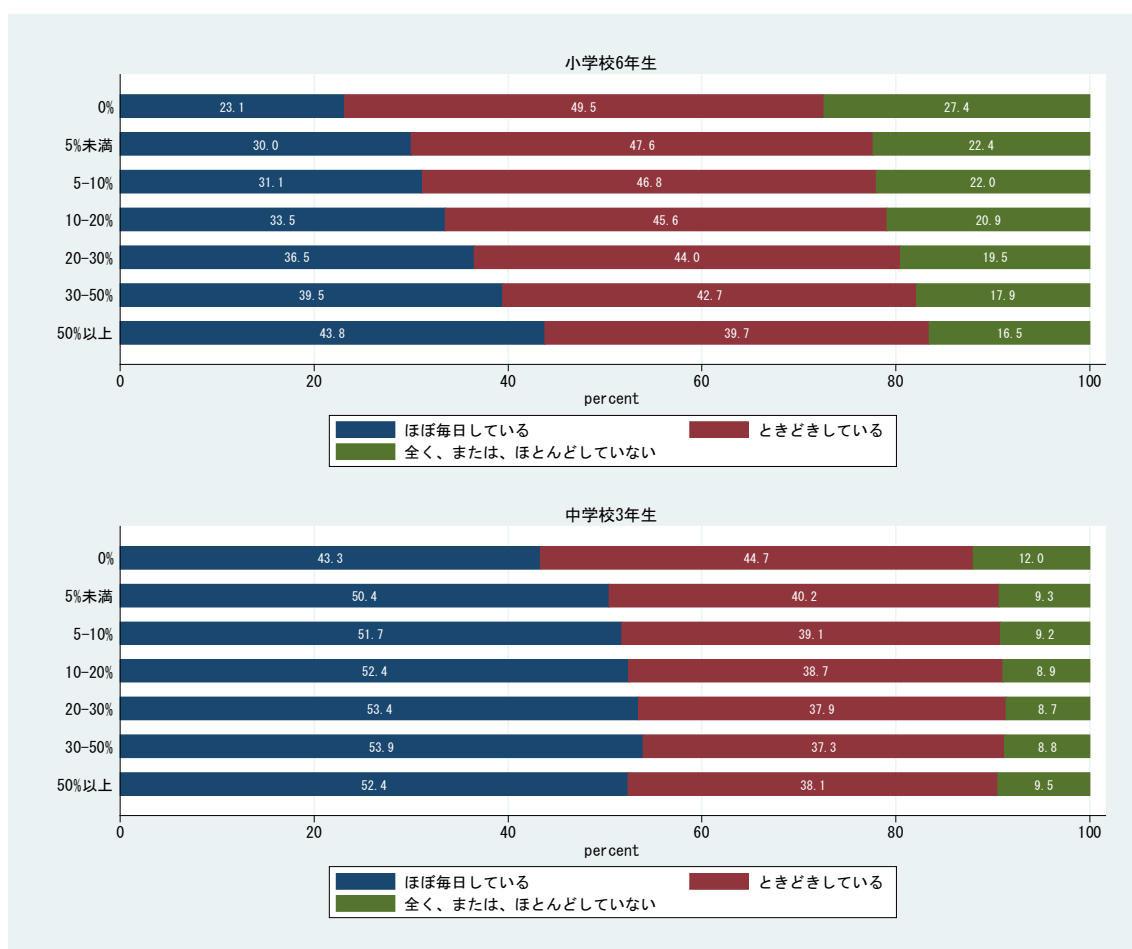
(14) ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、インターネットをしますか。

1 : 4時間以上 2 : 3時間以上、4時間より少ない、3 : 2時間以上、3時間より少ない 4 : 1時間以上、2時間より少ない 5 : 1時間より少ない 6 : 全くしない

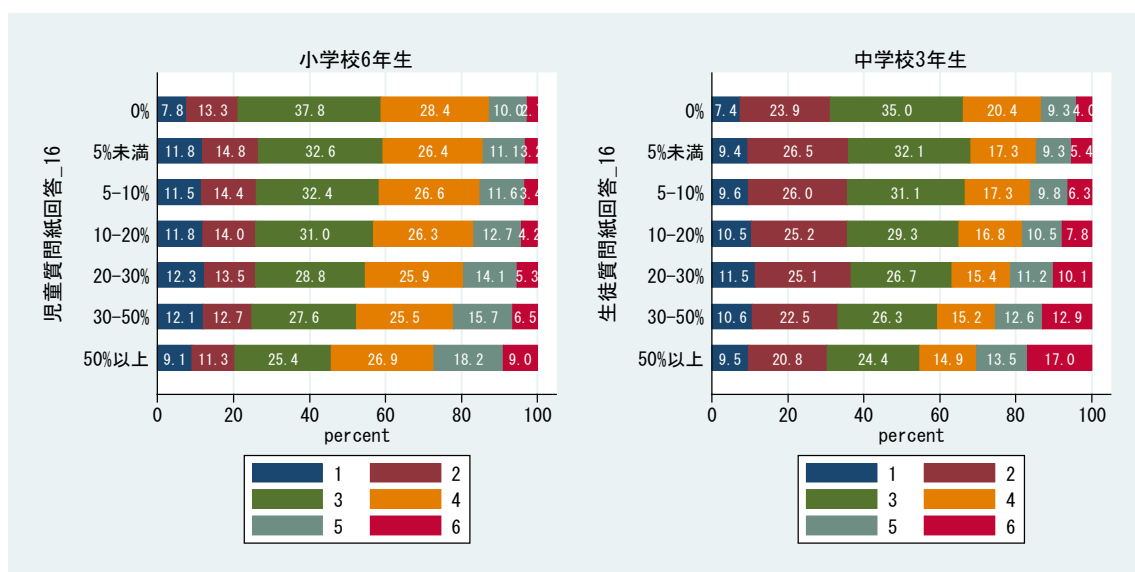


(15) 携帯電話で通話やメールをしていますか。

1：ほぼ毎日している 2：ときどきしている 3：全く、または、ほとんどしていない 4：携帯電話を持っていない

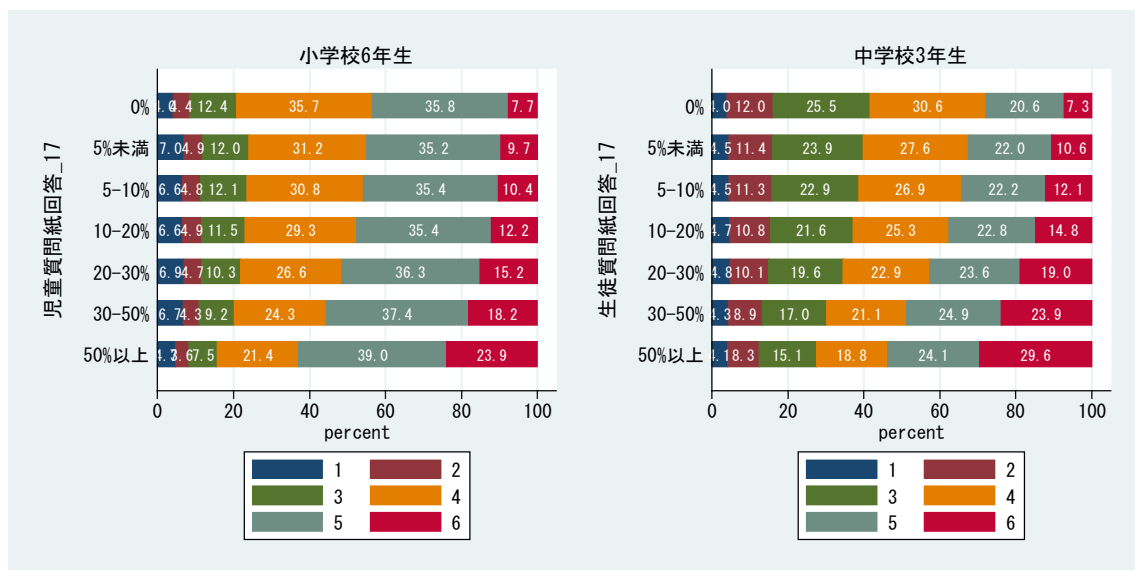


(15) 携帯電話の使用頻度



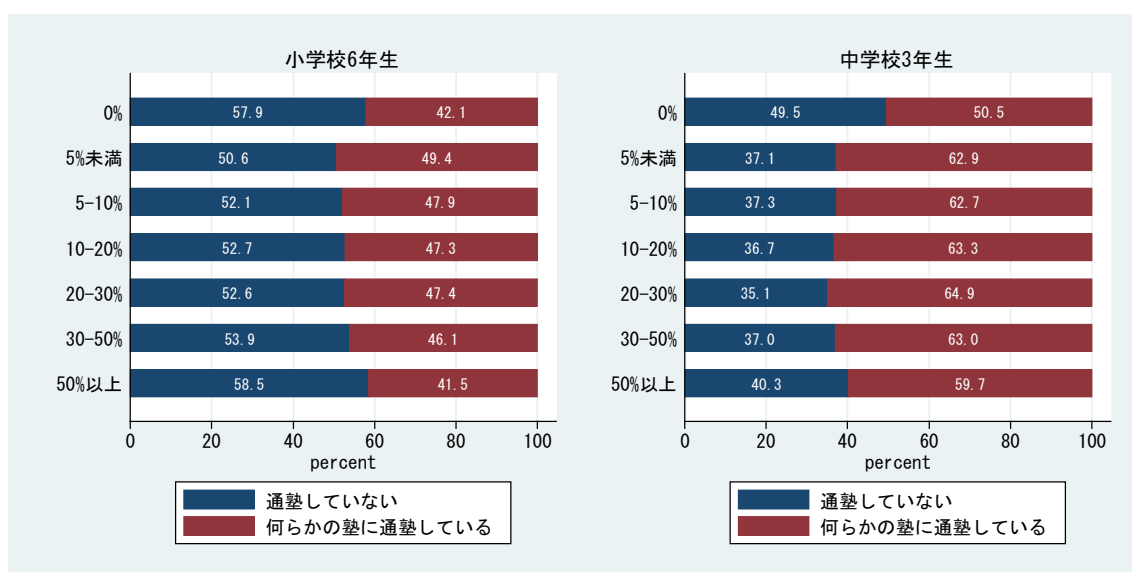
(16) 学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。）

1：3時間以上 2：2時間以上、3時間より少ない 3：1時間以上、2時間より少ない 4：30分以上、1時間より少ない 5：30分より少ない 6：全くしない



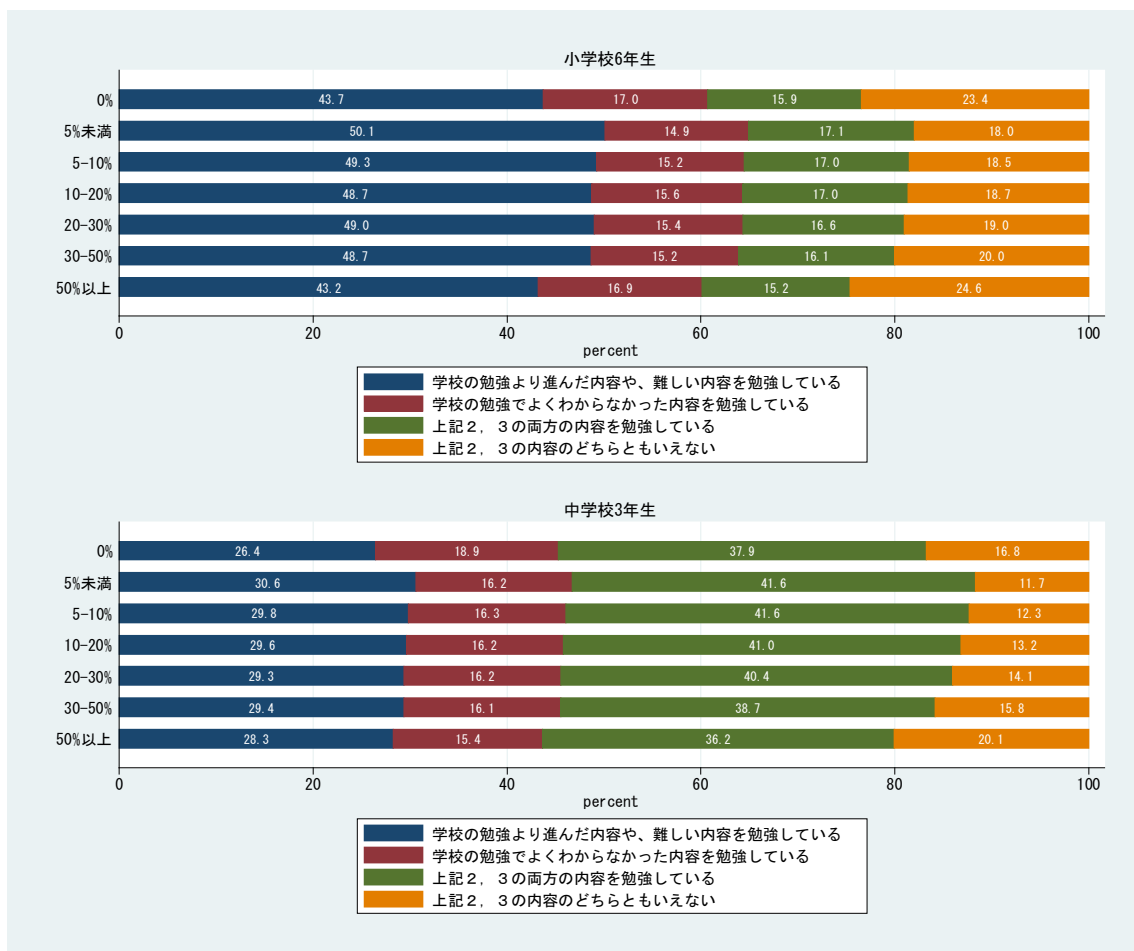
(17) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。）

1：4時間以上 2：3時間以上、4時間より少ない 3：2時間以上、3時間より少ない 4：1時間以上、2時間より少ない 5：1時間より少ない 6：全くしない

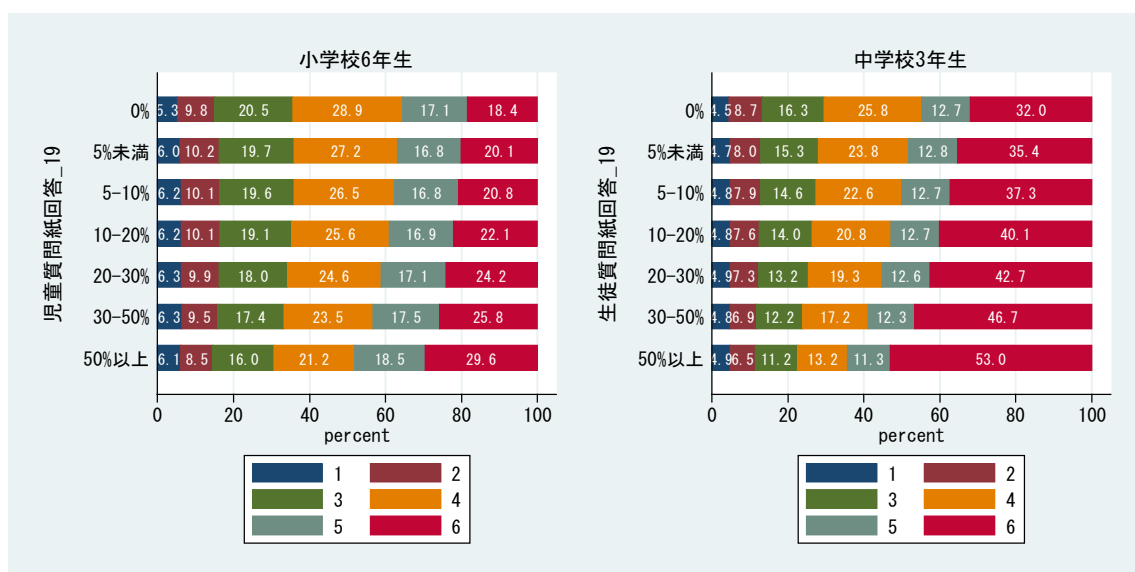


(18) 学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合もふくみます。)で勉強をしていますか。

- 1 : 学習塾に通っていない 2 : 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している 3 : 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している 4 : 上記2, 3の両方の内容を勉強している 5 : 上記2, 3の内容のどちらともいえない

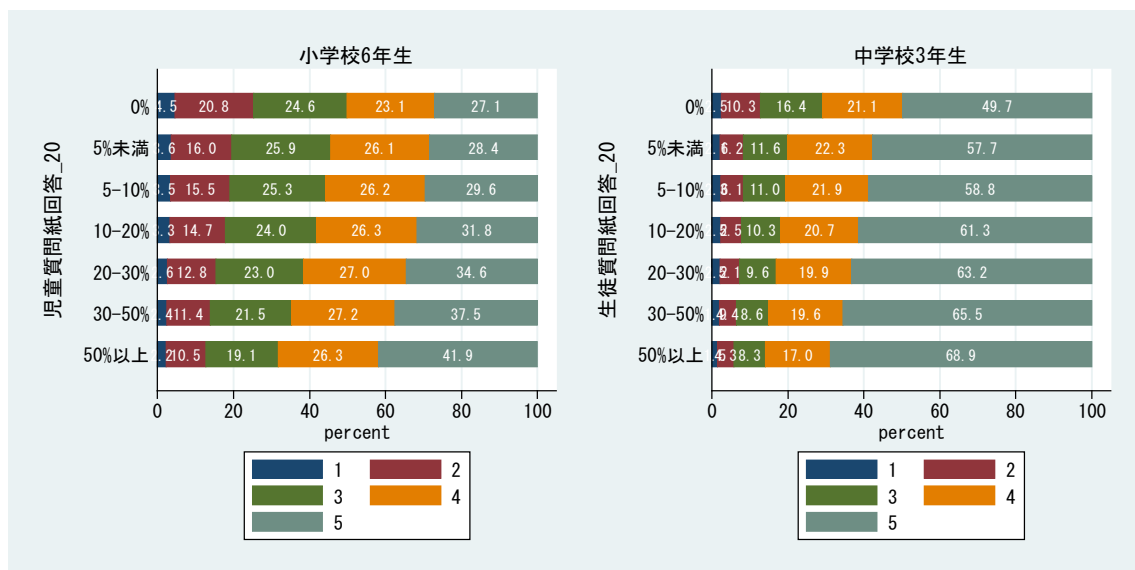


(18) 通塾している児童・生徒の塾での勉強内容



(19) 家や図書館で、ふだん（月曜日から金曜日）、1日にどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）

1：2時間以上、2：1時間以上、2時間より少ない 3：30分以上、1時間より少ない 4：10分以上、30分より少ない 5：10分より少ない 6：全くしない

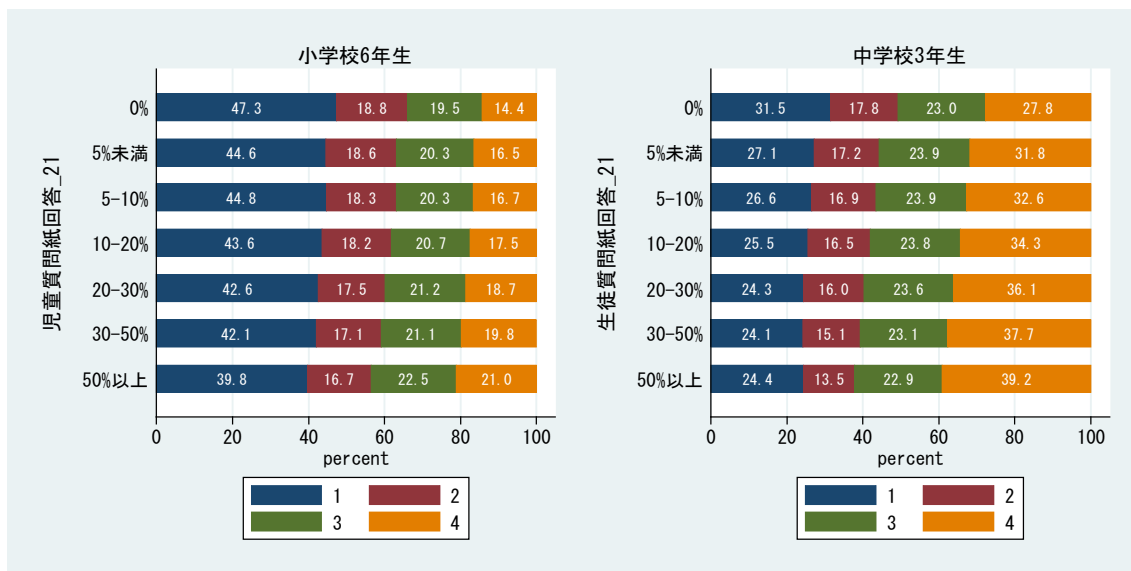


(20) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）

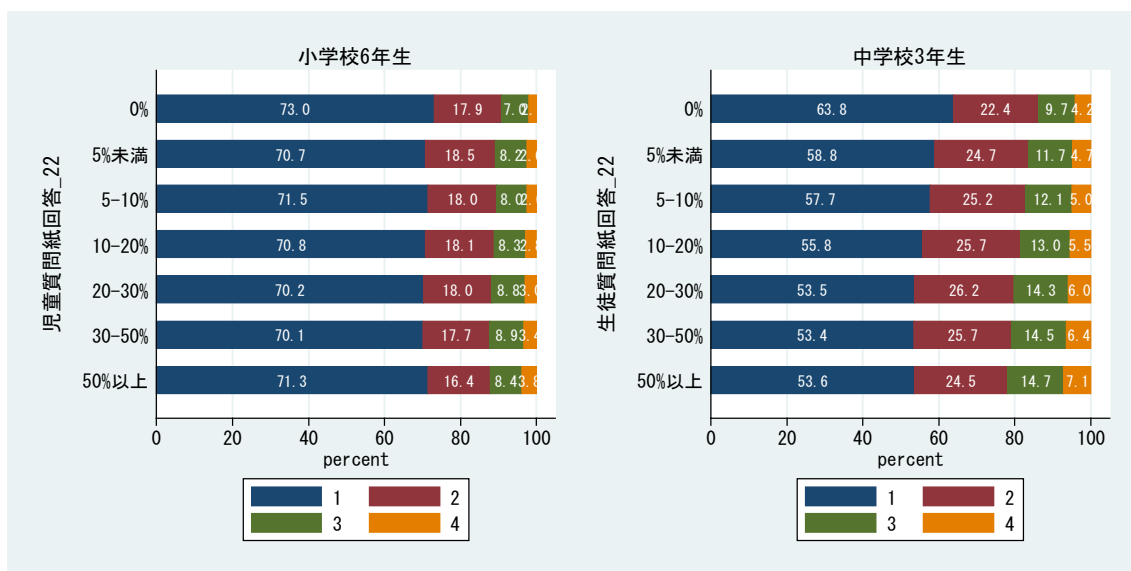
1：だいたい週に4回以上行く 2：週に1～3回程度行く 3：月に1～3回程度行く 4：年に数回程度行く 5：ほとんど、または、全く行かない

4 あなたは、家の人（兄弟姉妹はふくみません。）と次のようなことをしますか。当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

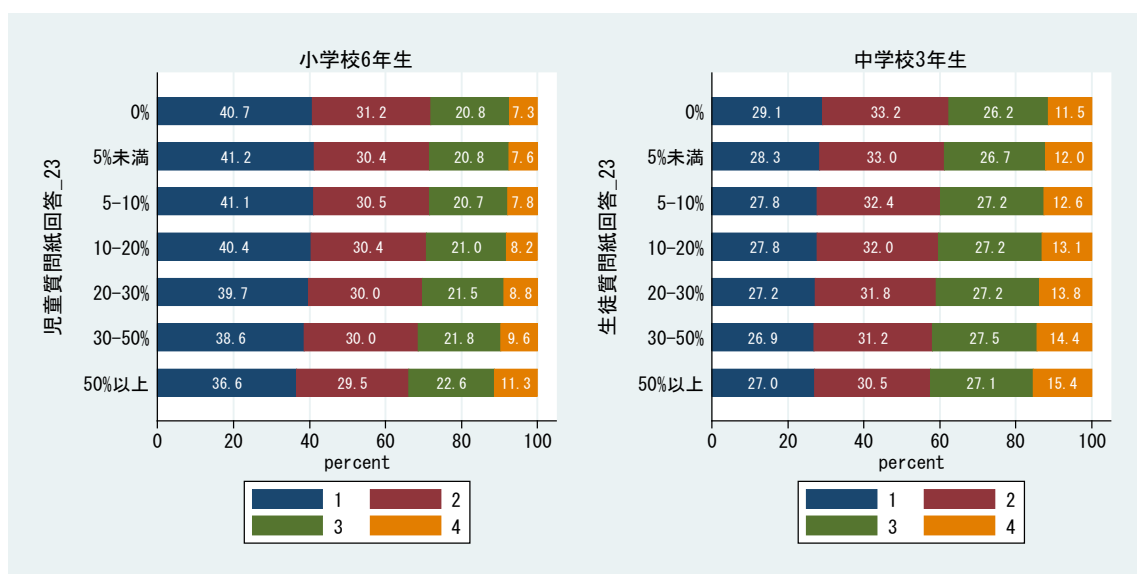
1：している 2：どちらかといえば、している 3：あまりしていない 4：全くしていない



(21) ふだん（月曜日から金曜日）、朝食をいっしょに食べる

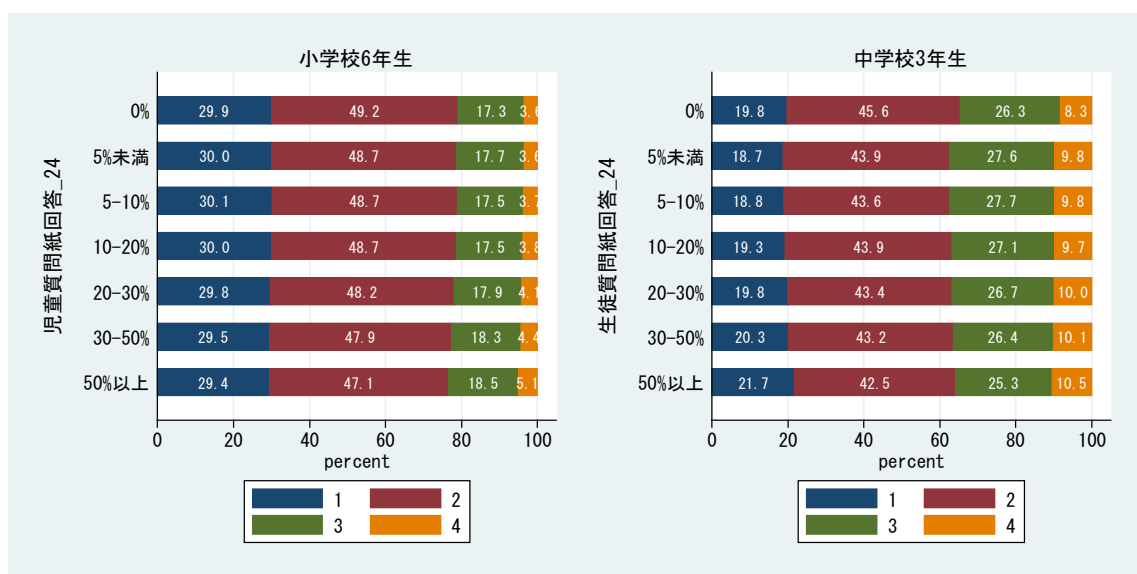


(22) ふだん（月曜日から金曜日）、夕食をいっしょに食べる



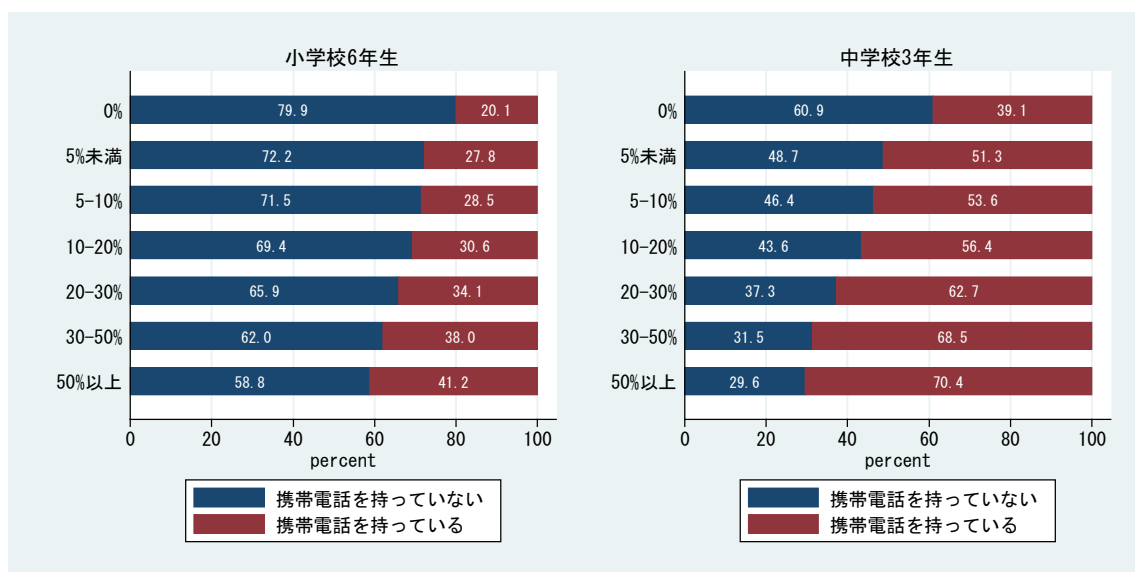
(23) 学校での出来事について話をする

5 次の(24)、(25)のそれぞれについて、当てはまるものを1つずつ選んでください。



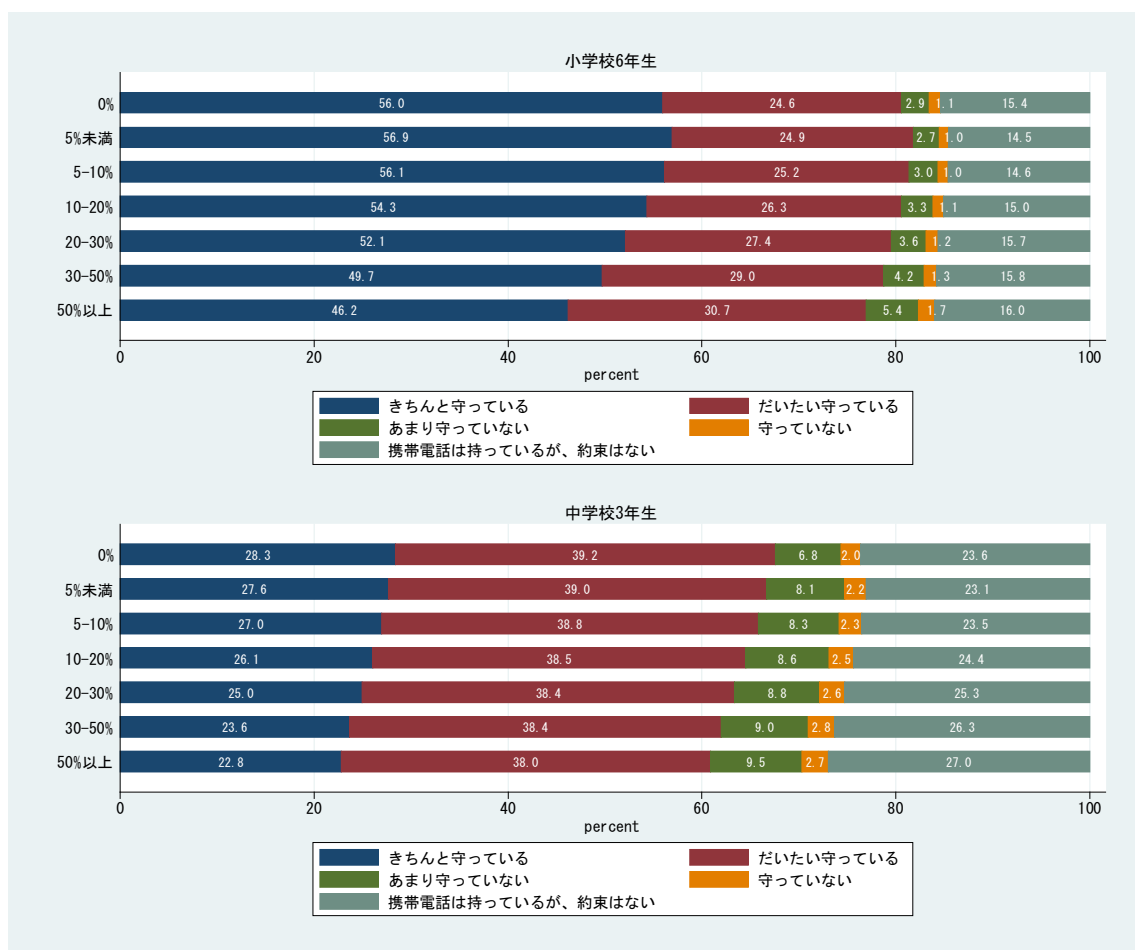
(24) 家の手伝いをしていますか。

1 : よくしている 2 : ときどきしている 3 : あまりしていない 4 : 全くしていない



(25) 携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

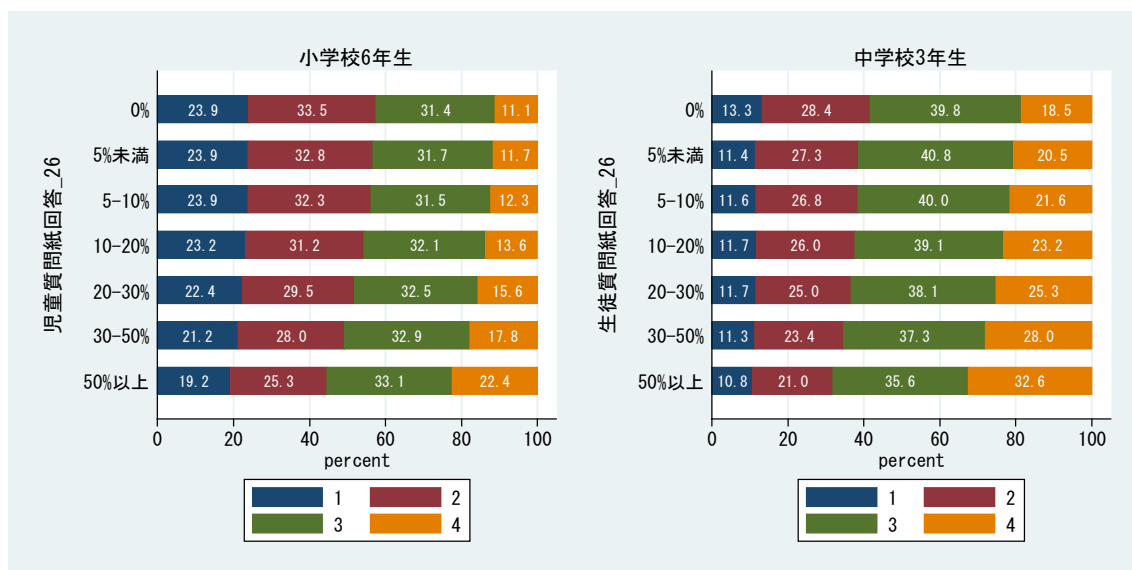
1：きちんと守っている 2：だいたい守っている 3：あまり守っていない 4：守っていない 5：携帯電話は持っているが、約束はない 6：携帯電話を持っていない



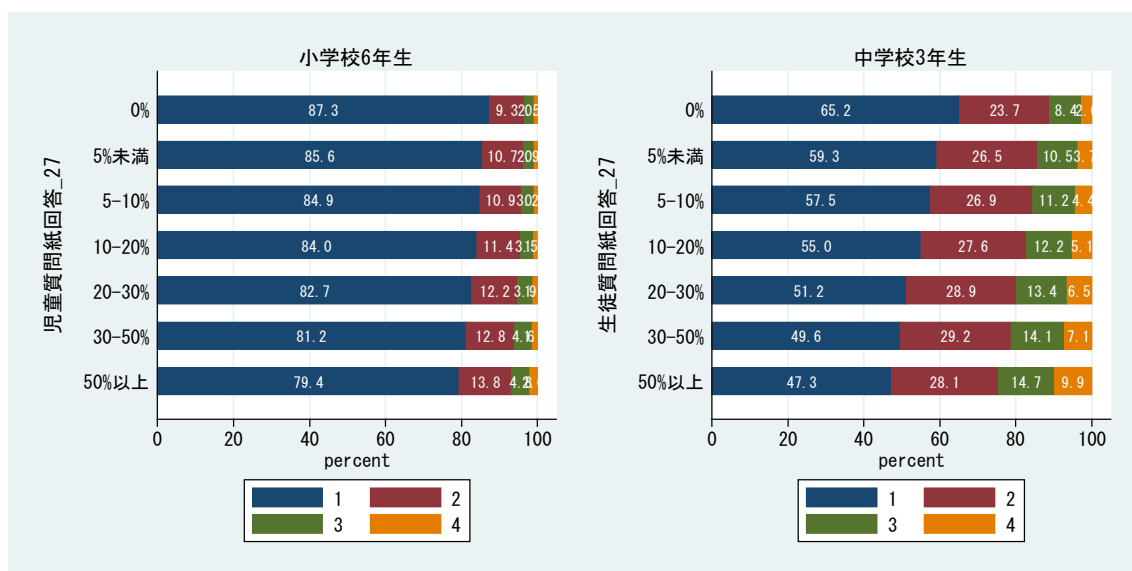
(25) 携帯電話を持っている児童・生徒の使い方

6 あなたは、家で次のようなことをしていますか。当てはまるものを右の1から4の中から1つつ選んでください。

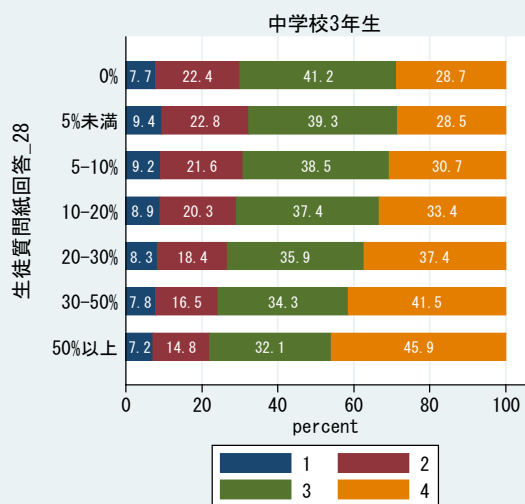
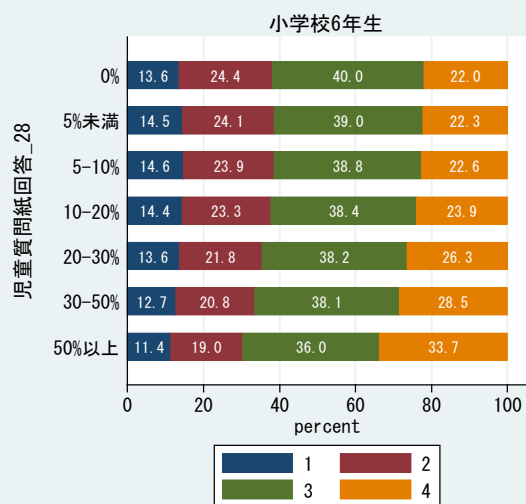
1：している 2：どちらかといえば、している 3：あまりしていない 4：まったくしていない



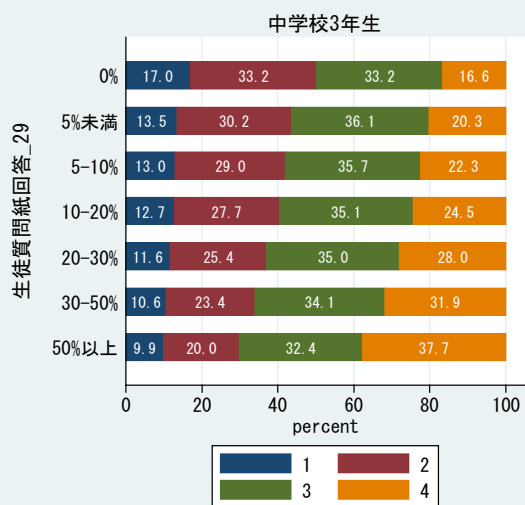
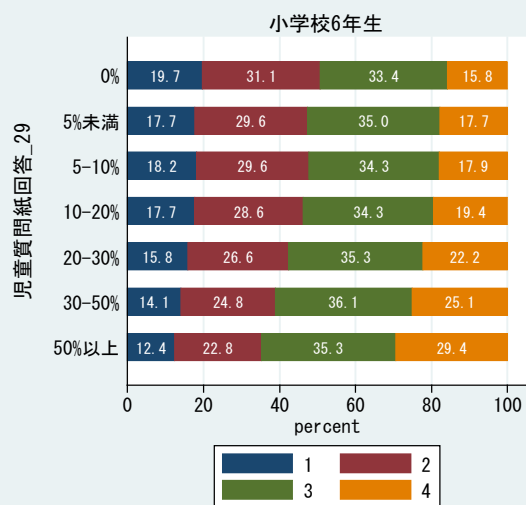
(26) 自分で計画を立てて勉強している



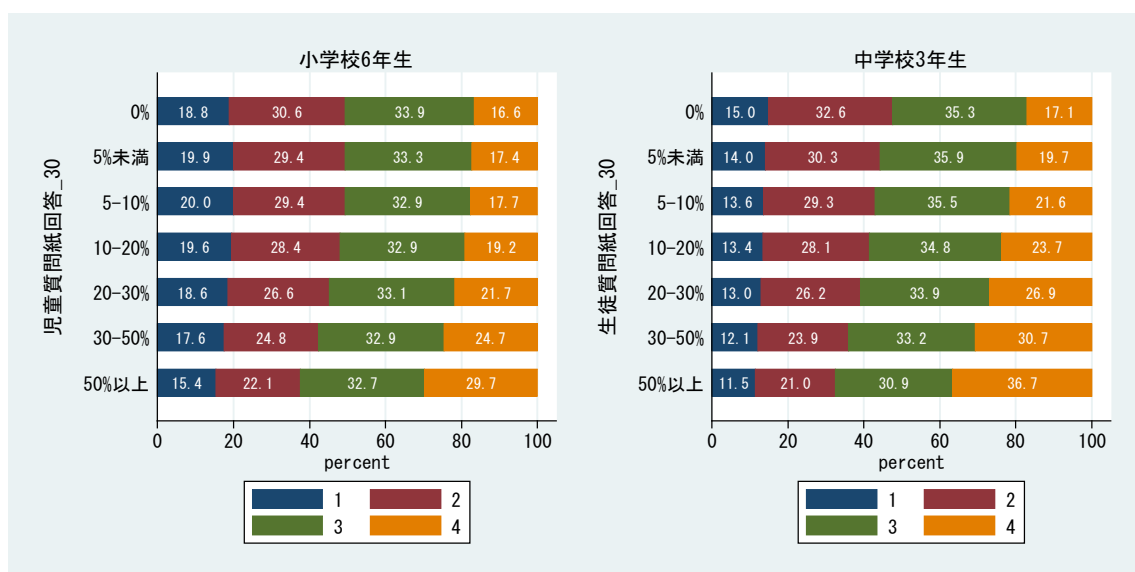
(27) 学校の宿題をしている



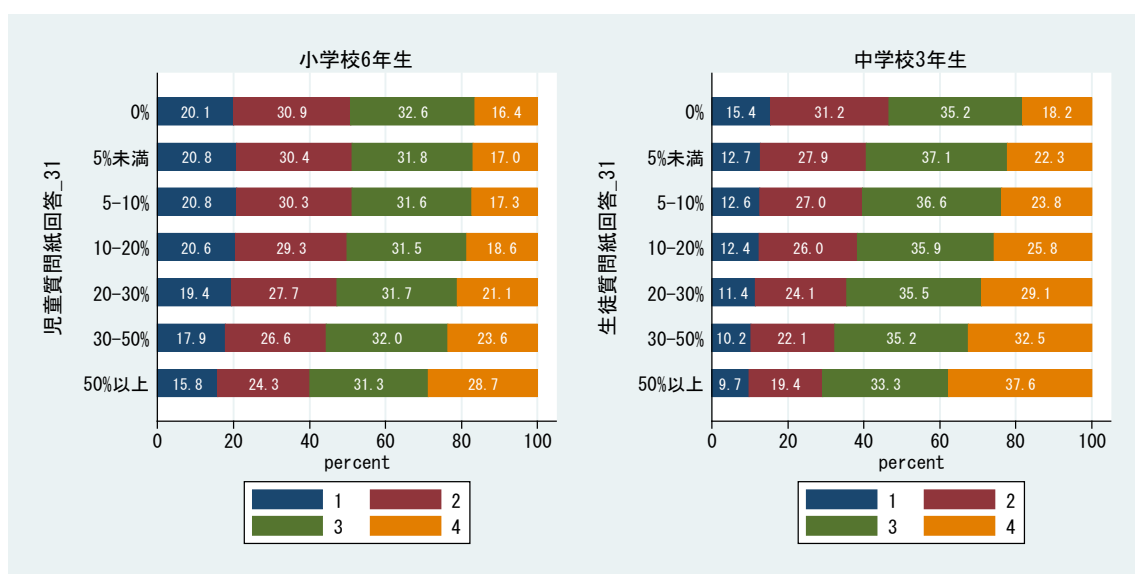
(28) 学校の授業の予習をしている



(29) 学校の授業の復習をしている



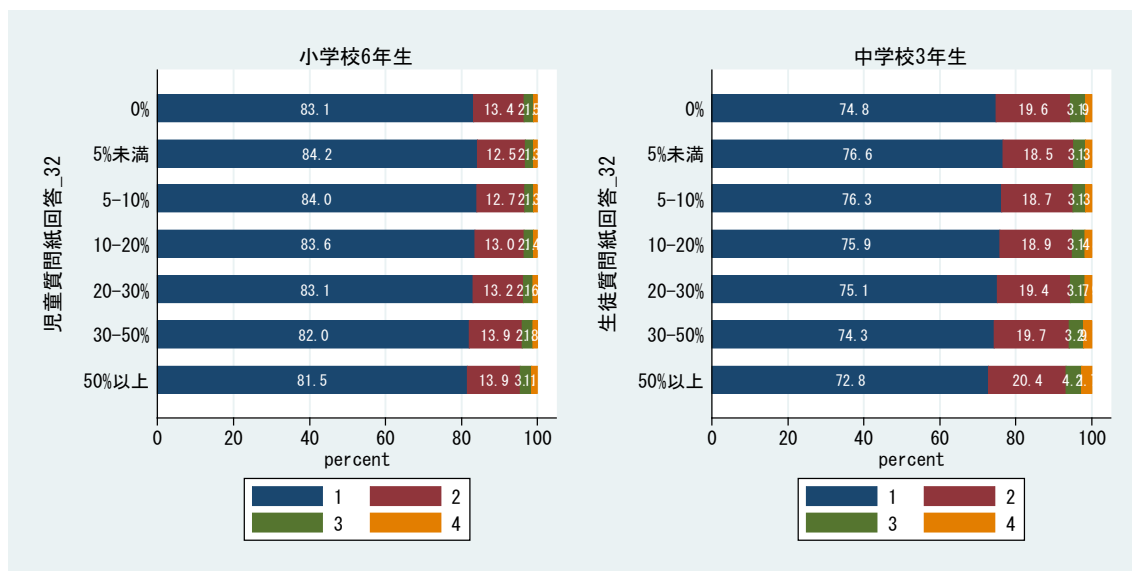
(30) 苦手な教科の勉強をしている



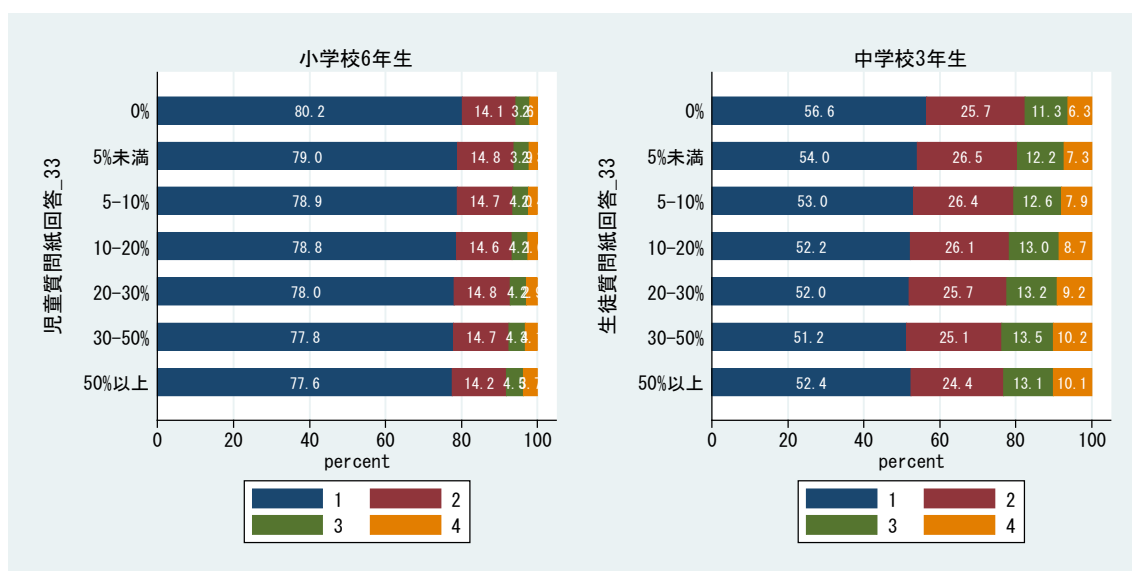
(31) テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している

7 あなたは、学校生活について、どのように思っていますか。あなたの考えに最も近いものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

1：そう思う 2：どちらかといえば、そう思う 3：どちらかといえば、そう思わない 4：そう思わない



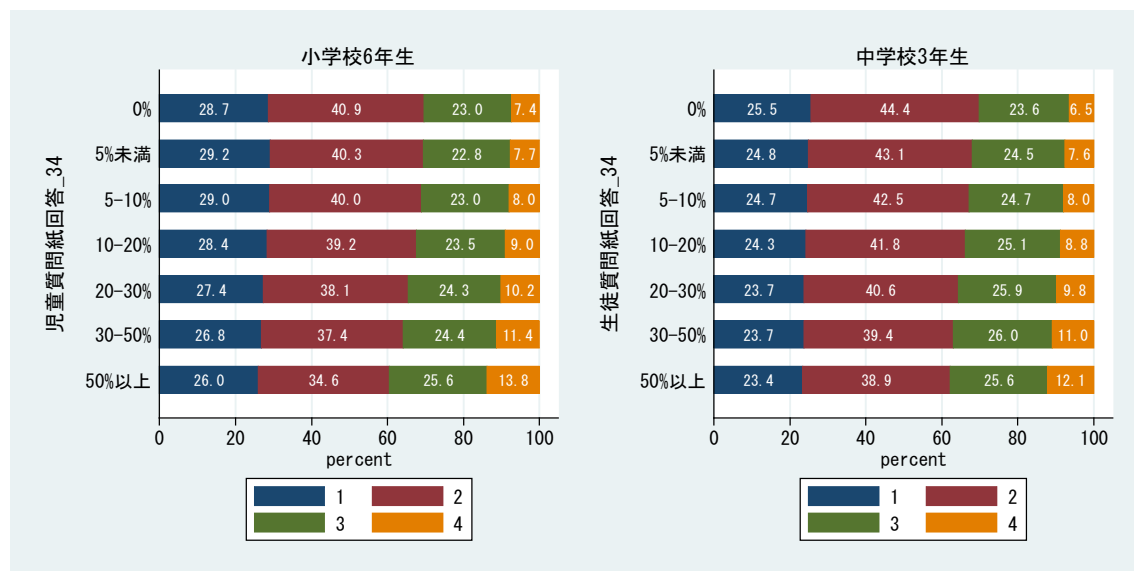
(32) 友達に会うのは楽しい



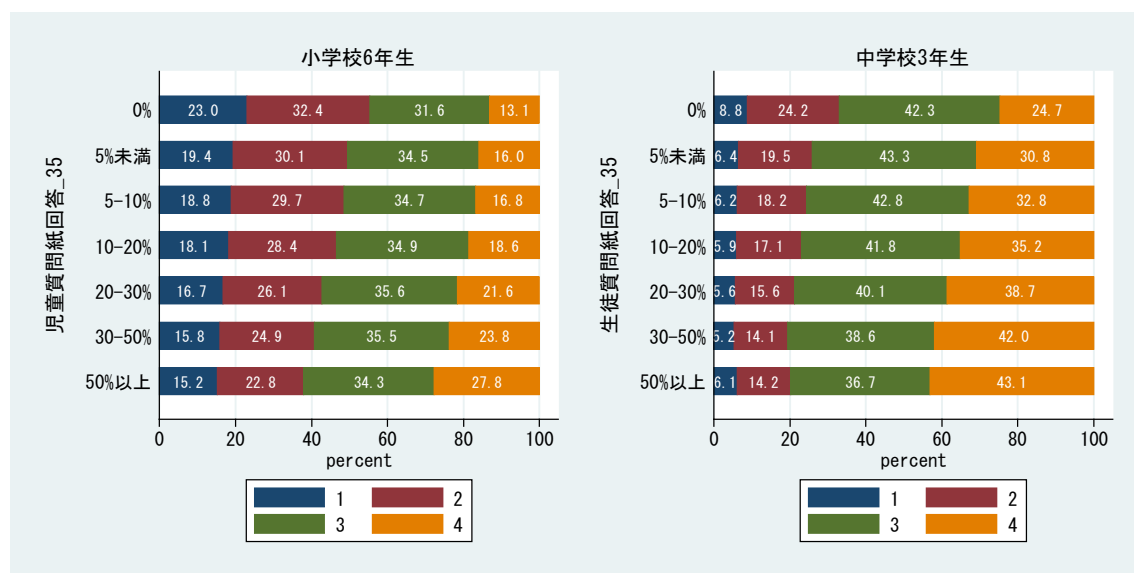
(33) 好きな授業がある

8 次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

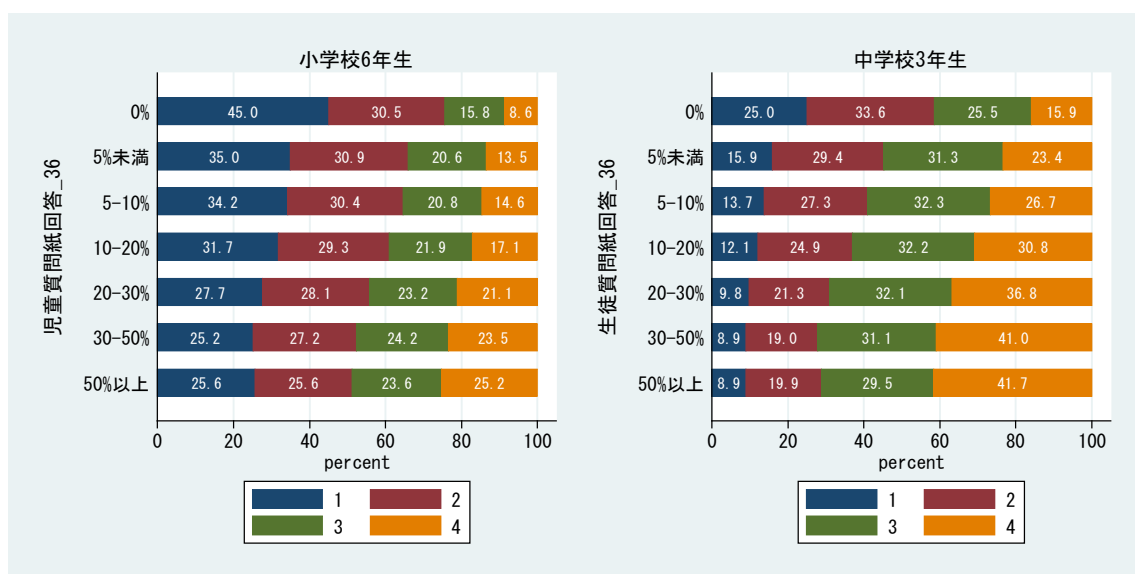
1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、あてはまらない 4：当てはまらない



(34) 新聞やテレビのニュースなどに関心がある



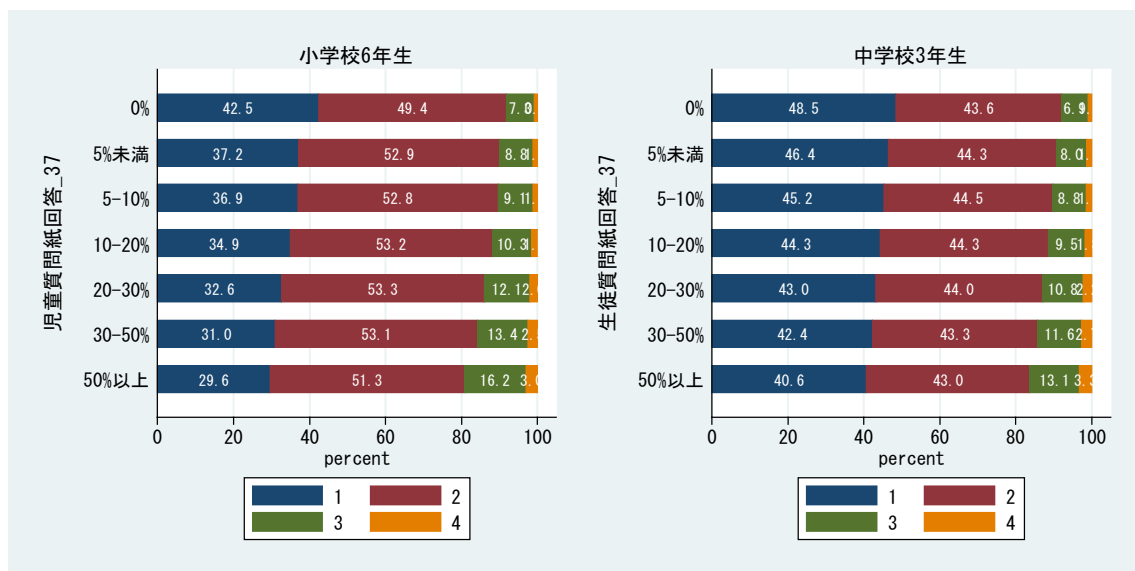
(35) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある



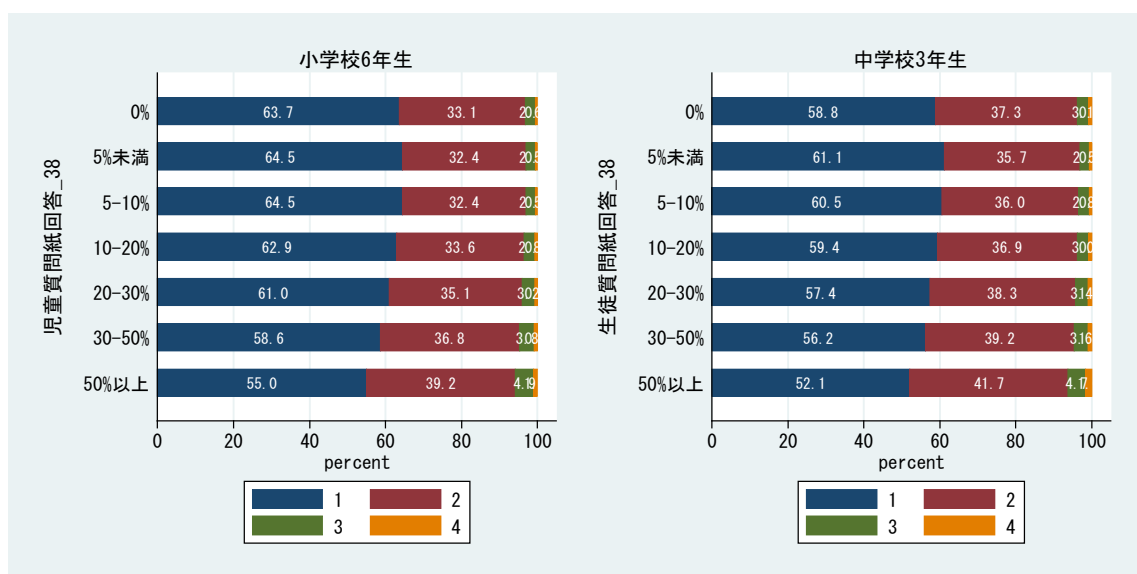
(36) 今住んでいる地域の行事に参加している

9 次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

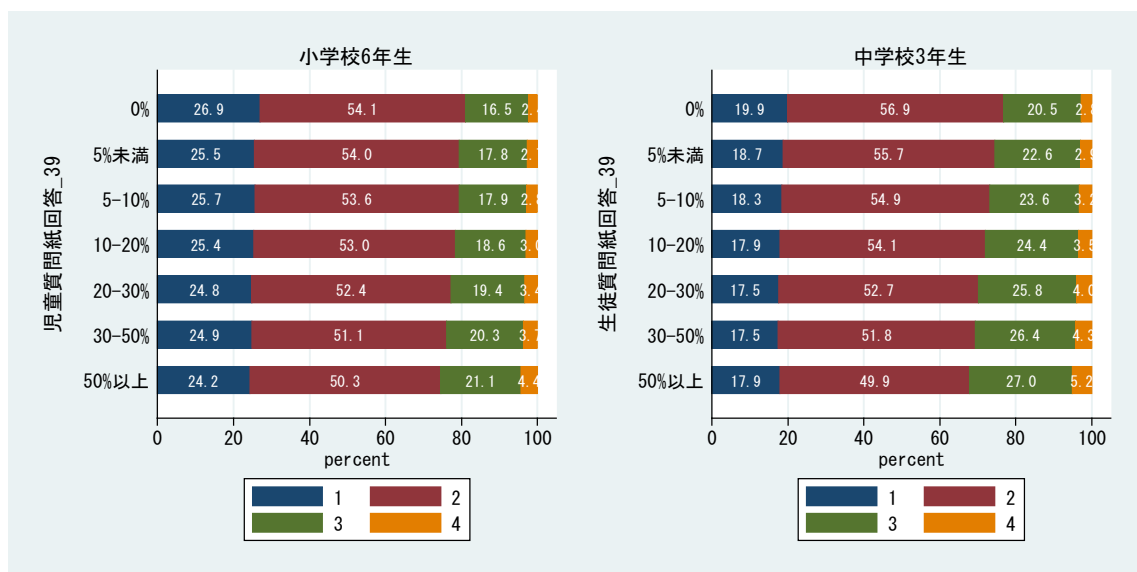
1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、あてはまらない 4：当てはまらない



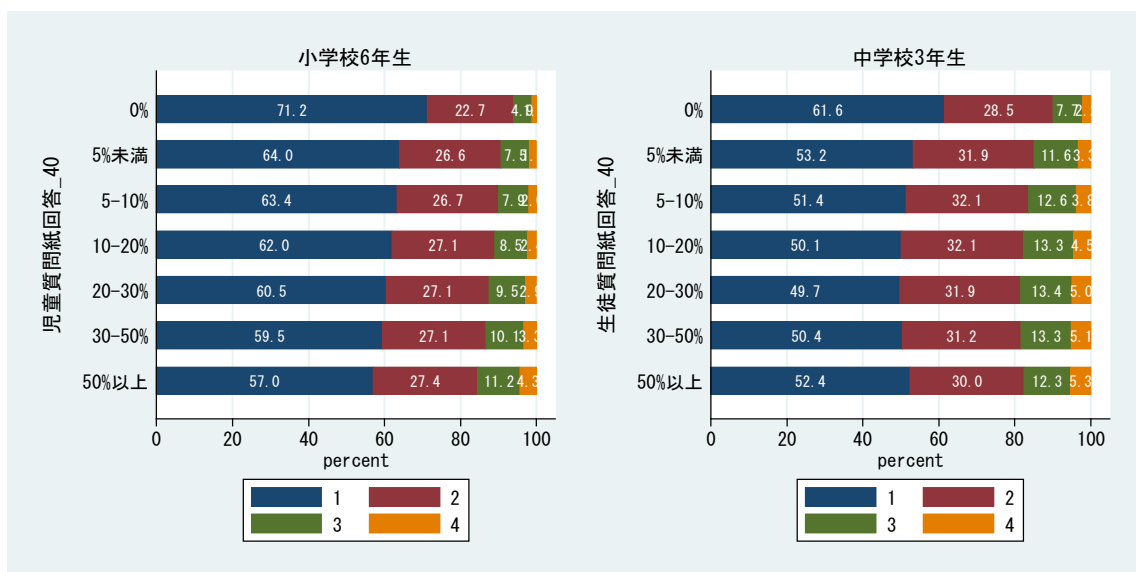
(37) 学校のきまりを守っている



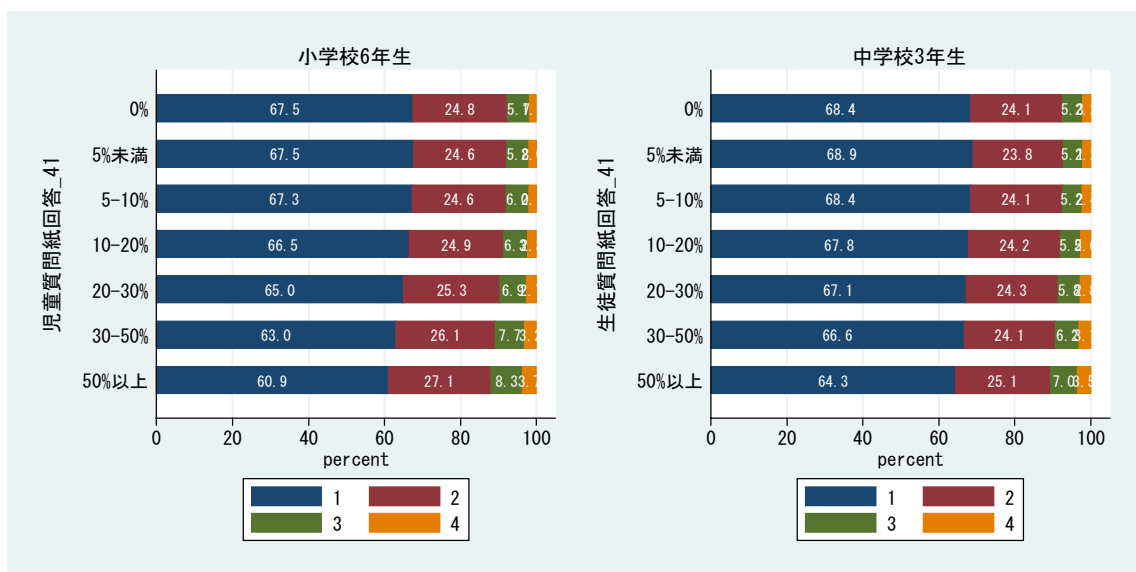
(38) 友達との約束を守っている



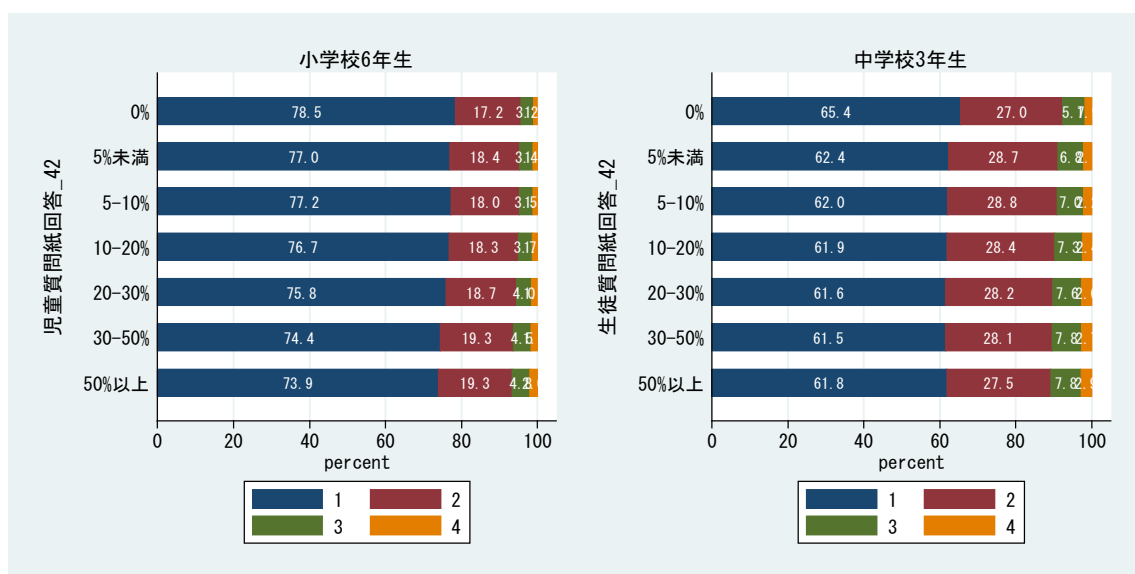
(39) 人が困っているときは、進んで助けている



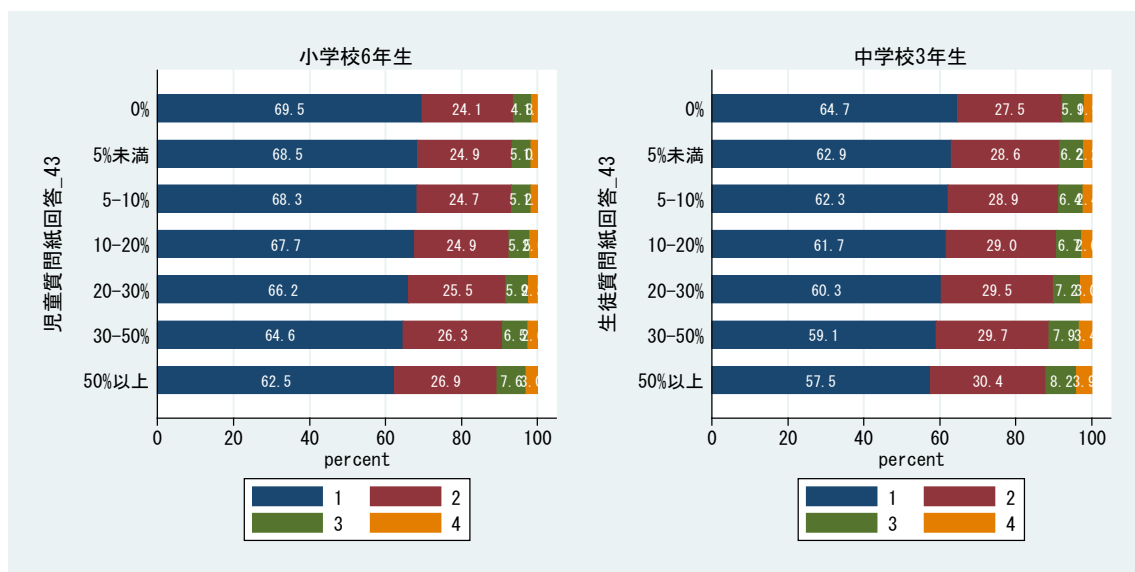
(40) 近所の人に会ったときは、あいさつをしている



(41) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う



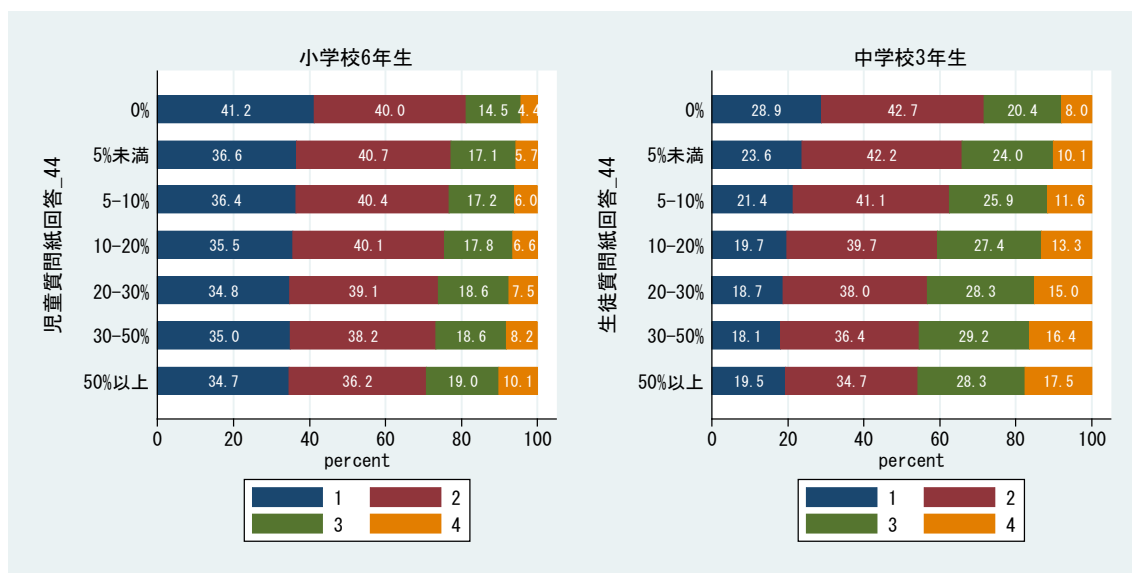
(42) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



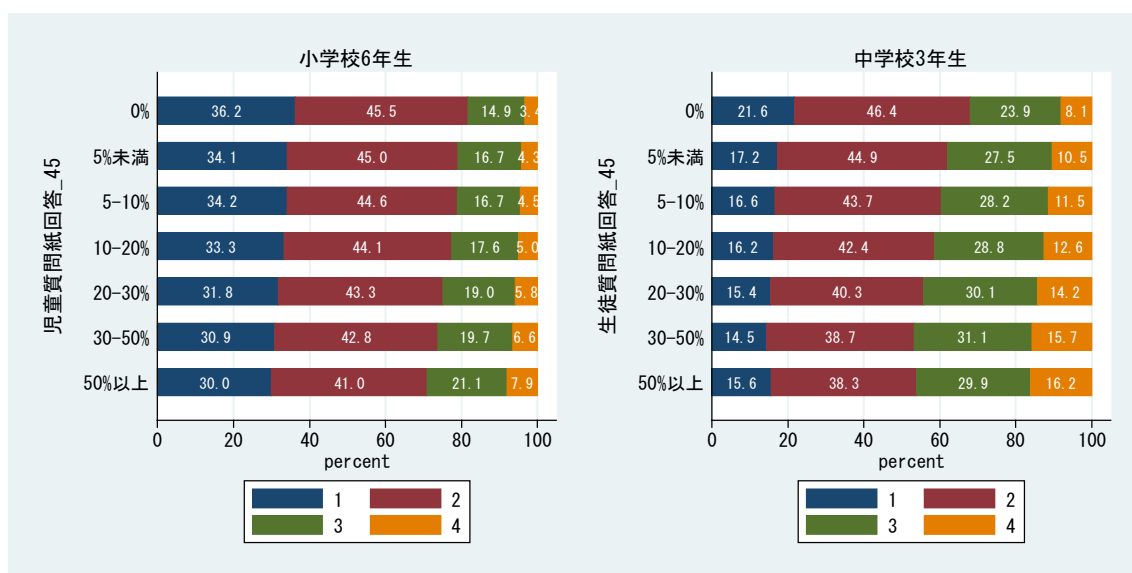
(43) 人の役に立つ人間になりたいと思う

10 あなたは、「総合的な学習の時間」の授業についてどのように思っていますか。当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない



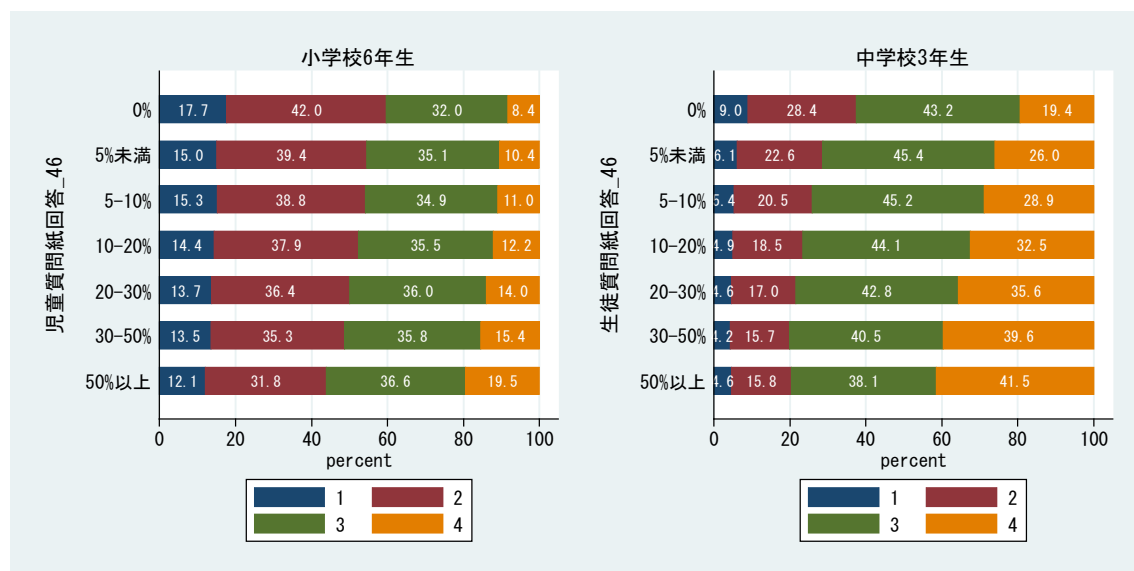
(44)「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ



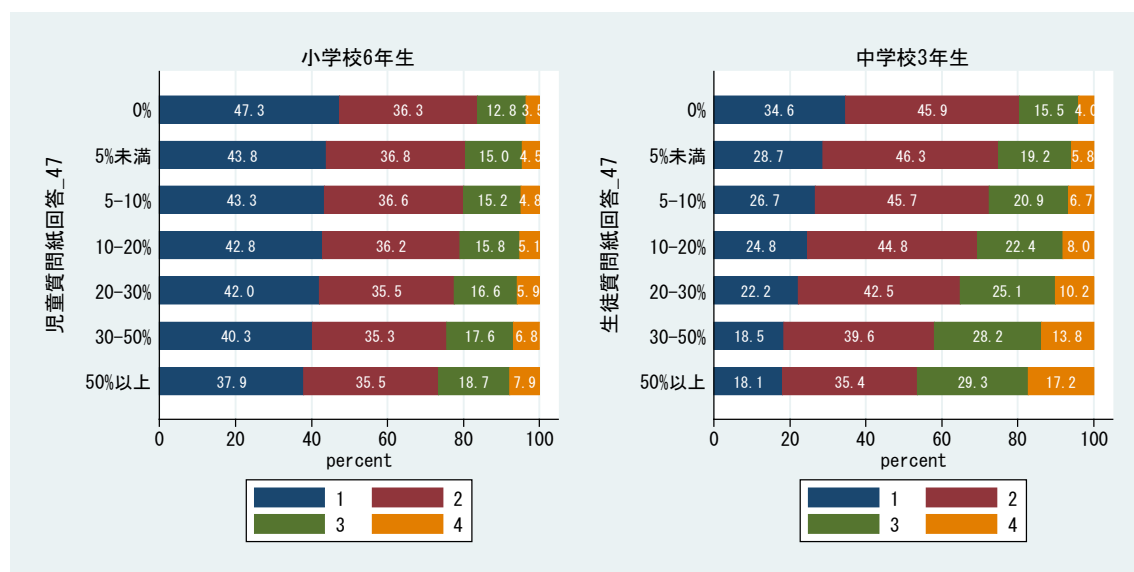
(45)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、ふだんの生活や社会に出たときに役立つ

11 次の(46)から(49)のそれぞれについて、当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

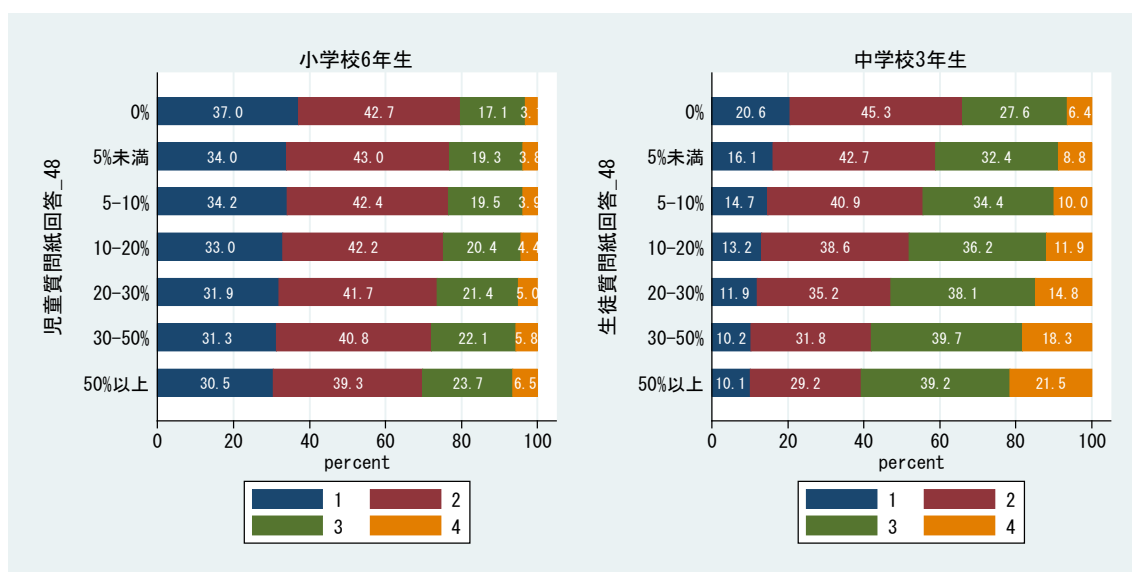
1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない



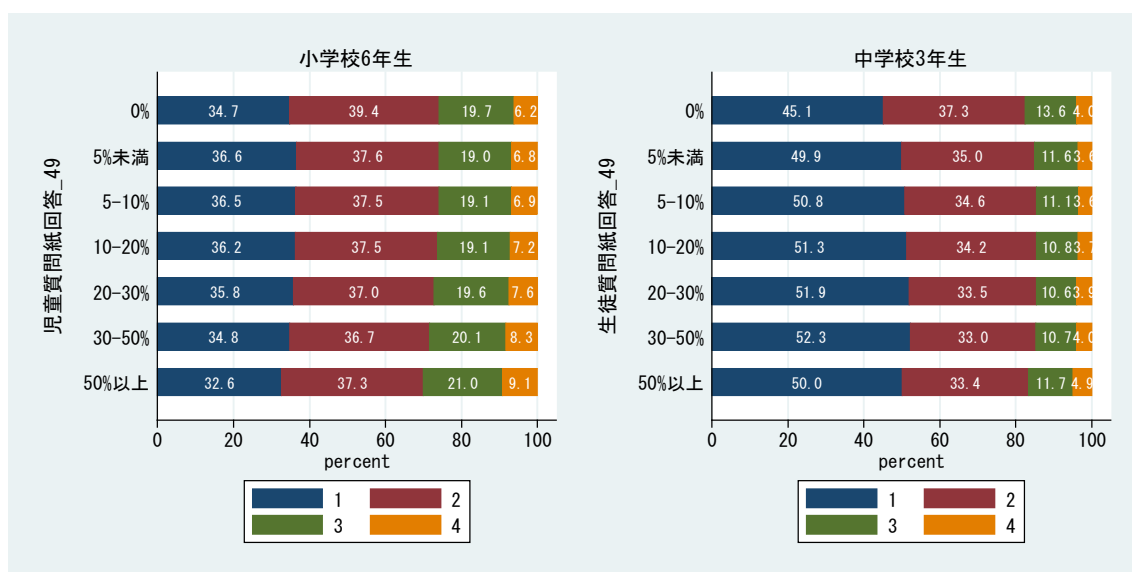
(46) ふだんの授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う



(47) ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う

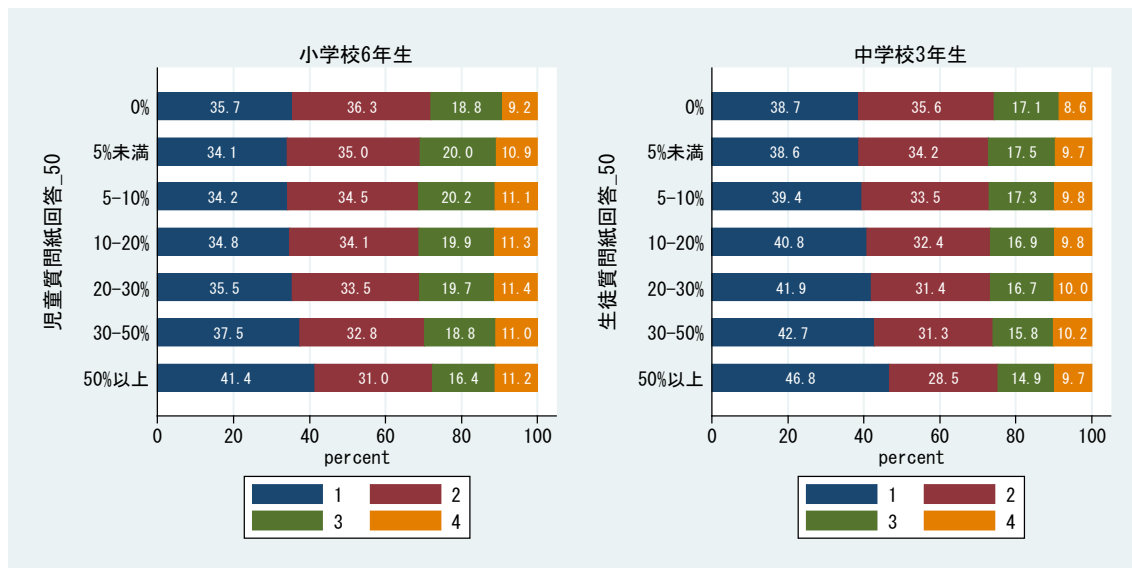


(48) ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う



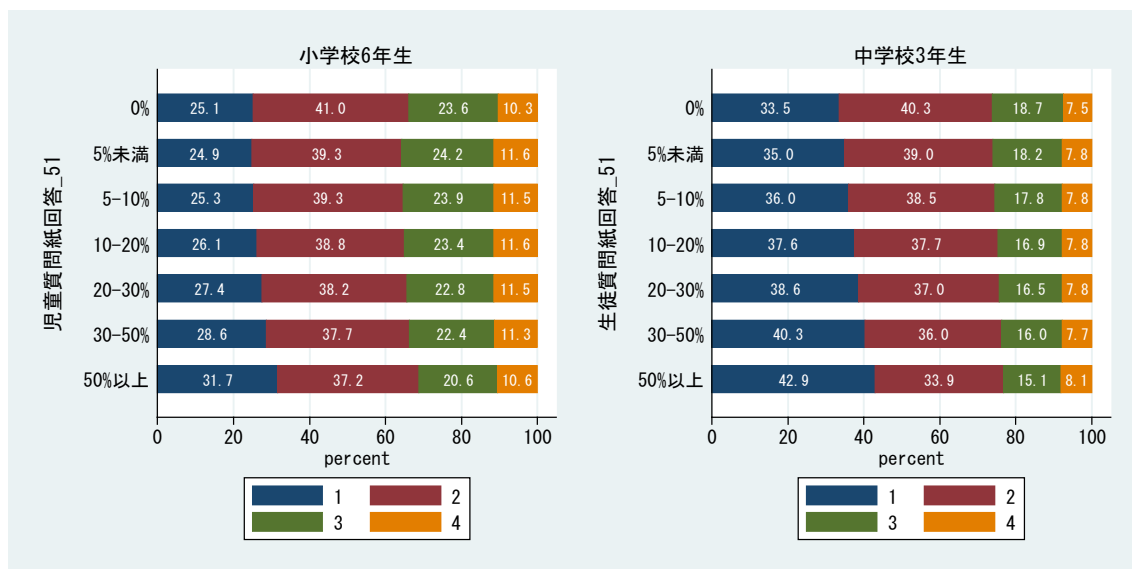
(49) 授業では、ノートをていねいに書いている

あなたは、次のことについて、どのように思いますか。次の（５０）、（５１）のそれぞれについて、当てはまるものを１つずつ選んでください。



（５０）４００字づめ原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くのは難しい

１：難しいと思う　２：どちらかといえば、難しいと思う　３：どちらかといえば、難しいと思わない　４：難しいと思わない

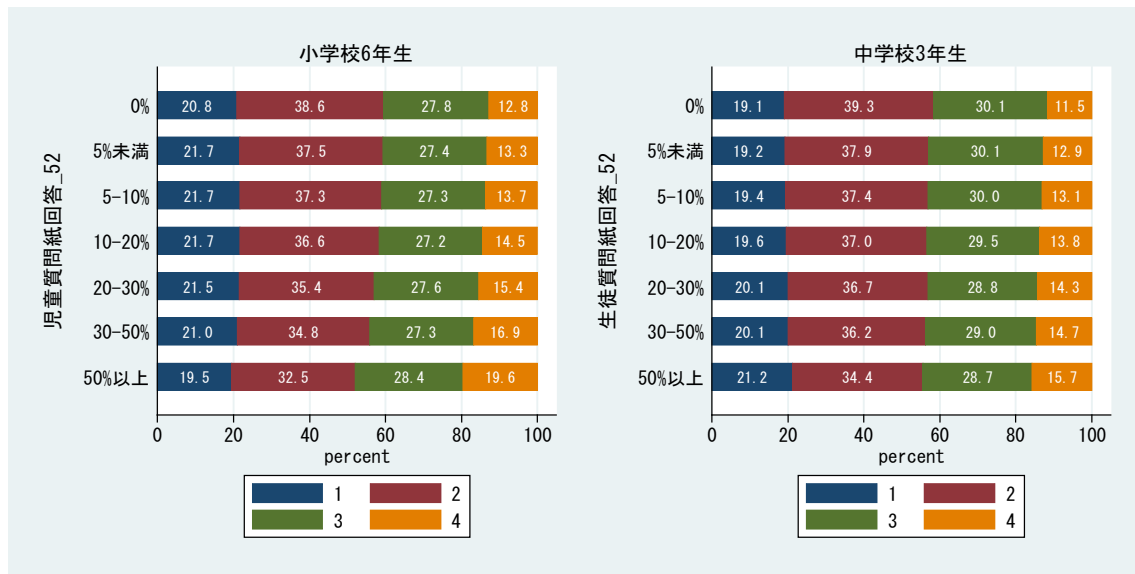


（５１）学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい

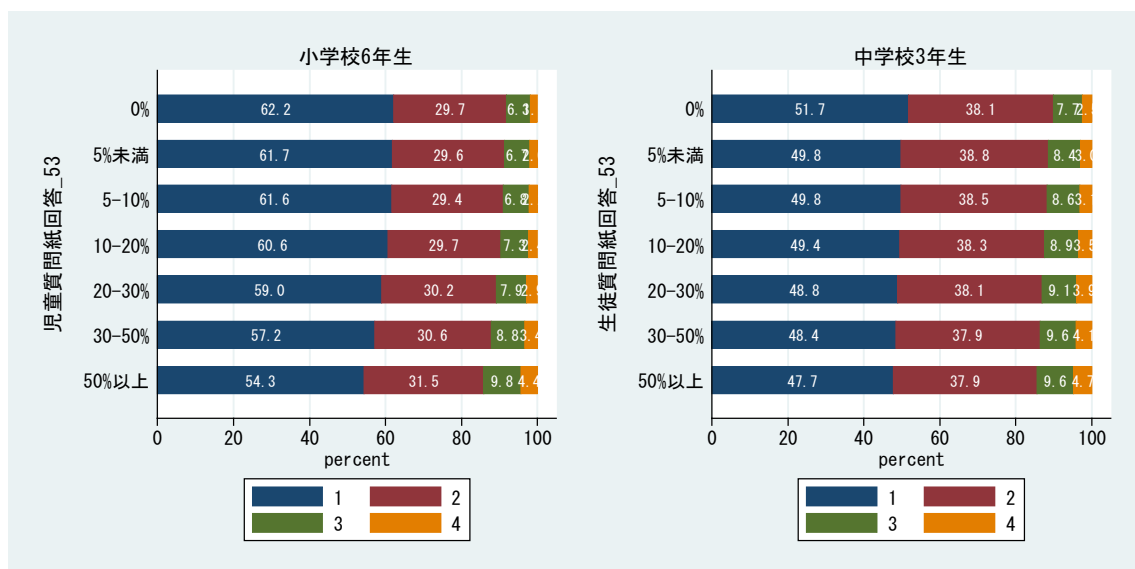
１：難しいと思う　２：どちらかといえば、難しいと思う　３：どちらかといえば、難しいと思わない　４：難しいと思わない

1 2 あなたは、国語についてどのように思っていますか。当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

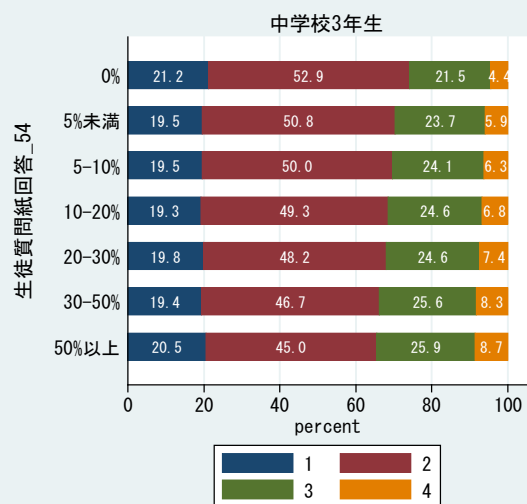
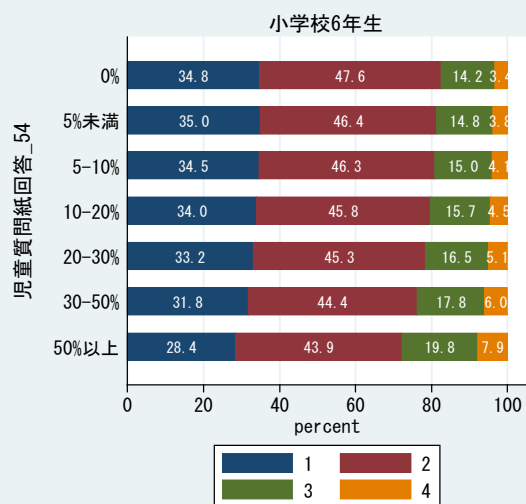
1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない



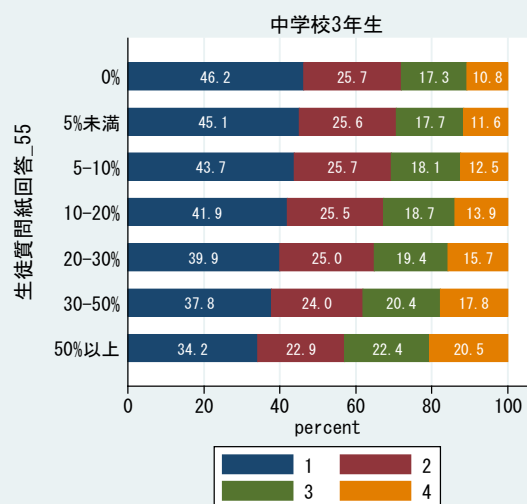
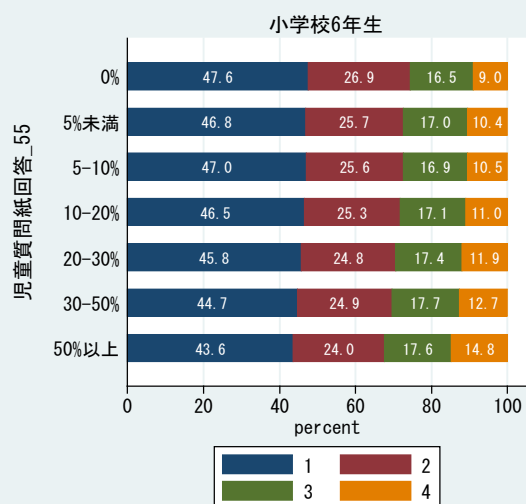
(5 2) 国語の勉強は好きだ



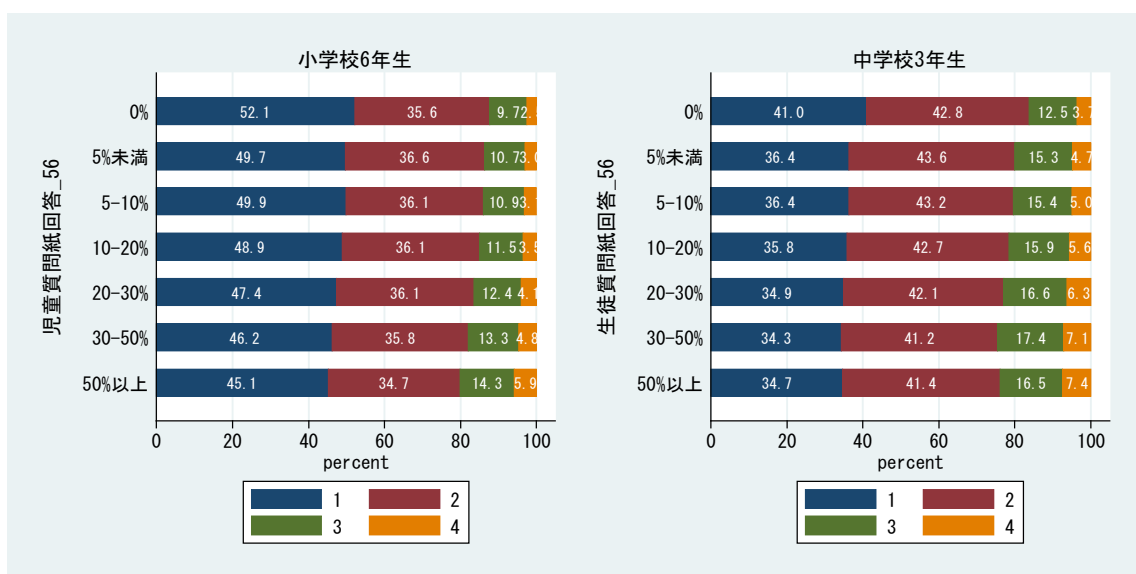
(5 3) 国語の勉強は大切だ



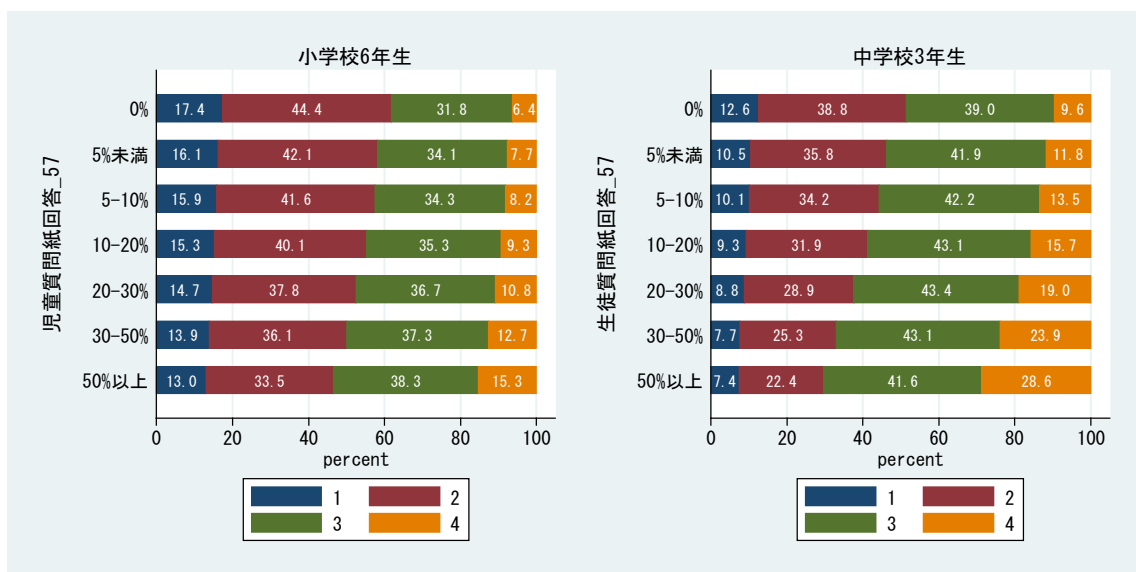
(5 4) 国語の授業の内容はよく分かる



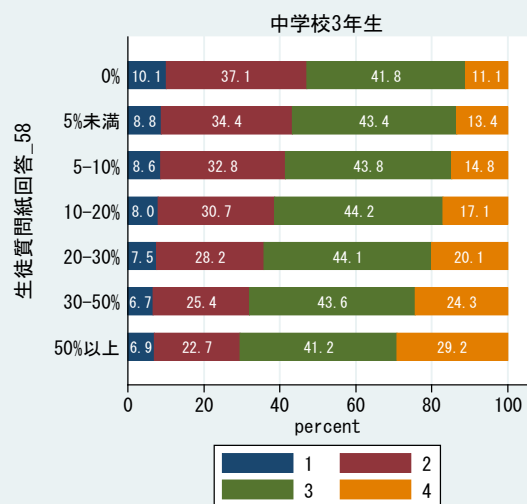
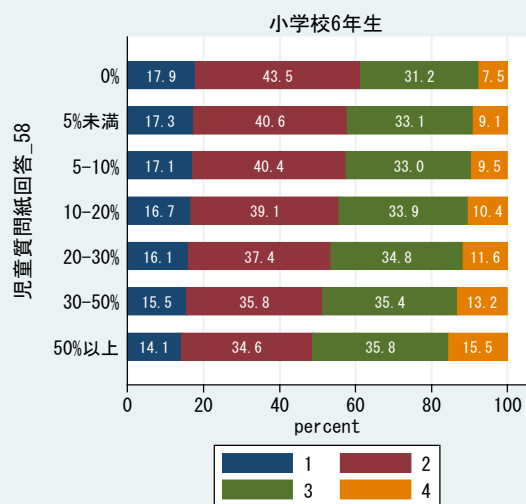
(5 5) 読書は好きだ



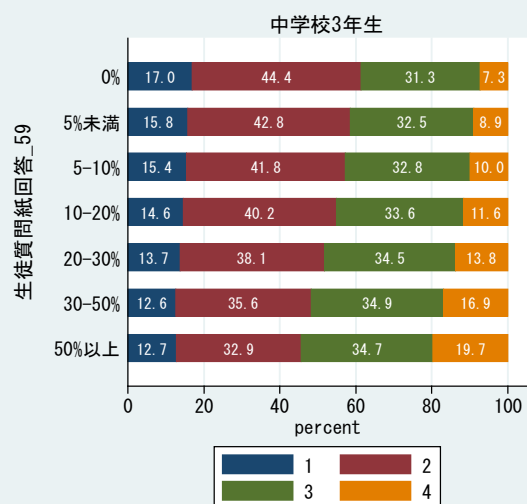
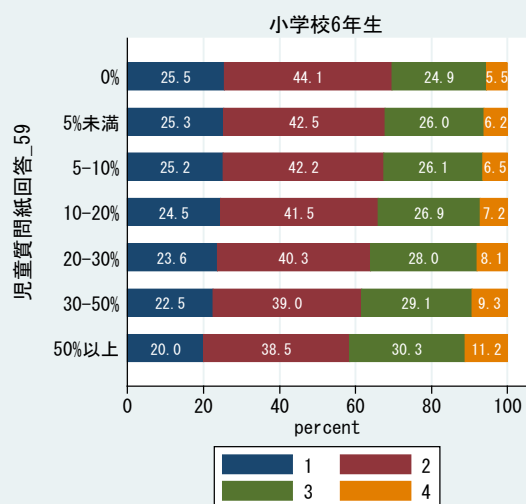
(56) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ



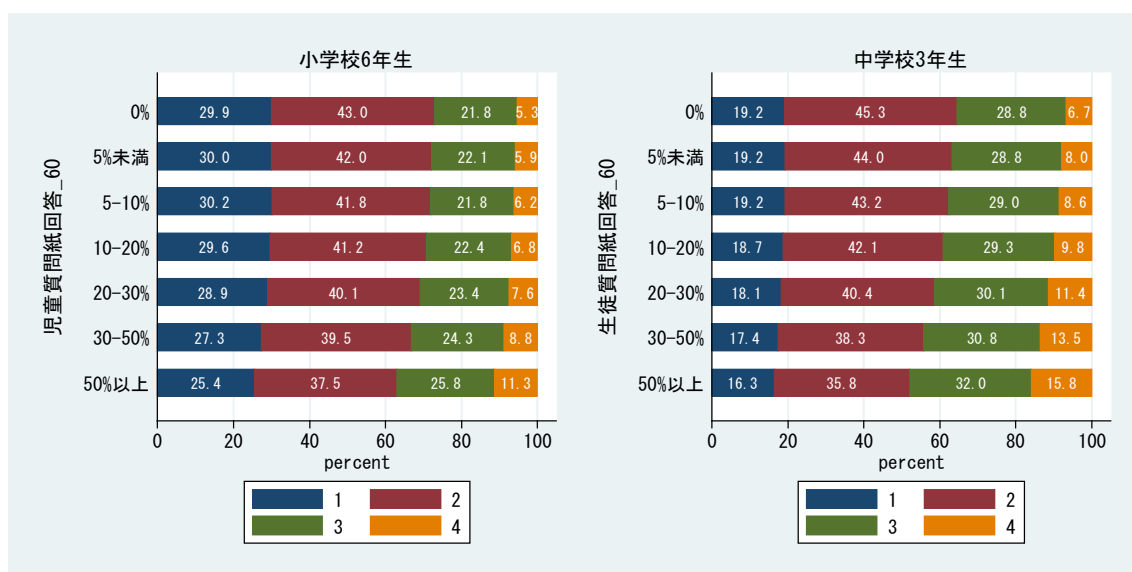
(57) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている



(58) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てをくふうしている

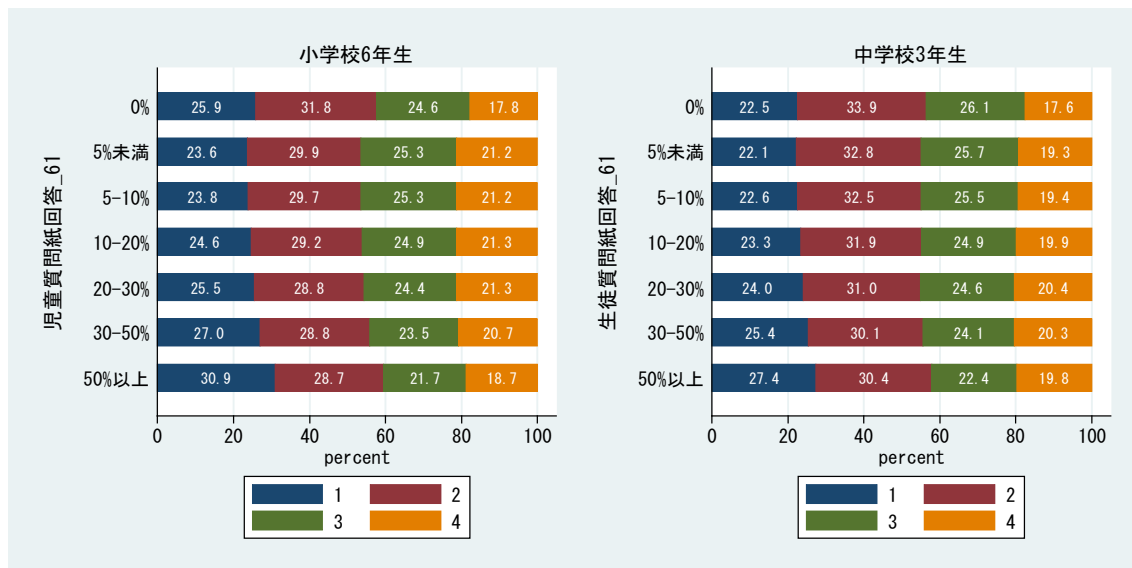


(59) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている



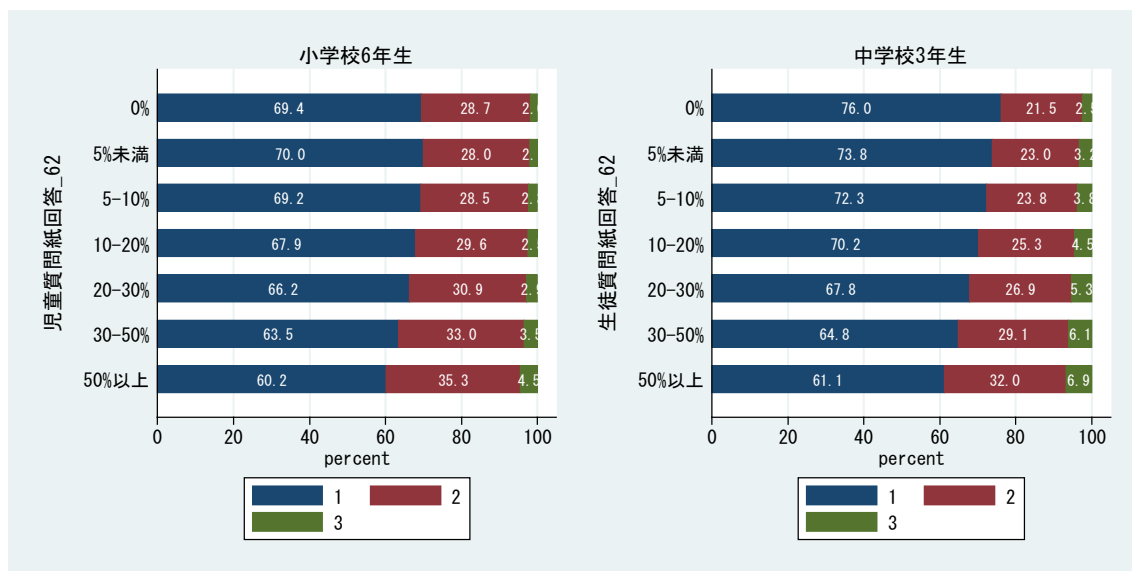
(60) 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいる

あなたは、今回の国語の問題について、どのように思いましたか。次の（６１）、（６２）のそれぞれについて、当てはまるものを１つずつ選んでください。



（６１）この問題にあるような、長い文章を読むのは難しい

１：難しいと思う ２：どちらかといえば、難しいと思う ３：どちらかといえば、難しいと思わない ４：難しいと思わない

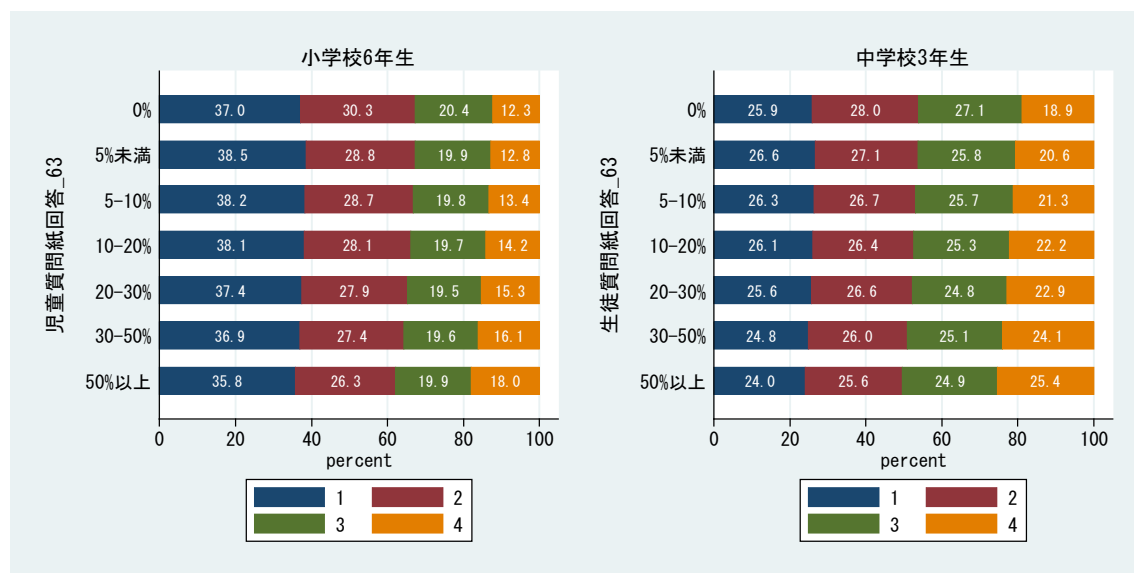


（６２）解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

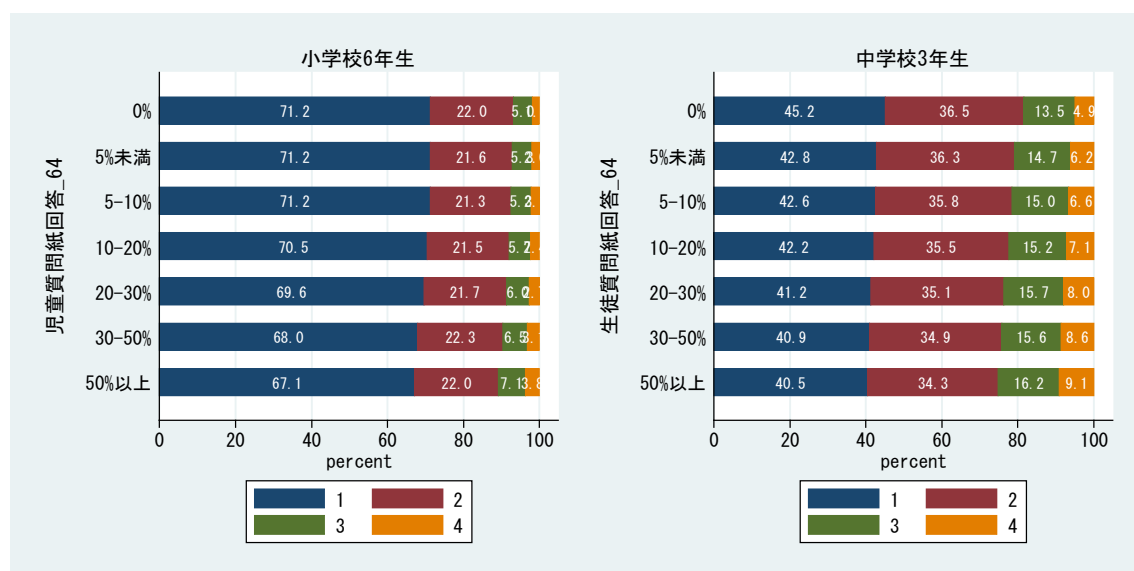
１：すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した ２：書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた ３：書く問題は全く解答しなかった

13 あなたは、算数（数学）についてどのように思っていますか。当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

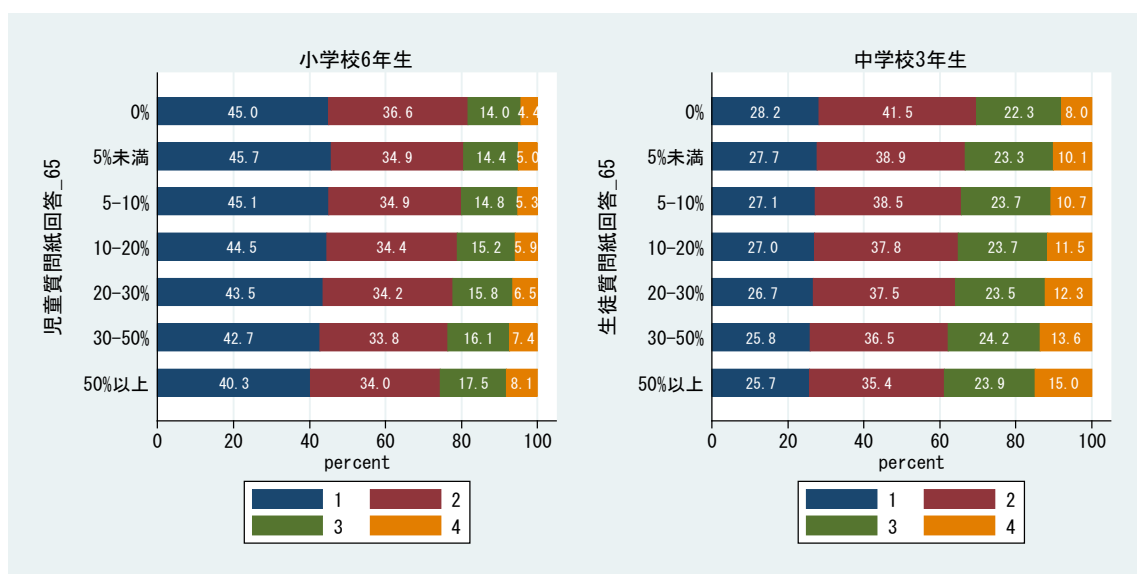
1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない



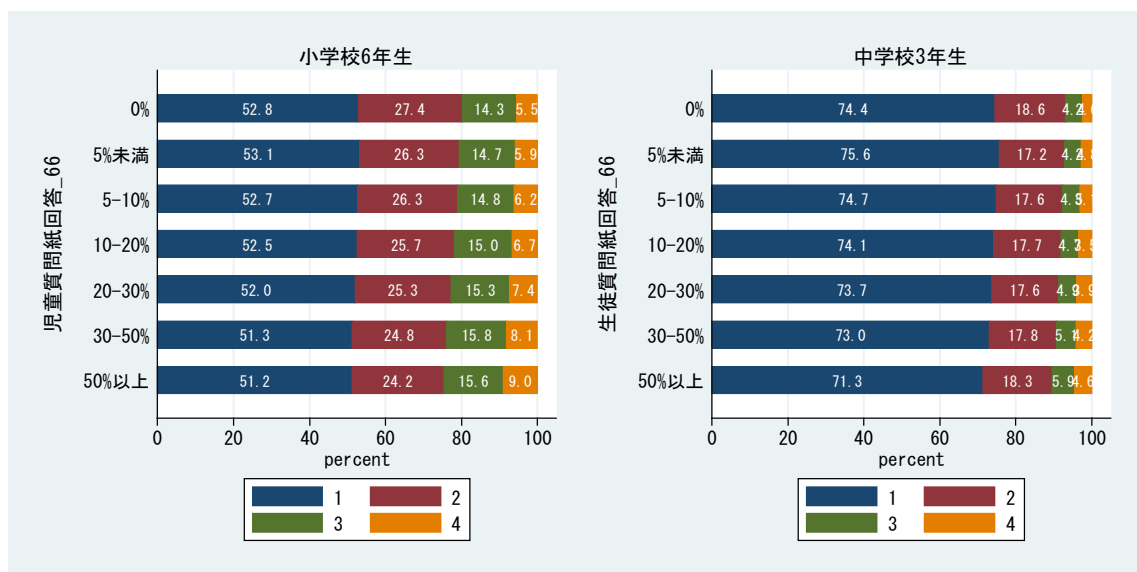
(63) 算数（数学）の勉強は好きだ



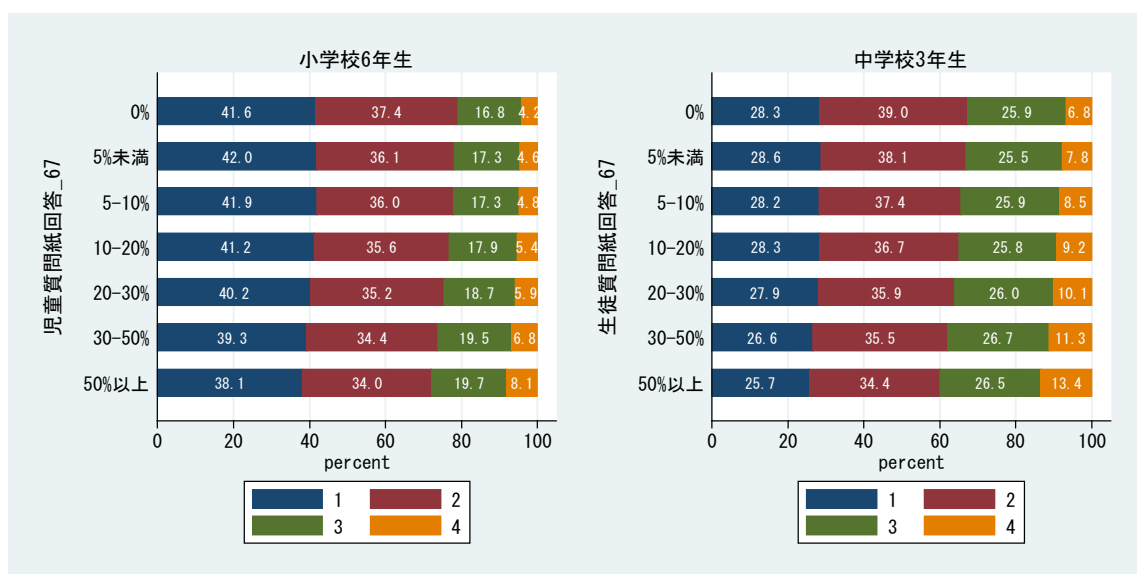
(64) 算数（数学）の勉強は大切だ



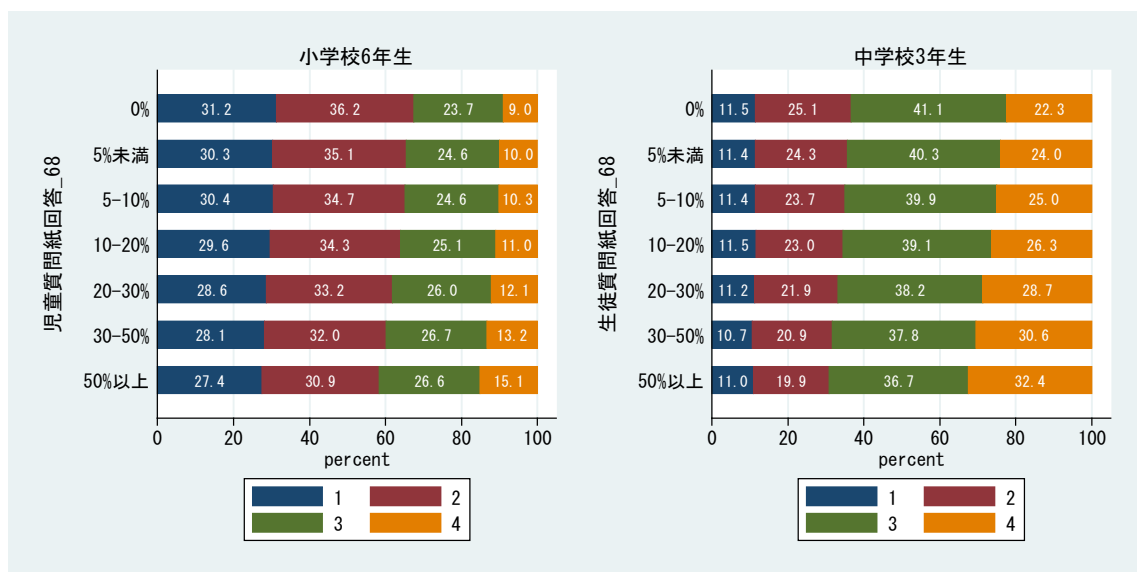
（６５）算数（数学）の授業の内容はよく分かる



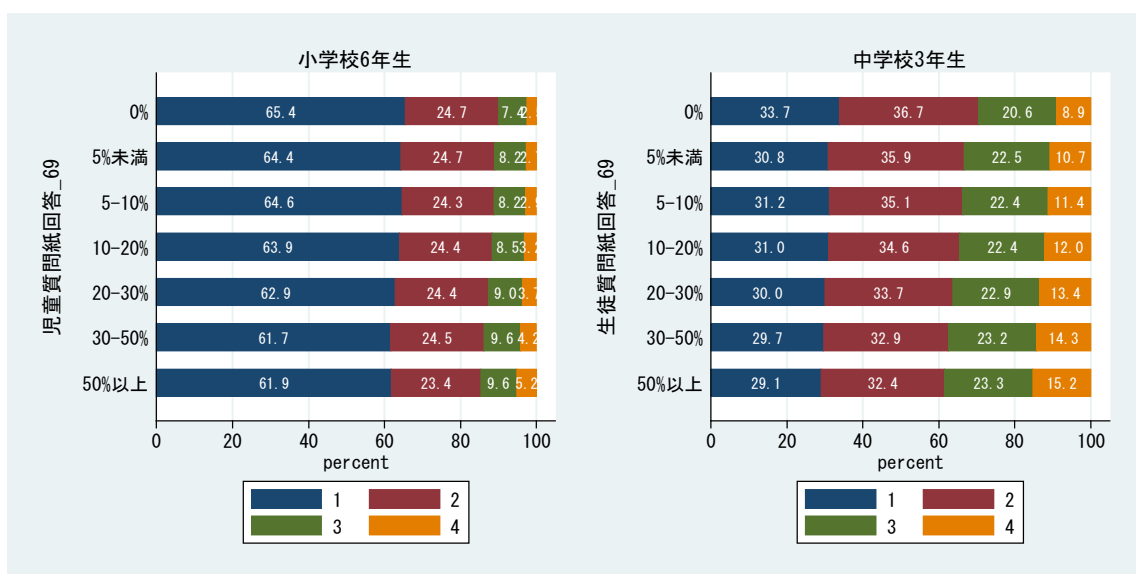
（６６）算数（数学）の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい



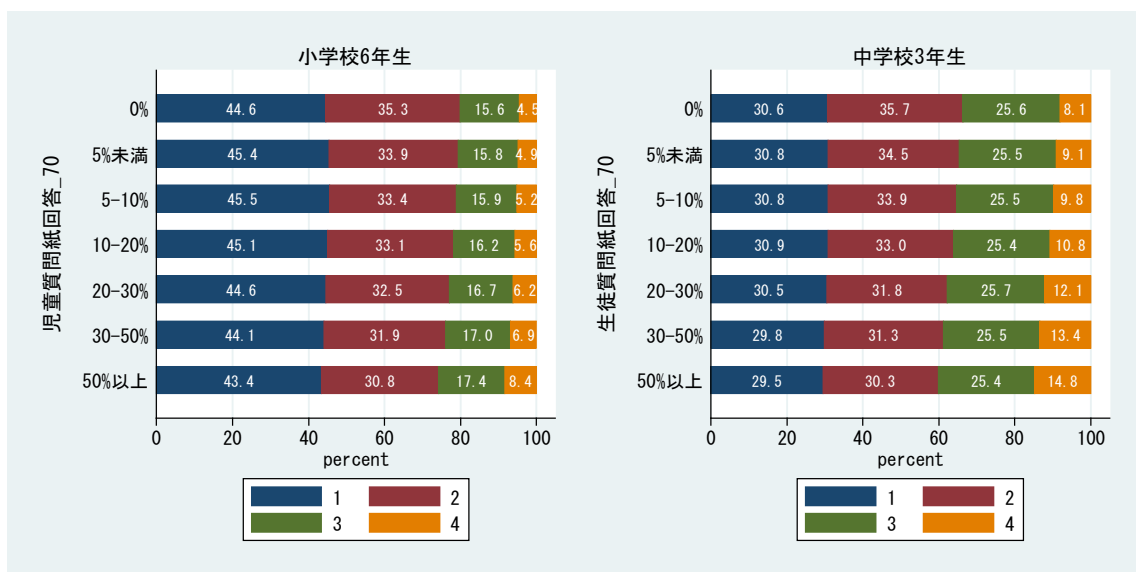
(67) 算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える



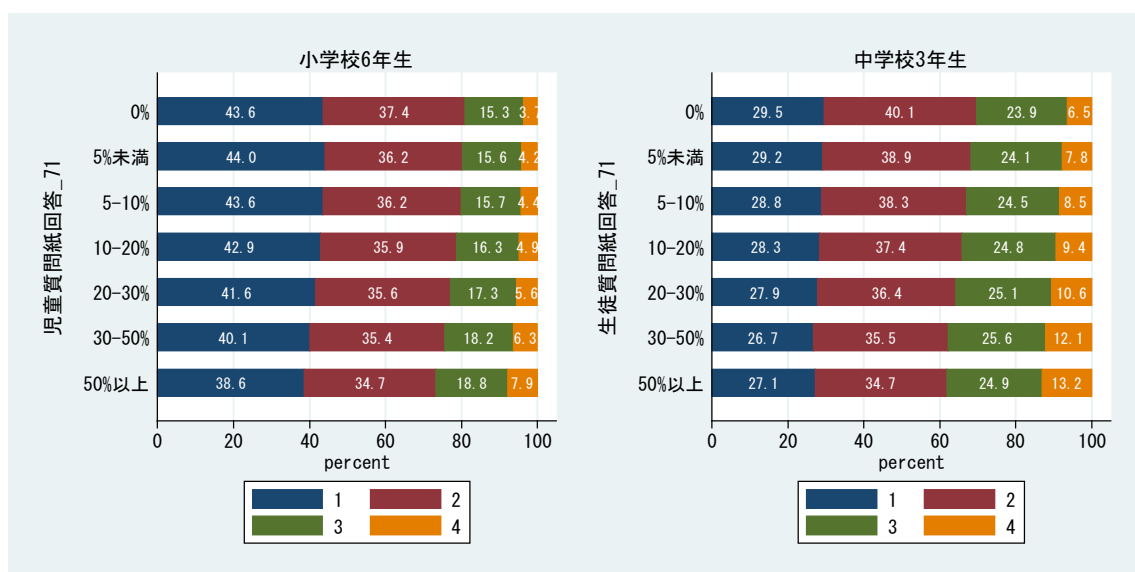
(68) 算数(数学)の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える



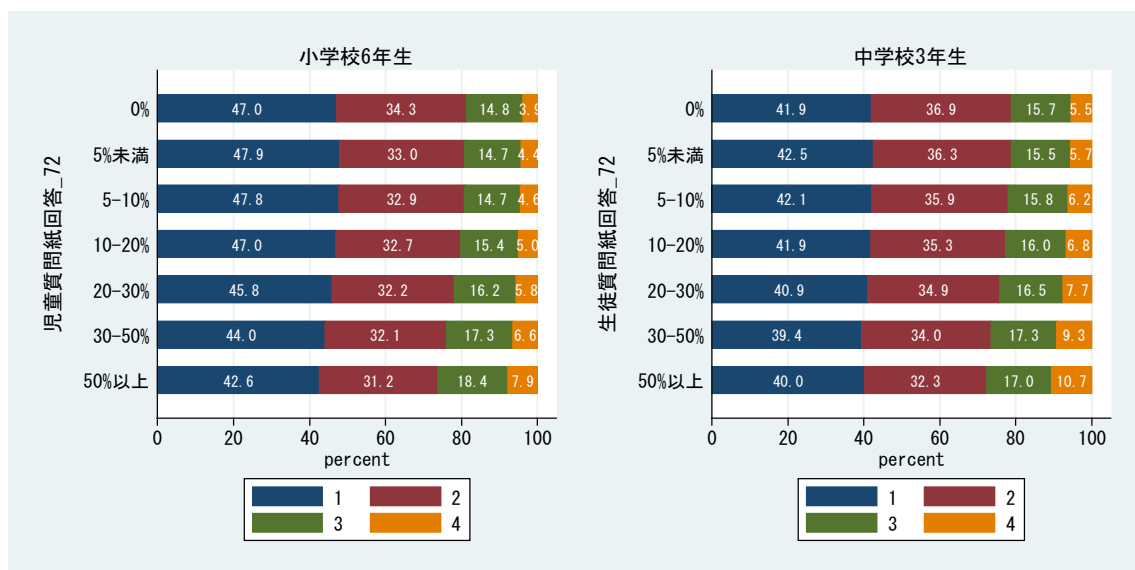
(69) 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ



(70) 算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える

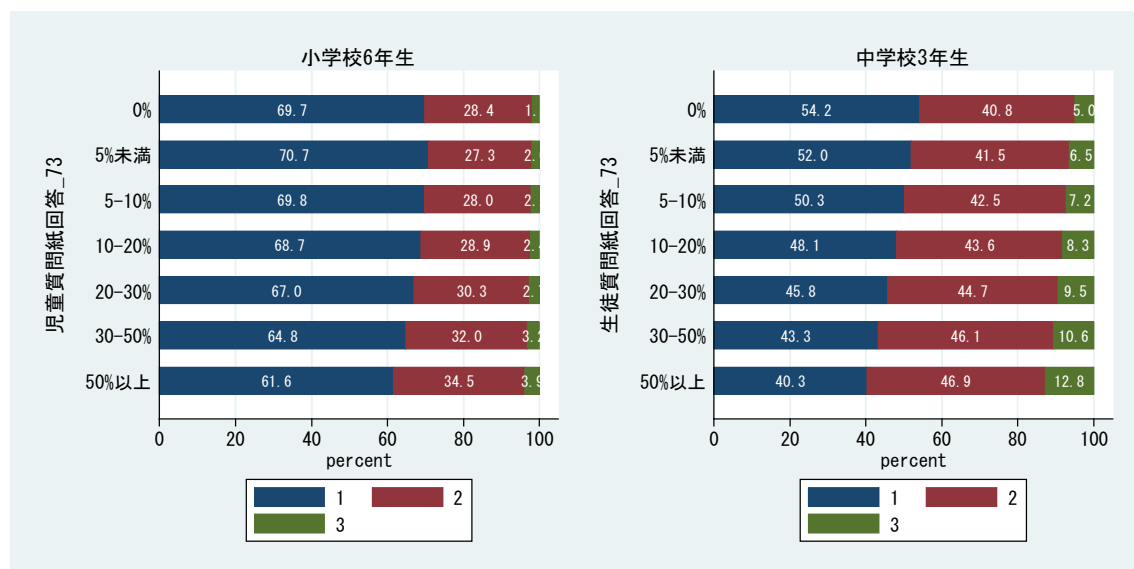


(71) 算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている



(72) 算数（数学）の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いている

あなたは、今回の算数（数学）の問題について、どのように思いましたか。次の（７３）について、当てはまるものを１つ選んでください。

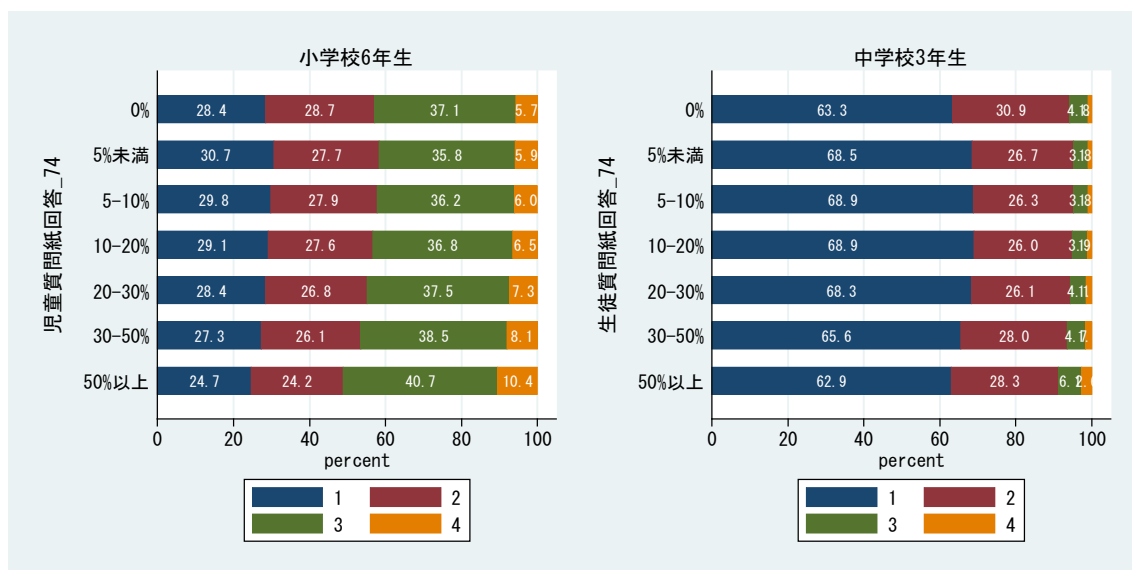


（７３）言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

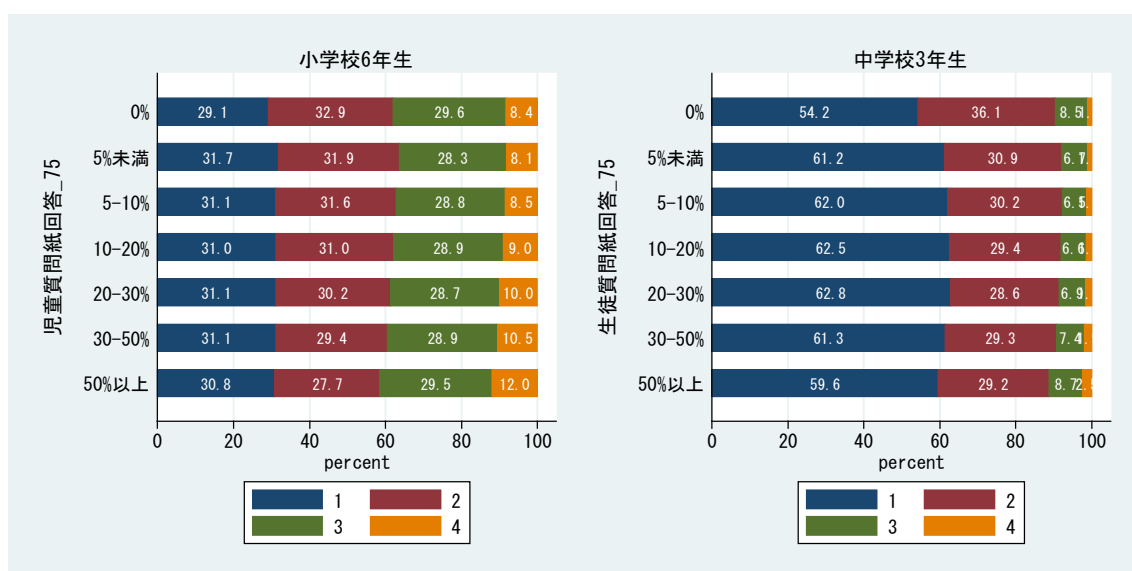
１：すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した ２：書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた ３：書く問題は全く解答しなかった

14 調査問題の解答時間は十分でしたか。当てはまるものを右の1から4の中から1つずつ選んでください。

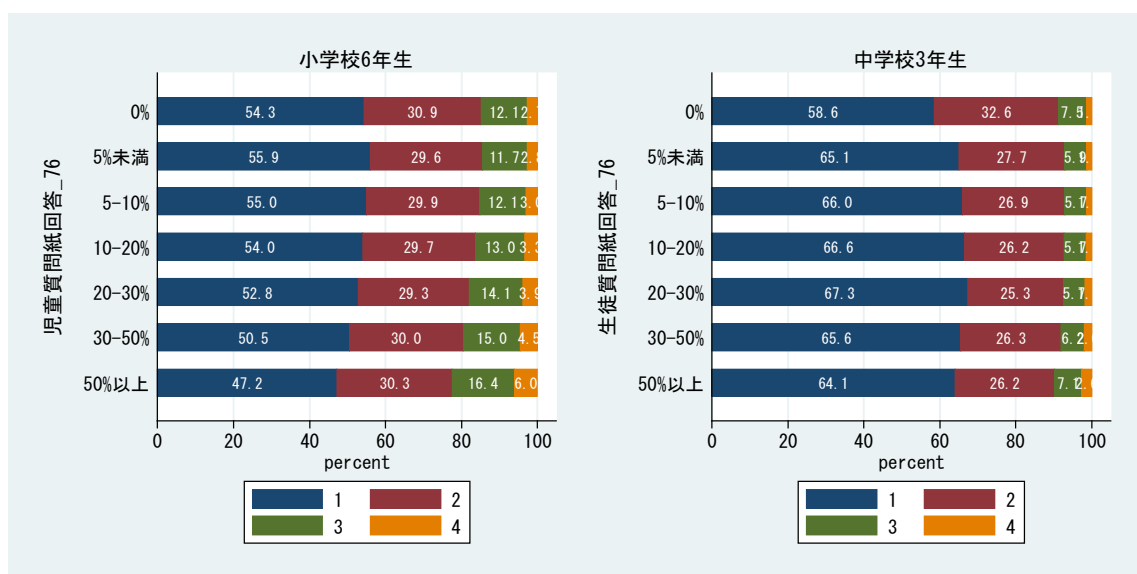
1：時間があまった 2：ちょうどよかった 3：やや足りなかった 4：全く足りなかった



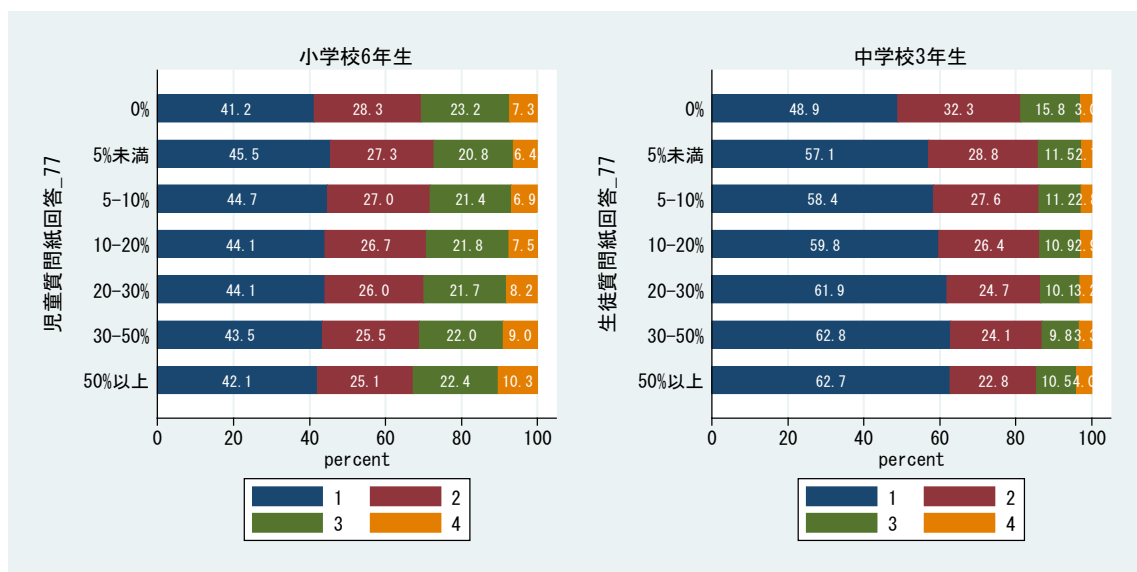
(74) 国語A (20分・45分)



(75) 国語B (40分・45分)



(76) 算数A(20分) 数学A(45分)



(77) 算数B(40分) 数学B(45分)

表 1.1 就学援助比率ごとの得点（小学校 6 年生）

科目	0%		5%未満		5～10%		10～20%		20～30%		30～50%		50%以上	
	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.
国語A	70.704	18.003	71.435	18.281	70.653	18.548	69.711	18.935	68.326	19.296	66.470	19.879	62.222	20.752
国語B	51.135	22.771	52.159	23.164	51.269	23.282	50.312	23.477	48.883	23.689	46.657	23.886	42.687	23.777
算数A	79.607	17.763	80.044	18.026	79.245	18.392	78.515	18.782	77.301	19.209	75.659	19.844	72.364	20.645
算数B	54.968	22.873	56.404	22.893	55.467	23.131	54.569	23.373	53.359	23.618	51.442	23.958	47.417	24.207

表 1.2 就学援助比率ごとの得点（中学校 3 年生）

科目	0%		5%未満		5～10%		10～20%		20～30%		30～50%		50%以上	
	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.
国語A	79.089	17.324	78.989	17.399	78.211	17.820	76.845	18.547	75.095	19.310	73.134	20.068	69.489	21.665
国語B	78.015	22.196	77.242	22.804	76.101	23.526	74.192	24.623	71.674	25.770	68.982	26.715	64.737	28.143
数学A	64.898	21.829	65.285	22.347	64.248	22.556	62.537	22.913	60.643	23.329	57.492	23.442	53.293	24.003
数学B	60.021	24.949	60.121	25.532	58.762	25.779	56.559	26.124	54.161	26.465	51.013	26.338	46.883	26.811

表 1.3 就学援助比率ごとの記述統計（小学校 6 年生）

設問番号	0%				0～5%				5～10%				10～20%				20～30%				30～50%				50%～					
	Min	.25	Mdn	.75	Max	Min	.25	Mdn	.75	Max	Min	.25	Mdn	.75	Max	Min	.25	Mdn	.75	Max	Min	.25	Mdn	.75	Max	Min	.25	Mdn	.75	Max
設問(1)	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4
設問(2)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	1	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(3)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4
設問(4)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(5)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(6)	1	2	2	2	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(7)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4
設問(8)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(9)	1	2	3	3	6	1	2	3	3	6	1	2	3	3	6	1	2	3	4	6	1	3	3	4	6	1	3	3	4	6
設問(10)	1	2	2	3	5	1	2	3	3	5	1	2	3	3	5	1	2	3	3	5	1	2	3	3	5	1	2	3	4	5
設問(11)	1	2	3	3	6	1	2	3	3	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6
設問(12)	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	3	4	6	1	1	2	4	6	6
設問(13)	1	4	5	5	6	1	4	5	5	6	1	4	5	5	6	1	3	5	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6
設問(14)	1	5	6	6	6	1	5	6	6	6	1	5	6	6	6	1	5	6	6	6	1	5	6	6	6	1	5	6	6	6
設問(15)	1	4	4	4	4	1	3	4	4	4	1	3	4	4	4	1	2	4	4	4	1	2	4	4	4	1	2	4	4	4
設問(16)	1	3	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	3	3	4	6	1	3	4	5	6
設問(17)	1	4	4	5	6	1	4	4	5	6	1	4	4	5	6	1	4	5	5	6	1	4	5	5	6	1	4	5	5	6
設問(18)	1	1	1	2	5	1	1	1	2	5	1	1	1	2	5	1	1	1	2	5	1	1	1	2	5	1	1	1	2	5
設問(19)	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	6	6	1	3	4	6	6
設問(20)	1	2	4	5	5	1	3	4	5	5	1	3	4	5	5	1	3	4	5	5	1	3	4	5	5	1	3	4	5	5
設問(21)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4
設問(22)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(23)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4
設問(24)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4
設問(25)	1	6	6	6	6	1	5	6	6	6	1	5	6	6	6	1	2	6	6	6	1	2	6	6	6	1	2	6	6	6
設問(26)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4
設問(27)	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4
設問(28)	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4
設問(29)	1	2	2	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4
設問(30)	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4

表 1.3 就学援助比率ごとの記述統計（小学校 6 年生） 続き

設問番号	0%			0～5%			5～10%			10～20%			20～30%			30～50%			50～		
	Min	25	Max	Min	25	Max	Min	25	Max	Min	25	Max	Min	25	Max	Min	25	Max	Min	25	Max
設問(31)	1	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	4	4
設問(32)	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	4
設問(33)	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	4
設問(34)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4
設問(35)	1	2	2	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	4
設問(36)	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4
設問(37)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	4
設問(38)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	4
設問(39)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	2	2	2	3	4
設問(40)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	4
設問(41)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	4
設問(42)	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	2	4
設問(43)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	4
設問(44)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	4
設問(45)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	4
設問(46)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	3	3	4	4
設問(47)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	3	4
設問(48)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	4
設問(49)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4
設問(50)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4
設問(51)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4
設問(52)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	4
設問(53)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	4
設問(54)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	3	4
設問(55)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4
設問(56)	1	1	1	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	4
設問(57)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	3	3	4	4
設問(58)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	4
設問(59)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	4
設問(60)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4

表 1.3 就学援助比率ごとの記述統計（小学校 6 年生） 続き

設問番号	0%			0～5%			5～10%			10～20%			20～30%			30～50%			50%～							
	Min	.25	.75	Max	Min	.25	Mdn	.75	Max	Min	.25	Mdn	.75	Max	Min	.25	Mdn	.75	Max	Min	.25	Mdn	.75	Max		
設問(61)	1	1	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	
設問(62)	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	1	1	1	1	2	3
設問(63)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	
設問(64)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	1	2	4
設問(65)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	3	4
設問(66)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	1	2	4
設問(67)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4
設問(68)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4
設問(69)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	1	2	4
設問(70)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	4
設問(71)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	4
設問(72)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	4
設問(73)	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	1	1	1	1	2	3
設問(74)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	2	3	3	4	4
設問(75)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4
設問(76)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	2	2	4	4
設問(77)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	4

表 1. 4 就学援助比率ごとの記述統計（中学校 3 年生）

設問番号	0%			0~5%			5~10%			10~20%			20~30%			30~50%			50%~						
	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max				
設問(1)	1	1	1	4	1	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	4			
設問(2)	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	2	4		
設問(3)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	2	3	4	
設問(4)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(5)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(6)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(7)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(8)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4
設問(9)	1	2	3	3	6	1	2	3	3	6	1	2	3	4	6	1	3	4	4	6	1	3	4	4	6
設問(10)	1	3	4	4	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6
設問(11)	1	3	4	5	6	1	4	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6
設問(12)	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6
設問(13)	1	4	5	6	6	1	4	5	6	6	1	4	5	6	6	1	4	5	6	6	1	3	5	6	6
設問(14)	1	4	5	6	6	1	4	5	6	6	1	4	5	6	6	1	4	5	6	6	1	4	5	6	6
設問(15)	1	2	4	4	4	1	1	2	4	4	1	1	2	4	4	1	1	2	4	4	1	1	2	4	4
設問(16)	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	4	6	1	2	3	5	6	1	2	3	5	6
設問(17)	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	4	5	6	1	3	5	6	6
設問(18)	1	1	2	4	5	1	1	2	4	5	1	1	2	4	5	1	1	2	4	5	1	1	2	4	5
設問(19)	1	3	4	6	6	1	3	4	6	6	1	3	5	6	6	1	4	5	6	6	1	4	6	6	6
設問(20)	1	3	4	5	5	1	4	5	5	5	1	4	5	5	5	1	4	5	5	5	1	4	5	5	5
設問(21)	1	1	3	4	4	1	1	3	4	4	1	1	3	4	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4
設問(22)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(23)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4
設問(24)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(25)	1	2	6	6	6	1	2	5	6	6	1	2	5	6	6	1	2	4	6	6	1	2	4	6	6
設問(26)	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4
設問(27)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4
設問(28)	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4	1	3	3	4	4	1	3	3	4	4
設問(29)	1	2	2	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4
設問(30)	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4

表 1. 4 就学援助比率ごとの記述統計（中学校3年生） 続き

設問番号	0%			0~5%			5~10%			10~20%			20~30%			30~50%			50%~						
	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max				
設問(31)	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	1	2	3	4	4	
設問(32)	1	1	1	2	4	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(33)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(34)	1	1	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(35)	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	3	3	4	4	1	3	3	4	4	1	3	3	4	4
設問(36)	1	2	2	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4
設問(37)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4
設問(38)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(39)	1	2	2	2	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(40)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(41)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(42)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(43)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(44)	1	1	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(45)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(46)	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	3	3	4	4	1	3	3	4	4	1	3	3	4	4
設問(47)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(48)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(49)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(50)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	2	4
設問(51)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	2	4
設問(52)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(53)	1	1	1	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4
設問(54)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(55)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4
設問(56)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4
設問(57)	1	2	2	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4
設問(58)	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4	1	2	3	3	4
設問(59)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4
設問(60)	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4

表 1. 4 就学援助比率ごとの記述統計（中学校 3 年生） 続き

設問番号	0%			0～5%			5～10%			10～20%			20～30%			30～50%			50%～							
	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max	Min	.25	Max					
設問(61)	1	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	2	3	4	1	2	3	4	1	1	2	3	4			
設問(62)	1	1	1	3	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3		
設問(63)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	4		
設問(64)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	
設問(65)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	
設問(66)	1	1	1	2	4	1	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4
設問(67)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	
設問(68)	1	2	3	3	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	4	1	2	3	4	1	2	3	4	4	4	
設問(69)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	
設問(70)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	
設問(71)	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	1	1	2	3	4	
設問(72)	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	2	4	1	1	2	3	4	
設問(73)	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	1	1	2	2	3	1	1	2	2	3	1	1	2	2	3	
設問(74)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	1	2	4
設問(75)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	1	2	4
設問(76)	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	1	2	4
設問(77)	1	1	2	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	2	4	1	1	1	1	2	4

第2章 就学援助率と学力、学校の取組との関係

1. はじめに

(1) 本稿の目的

本稿は、就学援助を受けている児童・生徒の割合（以下、就学援助率と略す）と学力との関係、就学援助率と学校の様々な取組との関係を把握しようとするものである⁽¹⁾。

就学援助は、学校教育法第19条に基づき、経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童・生徒の保護者に対して、市町村が行う経済的な援助のことである。したがって、全国学力・学習状況調査（以下、学力調査と略す）の学校質問紙が尋ねている就学援助率は、児童・生徒の家庭の経済的困難さを示す指標として考えるのが一般的かもしれない。しかし、本報告書所収の北條論文（第1章）において、就学援助率は当該児童・生徒の家庭の経済的困難さを示しているだけでなく、家庭の考え方や意識といった非経済的な家庭的背景をも表していることが示唆されている。このように、就学援助率は、いわば困難な家庭環境の代理指標と言えるのかもしれない。

そして、就学援助率は、学校にとっては所与の条件である。学校の様々な取組が就学援助率を規定するという因果関係は、想定しづらい。児童・生徒の家庭的背景に応じて、学校の取組はどのように変化しうるのか。特に、学校と家庭との連携や、学校内の教科指導等に注目しながら、学力調査の学校質問紙の各質問項目をできるだけ網羅的に検討する。そこから浮かび上がる全国的な傾向を確認して、学力向上支援等の施策のあり方を検討するのに資する基礎的な情報を得ることが、本稿の目的である⁽²⁾。

(2) 方法と構成

使用するデータは、平成21年度に実施された学力調査の小学校質問紙調査の結果、および学校ごとの教科別平均正答率である⁽³⁾。ここでは平均正答率を学力と措定している。分析対象は、公立小学校に限定する。

まず、就学援助率が高い学校の概要を把握するため、就学援助率と学力との関係をあらためて検討する（2 節）。もちろん、就学援助率と学力の関係は、学力調査の度に国立教育政策研究所が報告している。平成 21 年度の学力調査の分析結果として、「就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校の方が、その割合が低い学校よりも平均正答率が低い傾向が見られる」、「就学援助を受けている児童の割合が高い学校は、各学校の平均正答率のばらつきが大きく、その中には、平均正答率が高い学校も存在する」（国立教育政策研究所『平成 21 年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書』）とすでに指摘されているところである。しかし、国立大学法人大阪大学（2011）が指摘しているように、児童数が極めて少ない学校が存在することに留意するべきである。結果を先取りするようだが、小学 6 年生の児童数が 5 名前後という極めて小規模な学校が、就学援助率が 50%以上の学校の学力のばらつきをもたらしている。

続いて、小学校質問紙の各質問項目の中から、家庭との連携や学校の指導等の現状を測定していると考えられる項目を選定の上、当該項目と就学援助率との関係を棒グラフで示しながら検討する（3 節）。この時、6 年生の児童数が 5 人以上の公立小学校を抽出して分析を行う。「5 人以上」という基準を採用する根拠は、2 節で述べるように、就学援助率が 50%以上の学校の学力のばらつきが、どの教科も概ね児童数 5 人未満の学校を除外することで安定するためである。本稿の分析対象として小学校質問紙から選定した項目は、以下の 13 項目である。

「児童」

「学力向上に向けた取組」

「指導方法・学習規律」

「コンピュータなどを活用した教育」

「学力・学習状況の把握」

「国語科の指導方法」

「算数科の指導方法」

「地域の人材・施設の活用」

「家庭学習・家庭との連携」

「開かれた学校」

「教員研修」

「教職員の取組」

「校長のリーダーシップ」

なお、「施設・設備」、「個に応じた指導」は、本稿では分析対象として選定しない。もちろん、当該 2 項目が、学校の取組に該当しないと言っているわけではない。しかし、教育用コンピュータ用 1 台あたりの児童数や、少人数による教科指導の実施状況等と就学援助率との関係は、極端な少なさとまでは言わないまでも、児童数の少なさの影響を受けやすいと予測される。そのため、当該関係の詳細な分析は今後の課題としたい。この他、「特別支援教育」は本稿の目的から逸れるため、ここでは分析対象として選定しない。

「教員」に関する項目、例えば教職経験年数別教員数等は、児童数 1 人あたりの教員数に換算することで意味を持つと考えられるが、この時もやはり児童数の少なさの問題が生じる。そのため、「教員」関係の項目も、本稿の分析対象に含めないことにする。

2. 学校規模（6年生児童数）にみる、公立小学校の就学援助率と学力との関係

資料 1 は、すでに公表されている、就学援助率と学力との関係である。箱ひげ図の箱の中に描かれた太線に注目してみたい。これは中央値を表示するもので、就学援助率の水準ごとに学校を分類した時の、各学校グループの平均正答率を 1 つの値に代表させて示しているものである。この中央値は、どの教科も、就学援助率が高い学校ほど低い傾向がある。つまり、就学援助率が高い学校ほど、学力は概して低い傾向がある。

箱ひげ図の各箱から上方へのびるひげの到達点に着目してみよう。就学援助率が 50%以上の学校は、どの教科を見ても、就学援助率が低い学校に比肩する水準、それどころか上回る水準に達していることが分かる。このことは、就学援助率が高い学校は概して学力が低い、就学援助率が低い学校を上回る高い成果を収めている学校も少なくないということを示しているように見える。児童の学力向上に努力している学校が少なくないのだろう。しかし、次のような指摘も重要である。

国立大学法人大阪大学（2011）は、「小規模の学校では、就学援助を受けている子どもが一人増えただけで、就学援助率が大きく変動する。同時に、極端に成績の低い子が一人いれば、それだけで学校の平均点が大きく低下する（もちろん逆も言える）」と述べている（p11）。

つまり、就学援助率が 50%以上の学校の平均正答率の上方へばらついているのは、学校の努力を意味しているのか、それとも児童数が極端に少ない学校の存在を意味しているのか、必ずしも自明ではない。まず、わが国の公立小学校の児童数規模を概観してみたい。

表 1 全校児童数別・公立小学校数（分校を含まない）

全校児童数	計	0人	1 ～49人	50 ～99人	100 ～149人	150 ～199人	200 ～249人	250 ～299人	300 ～399人	400 ～499人	500 ～599人	600 ～699人	700 ～799人	800 ～899人	900人～
学校数	21686	246	2749	2530	1874	1512	1350	1309	2612	2293	1771	1401	931	590	518
	100%	1%	13%	12%	9%	7%	6%	6%	12%	11%	8%	6%	4%	3%	2%

【出所】文部科学省『学校基本調査（平成 21 年度）』より筆者作成

表 1 は、全校児童数別にみた、公立小学校数である（分校を含まない）。全校児童数が 49 人以下、すなわち 1 学年あたり平均児童数がおよそ 8 人以下の学校数は、21686 校中 2749 校にのぼり、割合にして 12.7%を占めている。児童数が極端に少ない学校は、児童数 1 人の変動により就学援助率が大きく変動しやすく、平均正答率のばらつきの拡大要因にもなりやすいが、そのような学校は少なくないのではないか。

ただし、「児童数の極端な少なさ」の定義は存在しない。児童数が何人ならば、児童数が極端に少ない学校と言えるのだろうか。

そこで、就学援助率ごとの学力のばらつきを、全ての公立小学校について、6 年生の児童数が 2 人以上の公立小学校について、6 年生の児童数が 3 人以上の公立小学校について、6 年生の児童数が 4 人以上の公立小学校について、というように学校規模（児童数）別に逐次検討してみた。

資料 2 は、その結果を示すものである。ここでは算数 A の結果のみ示しているが、実際には国語 A、国語 B、算数 A、算数 B の 4 教科すべてについて検討しており、どの教科にも、以下に述べる結果とほぼ同様の結果が観察された。

6 年生児童数が 1 人の学校、2 人の学校と、それらの学校を分析対象から逐次除外するごとに、就学援助率が 50%以上の学校の学力のばらつきが小さくなっている様子が分かる。そして、対象を 6 年生児童数 4 人以上の学校に限定した時、就学援助率が 50%以上の学校の箱から上方へのびるひげは、就学援助率が低い学校の箱から上方へのびるひげと比べて、明らかに到達水準が低くなっている。当該変化は、4 教科とも概ね 3、4 または 5 人以上の学校に対象を限定する時に生じている。そして、6 年生の児童数の制約が「20 人以上」になるまで逐次確認したところ、その過程で箱ひげ図に大きな変化は見られなかった。

このように、就学援助率が 50%以上の学校の学力の大きなばらつきをもたらしていたのは、6年生の児童数が概ね 5 人未満という極めて小規模な学校であることが示唆される。この影響を取り除くと、就学援助率が 50%以上の学校のひげの上端が示すところの学力到達水準は低下する。換言すれば、就学援助率が 50%以上の学校の学力のばらつきは縮小し、就学援助率が低い学校の学力のばらつきの程度へ近づいている。

もちろん、就学援助率が 50%以上の学校の中にも、就学援助率が低い学校に並ぶ学力水準に達している学校があることに変わりはない。しかし、そのような学校は、資料 1 が示唆しているほどには多くないと考えられる。傾向としては、就学援助率が高い学校ほど、学力水準の確保が困難になっている。

それでは、就学援助率が高い学校は、就学援助率が低い学校に比べて、学校としての取組にどのような違いがありうるのだろうか。続く 3 節では、6年生の児童数が 5 人以上の公立小学校を対象を限定の上、分析を進める。

3. 就学援助率と、学校の取組等に関する各指標との関連

3 節では、資料 3 に示された棒グラフに基づき、就学援助率にみる学校の取組等の傾向を確認していく。分析対象となる公立小学校は、2 節の分析結果を踏まえ、6年生の児童数が 5 人以上の学校に限定する。これは、児童数が極端に少ない学校を経験的に定義の上、その影響を取り除くという統計処理を意味している。なお、学校の取組等の指標について、例えば「全く行っていない」と回答している学校が極めて少ないことがしばしばある。そのような場合、「全く行っていない」という選択肢を「あまり行っていない」という選択肢に合併するという統計処理を行った。また、学校質問紙の質問項目全てに回答がある公立小学校のみ分析対象とし、その結果、分析対象となる公立小学校数は 18476 となっている⁽⁴⁾。

(1) 「児童」

はじめに、学校が把握している児童の様子を見てみたい。図 2.1.1、図 2.1.2、図 2.1.3 から明らかなように、就学援助率が高い学校ほど、総じて、児童の熱意、落ち着き、礼儀正しさがみられなくなっている。

(2) 「学力向上に向けた取組」

図 2.2.1 は、一斉読書の取組状況を示している⁽⁵⁾。傾向は必ずしも明瞭ではないが、概して、就学援助率が高い学校ほど、一斉読書の取組が困難になっているようである。就学援助率が低い学校ほど、週に複数回定期的に一斉読書の時間を設けている。就学援助率が高い学校ほど、一斉読書の時間を設けていない。

一方、図 2.2.2 を見ると、就学援助率が高い学校ほど、週に 1 回程度ないし月に数回程度という比較的高い頻度で、学校図書館を活用した授業に取り組んでいる。就学援助率が低い学校がそのような授業に取り組む頻度は、学期に数回という程度の学校が多い。

このように、就学援助率の高低により、読書教育への取り組み方が異なる傾向が窺われる。

図 2.2.3、図 2.2.4、図 2.2.5 は補習の取組状況を示している。放課後や長期休業中は、就学援助率が高い学校ほど、頻度はともかく、補習に取り組んでいることが分かる。特に図 2.2.5 から、就学援助率が高い学校ほど延べ 13 日以上 of 補習に取り組んでいるなどといったように、就学援助率が高い学校ほど長期休業中の補習に力を入れていることが分かる。他方、図 2.2.3 を見ると、放課後の補習の頻度は、就学援助者が在籍していない学校で盛んである。また、土曜日の補習はほとんど行われていないし、就学援助率ごとの差異も見られない。

(3) 「指導方法・学習規律」

図 2.3.1、図 2.3.2 は、児童の主体性を引き出すような取組と言える。ほとんどの学校で当該取組は行われているものの、就学援助率が低い学校ほど、当該取組をよく行っている傾向が表れている。

図 2.3.3 は、児童に将来の職業や夢を考えさせるような取組について示している。「よく行った」と回答している学校は少なく、「どちらかといえば、行った」、「あまり行っていない、全く行っていない」という学校が多い。就学援助率との関係は、あまり明瞭ではない。

図 2.3.4 は、学習規律の維持、すなわち私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなどといった指導の徹底の取組を示している。ほとんどの学校でこのような取組は行われている。就学援助率が高い学校ほ

ど「よく行った」と答えている学校が減少しているように見受けられるが、それほど明瞭な傾向は見出されない。他方、わずかではあるが、就学援助率が高い学校ほど、「あまり行っていない、全く行っていない」と答えている学校が増加している。

図 2.3.5 は、学習方法、すなわち適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなどといった取組を示している。就学援助率が高い学校ほど「よく行った」と回答している学校が減少しており、また、「あまり行っていない、全く行っていない」と回答している学校が増加しており、指導の困難さが窺われる。しかし、就学援助率が 50%以上の学校が「よく行った」と回答している割合は、やや高めになっている。

図 2.3.6 は、学級全員で課題に取り組むような指導を示している。ここにも図 3-5 と類似の傾向が表れている。

しかし、図 2.3.7、図 2.3.8、図 2.3.9 に示されている、資料の調べ方や発表・表現に関する指導の取組を見ると、就学援助率が高い学校ほど「よく行った」と回答している学校が減少し、「あまり行っていない、全く行っていない」と回答している学校が増加していることが分かる。

図 2.3.10 はあいさつをする取組の状況を示しており、あいさつの指導はほとんどの学校で行われているが、就学援助率が高い学校ほど「よく行った」と回答している学校が減少している。

このように、就学援助率が高い学校ほど日々の指導が全般的に困難となる傾向が窺われるが、就学援助率が 50%以上の学校の中には、学習規律の維持や学習方法に関する指導、学級全員で課題に取り組むような指導を重点的に行っている学校もあるようである。

(4) 「コンピュータなどを活用した教育」

図 2.4.1 から図 2.4.6 はそれぞれ、国語や算数の授業場面におけるコンピュータの活用頻度を示すものである。全体を通じてコンピュータの活用頻度はそれほど高くなく、また、就学援助率との関係も見られない。

(5) 「学力・学習状況の把握」

図 2.5.1 から図 2.5.6 はそれぞれ、全国学力・学習状況調査の結果の活用や、保護者・地

域への公表・説明の有無を示している。全般的に肯定的な回答が高い上に、就学援助率との関係はそれほど明瞭ではない。ただし、授業における調査問題の活用の有無は二分されている上に、就学援助率が高い学校ほど、それほど明確な傾向ではないが、調査問題を授業の中で活用していないようである（図 2.5.4）。

(6) 「国語科の指導方法」

図 2.6.1 は、国語の補充的な学習指導の頻度を示している。「よく行った」と答えている学校は少ない中、就学援助率が 50%以上の学校と 0%の学校で頻度が高くなっているようである。

図 2.6.2 は、国語の発展的な学習指導の頻度を示している。就学援助率が高い学校ほど「あまり行っていない、全く行っていない」と回答している学校が増加しており、「どちらかといえば、行った」と回答している学校が減少している。

図 2.6.3 は、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業の頻度を示している。就学援助率が高い学校ほど「あまり行っていない、全く行っていない」と回答している学校が増加しており、「よく行った」と回答している学校が減少している。

図 2.6.4 は、書く習慣を付ける授業の頻度を示している。就学援助率が高い学校ほど、「よく行った」と回答している学校が減少している。

図 2.6.5 は、様々な文章を読む習慣を付ける授業の頻度を示している。図 2.6.4 と類似した傾向が表れているようで、就学援助率が 50%以上の学校で「よく行った」と回答している学校が低めとなっている。

図 2.6.6 は、漢字・語句等の基本的な事項を定着させる授業の頻度を示している。就学援助率が高い学校ほど「よく行った」と回答している学校は減少しているが、就学援助率が 50%以上の学校においてはやや増加している。

図 2.6.7 は、国語の教科担任制実施状況を示している。ほとんどの学校で未実施で、就学援助率ごとの実施状況の差異はあまりないようである。

(7) 「算数科の指導方法」

図 2.7.1 は、算数の補充的な学習指導の取組頻度を示している。明瞭な傾向は見られない

が、就学援助率が 50%以上の学校で「よく行った」と回答している学校はやや多めになっているようである。

図 2.7.2 は、算数の発展的な学習指導の取組頻度を示している。就学援助率が高い学校ほど、「あまり行っていない、全く行っていない」と回答している学校が増加し、「どちらかといえば、行った」と回答している学校は減少している。「よく行った」と回答している学校は少ない。

図 2.7.3 は、実生活と関連付けた算数の授業の取組頻度を示している。図 2.7.2 と似たような傾向がありそうだが、それほど明瞭ではない。「よく行った」と回答している学校は少ない。

図 2.7.4 は、計算問題等の反復練習の取組頻度を示している。当該取組はほとんどの学校で行われている。

図 2.7.5 は、算数の教科担任制実施状況を示している。ほとんどの学校で未実施だが、就学援助率が 50%以上の学校で、比較的实施されているようである。

(8) 「地域の人材・施設の活用」

図 2.8.1 は、地域の人材を外部講師として招聘した授業の頻度を示している。就学援助率が高い学校ほど「よく行った」と回答している学校が減少し、「あまり行っていない」と回答している学校が増加している。

図 2.8.2 は、ボランティア等による授業サポート実施頻度を示している。就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われないが、就学援助率がゼロの学校では「全く行っていない」と回答している学校が多いようである。

図 2.8.3 は、博物館や科学館、図書館を利用した授業の実施頻度を示している。ここでも、就学援助ごとに見た特定の傾向は窺われない。全体的には実施頻度はあまり高くないようである。

図 2.8.4 は、職場見学や職場体験活動の実施の有無を示している。就学援助率が高い学校ほど「行っている」と回答している学校が減少する中、就学援助率が 50%以上の学校の回答が高くなっている。

図 2.8.5 は、PTA や地域住民が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれる頻度を示している。就学援助率が高い学校ほど「よく参加してくれる」と回答している学校が減少している。

少し、「あまり参加してくれない、全く参加してくれない」と回答している学校が増加している傾向が明瞭に表れている。

図 2.8.6 は、学校支援ボランティアの仕組みに基づいた保護者や地域住民の教育活動への参加状況を示している。図 2.8.5 と同様、就学援助率が高い学校ほど「よく参加してくれる」と回答している学校が減少し、「あまり参加してくれない」と回答している学校が増加している。また、学校支援ボランティアの仕組みがない学校は、就学援助率がゼロの学校で多くなっている。

図 2.8.7 は、5 年生までの間に行われた集団宿泊活動の宿泊日数を示している。就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。2 泊 3 日と 1 泊 2 日が多くの割合を占めている。

(9) 「家庭学習・家庭との連携」

図 2.9.1 は、国語の課題（宿題）を与える頻度を示している。多くの学校で国語の課題が与えられており、就学援助率がゼロの学校および 50%以上の学校で「よく行った」という回答が多くなっている。

図 2.9.2 は、国語の指導として、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行う頻度を示している。多くの学校でそのような働きかけは行われているが、就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。

図 2.9.3 は、国語の指導として、家庭学習の課題の与え方に関する校内の共通理解の有無を指名している。就学援助率が 50%以上の学校において、「(どちらかといえば) あてはまらない」と回答している学校がやや少ない。

図 2.9.4 は、国語の指導として、宿題の評価・指導を行った頻度を示している。多くの学校で行われているが、就学援助率が高い学校ほど、「よく行った」と回答している学校が減少している。

図 2.9.5 は、算数の課題（宿題）を与える頻度を示している。多くの学校で宿題が与えられていて、就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。

図 2.9.6 は、算数の指導として、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行う頻度を示している。多くの学校でそのような働きかけは行われているが、就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。

図 2.9.7 は、算数の指導として、家庭学習の課題の与え方に関する校内の共通理解の有無

を指名している。就学援助率がゼロの学校および 50%以上の学校において、「(どちらかといえば) あてはまらない」と回答している学校がやや少ないように見受けられるが、必ずしも明瞭な傾向ではない。

図 2.9.8 は、算数の指導として、宿題の評価・指導を行った頻度を示している。多くの学校で行われているが、就学援助率が高い学校ほど、「よく行った」と回答している学校が減少しているようだが、必ずしも明瞭な傾向ではないかもしれない。

図 2.9.9 は、調査実施年度の前年度における、定期的な家庭訪問の頻度を示している。多くの学校の実施回数は 1 回であり、就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。

図 2.9.10 は、調査実施年度の前年度における、授業参観の実施頻度を示している。年間に 5 回以上実施している学校が最も多く、就学援助率が高い学校ほど、年間に 5 回以上実施している学校の割合が増加している。ただし、就学援助率が 50%の学校は、年間に 5 回以上実施している割合が比較的少ない。

(10) 「開かれた学校」

図 2.10.1 は、ホームページによる情報提供の頻度を示している。就学援助率がゼロの学校において、ホームページを開設していない割合が比較的高くなっている。

図 2.10.2 は、保護者からの要望や意見を聞くための懇談会やアンケート調査の実施頻度を示している。年間に 4 回以上実施している学校が最も多く、就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。

図 2.10.3 は、地域住民が自由に授業参観等ができる学校公開日の有無を示している。多くの学校で学校公開日を設けているが、就学援助率がゼロの学校および 50%以上の学校でやや少なめとなっている。

(11) 「教員研修」

図 2.11.1 は、学校でテーマを設定し、講師を招聘する等の校内研修の実施頻度を示している。多くの学校で実施されている。就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。

図 2.11.2 は、模擬授業や事例研究などの実践的な研修の実施頻度を示している。これも図 2.11.1 と同様、多くの学校で実施されており、就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺わ

れない。

図 2.11.3 は、教員が校外での研修に積極的に参加できるような取組の程度を示している。これまでと同様、多くの学校で実施されており、就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。

図 2.11.4 は、授業研究を伴う校内研修の実施回数を示している。これは多くの学校で行われており、実施回数にもばらつきが見られる。また、就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。

(12)「教職員の取組」

図 2.12.1 は、教職員が研修等の成果を教育活動への反映状況を示している。多くの学校で積極的に反映されているようだが、就学援助率が高い学校ほど、「あまりしていない、全くしていない」と回答している学校が増加している。

図 2.12.2 は、指導計画作成時における教職員の協力状況を示している。多くの学校で協力が見られるが、やや不明瞭ではあるものの、就学援助率が高い学校ほど「よくしている」と回答している学校が減少している。

図 2.12.3 は、学校の教育目標および達成方策の全教職員間における共有状況を示している。ほとんどの学校が、教育目標等を共有の上、取組にあたっていると回答している。しかし、就学援助率が高い学校ほど「よくしている」と回答している学校が減少し、「どちらかといえば、している」と回答している学校が増加している。

(13)「校長のリーダーシップ」

図 2.13.1 は、校長のリーダーシップに関する自己評価を示している。多くの校長が発揮できていると回答しており、就学援助率ごとに見た特定の傾向は窺われない。

図 2.13.2 は、校長の当該校における在職年数である。当該項目は「学校の取組」にあたるものではないが、参考のため示している。就学援助率が高い学校ほど、「5 年目以上」と回答している学校が増加している。全体としては、1～3 年目という回答が多い。

図 2.13.3 は、校長の校内巡視の頻度を示している。就学援助率が高い学校ほど、「ほぼ毎日」と回答している学校が増加している。

4. まとめ

(1) 結論

本稿の分析を通じて明らかになったのは、以下の三点である。

第一に、児童数が極端に少ない学校の影響を取り除けば、就学援助率が 50%以上の学校の学力のばらつきはそれほど大きくなく、就学援助率が低い学校の学力のばらつきとあまり変わらない。就学援助率が高い学校ほど全体的に学力は低下し、高い学力水準を持つ学校は少なくなる。ただし、就学援助率が 50%以上の学校で、就学援助率が低い学校並みの学力水準に到達しているところがあること自体は、事実である。

第二に、就学援助率が高まるほど学校は、学力低下ばかりでなく、様々な困難に直面している。就学援助率が高い学校ほど児童の行動に課題が見られ、児童の主体性を引き出すような指導や学習規律の維持が困難になる傾向がある。また、国語および算数の発展的な指導は、就学援助率が高い学校ほど実施が困難になっている。ただし、就学援助率が 50%以上の学校は、学習規律の維持や学習方法の指導に熱心であり、補習等の学力向上に向けた取組についても、就学援助率が高い学校ほどよく行っている。こうした取組によって、就学援助率の高い学校の学力が底支えされている可能性がある。コンピュータの活用や学力・学習状況の把握は、就学援助率と明確な関連はみられないようである。一方、学校内外の研修は、就学援助率に関わらず頻繁に行われているのに対して、就学援助率が高い学校における指導計画作成上の教員間の協力や、教育目標の共有の程度について、就学援助率が低い学校と比較する限りにおいて、向上の余地があるように見受けられる。

第三に、学校の外部との連携の実情として、就学援助率が高い学校は、就学援助率が低い学校に比べて、家庭や地域の協力が得られにくい状況にある。確かに、「開かれた学校」づくりのための取組は、就学援助率から大きな影響を受けず、全般的には進められていることが窺われる。しかし、就学援助率が高い学校ほど、PTA や地域住民からの教育活動への参加を得にくくなっている。一方、就学援助率が高い学校における、家庭学習・家庭との連携の程度は、就学援助率が低い学校と同程度である。

(2) 議論

就学援助率は、児童の家庭の経済的困難さを意味するばかりでなく、非経済的側面をも含む家庭環境の困難さの代理指標として捉えることができる可能性について、1 節で北條論文に触れながら述べた通りである。本稿が明らかにしたように、家庭環境の困難さに直面した学校はこれに応じて取組のかたちを変えているが、家庭との連携の程度は、就学援助率が低い学校に比べて、それほど変わらない。このことが示唆しているものについて、若干議論しておきたい。

就学援助率が高い学校で PTA や地域住民の参加が得られにくいことを念頭に置けば、そのような学校は、外部からの協力を得られにくい環境に置かれていると言える。当該環境のもとでは、就学援助率が高い学校は、就学援助率が低い学校に比べて、家庭との連携が困難なものとなることが予想される。学校に対してあまり協力的ではない空気の中で、保護者に対して児童の学習を促すよう働きかけることは、容易なことだとは思われない。しかし、本稿が検討したデータに関する限りにおいて、就学援助率が高い学校ほど保護者に対する働きかけが少ないといった傾向は窺われない。就学援助率が高い学校は、学校を取り巻く困難な状況のもと、家庭との連携の程度を、就学援助率が低い学校並みの水準に押し上げていると解釈することはできないだろうか。確かに、就学援助率が高い学校ほど学力水準は低く、学校は様々な課題を抱えているとみられる。しかし、就学援助率が高い学校は、例えば家庭との連携の状況から窺われるように、就学援助率が低い学校並みの活動水準を確保することに成功している面もあると言えるのではないか。もしそうだとすれば、家庭との連携を学力向上に結び付ける工夫が求められているのかもしれない。

日下田岳史（東京大学大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員）

北條雅一（新潟大学経済学部）

注

(1) 国立教育政策研究所ホームページで公開されている『全国学力・学習状況調査報告書』の各年度版において、小学校調査の例で言えば、就学援助を受けている児童数の割合が 30% 以上の公立小学校（特別支援学校を除く）のうち、10 人以上の児童が調査を受けた公立小

学校に限定のうえ、公立小学校に在籍する児童の全国平均正答率を上回る学校平均正答率を収めた学校の特徴が分析されている（p142）。本稿は、後述する通り 6 年生の児童数が 5 人以上の公立小学校に限定し、就学援助率と学校の取組等に関する各指標との関連を把握しようとするものである。

(2) ただし、就学援助の認定基準は自治体ごとに異なっている。本稿はこの点を捨象しているという限界がある。

(3) 本稿執筆時点で最新のデータは平成 22 年度に実施された抽出調査データだが、悉皆調査データを使用するほうが望ましいと判断した。

(4) 就学援助率と各指標とのクロス集計表のサンプルサイズが全て 18476 になっている。

(5) 学校教育法第 21 条に掲げられる普通教育の目標の一つに、「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」がある。

参考文献

文部科学省 『学校基本調査（平成 21 年度）』。

国立教育政策研究所ホームページ 『平成 21 年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書』

http://www.nier.go.jp/09chousakekkahoukoku/02shou_chousakekka_houkokusho.htm
(2012/02/03 確認)。

『平成 21 年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント』

<http://www.nier.go.jp/09chousakekkahoukoku/index.htm> (2012/02/07 確認)。

国立大学法人大阪大学 2011 「子どもたちの学力水準を下支えしている学校の特徴に関する調査研究」平成 22 年度文部科学省委託研究「学力調査を活用した専門的課題分析に関する調査研究」研究成果報告書

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1315088.htm (2012/02/05 確認)。

資料 1 小学校の就学援助率と平均正答率との関係（平成 21 年度）

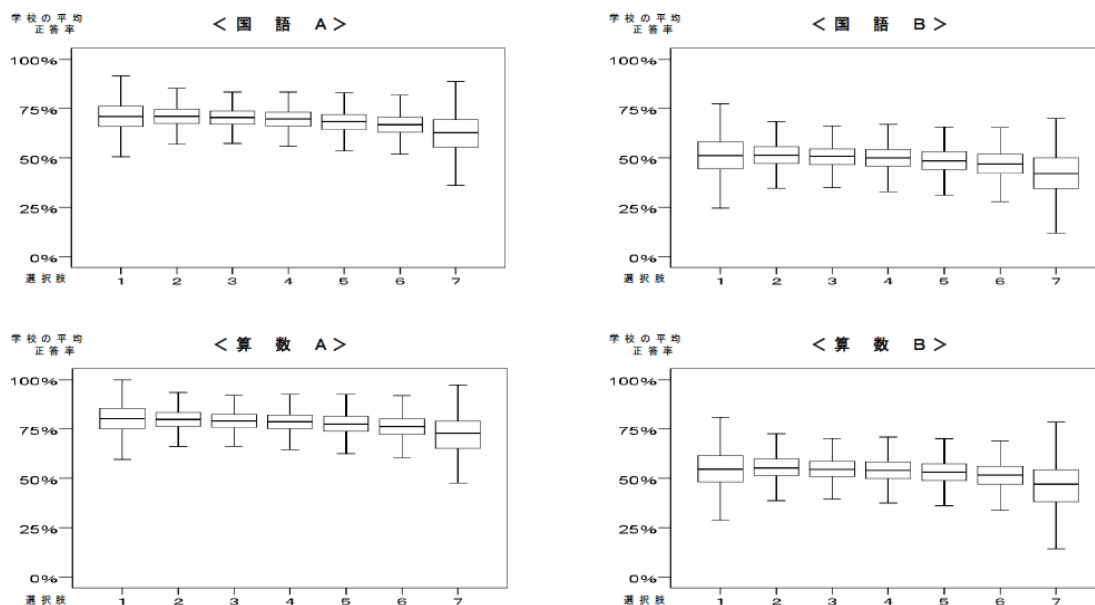
就学援助

○就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校の方が、その割合が低い学校よりも平均正答率が低い傾向が見られる。

○就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校は、各学校の平均正答率のばらつきが大きく、その中には、平均正答率が高い学校も存在する。

選択肢1	在籍していない	選択肢2	5%未満	選択肢3	5%以上, 10%未満
選択肢4	10%以上, 20%未満	選択肢5	20%以上, 30%未満	選択肢6	30%以上, 50%未満
選択肢7	50%以上				

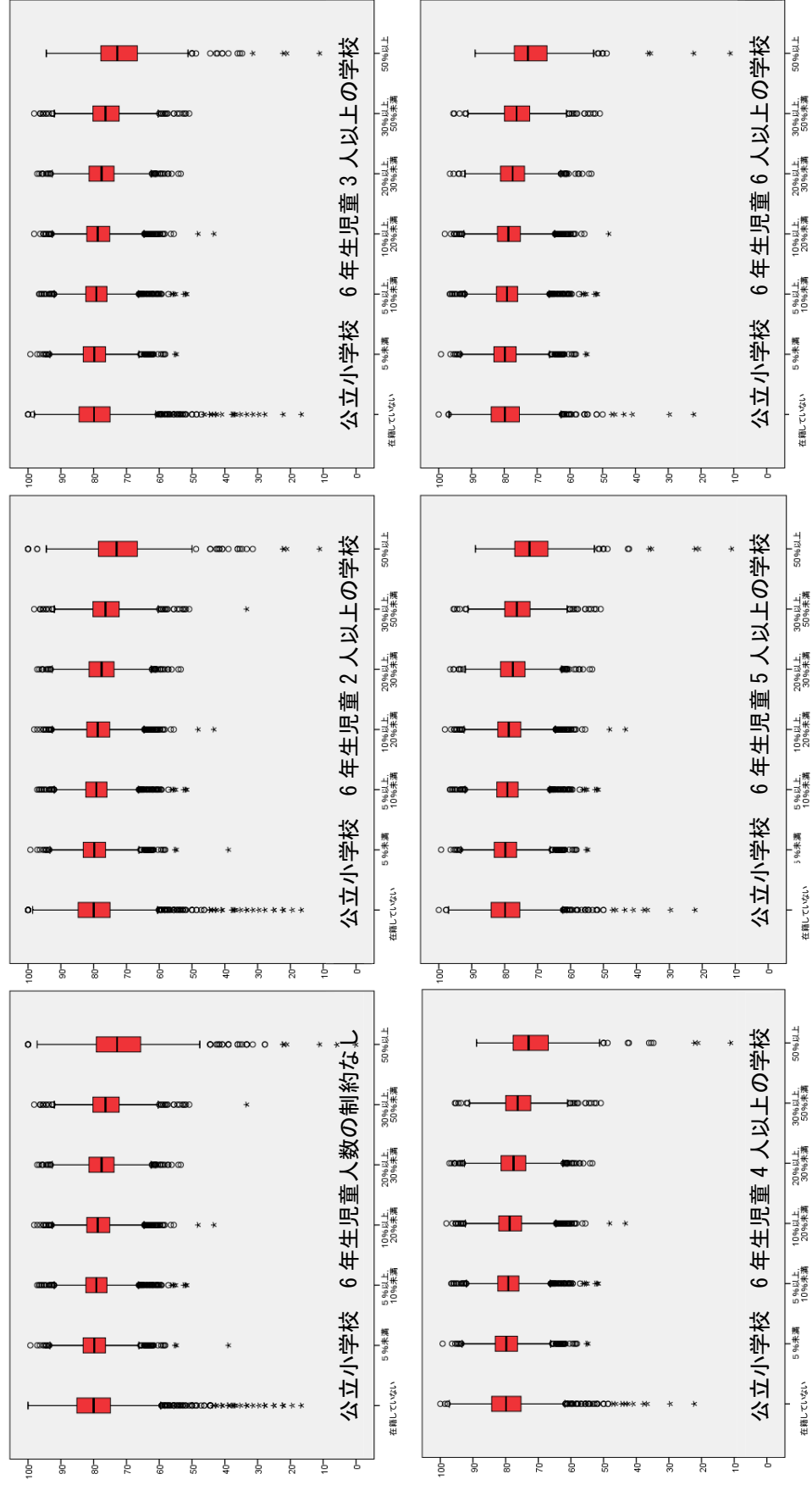
【小学校】＊質問 14：第 6 学年の児童のうち、就学援助を受けている児童の割合は、どれくらいですか



【出所】国立教育政策研究所『平成 21 年度 全国学力・学習状況調査調査結果のポイント』

<http://www.nier.go.jp/09chousakekkahoukoku/index.htm>

資料 2 学校規模（6年生児童数）にみる、公立小学校の就学援助率と平均正答率との関係（平成 21 年度、算数 A）



資料3 6年生児童数5人以上の公立小学校における、就学援助率と各指標との関連
(1) 児童

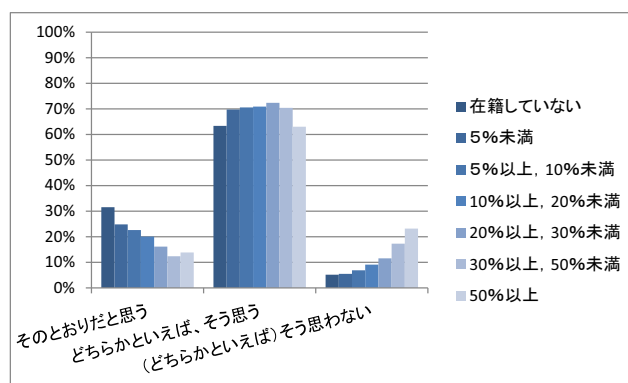


図 2.1.1 「児童は熱意をもって勉強している」

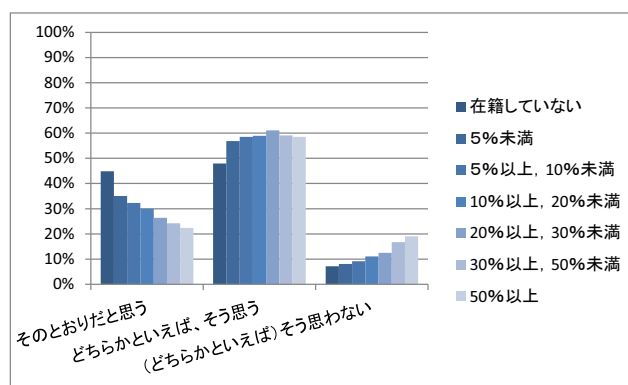


図 2.1.2 「児童は授業中の私語が少なく、落ち着いている」

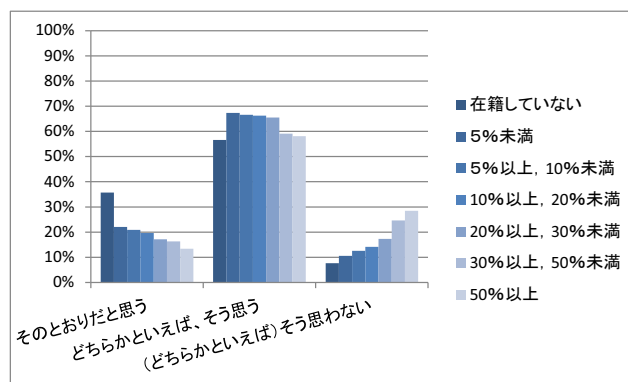


図 2.1.3 「児童は礼儀正しい」

(2) 学力向上に向けた取組

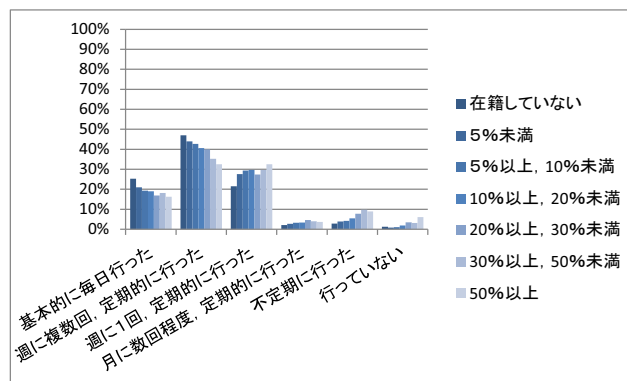


図 2.2.1 『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けましたか

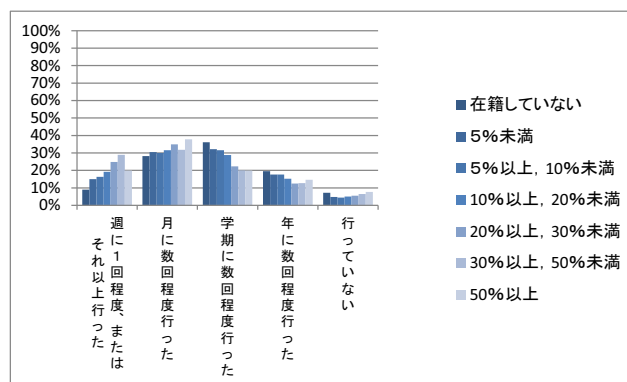


図 2.2.2 「学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか」

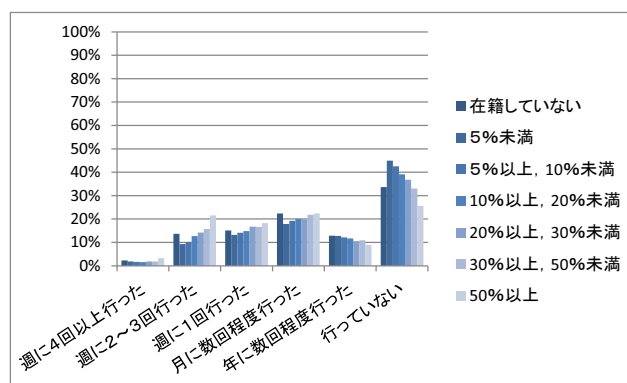


図 2.2.3 「放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか」

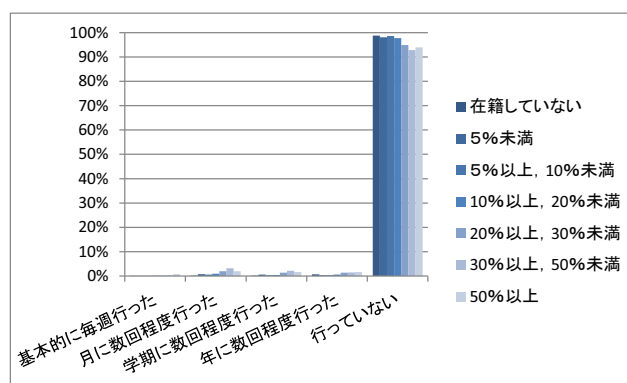


図 2.2.4 「土曜日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか」

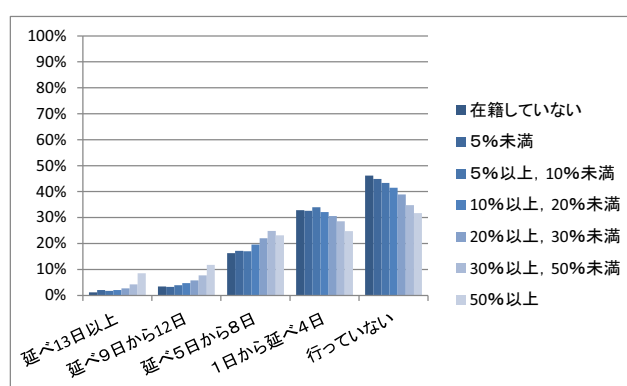


図 2.2.5 「長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか」

(3) 指導方法・学習規律

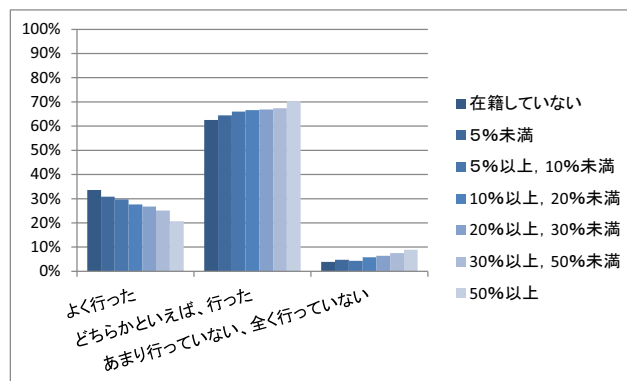


図 2.3.1 「児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」

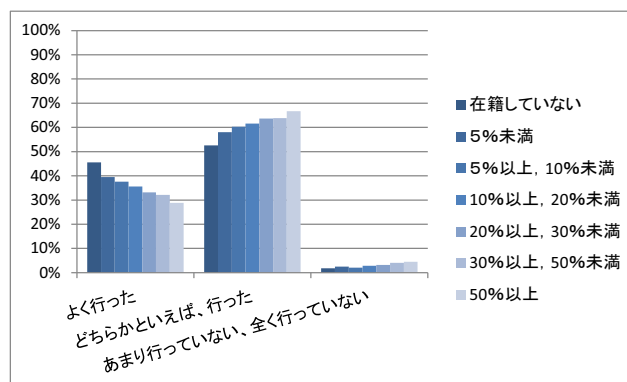


図 2.3.2 「児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めている」

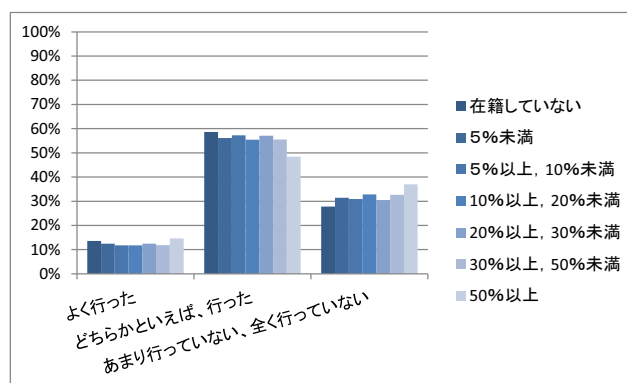


図 2.3.3 「児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている」

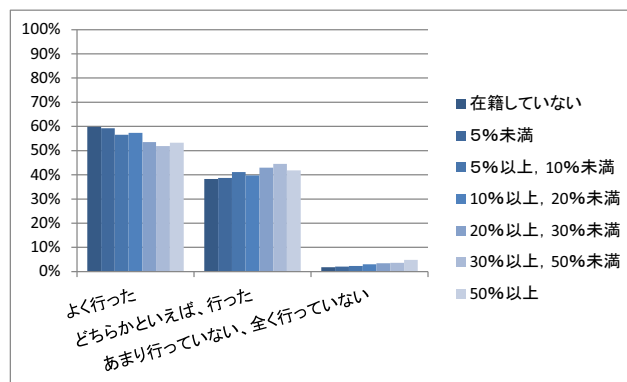


図 2.3.4 「学習規律の維持を徹底している」

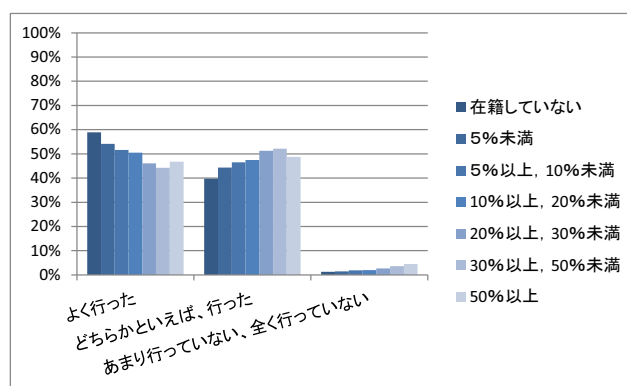


図 2.3.5 「学習方法に関する指導をしている」

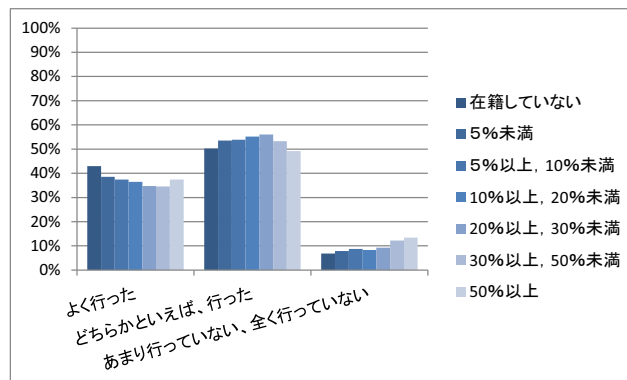


図 2.3.6 「児童に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えている」

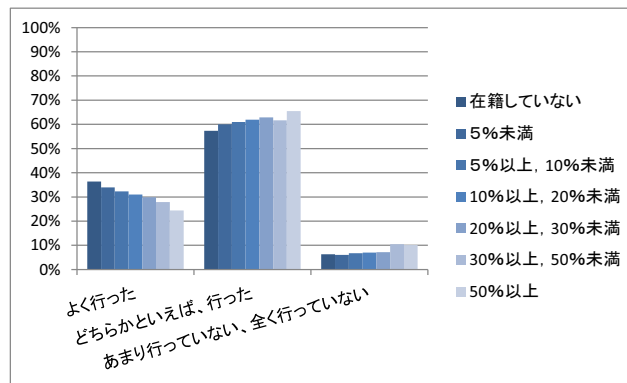


図 2.3.7 「児童に対して、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導している」

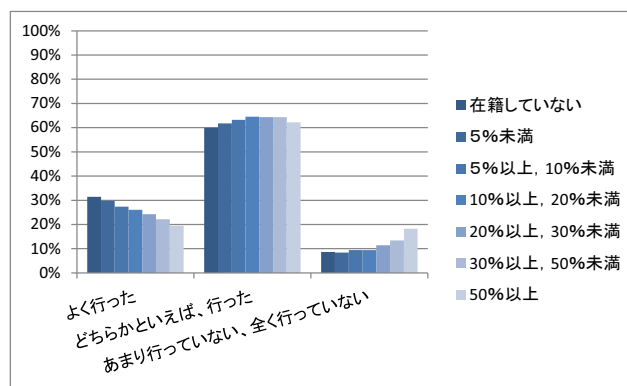


図 2.3.8 「児童に対して、資料を使って発表ができるよう指導している」

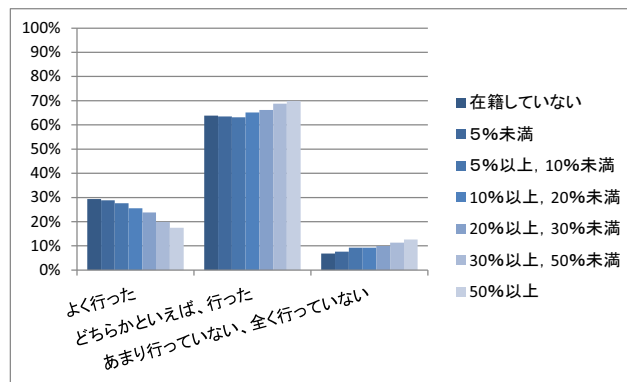


図 2.3.9 「児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている」

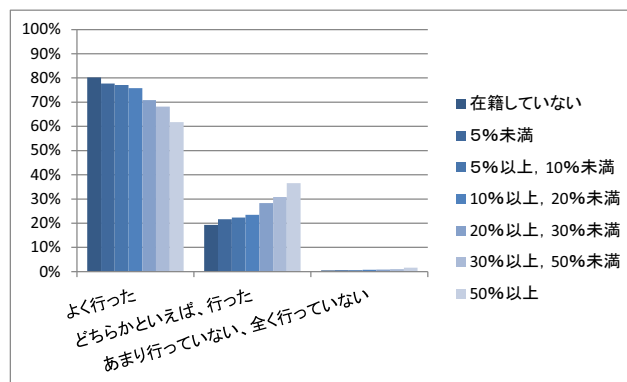


図 2.3.10 「学校や地域であいさつをするよう指導している」

(4) コンピュータなどを活用した教育

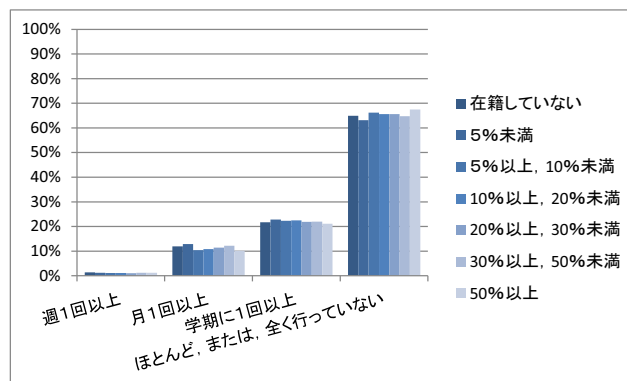


図 2.4.1 「(国語の授業において) 普通教室でのインターネットを活用した授業」

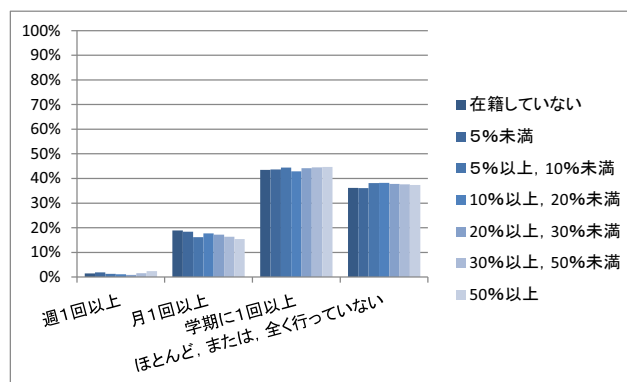


図 2.4.2 「(国語の授業において) 発表や自分の考えを整理する際に、児童がコンピュータを使う学習活動」

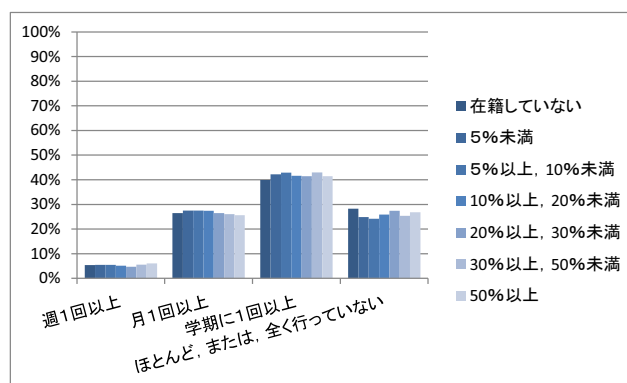


図 2.4.3 「(国語の授業において) 教員が、コンピュータ等を使って、資料等を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫を行った授業」

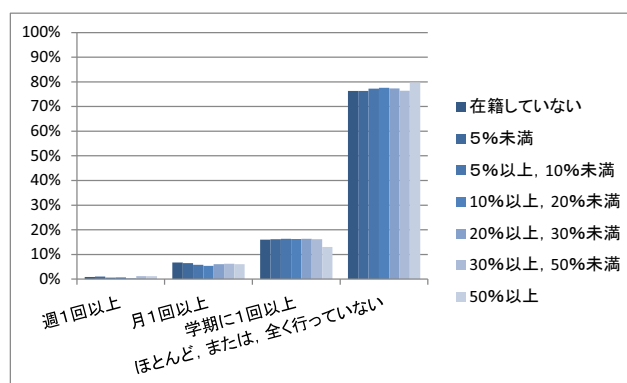


図 2.4.4 「(算数の授業において) 普通教室でのインターネットを活用した授業」

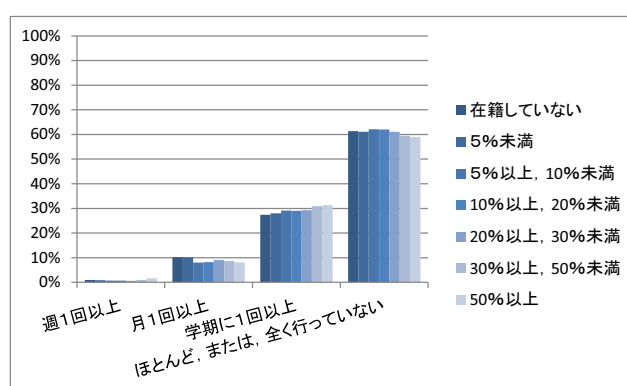


図 2.4.5 「(算数の授業において) 発表や自分の考えを整理する際に、児童がコンピュータを使う学習活動」

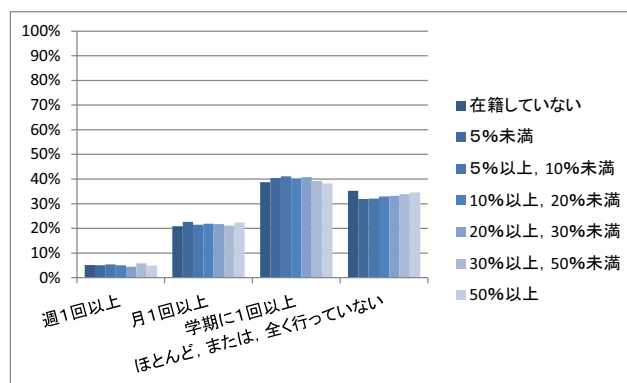


図 2.4.6 「(算数の授業において) 教員が、コンピュータ等を使って、資料等を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫を行った授業」

(5) 学力・学習状況の把握

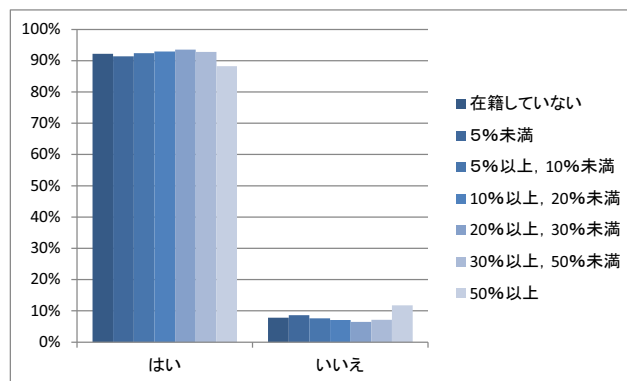


図 2.5.1 「平成 20 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させた」

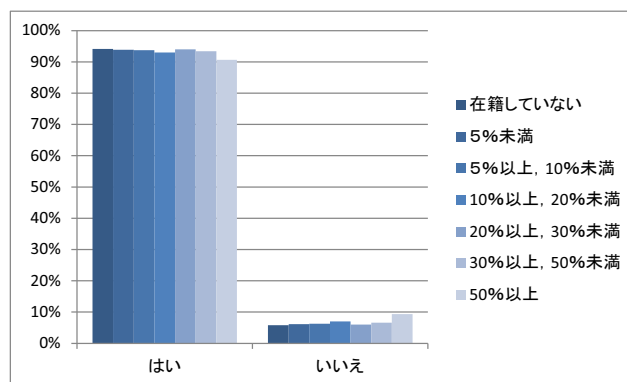


図 2.5.2 「平成 20 年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した」

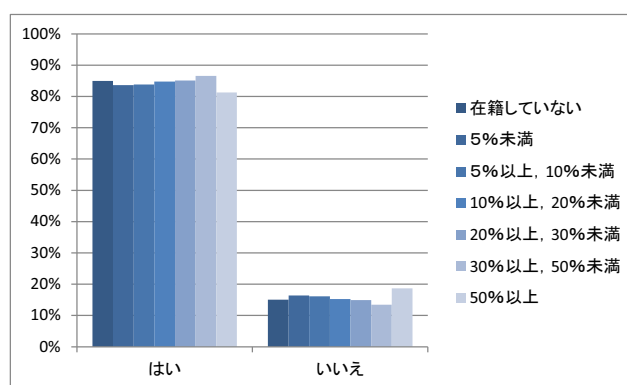


図 2.5.3 「平成 20 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」

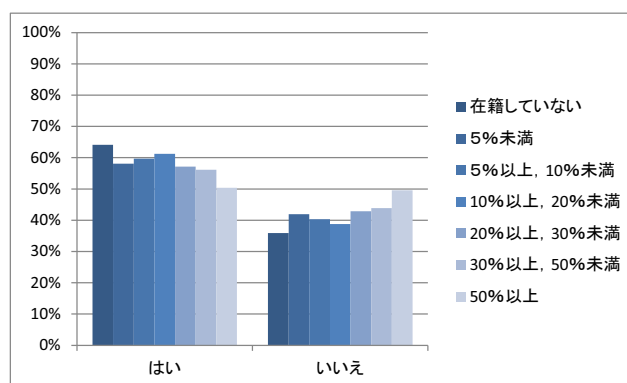


図 2.5.4 「平成 20 年度全国学力・学習状況調査の調査問題を平成 20 年度において、第 6 学年や他学年の授業の中で活用した」

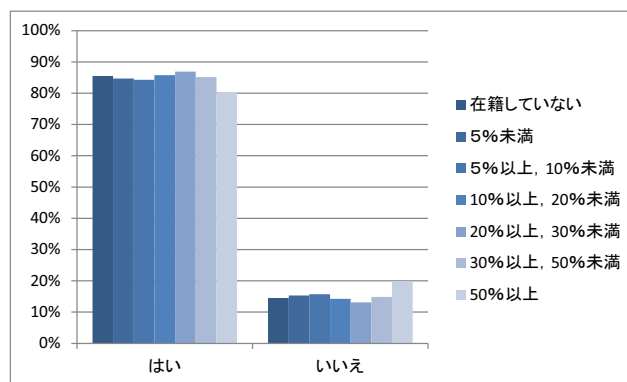


図 2.5.5 「学校の指導計画や取組を検討するにあたり、文部科学省が公表した平成 20 年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にした」

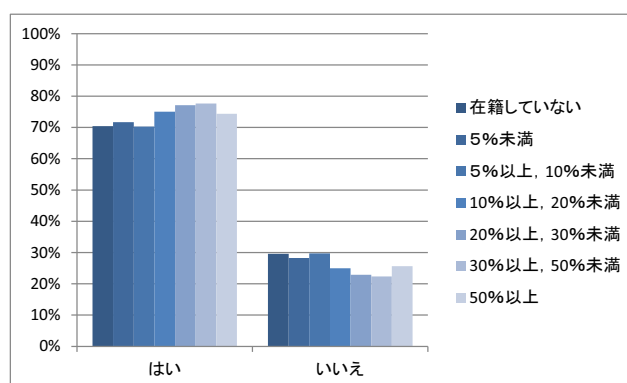


図 2.5.6 「平成 20 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った」

(6) 国語科の指導方法

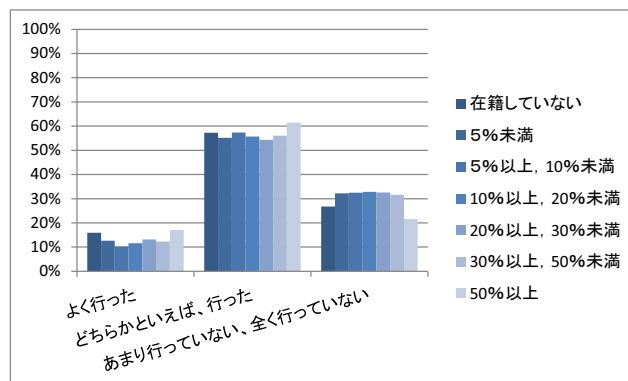


図 2.6.1 「補充的な学習の指導」

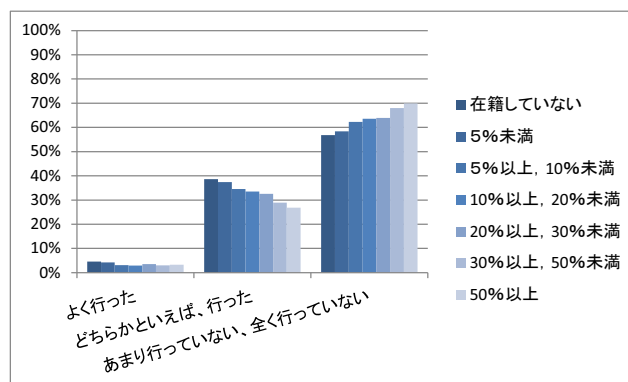


図 2.6.2 「発展的な学習の指導」

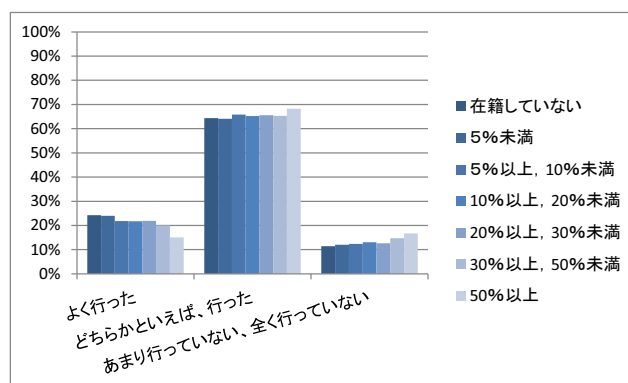


図 2.6.3 「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」

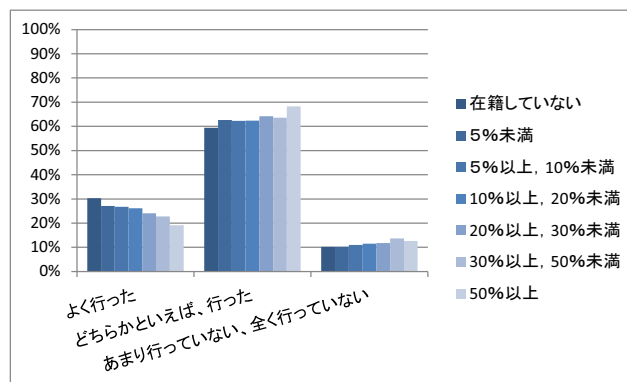


図 2.6.4 「書く習慣を付ける授業」

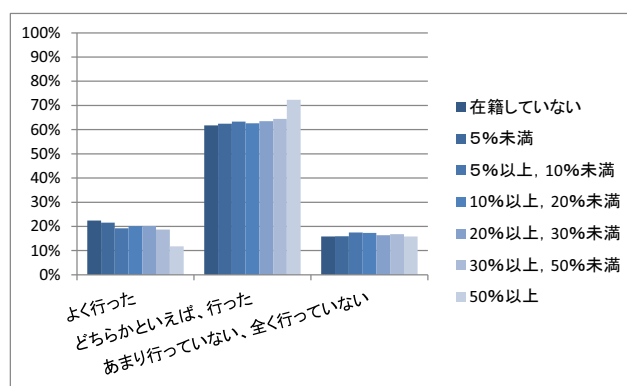


図 2.6.5 「様々な文章を読む習慣を付ける授業」

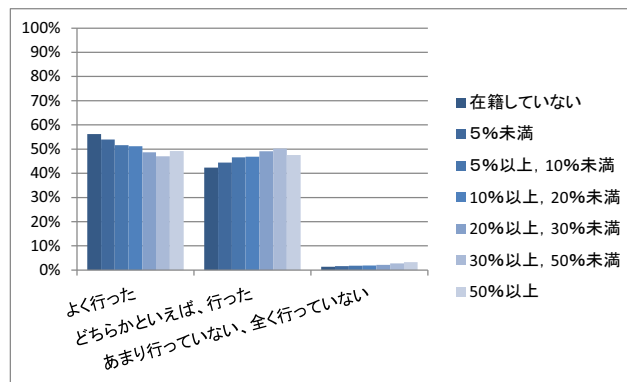


図 2.6.6 「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」

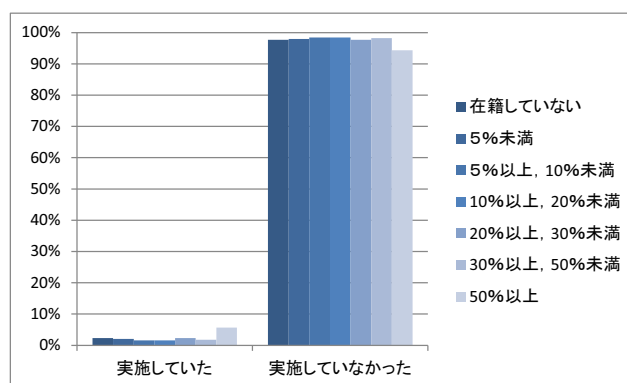


図 2.6.7 「調査対象である第 6 学年の児童に対する授業では、教科担任制を実施していましたか」

(7) 算数科の指導方法

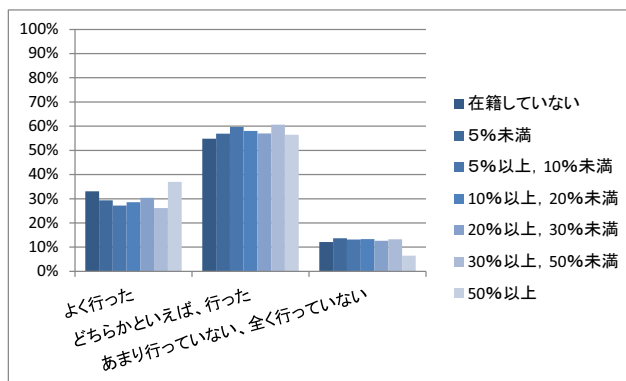


図 2.7.1 「補充的な学習の指導」

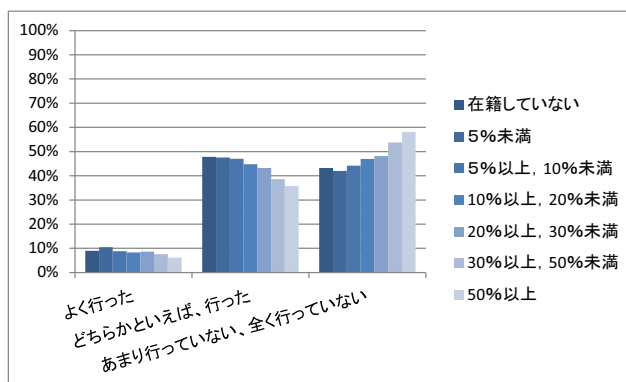


図 2.7.2 「発展的な学習の指導」

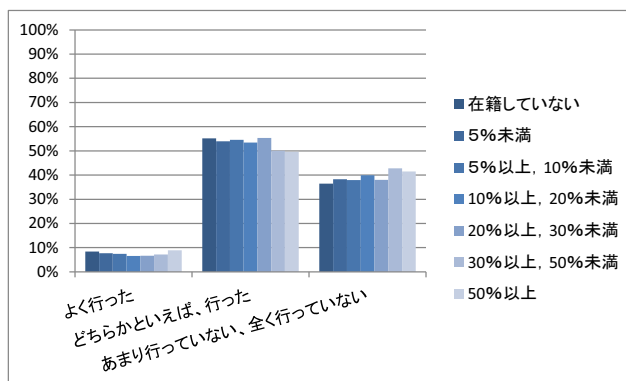


図 2.7.3 「実生活における事象との関連を図った授業」

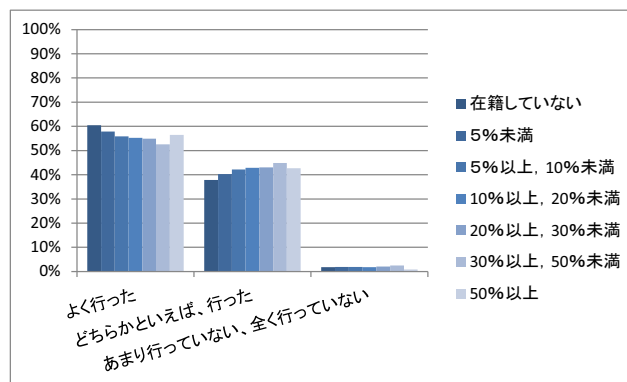


図 2.7.4 「計算問題などの反復練習をする授業」

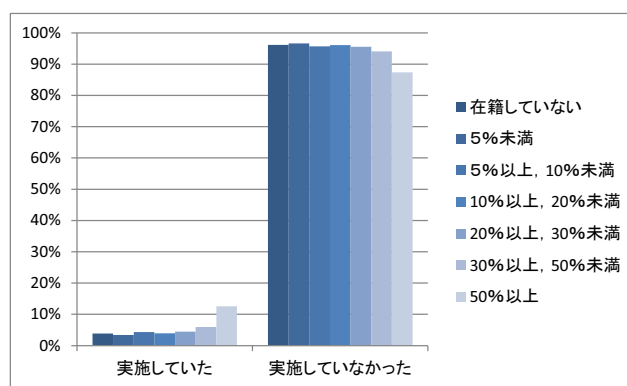


図 2.7.5 「調査対象である第 6 学年の児童に対する算数の授業では、教科担任制を実施していましたか」

(8) 地域の人材・施設の活用

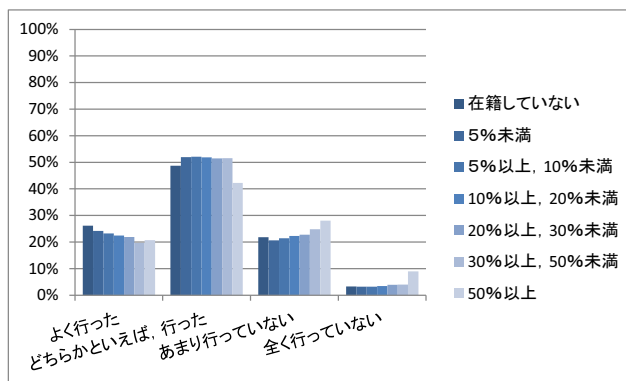


図 2.8.1 「地域の人材を外部講師として招聘した授業」

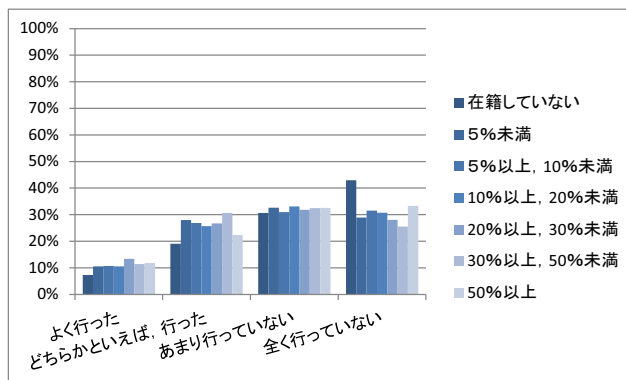


図 2.8.2 「ボランティア等による授業サポート」

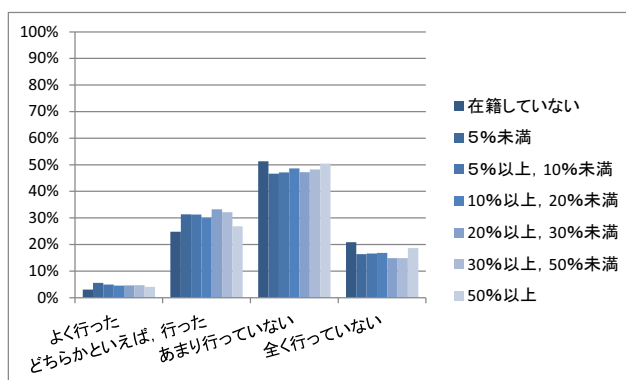


図 2.8.3 「博物館や科学館、図書館を利用した授業」

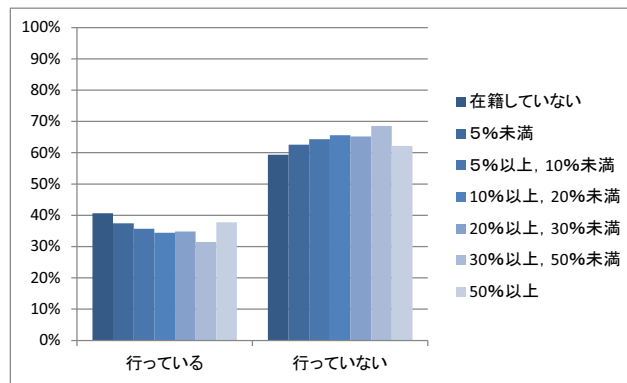


図 2.8.4 「あなたの学校では、職場見学や職場体験活動を行っていますか」

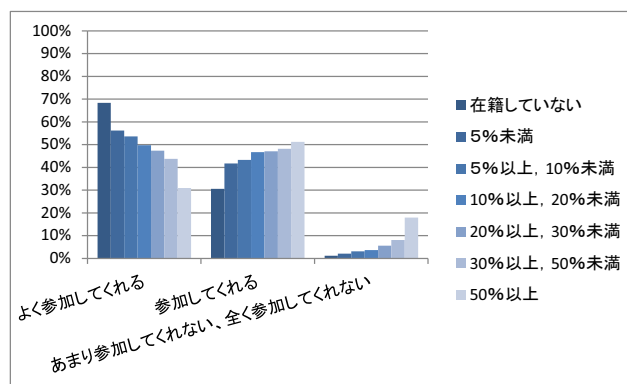


図 2.8.5 「あなたの学校では、PTA や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか」

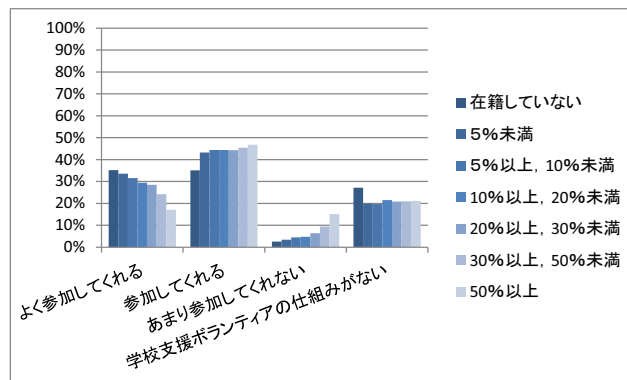


図 2.8.6 「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人々が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか」

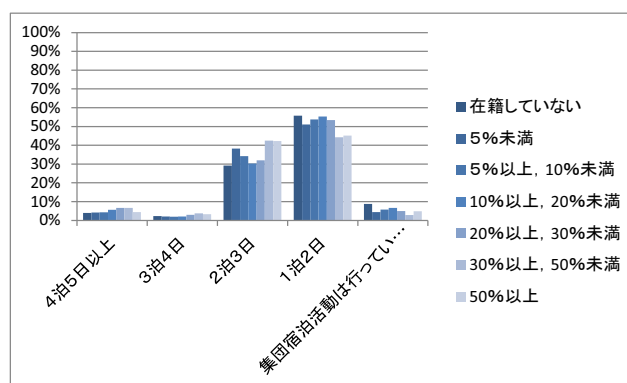


図 2.8.7 「調査対象である第 6 学年の児童に対して、第 5 学年までの間に集団宿泊活動を行いましたか」

(9) 家庭学習・家庭との連携

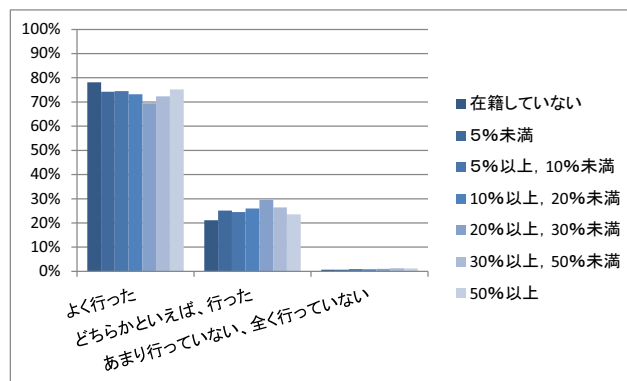


図 2.9.1 「(国語の指導として) 家庭学習の課題を与える」

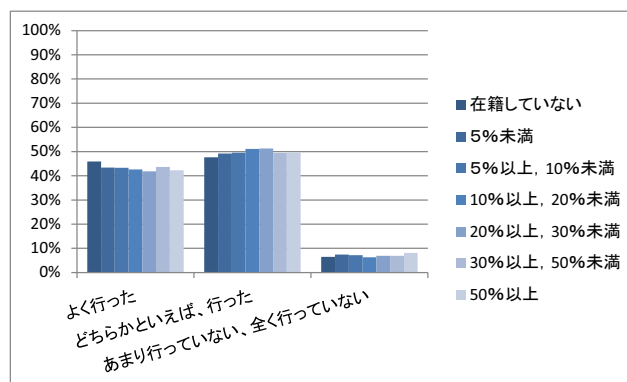


図 2.9.2 「(国語の指導として) 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけ」

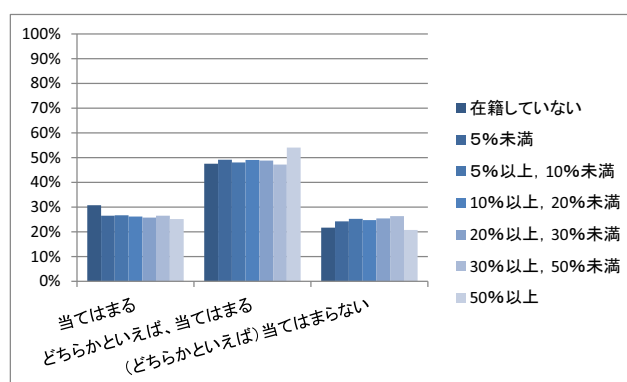


図 2.9.3 「(国語の指導として) 家庭学習の課題の与え方について、
校内の教職員で共通理解を図っていますか」

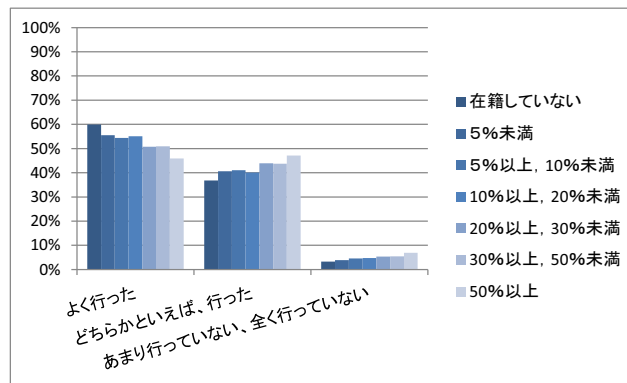


図 2.9.4 「(国語の指導として) 児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか」

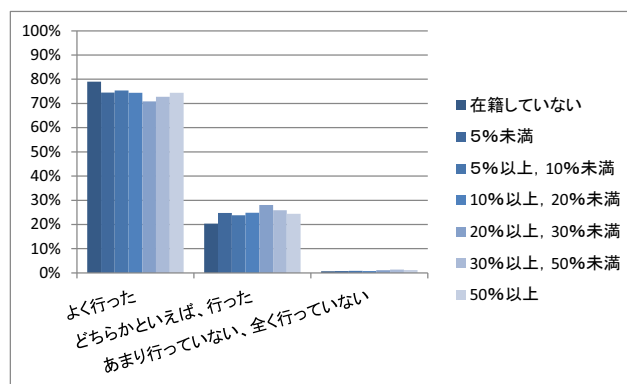


図 2.9.5 「(算数の指導として) 家庭学習の課題を与える」

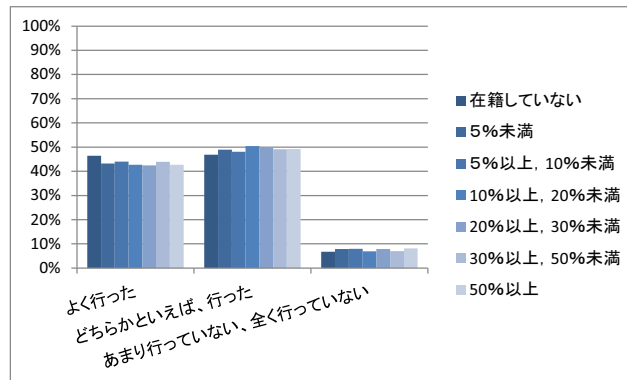


図 2.9.6 「(算数の指導として) 保護者に対して児童の学習を促すような働きかけ」

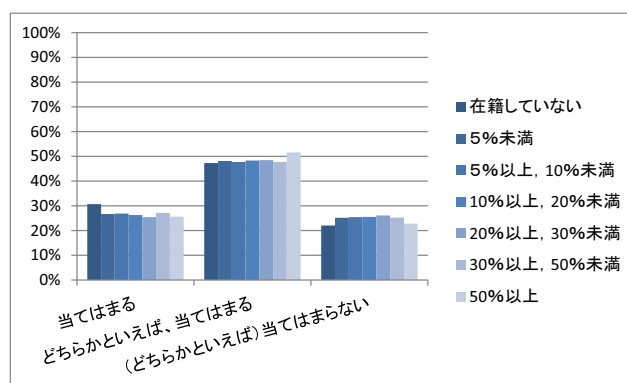


図 2.9.7 「(算数の指導として) 家庭学習の課題の与え方について、
校内の教職員で共通理解を図っていますか」

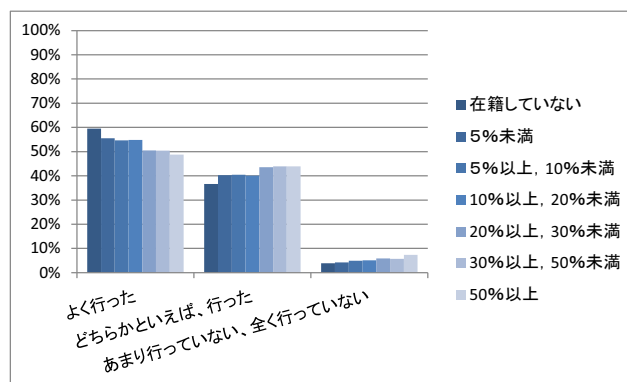


図 2.9.8 「(算数の指導として) 児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか」

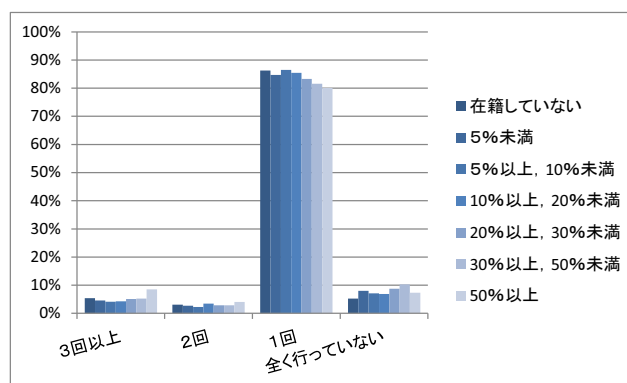


図 2.9.9 「調査対象である第 6 学年の児童に対して、
前年度、定期的な家庭訪問をどれくらい行いましたか」

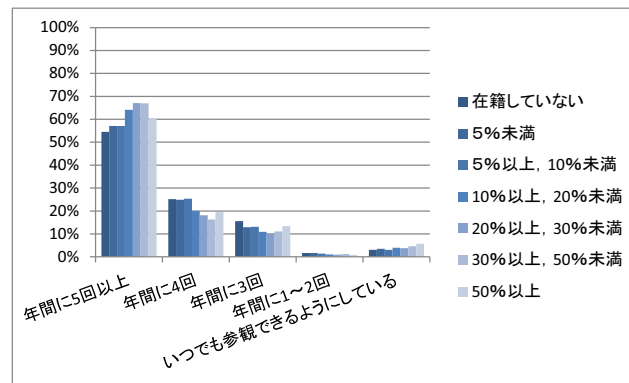


図 2.9.10 「調査対象である第 6 学年を対象とした授業参観を、前年度、どれくらい実施しましたか」

(10) 開かれた学校

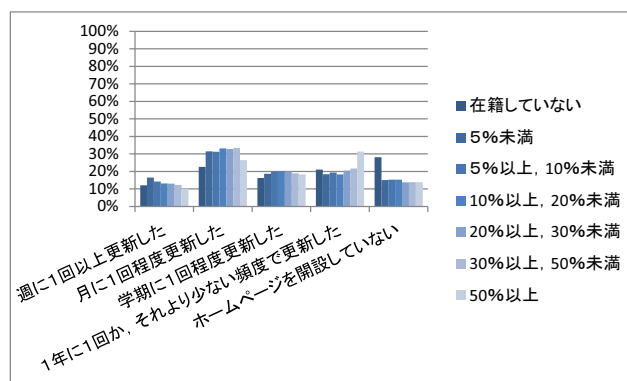


図 2.10.1 「学校の教育活動の情報について、前年度にどれくらいの頻度でホームページを更新し、情報提供を行いましたか」

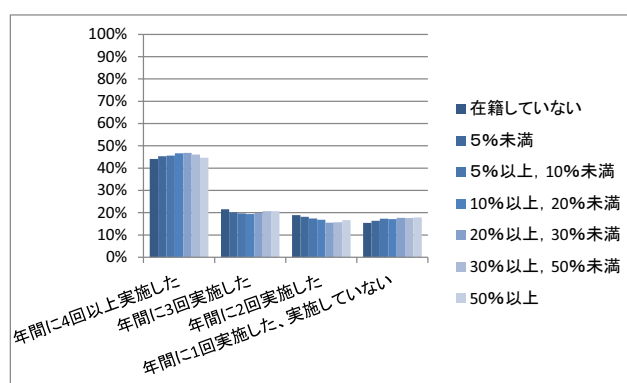


図 2.10.2 「保護者からの意見や要望を聞くために、学校として懇談会の開催やアンケート調査を前年度にどれくらい実施しましたか」

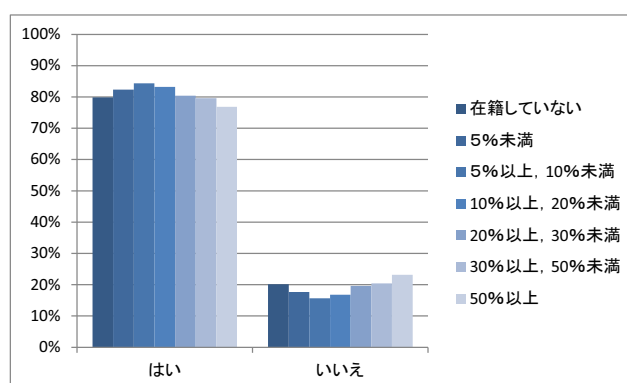


図 2.10.3 「地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか」

(11) 教員研修

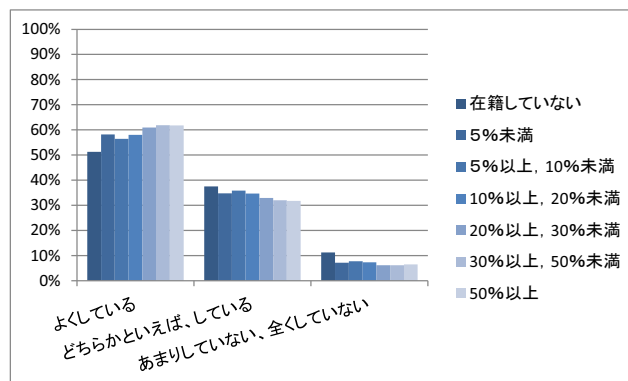


図 2.11.1 「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている」

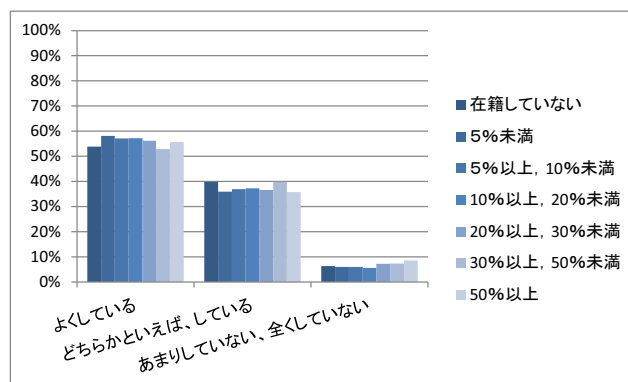


図 2.11.2 「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」

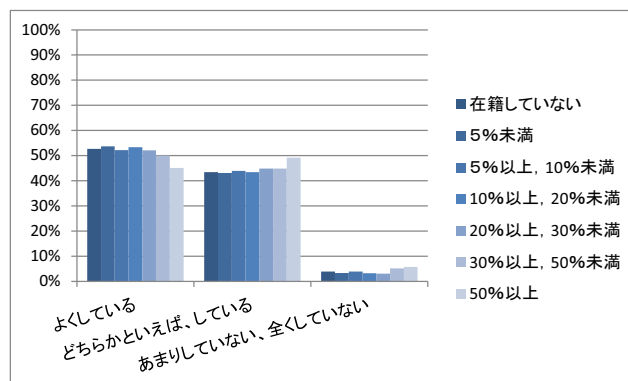


図 2.11.3 「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている」

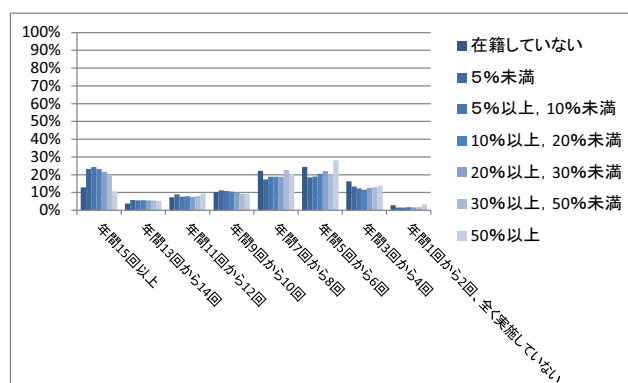


図 2.11.4 「授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか」

(12) 教職員の取組

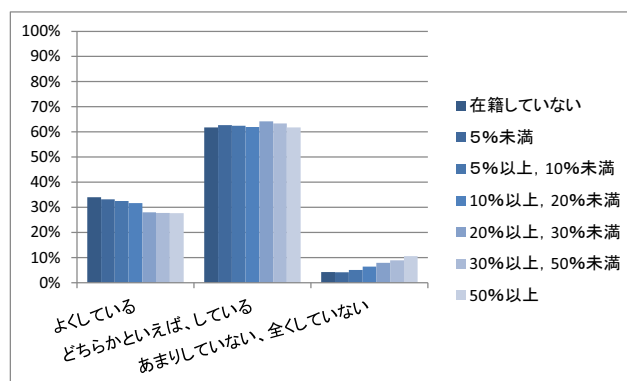


図 2.12.1 「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」

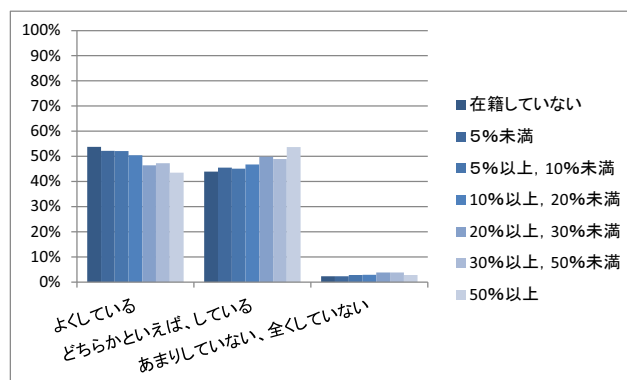


図 2.12.2 「指導計画の作成にあたっては、教職員同士が協力し合っている」

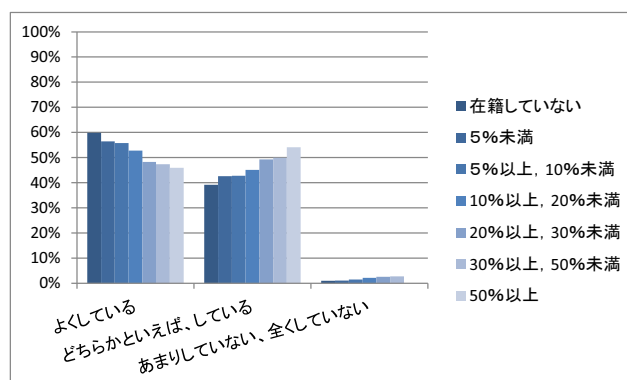


図 2.12.3 「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組にあたっている」

(13) 校長のリーダーシップ

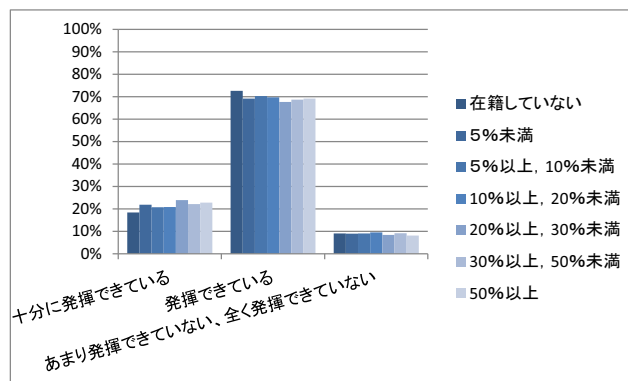


図 2.13.1 「あなたは、指導計画の作成や校内研修の実施、保護者・地域との連携など、学校運営に校長のリーダーシップが発揮できていると思いますか」

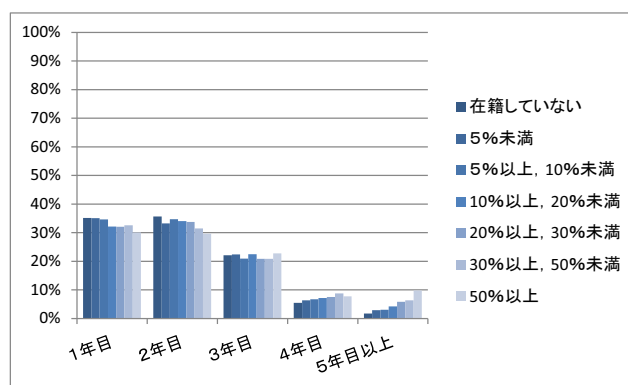


図 2.13.2 「あなたは、現在勤務する学校に校長として勤務して、何年目ですか」

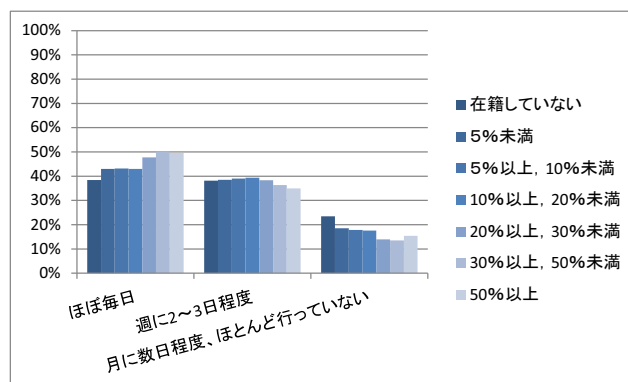


図 2.13.3 「あなたは、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

第3章 学力および学習状況の男女差とその経年変化

1. はじめに

(1) 本稿の目的

本稿は、平成19年度に小学6年生として全国学力・学習状況調査（以下、同調査と略す）を受けたコーホート（世代）に着目し、学力および学習状況の男女差と、当該男女差の小学6年次から中学3年次にかけての経年変化を把握するものである⁽¹⁾。周知のとおり、平成19年度に調査対象となった小学6年生と、平成22年度に調査対象となった中学3年生は同一のコーホート（世代）である。したがって本稿が分析する経年変化は、同一コーホートの加齢（成長）にともなって観察された年齢効果である。

男女の本質的平等を踏まえ、学力等の男女差を分析することに何の意味があるのかという批判があるかもしれない。確かに、同調査では児童・生徒の性別が把握されているにもかかわらず、国立教育政策研究所のホームページで公開されている同調査の報告書には、男女別の集計結果は報告されていない。

しかし、女子の能力をさらに活かせる社会のあり方が求められていることも事実である。例えば、文部科学省『平成23年版科学技術白書』によれば、「日本が世界トップレベルの科学技術分野で力を発揮し、成長を続ける上では、優れた人材の育成・確保が必要であり、若手研究者や女性研究者、さらには外国人研究者などの多様多様な個々人が意欲と能力を発揮できる環境を形成することが重要である」（p166）と指摘されている（強調部は筆者による）。このような認識の背景には、わが国の科学技術を支えてきた大学の理工系学部は、ほとんど男子によって占有されているという事実がある。国立教育政策研究所においては、平成22年度から「中学校・高等学校における理系進路選択に関する研究」が行われており、生徒の認識、ジェンダー等の社会的文化的経済的な諸要因と理系進路選択との関連について調査することとされている（国立教育政策研究所「平成22年度研究成果ダイジェスト」。ただし強調部は筆者による）。

このように、理工系分野で女子が活躍するための諸施策は、わが国の教育政策上の課題

の一つだと考えられる。

そして、当該課題から、女子が理工系分野で活躍するのを阻害するようなジェンダー的な障壁は一体いつ構築されるのかが、具体的な課題として浮かび上がる。そこで、本稿は、同調査の調査問題および児童質問紙・生徒質問紙の回答結果の分析を通じて、探索的に当該課題へ迫ろうと試みるものである。分析結果の一部を先取りすると、小学校 6 年次の算数では男女間の学力差は観察されないものの、算数の学習に対する関心や意欲にはすでに男女差が確認される。さらに、中学 3 年次になると、数学に対する関心や意欲の男女差が学力のバラツキの差として顕在化することが示された。今後、理工系分野において女子の能力を活用するためには、義務教育段階の算数・数学ですでに発生している男女差を念頭に置いた政策対応が求められる。

(2) 方法

本稿は、同調査の調査問題の教科別正答率を学力として措置し、教科別の学力、当該教科に関わる児童・生徒の学習状況、生活および意識等を、平成 19 年度の児童質問紙および平成 22 年度の生徒質問紙に共通する質問項目に基づき、男女別に分析する。当該質問項目数は、調査時間の十分さを問うものを含めて 51 問にのぼるため、国立教育政策研究所ホームページ『平成 22 年度 全国学力・学習状況調査【中学校】報告書』に示されている各質問項目の趣旨別に、これを分類する。

そして、学力の分布を男女別に把握する方法として、箱ひげ図を利用する。箱ひげ図は、分布の形状を視覚的に表現すると同時に、中央値や第 1 四分位数、第 3 四分位数といった統計量を同時的に表現することができることから、分布の比較に適した表現方法である⁽²⁾。

学習状況等の分布を男女別に把握する方法としては、当該分布を最小値、最大値、最頻値、中央値、第 1 四分位数、第 3 四分位数という各統計量に集約して表現するという手法を、それぞれ採用する⁽³⁾。学習状況等に関わる質問項目のほとんどは、4 つの選択肢からなる順序尺度変数である。分布の男女差を確認するにあたって、学力の分布の表示方法と同様、視覚的な方法を用いるのであれば、棒グラフの使用が考えられる。しかし、複数の分布を比較する場合、分布を統計量へ集約して表現した方が、その差異が分かりやすい場合もある。本稿ではこの考え方を採ることにした。一般に、順序尺度変数の分布の特徴を示す指標として用いるべき統計量は、代表値の場合は中央値または最頻値が、散布度（回答

のバラつき) の場合は第 1 四分位数および第 3 四分位数が、それぞれ適切である。

そして、分布の代表値(最頻値または中央値)と散布度(第 1 四分位数および第 3 四分位数)の男女差に着目し、代表値と散布度の男女差を以って回答分布の男女差を把握することにする。

ただし、以下の 4 点に注意が必要である。第一に、本稿が把握しようとするのは集団の全体的な姿であり、個人の特徴ではない。第二に、学力等が同点の児童・生徒がいるため、中央値以下(以上)の児童・生徒数が 50%ちょうどであるとは限らない。第三に、回答分布の形状が双峰分布⁽⁴⁾となる場合、代表値および散布度による分布の集約という方法が適切ではない場合があるため、これに該当する質問項目(「家や図書館で、普段(月～金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)」)の分布は、棒グラフで図示した。第三に、名義尺度変数の分布は棒グラフによる図示が分かりやすいと考えられるため、これに該当するもの(①「携帯電話で通話やメールをしていますか」、②「学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合もふくみます)で勉強をしていますか」)の分布も、棒グラフで図示した。

分析対象となる個票は、4 教科の調査問題すべてを受けている者で、かつ、両年度に共通している質問項目 51 問すべてに当日回答している児童・生徒である。平成 22 年度実施の抽出調査データの分析に際しては、上記のような条件でケースを絞り込んでいることから、あえてウェイト付けを行っていない⁽⁵⁾。各サンプルサイズは、以下の通りである。

表 3.0 サンプルサイズ(児童・生徒数)

	男子	女子	備考
平成19年度(小学6年次)	547443	534604	悉皆調査
平成22年度(中学3年次)	204231	200359	抽出調査(分析時にウェイト付けは行わず。)

(3) 構成

以下の 2 節では、学力分布の男女差の有無と、当該教科に関わる児童・生徒の学習状況の男女差を確認し、それらの経年変化を把握する。3 節では、児童・生徒の生活や意識等の男女差を確認し、その経年変化を把握する。4 節では、以上の分析結果をまとめ、本稿の検討から示唆される、今後の児童質問紙・生徒質問紙調査の課題について若干述べる。

2. 調査問題に見る学力の男女差と、質問紙から浮かび上がる「関心」等の男女差

本節では、まず国語の学力分布および国語に関わる学習状況の男女差を確認し、その経年変化を把握する。続いて、算数（数学）について同様の分析を行う。

(1) 国語

① 小学 6 年次の学力（図 3.1）

まず、小学 6 年次の国語の学力分布を男女別に示す。

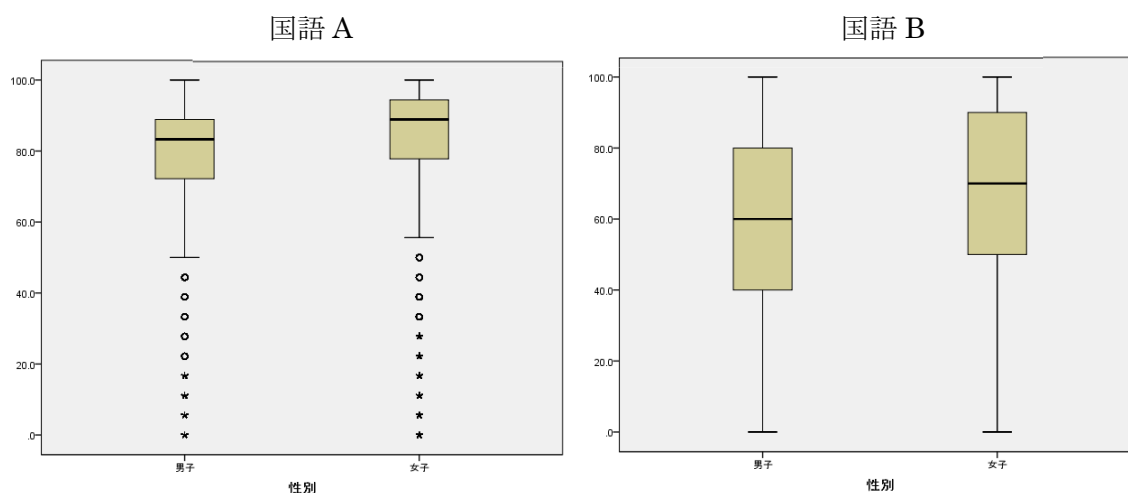


図 3.1 小学 6 年次の学力分布の男女差（国語）

一見して明らかなように、国語においては、女子の方が学力が高い。それでは、国語に関する学習状況に男女差は見られるのだろうか。

② 小学 6 年次の「学習に対する関心・意欲・態度」（表 3.1.1）

「国語の勉強は好きだ」の分布は、第 1 四分位数に男女差が表れていて、男子は「どちらかといえば、当てはまる」、女子は「当てはまる」となっている。

「国語の授業の内容はよく分かる」は、第 3 四分位数に男女差が表れていて、男子は「どちらかといえば、当てはまらない」、女子は「どちらかといえば、当てはまる」となっている。

国語の学習について言えば、女子の方が親和的な態度を示していると言える。

③ 中学 3 年次の学力（図 3.2）

中学 3 年次の国語の学力分布は、図 3.2 の通りである。国語 B の分布を見ると、中央値の男女差はほとんどなくなっている。しかし、箱ひげ図の箱の位置関係に着目すると、女子は男子に比べて上方に位置している。つまり、女子は男子と比べて、低学力層が薄く、高学力層が厚い。このように、小学 6 年次と同様、女子の方が概して学力が高いようである。それでは、国語に関する学習状況も、小学 6 年次と変化はないのだろうか。

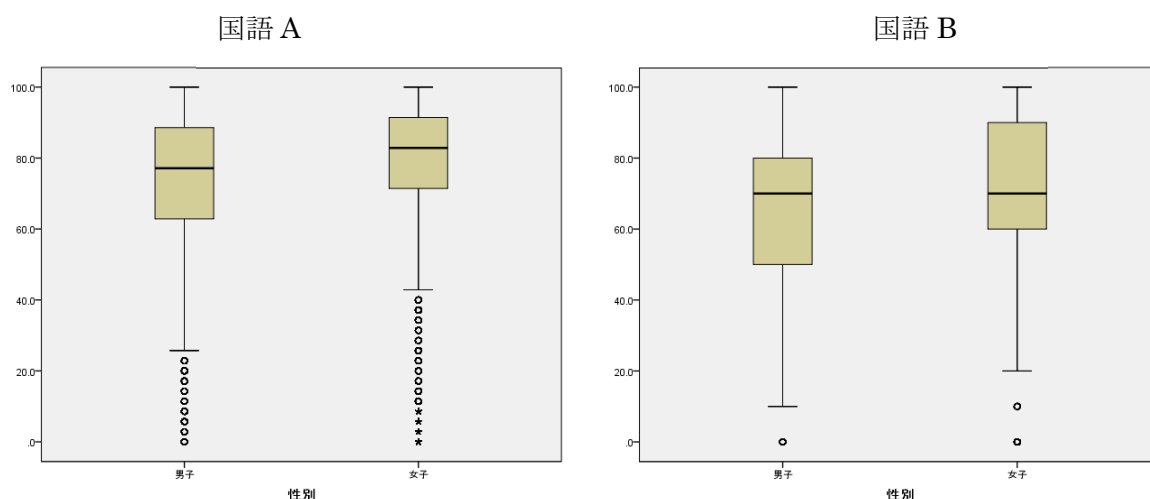


図 3.2 中学 3 年次の学力分布の男女差（国語）

④ 中学 3 年次の「学習に対する関心・意欲・態度」（表 3.1.1）

小学 6 年次には差が見られた「国語の勉強は好きだ」、「国語の授業の内容はよく分かる」について、中学 3 年次になると男女差が見られなくなっている。他方、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」に、男女差が新たに生じているようである。男子の最頻値が「当てはまる」、女子の最頻値が「どちらかといえば、当てはまる」となっている。

このように、学力の男女差は小学 6 年次から中学 3 年次にかけて持続しているものの、学習状況の男女差は、全体的には縮小しているようである。

(2) 算数・数学

① 小学 6 年次の学力（図 3.3）

小学 6 年次の算数の学力分布は、図 3.3 の通りである。算数の学力は、男女差が見られた国語とは異なり、ほとんど男女差は認められない。それでは、算数の学習状況にも男女差は見られないのだろうか。

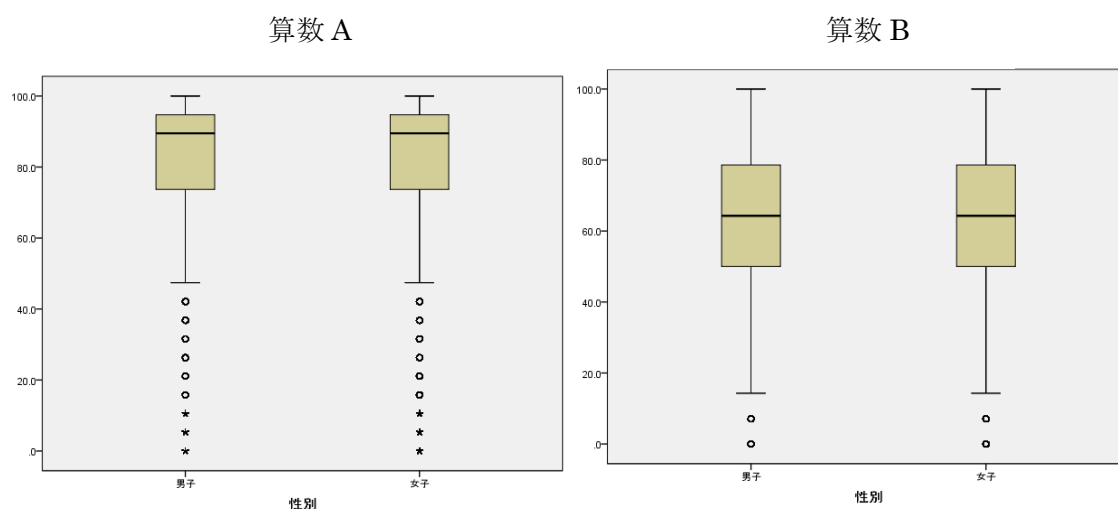


図 3.3 小学 6 年次の学力分布の男女差（算数）

② 小学 6 年次の「学習に対する関心・意欲・態度」（表 3.1.2）

「算数の勉強は好きだ」の最頻値に男女差が表れていて、男子は「当てはまる」、女子は「やや当てはまる」となっている。

「算数の授業の内容はよく分かる」の最頻値、中央値および第 3 四分位数に男女差が表れており、それぞれ女子は男子よりも「当てはまらない」方向の数値を得ている。

「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」は最頻値および第 3 四分位数に男女差が表れていて、先の項目と同様、女子は男子よりも「当てはまらない」方向の数値を得ている。

「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」の最頻値に男女差が表れていて、男子は「当てはまる」、女子は「どちらかといえば、当てはまる」となっ

ている。

このように、算数の勉強に対する関心や、主観的な授業理解度だけでなく、算数の問題へ取り組む意欲や生活場面における応用的な態度について男女差が生じている。ただし、その男女差の内容は、国語の学習状況の場合と異なるもので、女子は男子に比べて算数の学習に親和的でない様子が窺われる。

しかしながら、①で示したように、算数の学力に男女差は生じていない。算数に関して、女子の学力は男子と特段の差がないにも関わらず、男子ほどには算数の学習に親和的でないという、いわば捻じれた傾向が見出される。この関係は、中学 3 年次まで持続的に見られるのだろうか。

③ 中学 3 年次の学力（図 3.4）

中学 3 年次の数学の学力分布は、図 3.4 の通りである。小学 6 年次には、算数の学力の男女差は見られなかったが、中学 3 年次では、男女差が表れている。

まず数学 A について、中央値は女子の方が低い。また、第 1 四分位数は女子の方が高く、第 3 四分位数は女子の方が低い。このことは、女子の方が学力のバラつきが男子よりも小さいことを意味している。

次に数学 B を見てみると、中央値および第 1 四分位数にほとんど男女差はないことが分かる。他方、第 3 四分位数は明らかに女子の方が低い。このことは、学力上位層の厚みに男女差が表れており、女子は当該層が比較的薄いことを示している。

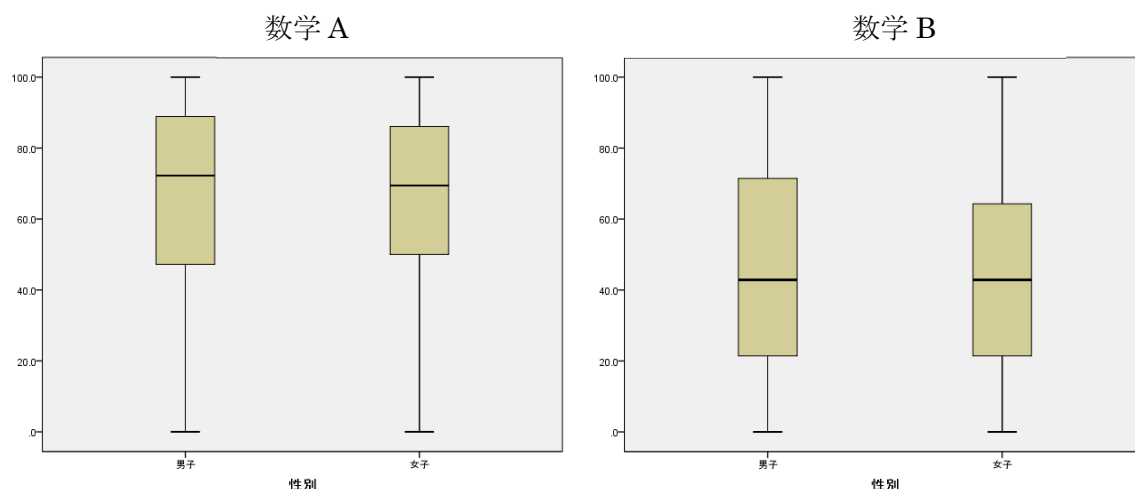


図 3.4 中学 3 年次の学力分布の男女差（数学）

④ 中学 3 年次の「学習に対する関心・意欲・態度」(表 3.1.2)

小学 6 年次に学習状況に男女差が見られたのは、6 項目中 4 項目についてであったが、中学 3 年次になると、6 項目すべてについて、男女差が見られるようになる。ただし、「数学の授業の内容はよく分かる」において男女差が表れているのは第 1 四分位数のみにとどまっていて、小学 6 年次に比べれば必ずしも顕著な差異とは言えないだろう。他方、「数学の勉強は好きだ」の分布は、代表値（最頻値および中央値）、散布度（第 1（3）四分位数）の双方に男女差が表れており、女子は男子と比べて数学の勉強を好まない傾向があるのが顕著である。このように、女子は数学の学習に対していっそう親和的でなくなっている様子が窺われる。

(3) 小括

国語について、小学 6 年次から中学 3 年次にかけて、女子の方が学力が高いという傾向は概ね一貫している。これに対して、学習状況の男女差はあまり見られなくなっている。

算数・数学について、小学 6 年次では、女子の学力は男子と特段の差がないにも関わらず、男子ほどには算数の学習に親和的でないという、いわば捻じれた傾向がある。中学 3 年次になると当該傾向は変化する。女子の高学力層が薄くなり（ただし、低学力層も薄く、要するに学力のバラつきが男子よりも小さい）、数学の学習に対する関心・意欲・態度は男子と比べて非親和的なものとなる。

3. 質問紙に見る児童・生徒の生活や意識等の男女差

本節では、国立教育政策研究所ホームページ『平成 22 年度 全国学力・学習状況調査【中学校】報告書』に示されている質問項目の趣旨別に、児童・生徒の生活や意識、価値観等の回答分布を男女別に示す。なお、国語・算数（数学）に関する「関心・意欲・態度」は前節ですでに触れたので、本節では割愛する。

(1) 「学習に対する関心・意欲・態度」（「総合的な学習の時間」）について（表 3.1.3）

『総合的な学習の時間』の勉強は好きだ」の第3四分位数に男女差が生じていて、男子は「どちらかといえば、当てはまらない」、女子は「どちらかといえば、当てはまる」である。この男女差は、中学3年次には見られなくなる。また、第1四分位数の経年変化に着目すると、小学6年次から中学3年次にかけて「当てはまる」から「どちらかといえば、当てはまる」へ移動している。

『総合的な学習の時間』の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の回答分布は、小学6年次および中学3年次の両時点において、男女差は認められない。また、最頻値および第1(3)四分位数の経年変化に着目すると、双方「当てはまらない」の方向へ変化していることから、男女ともに意見が変化しているようである。

(2) 「学習時間等」について（表 3.2、図 3.5～図 3.8）

「平日の1日あたり勉強時間」は、第1四分位数に男女差が表れているが、中学3年次になると、このような男女差が消失している。これは、男子の第1四分位数が、勉強時間がより長い方向へ変化したためである。「休日の1日あたり勉強時間」にも同様の傾向が見られる。

「(家で)学校の宿題をしている」の回答分布に、小学6年次および中学3年次において男女差は見られない。小学6年次は、第1四分位数と第3四分位数が一致していて、学校の宿題をしていると回答している児童が大多数にのぼることが示されている。しかし、中学3年次になると、宿題に関する学習状況にバラつきが生じることが確認される。

「(家で)学校の授業の予習をしている」は、第3四分位数に男女差が表れている。中学3年次になると、このような男女差が消失している。これは、女子の第3四分位数が「全くしていない」の方向へ変化したためである。

「(家で)学校の授業の復習をしている」も、第3四分位数に男女差が表れている。中学3年次になると、このような男女差が消失している。これは、男子の第3四分位数が「している」の方向へ変化したためである。

通塾状況は、他の質問項目とは異なり、選択肢の順序が意味を持たない名義尺度変数である。したがって、中央値や第1(3)四分位数は定義されないため、棒グラフを描いて分布を検討する。小学6年次から中学3年次にかけて、回答分布の男女差は見られない。ただし、経年変化に着目すると、小学6年次と中学3年次において、通塾する者が増加して

いること、通塾先での学習内容に変化が生じていることが分かる。小学 6 年次の最頻値は、「学習塾に通っていない」である。中学 3 年次の最頻値も「学習塾に通っていない」だが、学習内容の違いこそあれ、通塾している者は通っていない生徒よりも多い。通塾している者の中で最も多いのは、小学 6 年次では、「学校の勉強より進んだ内容を勉強している」という児童であったのに対して、中学 3 年次になると、「上記 2、3 の両方の内容（学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している、学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している）を勉強している」という生徒である。

「家や図書館で、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の分布は、他の順序尺度変数とは異なり、山が 2 つある双峰分布である。小学 6 年次および中学 3 年次の両時点で、「全くしない」と「10 分以上、30 分より少ない」の回答が多くなっている。ただし、小学 6 年次の最頻値は、男子においては「全くしない」、女子においては「10 分以上、30 分より少ない」であったが、中学 3 年次になると、最頻値は男女ともに「全くしない」となっている。

「読書は好きだ」は、中央値および第 3 四分位数に男女差が表れており、双方とも女子の方が「当てはまる」の方向の値を得ている。この傾向は、中学 3 年次にも見られる。

「携帯電話で通話やメールをしていますか」も、通塾状況を尋ねる項目と同様、選択肢の順序が意味を持たない名義尺度変数である。小学 6 年次の最頻値は男女ともに、「携帯電話を持っていない」である。中学 3 年次の最頻値は、男子の場合は「携帯電話を持っていない」、女子の場合は「（携帯電話で通話やメールを）ほぼ毎日している」である。

「平日のテレビ等の視聴時間」は、最頻値に男女差が表れていて、男子は「1 時間以上、2 時間より少ない」、女子は「2 時間以上、3 時間より少ない」である。中学 3 年次になると、男子の最頻値が、視聴時間がより長い方向へ変化し、分布の男女差は見られなくなっている。

(3) 「学校生活等」について（表 3.3）

「（学校で）友達に会うのは楽しい」について、小学 6 年次および中学 3 年次において男女差は見られない。経年変化もなく、ほとんどの児童・生徒が「そう思う」と回答している。

「（学校で）好きな授業がある」も、小学 6 年次および中学 3 年次において男女差は見ら

れない。ただし、小学 6 年次から中学 3 年次にかけて、第 3 四分位数が男女ともに「そう
思わない」の方向へ変化していて、回答にバラつきが生じている。

(4) 「基本的生活習慣」について（表 3.4）

「朝食を毎日食べている」に、小学 6 年次および中学 3 年次において男女差は見られない。
経年変化も観察されない。

「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている」も同様である。

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」は、最頻値に男女差が表れていて、男子は「し
ている」、女子は「どちらかといえば、している」となっている。中学 3 年次になると、男
子の最頻値は「全くしていない」の方向へ変化し、男女差が見られなくなっている。

「毎日、同じくらいの時刻に起きている」に、小学 6 年次および中学 3 年次において男
女差は見られない。経年変化も観察されない。

「普段（月～金曜日）、何時ごろに起きていますか」は、第 3 四分位数に男女差が表れて
おり、男子は「午前 7 時以降、午前 7 時 30 分より前」、女子は「午前 6 時 30 分以降、午前
7 時より前」となっている。中学 3 年次になると、女子の第 3 四分位数はより遅い時刻へ変
化し、男女差は見られなくなっている。

「普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか」は、最頻値に男女差が表れていて、男子は
「午後 9 時以降、午後 10 時より前」、女子は「午後 10 時以降、午後 11 時より前」となっ
ている。中学 3 年次になると、最頻値、中央値、第 1（3）四分位数が男女ともにより遅い
時刻へ変化している。男女差が生じているのは第 3 四分位数で、男子は「午後 11 時以降、
午前 0 時より前」、女子は「午前 0 時以降」となっている。

「平日の睡眠時間」に、小学 6 年次において男女差は見られない。中学 3 年次になると、
最頻値、中央値、第 1（3）四分位数が男女ともにより睡眠時間が短い方向へ変化し、第 1
四分位数に男女差が生じている。男子は「8 時間以上、9 時間より少ない」、女子は「7 時間
以上、8 時間より少ない」となっている。

(5) 「家庭でのコミュニケーション」について（表 3.5）

「（家の人と）普段（月曜日から金曜日）、夕食を一緒に食べる」には、小学 6 年次およ

び中学 3 年次に男女差は見られない。経年変化も男女ともに観察されない。

「(家の人と) 学校での出来事について話をする」は、最頻値および第 3 四分位数に男女差が表れていて、女子の方が「している」の方向の値をとっている。中学 3 年次になると、それに加えて、第 1 四分位数にも男女差が表れるが、これは、男子の第 1 四分位数が「全くしていない」の方向へ変化したためである。

「家の手伝いをしていますか」には、第 1 四分位数および第 3 四分位数に男女差が表れていて、女子の方が「よくしている」の方向の値をとっている。中学 3 年次になると、女子の第 1 四分位数および第 3 四分位数が「全くしていない」の方向へ変化した、男女差は見られなくなっている。

(6) 「社会に対する興味・関心」について (表 3.6)

「家の手伝いをしていますか」は、第 1 四分位数および第 3 四分位数に男女差が表れていて、女子の方が「当てはまらない」の方向の値をとっている。経年変化は見られず、中学 3 年次にも同様の分布を示している。

「今住んでいる地域の行事に参加している」は、小学 6 年次において男女差は見られない。中学 3 年次になると、男女ともに、最頻値、中央値、第 1 (3) 四分位数が「当てはまらない」の方向へ変化している。ただし最頻値に男女差があり、男子は「当てはまらない」、女子は「どちらかといえば、当てはまらない」となっている。

(7) 「自尊意識」について (表 3.7)

「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」について、小学 6 年次および中学 3 年次に男女差は見られない。経年変化も観察されない。

「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」は、第 1 四分位数に男女差が表れていて、男子は「当てはまる」、女子は「どちらかといえば、当てはまる」となっている。中学 3 年次になると男女差は見られなくなっているが、これは、男子の第 1 四分位数が「当てはまらない」の方向へ変化したためである。

「自分には、よいところがあると思う」には、小学 6 年次および中学 3 年次に男女差は見られない。経年変化に着目すると、男女とも、第 1 四分位数および第 3 四分位数が「当

てはまらない」の方向へ変化している。

「将来の夢や目標を持っている」は、小学 6 年次に男女差は見られない。中学 3 年次になると、第 3 四分位数に男女差が生じていて、男子は「どちらかといえば、当てはまらない」、女子は「どちらかといえば、当てはまる」となっている。経年変化に着目すると、中央値が、男女ともに、「当てはまらない」の方向へ変化している。

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」に、小学 6 年次には男女差は見られない。中学 3 年次になると、第 3 四分位数に男女差が表れ、男子は「どちらかといえば、当てはまる」、女子は「当てはまる」となっている。経年変化に着目すると、男子の回答分布に変化がないのに対し、女子の場合、最頻値、中央値、第 1 (3) 四分位数がすべて同じ値をとる分布に変化している。つまり、女子の回答のバラつきが小さくなっている。

「人の役に立つ人間になりたいと思う」に、小学 6 年次および中学 3 年次に男女差は見られない。経年変化も観察されない。

(8) 「規範意識等」について (表 3.8)

「学校の規則を守っている」は、小学 6 年次において、男女差は見られない。中学 3 年次になると、最頻値に男女差が表れ、男子は「当てはまる」、女子は「どちらかといえば、当てはまる」となっている。これは、男子の最頻値が「当てはまる」の方向へ変化したためである。

「友達との約束を守っている」に、小学 6 年次および中学 3 年次に男女差は見られない。経年変化も観察されない。

「人が困っているときは、進んで助けている」は、第 1 四分位数および第 3 四分位数に男女差が表れていて、女子の方が「当てはまる」の方向の値をとっている。中学 3 年次になると、男女差が見られるのは第 3 四分位数のみである。経年変化に注目すると、女子の第 1 四分位数が「当てはまらない」の方向へ変化し、中学 3 年次になると、最頻値、中央値、第 1 (3) 四分位数がすべて「どちらかといえば、当てはまる」をとり、回答のバラつきが小さくなっている。これに対して、男子の回答の分布には、両時点において比較的バラつきが見られる。

「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」に、小学 6 年次に男女差は見られない。中学 3 年次になると、中央値に男女差が生じている。これは、男子の中央値が「当ては

まらない」の方向へ変化したためである。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」は、女子の場合、最頻値、中央値、第 1 (3) 四分位数がすべて「当てはまる」をとり、回答のバラつきが小さいのに対して、男子の場合は第 3 四分位数が「どちらかといえば、当てはまる」となっていて、回答にややバラつきが見られる。中学 3 年次になると、女子の第 3 四分位数が「当てはまらない」の方向へ変換し、男女差は見られなくなっている。

(9) 小括

これまで検討してきた 8 つの項目にわたる各項目は、「学習時間等」、「基本的生活習慣」および「家庭でのコミュニケーション」といった児童・生徒の行動に関わる指標と、「学習に対する関心・意欲・態度」、「学校生活等」、「社会に対する興味・関心」、「自尊意識」および「規範意識等」といった児童・生徒の意識に関わる指標に集約できるだろう。

行動に関わる指標について、小学 6 年次には男女差がいくつかの項目で確認されるが、中学 3 年次には男女差がほとんどの項目で見られなくなっている。ただし、例外的に、「(家の人と) 学校での出来事について話をする」は、中学 3 年次において比較的顕著な男女差が生じている。

一方、主観的な意識に関わる項目は、「学校生活等」のように男女差がまったく見られない項目もあれば、「社会に対する興味・関心」、「自尊意識」および「規範意識等」のように男女差が見られる項目もある。その中で、最も多くの項目で男女差が見られるのが、2 節の小括と重なるが、算数（数学）の「学習に対する関心・意欲・態度」である。算数・数学の学習への意識に男女差が比較的顕著な男女差が生じている。

このように、同調査の児童質問紙・生徒質問紙の回答結果に関する限り、男女差は行動よりもむしろ意識に表れやすく、意識の分化は義務教育段階である程度生じていることが窺われる。

4. まとめ

(1) 結論

本稿は、1 節(1)で述べた通り、理工系分野で女子が活躍するための諸施策は、わが国の教育政策上の課題の一つであることを踏まえながら、調査問題および児童質問紙・生徒質問紙の回答結果を通じて、探索的な検討を試みた。4 教科の調査問題すべてを受けている者で、かつ、両年度に共通している質問項目 51 問すべてに当日回答している児童・生徒を対象とした分析(平成 22 年度実施の抽出調査データの分析に際して、ウェイト付けは行わず)から、以下のようなことが明らかとなった。

第一に、小学 6 年次において、算数の学力に男女差はほとんど見られない。しかし、算数の学習に対する関心・意欲・態度の一部に男女差が確認される。換言すれば、小学 6 年生までの間に、算数の学力に男女差がないにも関わらず算数の学習に対する構えには男女差があるという状況が生じている。中学 3 年次には、数学の学力のバラつきに男女差が生じ、女子は低学力層が薄いと同時に高学力層も薄い傾向が表れている。同時に、算数の学習への構えの男女差が明確化していると見られる。

第二に、小学 6 年次において国語の学力および国語の学習に対する関心等の一部に男女差が確認される。中学 3 年次になると、国語の学力の男女差は引き続き見られるのに対して、国語の学習に対する関心等の男女差はなくなるわけではないが、あまり見られなくなっている⁽⁶⁾。

第三に、繰り返しになるが、本稿が検討対象としたデータに依拠する限りにおいて、男女差は行動よりもむしろ意識に表れやすく、意識の分化は義務教育段階である程度生じていることが窺われる。

本稿の分析結果は、今後、理工系分野において女子の活躍が進む環境を整備していくうえで重要な示唆を含んでいる。義務教育段階ですでに男女の間に算数・数学の学習への関心差・意欲差が顕在化していることを念頭に置きつつ、年齢的に早い段階からの政策対応が求められる。

(2) 本稿から浮かび上がる、今後の児童質問紙・生徒質問紙の課題

本稿は、平成 19 年度の児童質問紙と平成 22 年度の生徒質問紙とに共通する質問項目の回答分布を網羅的に検討してきた。この検討を通じて得られた課題について、二点挙げておきたい。

第一に、質問文の中に、残念ながら解釈が一意に定まりづらいものがある。つまり、児

童・生徒の回答の意味として、本人の経験に基づく事実の認識、本人が認識しているところの世間一般の価値判断等、といったような複数の解釈が考えられるものがあり、それらの意味の識別が難しい質問文がある。

第二に、児童・生徒の家庭的背景を把握する質問項目がないことが挙げられるが、昨年末の報道⁽⁷⁾によればこの問題は改善される方向にあるようであり、改善に期待したい。

日下田岳史（東京大学大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員）

北條雅一（新潟大学経済学部）

注

⁽¹⁾ 全国・学力学習状況調査のデータを活用した男女別分析にかかる先行研究として、国立大学法人大阪大学（2011）がある。本稿は、児童・生徒質問紙のうち、平成 19 年度と平成 22 年度の実施分に共通する質問項目について網羅的に検討し、かつ、同一コーホートの経年変化に着目するものである。

⁽²⁾ 学力分布のバラつきをより詳細に把握する方法として、4 章の末富論文のように五分位数を用いるという方法も考えられる。本稿では、学力分布の代表値として中央値（すなわち第 2 四分位数）を採用することから、バラつきを示す指標として第 1 四分位数、第 3 四分位数を用いるものである。

⁽³⁾ もちろん、順序尺度変数の分布の男女差の把握方法として、クロス集計分析、独立性の検定が基本的な方法として考えられる。しかし、本稿が扱うデータのサンプルサイズはきわめて大きいと、実用的に意味があるか疑わしい微細な男女差までもが「統計的に有意な差」と見なされてしまうおそれがある。例えば、平成 19 年度の児童質問紙を利用して、本稿が検討対象とした質問項目と性別との間に男女差が見られるか、カイ 2 乗検定を行ったところ、すべての質問項目について、「統計的に有意な男女差」があるとの結果を得た。この結果を以って、すべての質問項目について実質的に意味のある男女差があると結論付けることは、非現実的である。

⁽⁴⁾ 例えば、選択肢 1 および 4 に回答が集中し、選択肢 2 および 3 には回答が少ないという形状を持つ分布である。

⁽⁵⁾ 平成 22 年度の抽出調査データの元々のサンプルサイズは 441348（男子 215085、女子

207907、不明 18356) である。ケースを絞り込むことにより、サンプルサイズは男子の場合 10854、女子の場合 7548 減少した。

(6) 本稿は、学習への関心や意欲の男女差を教科ごとに分析した。国語の学習に対する構えと算数・数学の学習に対する構えとの関連について、分析を進める余地がありうる。

(7) 2011 年 12 月 26 日読売新聞「『家に絵画、専門書あるか』と家庭状況調査？」より。

(<http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news/20111226-OYT8T00983.htm> 12/01/30 確認)

参考文献

文部科学省 2011 『平成 23 年版科学技術白書』。

国立教育政策研究所ホームページ 『平成 22 年度研究成果ダイジェスト』。

(http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/seika_digest_h22.html 2012/02/01 確認)。

—— 『平成 22 年度 全国学力・学習状況調査【中学校】報告書』 (<http://www.nier.go.jp/10chousakekkahoukoku/index.htm> 2012/02/01 確認)。
国立大学法人大阪大学 2011 「子どもたちの学力水準を下支えしている学校の特徴に関する調査研究」平成 22 年度文部科学省委託研究「学力調査を活用した専門的課題分析に関する調査研究」研究成果報告書

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1315088.htm (2012/03/22 確認)。

読売新聞 2011 年 12 月 26 日付 「『家に絵画、専門書あるか』と家庭状況調査？」
(<http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/news/20111226-OYT8T00983.htm> 2012/01/30 確認)。

表 3.1.1 国語の学習に対する関心・意欲・態度
(男女差が表れている箇所には灰色を付した。以下同様)

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「国語の勉強は好きだ」	小学6年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	1	3
	中学3年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	2	3
「国語の勉強は大切だ」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
「国語の授業の内容はよく分かる」	小学6年次	男子	1	4	2	2	1	3
		女子	1	4	2	2	1	2
	中学3年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	2	3
「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	2	1	2
		女子	1	4	2	2	1	2

1=当てはまる 2=どちらかといえば、当てはまる 3=どちらかといえば、当てはまらない 4=当てはまらない

表 3.1.2 算数（数学）の学習に対する関心・意欲・態度

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「算数(数学)の勉強は好きだ」	小学6年次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	2	2	1	3
	中学3年次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	3	3	2	4
「算数(数学)の勉強は大切だ」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	2	1	2
「算数(数学)の授業の内容はよく分かる」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	2	2	1	3
	中学3年次	男子	1	4	2	2	1	3
		女子	1	4	2	2	2	3
「算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」	小学6年次	男子	1	4	1	2	1	2
		女子	1	4	2	2	1	3
	中学3年次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	2	2	2	3
「算数(数学)の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できな いか考える」	小学6年次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	2	2	1	3
	中学3年次	男子	1	4	3	3	2	3
		女子	1	4	3	3	2	4
「算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役 に立つと思う」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	2	2	1	3

1＝当てはまる 2＝どちらかといえば、当てはまる 3＝どちらかといえば、当てはまらない 4＝当てはまらない

表 3.1.3 「総合的な学習の時間」の学習に対する関心・意欲・態度

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「『総合的な学習の時間』の勉強は好きだ」	小学6年次	男子	1	4	2	2	1	3
		女子	1	4	2	2	1	2
	中学3年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	2	3
「『総合的な学習の時間』の授業で学習したことは、ふだんの生活 や社会に出たときに役に立つと思う」	小学6年次	男子	1	4	1	2	1	2
		女子	1	4	1	2	1	2
	中学3年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	2	3

1＝当てはまる 2＝どちらかといえば、当てはまる 3＝どちらかといえば、当てはまらない 4＝当てはまらない

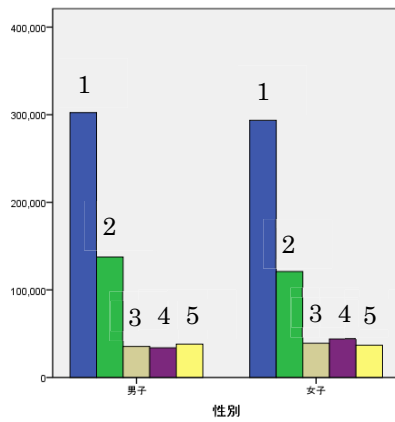
表 3.2 学習時間等

質問項目	調査年次	性別	最小値	最大値	最頻値	中央値	第1四分位数	第3四分位数
「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます)」	小学6年次	男子	1	6	3	3	3	4
		女子	1	6	3	3	2	4
	中学3年次	男子	1	6	3	3	2	4
		女子	1	6	3	3	2	4
1＝3時間以上 4＝30分以上、1時間より少ない	2＝2時間以上、3時間より少ない 5＝30分より少ない	3＝1時間以上、2時間より少ない 6＝全くしない						

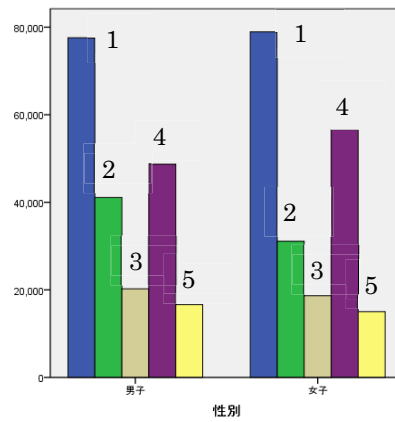
質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます)」	小学6年次	男子	1	6	5	4	4	5
		女子	1	6	5	4	3	5
	中学3年次	男子	1	6	4	4	3	5
		女子	1	6	4	4	3	5
1＝4時間以上 4＝1時間以上、2時間より少ない	2＝3時間以上、4時間より少ない 5＝1時間より少ない	3＝2時間以上、3時間より少ない 6＝全くしない						

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四 分 位 数	第 3 四 分 位 数
「(家で)学校の宿題をしている」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	1
		女子	1	4	1	1	1	1
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
「(家で)学校の授業の予習をしている」	小学6年次	男子	1	4	3	3	2	4
		女子	1	4	3	3	2	3
	中学3年次	男子	1	4	3	3	2	4
		女子	1	4	3	3	2	4
「(家で)学校の授業の復習をしている」	小学6年次	男子	1	4	3	3	2	4
		女子	1	4	3	3	2	3
	中学3年次	男子	1	4	3	3	2	3
		女子	1	4	3	3	2	3
1=している 2=どちらかといえば、している 3=あまりしていない 4=全くしていない								

小学 6 年次



中学 3 年次



「学習塾（家庭教師の先生に教わっている場合もふくみます。）で勉強をしていますか」

1 = 学習塾に通っていない

2 = 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している

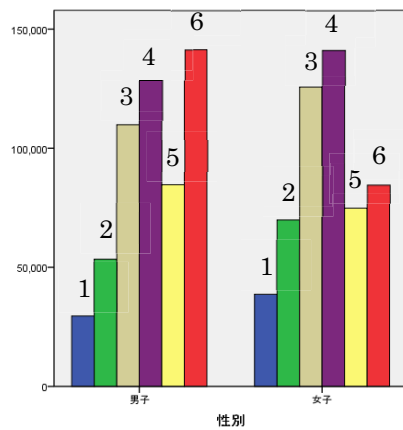
3 = 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している

4 = 上記 2、3 の両方の内容を勉強している

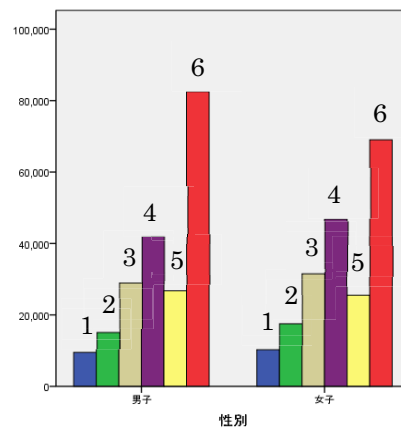
5 = 上記 2、3 の内容のどちらともいえない

図 3.5 （学習時間等）学校外の学習状況

小学 6 年次



中学 3 年次



「家や図書館で、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」

（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）

1 = 2 時間以上

2 = 1 時間以上、2 時間より少ない

3 = 30 分以上、1 時間より少ない

4 = 10 分以上、30 分より少ない

5 = 10 分より少ない

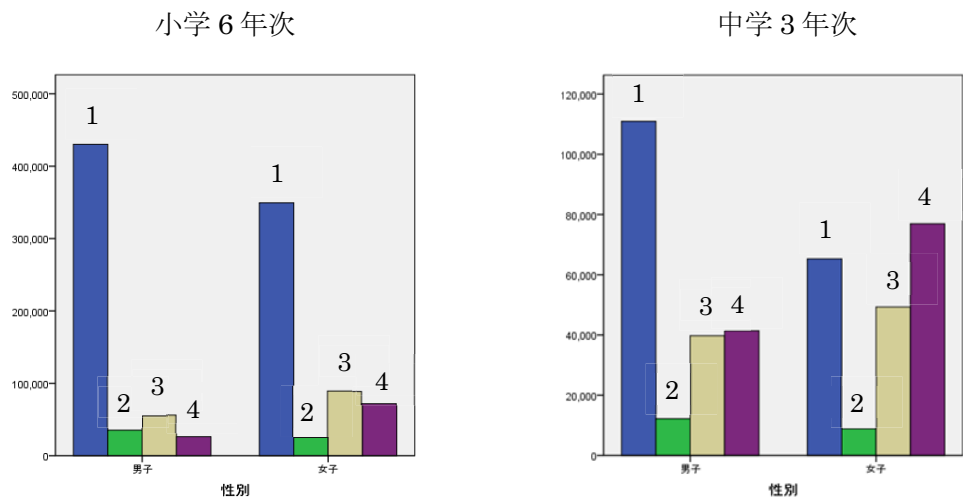
6 = 全くしない

図 3.6 （学習時間等）読書時間

表 3.2 学習時間等（続き）

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「読書は好きだ」	小学6年次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	1	1	1	2

1＝当てはまる 2＝どちらかといえば、当てはまる 3＝どちらかといえば、当てはまらない 4＝当てはまらない



「携帯電話で通話やメールをしていますか」

1＝携帯電話を持っていない 2＝全く、または、ほとんどしていない 3＝ときどきしている 4＝ほぼ毎日している

図 3.7 （学習時間等）携帯電話の使用状況

表 3.2 学習時間等（続き）

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲームをする時間は除きます）」	小学6年次	男子	1	6	3	4	3	5
		女子	1	6	4	4	3	5
	中学3年次	男子	1	6	4	4	3	5
		女子	1	6	4	4	3	5

1＝まったく見たり、聞いたりしない
4＝2時間以上、3時間より少ない

2＝1時間より少ない
5＝3時間以上、4時間より少ない

3＝1時間以上、2時間より少ない
6＝4時間以上

表 3.3 学校生活等

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「(学校で)友達に会うのは楽しい」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	1
		女子	1	4	1	1	1	1
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	1
		女子	1	4	1	1	1	1
「(学校で)好きな授業がある」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	1
		女子	1	4	1	1	1	1
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2

1=そう思う 2=どちらかといえば、そう思う 3=どちらかといえば、そう思わない 4=そう思わない

表 3.4 基本的生活習慣

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「朝食を毎日食べている」	小学6年生次	男子	1	4	1	1	1	1
		女子	1	4	1	1	1	1
	中学3年生次	男子	1	4	1	1	1	1
		女子	1	4	1	1	1	1
「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている」	小学6年生次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年生次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」	小学6年生次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	2	2	1	3
	中学3年生次	男子	1	4	2	2	1	3
		女子	1	4	2	2	1	3
「毎日、同じくらいの時刻に起きている」	小学6年生次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年生次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2

1=している 2=どちらかといえば、している 3=あまりしていない 4=全くしていない

表 3.4 基本的生活習慣（続き）

質問項目	調査年次	性別	最小値	最大値	最頻値	中央値	第1四分位数	第3四分位数
「普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか」	小学6年生次	男子	1	6	3	3	2	4
		女子	1	6	3	3	2	3
	中学3年生次	男子	1	6	3	3	2	4
		女子	1	6	3	3	2	4
1＝午前6時より前 2＝午前6時以降、午前6時30分より前 3＝午前6時30分以降、午前7時より前 4＝午前7時以降、午前7時30分より前 5＝午前7時30分以降、午前8時より前 6＝午前8時以降								

質問項目	調査年次	性別	最小値	最大値	最頻値	中央値	第1四分位数	第3四分位数
「普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか」	小学6年次	男子	1	5	2	3	2	3
		女子	1	5	3	3	2	3
	中学3年次	男子	1	5	4	4	3	4
		女子	1	5	4	4	3	5
1＝午後9時より前 4＝午後11時以降、午前0時より前			2＝午後9時以降、午後10時より前 5＝午前0時以降			3＝午後10時以降、午後11時より前		

質問項目	調査年次	性別	最小値	最大値	最頻値	中央値	第1四分位数	第3四分位数
「普段（月～金曜日）、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか」	小学6年次	男子	1	6	3	3	2	4
		女子	1	6	3	3	2	4
	中学3年次	男子	1	6	4	4	3	5
		女子	1	6	4	4	4	5
1＝10時間以上 4＝7時間以上、8時間より少ない	2＝9時間以上、10時間より少ない 5＝6時間以上、7時間より少ない	3＝8時間以上、9時間より少ない 6＝6時間より少ない						

表 3.5 家庭でのコミュニケーション

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「(家の人と) 普段(月曜日から金曜日)、夕食と一緒に食べる」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
「(家の人と) 学校での出来事について話をする」	小学6年次	男子	1	4	2	2	1	3
		女子	1	4	1	2	1	2
	中学3年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	1	2	1	2

1=している 2=どちらかといえば、している 3=あまりしていない 4=全くしていない

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「家の手伝いをしていますか」	小学6年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	1	2
	中学3年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	2	3

1=よくしている 2=ときどきしている 3=あまりしていない 4=全くしていない

表 3.6 社会に対する興味・関心

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」	小学6年次	男子	1	4	2	2	1	3
		女子	1	4	2	2	2	3
	中学3年次	男子	1	4	2	2	1	3
		女子	1	4	2	2	2	3
「今住んでいる地域の行事に参加している」	小学6年次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	1	2	1	3
	中学3年次	男子	1	4	4	3	2	4
		女子	1	4	3	3	2	4

1=当てはまる 2=どちらかといえば、当てはまる 3=どちらかといえば、当てはまらない 4=当てはまらない

表 3.7 自尊意識

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」	小学6年次	男子	1	4	2	2	1	3
		女子	1	4	2	2	2	3
	中学3年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	2	3
「自分には、よいところがあると思う」	小学6年次	男子	1	4	2	2	1	3
		女子	1	4	2	2	1	3
	中学3年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	2	3
「将来の夢や目標を持っている」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	2	1	3
		女子	1	4	1	2	1	2
「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	1
「人の役に立つ人間になりたいと思う」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2

1＝当てはまる 2＝どちらかといえば、当てはまる 3＝どちらかといえば、当てはまらない 4＝当てはまらない

表 3.8 規範意識等

質問項目	調査年次	性別	最 小 値	最 大 値	最 頻 値	中 央 値	第 1 四分 位 数	第 3 四分 位 数
「学校の規則を守っている」	小学6年次	男子	1	4	2	2	1	2
		女子	1	4	2	2	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	2	1	2
		女子	1	4	2	2	1	2
「友達との約束を守っている」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
「人が困っているときは、進んで助けている」	小学6年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	1	2
	中学3年次	男子	1	4	2	2	2	3
		女子	1	4	2	2	2	2
「近所の人にあつたときは、あいさつをしている」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
	中学3年次	男子	1	4	1	2	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」	小学6年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	1
	中学3年次	男子	1	4	1	1	1	2
		女子	1	4	1	1	1	2

1＝当てはまる 2＝どちらかといえば、当てはまる 3＝どちらかといえば、当てはまらない 4＝当てはまらない

第4章 学校運営関係変数と学校別平均正答率との関連性の分析

1. 問題設定

学校資源(教具、教室や教員)はテストスコアに影響しない(Hojo and Oshio,2010)というのが TIMSS2007 の分析結果であった。また PISA2009 の分析結果からも、「国単位では、学校の資源配分上の自律性とパフォーマンスとの間には明確な関係性は見出せない」(OECD2011,p.2)と指摘されている。

それでは学校運営は、テストスコアに影響しないのだろうか。直接の関連性は認められない、というのがアメリカにおける **School Based Management** における一般的な立場である。学校長のリーダーシップや、学校への予算配分が進展したとしても、テストスコアに作用していくためには、カリキュラムや教員人事も一体となった改革が必要である(Odden1999)。

千葉県データをを用いた分析でも「校長のリーダーシップなど学校運営に関する変数は、小学校、中学校とも、平均正答率およびばらつきのどちらとも有意な関係にない。2000 年代に入り各学校に裁量経費を措置したり競争的資金を導入したりする例が次第に増加しているが、本稿の結果は、各学校に予算を措置すれば学力が向上する、という単純な関係ではないことを示唆している」(篠崎 2008,84 頁)、「また授業研究を伴う研修などいくつかの研修が学力と有意な関係にある」(同上,93 頁)と、日本においても予算やリーダーシップなど単純な制度面での学校運営の改善だけでは学力向上には有意とはいえない傾向が示唆されている。

また「効果のある学校」論を援用した大阪大学の検証では、「教育的に不利な環境のもとにある子どもたちの学力の下支え」に成功している公立小中学校 20 校のエスノグラフィでは、「教師たちが自分の仕事に専念できる環境を維持することに心を砕く」校長や(67 頁)、地域や保護者との連携、中学校における校種間連携など、学校運営が重要な要素として位置づけられている(大阪大学 2011)。

本報告では、学校長のリーダーシップや学校裁量予算、保護者や地域住民の学校参画、教員の研修への取り組み、特別支援教育への取り組み等、学校運営に関連する学校調査の

質問項目（以下、学校運営関係変数）が、学校別の平均正答率とどのような関連性を見せるのかについて、クロス表分析を行っていく。なお学校運営に関連する変数は、学校の裁量のみでは決定できず、市町村教育委員会の制度設計の影響を強く受ける面もあるものの、日常の教育活動の主体は学校であり運営の活性化や制度の有効な利用の手腕は校長によって発揮される。また学校質問紙を用いた分析を行うことから、本章では学校運営関係変数という呼称を用いるものとする。

本稿の知見を概略的に述べておく。学校運営とテストスコアとの関連性は、学校運営が優れているからテストスコアが上昇するというような因果関係というよりは、低学力校ゆえに取り組みにくい事項（保護者や地域への情報開示、教員の校外研修への参加）があるというような、学校の実態が学校運営を規定している場合が多いといえる。

ただし学校運営が、学力向上に関与している可能性のある質問項目(学校評価の学校運営改善への活用、校長のリーダーシップの発揮等)も確認できた。

最後に学力の下支えや学力向上に資する学校運営の分析を可能にするための、学校質問紙調査に対する改善点を検討した。

2. 分析の方針

本報告では、平成 19 年度全国学力・学習状況調査の学校データベースを用いて分析を実施した。平成 19 年度は学校運営に関する設問がもっとも充実しており、学校運営に関連する質問項目と学校別の正答率との関連性が詳細に確認できるというメリットがある。

分析に際しては、学校別の平均正答率を 5 分位に分け、クロス集計に用いた。クロス集計の結果、カイ 2 乗検定で有意となるだけでなく、第 1 分位(平均正答率低)と第 5 分位(平均正答率高)との学校運営に関する回答のポイント差が 5 ポイント以上になるという顕著な傾向を示した学校運営関係変数を析出するという手法を採用している。本章で学力 5 分位を用いたのは、前節に述べたように、学校運営に関する変数とテストスコアに関する変数との関連性が一般的には見出しづらいことから、より学力階層を細分化した分析を実施する必要があると判断したためである。

ここでいう学校運営関係変数とは、学校質問紙項目 63～97 であり、その項目を次頁に示した。

また記述統計は本省末の資料・表 4.9、表 4.10 に示した。

<p>・ 特別支援教育</p> <p>63／学校の教員は、特別支援教育について理解し、子どもの特性に応じた指導ができていますか</p> <p>64／学校全体として特別支援教育の校内支援体制が機能していますか</p> <p>・ 外部サポート人材</p> <p>65／第6（第3）学年の児童に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか</p> <p>66／第6学年の児童に対して、ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか</p> <p>67／第6学年の児童に対して、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか</p> <p>68／職場見学や職場体験活動を行っていますか</p> <p>69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか</p> <p>・ 家庭訪問</p> <p>70／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか</p> <p>71／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか</p> <p>72／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外に、何か問題が起きた時にも実施しましたか</p> <p>73／第6学年の児童に対する家庭訪問は、希望する児童だけを対象に実施しましたか</p> <p>74／第6学年の児童に対して、前年度、定期的な家庭訪問をどれくらい行いましたか</p> <p>・ 情報公開・ステークホルダー参画</p> <p>75／第6学年を対象とした授業参観を、前年度、どれくらい実施しましたか</p> <p>76／家庭への定期的な連絡方法として、学級便り又は学年便りを発行しましたか</p> <p>77／学校から家庭への定期的な連絡方法として、学校便りを発行しましたか</p> <p>78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか</p> <p>79／保護者からの意見や要望を聞くために、懇談会の開催やアンケート調査を実施していますか</p>	<p>80／地域の人々が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか</p> <p>81／学校運営協議会（コミュニティ・スクール）制度を取り入れていますか</p> <p>82／学校評議員（類似の制度によるものを含む）制度を取り入れていますか</p> <p>83／学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか</p> <p>84／学校のホームページを利用して、自己点検評価の結果を公表していますか</p> <p>85／児童による授業評価を実施していますか</p> <p>86／保護者や地域の人などの外部評価者による外部評価を実施していますか</p> <p>87／保護者や地域の方の意見を参考にして、学校の教育目標を作成していますか</p> <p>・ 校内体制</p> <p>88／学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか</p> <p>89／基礎学力の定着について、研修を行っていますか</p> <p>90／模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか</p> <p>91／障害のある児童に対する理解や指導方法の研究など、特別支援教育についての研修を行っていますか</p> <p>92／教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか</p> <p>93／ICTを活用した授業のための研修を行っていますか</p> <p>94／授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか</p> <p>・ 学校マネジメント</p> <p>95／学校運営に校長のリーダーシップが発揮できていると思いますか</p> <p>96／予算に関し、教育委員会に対する校長（学校）の意向はどの程度反映されていますか</p> <p>97／学校には校長の裁量経費がありますか</p> <p>98／所属職員の人事に関し、教育委員会に対する校長の意見はどの程度反映されていますか</p>
--	--

3. 小学校・分析結果

(1)国語 AB および算数 AB に共通する傾向

カイ 2 条検定(1%水準)で有意となった質問項目のうち、第 1 分位(平均正答率低)と第 5 分位(平均正答率高)との学校運営に関する回答のポイント差が 5 ポイント以上と顕著な傾向が確認できた質問項目に着眼した分析を実施していく。表 4.1～表 4.4 に結果を示した。

まず国語 AB および算数 AB のすべてで第 1 分位(平均正答率低)と第 5 分位(平均正答率高)との学校運営に関する回答のポイント差が 5 ポイント以上となった質問項目は以下の通りである。

- ・65／第 6 学年の児童に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか
- ・69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか
- ・70／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか
- ・78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか
- ・80／地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか
- ・86／保護者や地域の人などの外部評価者による外部評価を実施していますか
- ・90／模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか
- ・92／教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか

家庭訪問の期間内実施率(設問 70)を除いては、第 5 五分位(平均正答率高)のほうが該当率が高い傾向となっている。とりわけ、学校の教育活動のホームページ公開(設問 78)、学校公開日(設問 80)などの実施率は、第 5 五分位(平均正答率高)で 7 割以上となっている。いっぽうで第 1 五分位(平均正答率低)でも、7 割前後は実施する傾向にはあるが、実施できていない低学力校が一定数ある傾向は確認できる。

しかしこれらは、学校運営が優れているからテストスコアが上昇するというような因果関係というよりは、低学力校ゆえに組みにくい事項があると考えたほうが妥当といえる。たとえば、教員の学校外研修(設問 92)は、児童の生活態度が落ち着かない学校では、不可能ともいえる。また、地域や PTA の学校参加や外部人材等のボランティア参加や外部

評価への参加(設問 65、69、80、86)も、学力が厳しい学校ほど参加困難といえる。

一方で、家庭訪問の期間内実施率(設問 70)は第 1 五分位(平均正答率低)での実施率がいずれの教科でも 95%以上となっており、ほぼすべての学校で力を入れていることが判明する。第 5 五分位(平均正答率高)とのポイント差も 10 ポイント程度ひらいており、学校運営上の努力として家庭の状況把握や、保護者とのコミュニケーションに力を置いている実態がうかがえる。

ただし、実践的な研修(設問 90)については、第 1 五分位(平均正答率低)の学校においては 50 ポイント未満の実施率となっている。後述するように、教科別の傾向でも、学校運営関係変数の中でも教員研修への取り組みは、学力 5 分位別の傾向差があらわれやすくなっている。高学力の学校ほど研修を「よくしている」が 50%を上回る傾向となるが、低学力校ではその比率は 50%を下回る。実際に、学力向上やそれ以前の児童の生活習慣や学習習慣の改善につなげるためには、低学力校でも研修体制の充実は重要と考えられるが、教職員の余裕のなさをいかに支援していくかが、重要と考えられる。また低学力校の研修ニーズは高学力校の研修ニーズと異なることは、想定されるので、そうしたニーズを県教育委員会や市教育委員会が汲みとり、適切な講師や研修プログラムを学校毎に支援していくことも重要と考えられる。

(2)教科別に傾向があらわれた学校運営関係変数

次に、教科別に傾向があらわれた質問項目を示した。() は該当する教科を示している。

71／第 6 学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか(国 AB、算 B)

76／家庭への定期的な連絡方法として、学級便り又は学年便りを発行しましたか(算 B)

83／学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか(国 AB)

84／学校のホームページを利用して、自己点検評価の結果を公表していますか(国 A、算 B)

85／児童(生徒)による授業評価を実施していますか(国 A)

88／学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか(国 AB、算 B)

89／基礎学力の定着について、研修を行っていますか(国 A、算 A)

94／授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか(算 A)

97／学校には校長の裁量経費がありますか(国 B、算 A)

前述したように、研修関係の設問(88、89)は、「よくしている」への回答比率がいずれも第 5 五分位(平均正答率高)が第 1 五分位(平均正答率低)をうわまわっている。基礎学力の定着(設問 89)では、国語 A、算数 A の第 5 五分位(平均正答率高)への取り組み率が 40%をうわまわっているのに対し、第 1 五分位(平均正答率低)では 10 ポイント以上低い。基礎学力の定着に関する研修が、A 問題での得点を上昇させうる可能性が示唆されるが、そうした研修に取り組みにくい低学力校の実態をうかがわせるものである。

また、学校のマネジメントに関連して、自己点検評価の学校運営改善への活用(設問 83)を「生かしている」について、国語 AB で第 5 五分位(平均正答率高)と第 1 五分位(平均正答率低)の間で 5 ポイント程度の回答率の差異が確認できた。児童による授業評価実施は国 A 問題でのみポイント差が確認された。学校のマネジメントに関連して、校長の裁量経費については国 B、算 A でやはり国語 AB で第 5 五分位(平均正答率高)と第 1 五分位(平均正答率低)の間で 5 ポイント程度の回答率の差異が確認できる。もっとも校長の裁量経費自体の該当率が、第 5 五分位(平均正答率高)でも 20%程度と低いが、国語 B 問題や算数 A 問題では校長の裁量経費が、学校での教育活動を活性化させ学力の伸長に貢献しうる可能性も否定しきれない。

なお第 1 五分位(平均正答率低)のほうが該当率が高かったのは、期間外の家庭訪問(設問 71)、年間 15 回以上の学級便り又は学年便りであった。いずれも家庭とのコミュニケーションの強化の手段であり、低学力校の取り組みとして重点的に取り組まれている実態がうかがえる。

4. 中学校

中学校についての結果表は、表 4.5～表 4.8 に示した。

(1)国語 AB および数学 AB に共通する傾向

中学生の場合、小学生と異なるのが、職場見学・職場体験活動(設問 68)の実施率が第 1 五分位(平均正答率低)で 9 割以上の実施率と、第 5 五分位(平均正答率高)よりも 5 ポイント

以上高かった。低学力校においては、進路指導等の必要性から職場見学等の実施率がより高い傾向が確認できる。

家庭訪問の実施については期間内実施(設問 70)、期間外実施(設問 71)ともに、低学力校のほうが高く、とくに期間外実施率については第 1 五分位(平均正答率低)で 4 割以上となっており、第 5 五分位(正答率高)と比較してどの教科でも 10 ポイント程度の差異がみられる。学力困難な状況にある学校においては、家庭訪問が指導として重点化される傾向を反映したものといえる。

また小学校と同様に研修を「よくしている」学校は、第 5 五分位(平均正答率高)の方が高い傾向にある。実践的な研修(設問 90)、学校外研修(設問 92)は、高学力校で「よくしている」への回答比率が 4 割程度だが、低学力校では 3 割程度にとどまっている。

65／第 3 学年の生徒に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか

68／職場見学や職場体験活動を行っていますか

69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか

70／第 3 学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか

71／第 3 年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか

78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか

85／児童(生徒)による授業評価を実施していますか

90／模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか

92／教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか

(2)教科別に傾向があらわれた学校運営関係変数

教科別に傾向が表れた設問として、小学校と大きく異なるのが校長のリーダーシップ(設問 95)が数学 A 以外において、第 5 五分位(平均正答率高)のほうで「十分に発揮できている」と回答した点である。ただしその比率は 2 割強にとどまっているが、第 1 五分位(平均正答率低)では 2 割未満である。高学力校だからリーダーシップが発揮しやすいのか、あるいは発揮されているリーダーシップの種類が異なるのかも含めて、追加的な検証の対象となる設問といえる。たとえばトップダウン型のリーダーシップであるのか、ボトムアップ

重視のリーダーシップであるのかといった点について尺度の開発が必要といえる。

基礎学力に関する研修(設問 89)は国語 AB において、第 5 五分位(平均正答率高)のほうが「よくしている」と回答している。中学校においては、数学より国語の方が基礎学力向上が、正答率上昇に結びつきやすい可能性があるといえる。

なお特殊な傾向なのは学校評議員(設問 82)である。第 5 五分位の導入率が 9 割未満である。これは高学力校の一部が保守的な学校文化を形成し、保護者や住民参画に慎重である可能性を示唆しており、アカウンタビリティの遂行上、課題があると考えられるものの正答率との関連性は見出しにくい。

82／学校評議員(類似の制度によるものを含む)制度を取り入れていますか(国 AB、数 B)

83／学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか(国 A)

88／学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか(国 B)

89／基礎学力の定着について、研修を行っていますか(国 AB)

95／学校運営に校長のリーダーシップが発揮できていると思いますか(国 AB、数 B)

5. 考察と課題

1 節にも述べた通り、学校運営とテストスコアとの関連性は、学校運営が優れているからテストスコアが上昇するというような因果関係というよりは、低学力校ゆえに組みにくい事項(保護者や地域への情報開示、教員の校外研修への参加)があるというように、学校の実態が学校運営を規定している場合が多いといえる。

外部人材の活用や保護者や地域住民のボランティア参加、自己評価等への参加は、学校運営に余裕がある高学力校ほど高くなる傾向になるのは、ある意味当然といえる。

ただし、教員研修については、第 1 五分位(平均正答率低)ほど「よく行った」比率が低くなる傾向にあることが、課題として指摘できる。とくに基礎学力の定着に関する研修を「よく行った」比率が第 5 五分位ほど高い傾向が、小中学校ともに確認されている。実際には基礎学力に関する指導の充実やそのための研修をもっとも必要としているのは、政策的には低学力校なのにもかかわらず、そうしたニーズが実現できるような支援が都道府県教育委員会や市町村教育委員会から行われていないケースも多いと考えられる。

学校質問紙では、教育委員会との関係は人事、予算に限定されており、研修ニーズや講

師派遣ニーズ、サポートスタッフ等の学校支援ニーズの反映に関する設問についても必要性が認識される。低学力校での学力向上への取り組みを充実させるためにも、学校が何を支援として必要としているのか、といった調査を継続的に実施することは、教育委員会の支援体制を充実するうえでも有効性が高いと考えられる。

いっぽうで学校運営が、学力向上に関与している可能性のある質問項目(校長の裁量経費、校長のリーダーシップの発揮等)も確認できた。

小学校では、校長の裁量経費が、国語 B、算数 A において第 5 五分位(平均正答率高)で該当率が高くなる傾向にある。もともと校長の裁量経費そのものの導入率が低いので全国的に一般的な傾向とはいえないだろうが、自治体毎のより詳細な分析により校長の在任年数や金額の多寡等の影響がより明確化できる可能性がある。

中学校では校長のリーダーシップが「十分に発揮」されている率が第 5 五分位(平均正答率高)で高くなる傾向が確認できた。ここで発揮されているリーダーシップの種類についても、トップダウン型であるのかボトムアップ重視であるのかといった質的差異が、高学力校と低学力校の間には存在すると想定できるので、今後の計量的な実証課題の 1 つといえる。

学校運営関係変数は、低学力校で必要とされている支援や、有効な学校運営のシステムを検討するうえで重要である。学校現場のニーズをくみ取り、教育委員会の支援にむすびつけるための調査や結果共有の仕組みは、学力向上に寄与する政策立案に対しても有効であると考えられる。

末富 芳（日本大学）

引用参考文献

篠崎武久,2008,「教育資源と学力の関係」千葉県検証改善委員会『平成 19 年度 「全国学力・学習状況調査」 分 析 報 告 書』,73-97 頁.

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/kikou/chiba/chiba.pdf>

OECD, 2011, "School autonomy and Accountability: Are they related to student Performance?"

<http://www.pisa.oecd.org/dataoecd/17/43/48910490.pdf>

Odden, A., 1999, "School Based Financing in North America", Goertz, M and Odden edit. , School Based Financing, Corwin Press, pp.155-187.

大阪大学, 2011, 『子どもたちの学力水準を下支えしている学校の特徴に関する調査研究』, 平成 22 年度文部科学省委託研究「学力調査を活用した専門的課題分析に関する調査研究」研究成果報告書,

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/01/20/1315171_02.pdf

表 4.1 小学校国語 A

***<0.001,**<0.01,*<0.05		N	選択肢			
H19_学校質問紙回答_65／第6学年の児童に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか***	平均正答率別五分位	N	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4497	23.1%	50.9%	21.9%	4.0%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4387	23.8%	54.9%	18.5%	2.8%
	第3五分位 (平均正答率中)	4399	24.7%	54.0%	18.8%	2.6%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4385	25.9%	54.0%	17.7%	2.4%
	第5五分位 (平均正答率高)	4384	28.7%	51.6%	16.9%	2.8%
H19_学校質問紙回答_69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか***	平均正答率別五分位	N	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない
	第1五分位 (平均正答率低)	4494	45.2%	49.0%	5.5%	0.4%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4387	44.4%	51.0%	4.4%	0.2%
	第3五分位 (平均正答率中)	4397	47.2%	49.1%	3.6%	0.1%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4385	49.9%	46.7%	3.3%	0.1%
	第5五分位 (平均正答率高)	4386	57.5%	39.8%	2.3%	0.3%
H19_学校質問紙回答_70／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	4487	95.5%	4.5%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4382	94.8%	5.2%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4394	93.6%	6.4%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4384	92.2%	7.8%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4380	88.4%	11.6%		
H19_学校質問紙回答_71／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	4487	31.0%	69.0%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4385	25.9%	74.1%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4394	24.9%	75.1%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4382	24.4%	75.6%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4382	26.4%	73.6%		
H19_学校質問紙回答_78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	4499	67.7%	32.3%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4386	72.9%	27.1%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4399	75.9%	24.1%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4386	77.0%	23.0%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4392	74.1%	25.9%		
H19_学校質問紙回答_80／地域の人々が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	4492	74.7%	25.3%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4385	79.1%	20.9%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4393	81.7%	18.3%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4385	82.1%	17.9%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4389	81.8%	18.2%		

H19_学校質問紙回答.83/学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか***	平均正答率別五分位	N	生かしている	どちらかといえば生かしている	どちらかといえば生かしていない	全く、または、ほとんど生かしていない	自己点検評価を行っていない	
	第1五分位 (平均正答率低)	4500	73.4%	24.5%	1.3%	0.1%	0.6%	
	第2五分位 (平均正答率中低)	4387	76.2%	22.4%	0.9%	0.1%	0.4%	
	第3五分位 (平均正答率中)	4398	77.7%	21.1%	0.9%	0.1%	0.3%	
	第4五分位 (平均正答率中高)	4388	78.1%	20.8%	0.7%	0.0%	0.5%	
	第5五分位 (平均正答率高)	4389	79.7%	19.0%	0.4%	0.0%	0.8%	
H19_学校質問紙回答.84/学校のホームページを利用して、自己点検評価の結果を公表していますか***	平均正答率別五分位	N	公表している	ホームページは利用していないが、学校便利などを利用して公表	公表していないが、今後、公表する予定	公表していないが、今は未定である	公表していないし、今後も公表する予定はない	自己点検評価を行っていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4497	7.3%	43.3%	8.3%	33.2%	6.3%	1.6%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4384	8.7%	48.3%	7.6%	29.7%	4.5%	1.1%
	第3五分位 (平均正答率中)	4398	10.0%	47.1%	7.8%	29.7%	4.8%	0.7%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4389	10.0%	47.3%	8.3%	28.0%	5.1%	1.2%
	第5五分位 (平均正答率高)	4386	11.6%	47.4%	6.2%	27.9%	5.5%	1.3%
H19_学校質問紙回答.85/児童による授業評価を実施していますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない				
	第1五分位 (平均正答率低)	4496	40.2%	59.8%				
	第2五分位 (平均正答率中低)	4387	43.7%	56.3%				
	第3五分位 (平均正答率中)	4397	45.4%	54.6%				
	第4五分位 (平均正答率中高)	4388	45.0%	55.0%				
	第5五分位 (平均正答率高)	4391	45.4%	54.6%				
H19_学校質問紙回答.86/保護者や地域の人などの外部評価者による外部評価を実施していますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない				
	第1五分位 (平均正答率低)	4496	51.4%	48.6%				
	第2五分位 (平均正答率中低)	4382	55.6%	44.4%				
	第3五分位 (平均正答率中)	4397	56.6%	43.4%				
	第4五分位 (平均正答率中高)	4385	58.1%	41.9%				
	第5五分位 (平均正答率高)	4390	58.1%	41.9%				

H19. 学校質問紙回答.88／学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない		
	第1五分位 (平均正答率低)	4499	50.9%	37.9%	9.4%	1.7%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4387	55.4%	35.8%	7.7%	1.1%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4399	57.6%	34.1%	7.4%	0.9%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4388	59.2%	33.4%	6.3%	1.1%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4390	58.0%	32.5%	8.0%	1.4%		
H19. 学校質問紙回答.89／基礎学力の定着について、研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない		
	第1五分位 (平均正答率低)	4499	35.6%	51.2%	12.6%	0.6%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4387	36.1%	50.2%	13.0%	0.6%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4397	38.4%	49.1%	11.9%	0.5%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4388	38.8%	49.0%	11.6%	0.6%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4391	41.9%	46.7%	11.0%	0.4%		
H19. 学校質問紙回答.90／模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか****	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない		
	第1五分位 (平均正答率低)	4499	48.1%	42.5%	8.9%	0.5%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4387	51.1%	39.5%	8.8%	0.6%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4397	53.3%	37.8%	8.4%	0.5%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4388	53.6%	38.4%	7.6%	0.4%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4391	56.6%	36.0%	7.1%	0.3%		
H19. 学校質問紙回答.92／教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか****	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない		
	第1五分位 (平均正答率低)	4498	46.0%	49.6%	4.4%	0.1%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4387	49.4%	46.9%	3.7%	0.0%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4398	51.0%	45.3%	3.6%	0.1%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4388	51.6%	45.0%	3.4%	0.0%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4391	55.7%	41.2%	3.1%	0.1%		
H19. 学校質問紙回答.97／学校には校長の裁量経費がありますか***	平均正答率別五分位	N	ある	ない				
	第1五分位 (平均正答率低)	4490	15.1%	84.9%				
	第2五分位 (平均正答率中低)	4370	15.2%	84.8%				
	第3五分位 (平均正答率中)	4387	16.8%	83.2%				
	第4五分位 (平均正答率中高)	4382	18.3%	81.7%				
	第5五分位 (平均正答率高)	4384	18.8%	81.2%				
H19. 学校質問紙回答.98／所属職員の人事に關し、教育委員会に対する校長の意見はどの程度反映されていますか***	平均正答率別五分位	N	よく反映されている	反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	公立学校ではないため、該当しない	
	第1五分位 (平均正答率低)	4490	7.0%	61.0%	30.1%	1.7%	0.2%	
	第2五分位 (平均正答率中低)	4370	6.4%	61.9%	30.2%	1.5%	0.1%	
	第3五分位 (平均正答率中)	4387	6.4%	61.9%	30.0%	1.6%	0.1%	
	第4五分位 (平均正答率中高)	4382	5.8%	61.8%	30.5%	1.6%	0.3%	
	第5五分位 (平均正答率高)	4384	6.8%	61.2%	28.2%	1.8%	2.1%	

表 4.2 小学校国語 B

***<0.001,**<0.01,*<0.05		N	選択肢				
H19_学校質問紙回答_65／第6学年の児童に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか***	平均正答率別五分位	N	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	
	第1五分位 (平均正答率低)	4443	22.5%	51.7%	21.7%	4.1%	
	第2五分位 (平均正答率中低)	4418	23.5%	53.0%	20.3%	3.2%	
	第3五分位 (平均正答率中)	4433	24.9%	55.2%	17.3%	2.5%	
	第4五分位 (平均正答率中高)	4413	26.6%	53.7%	17.6%	2.2%	
	第5五分位 (平均正答率高)	4339	28.9%	51.7%	16.8%	2.6%	
H19_学校質問紙回答_69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか****	平均正答率別五分位	N	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない	
	第1五分位 (平均正答率低)	4440	46.1%	48.4%	5.1%	0.4%	
	第2五分位 (平均正答率中低)	4418	45.1%	49.9%	4.8%	0.1%	
	第3五分位 (平均正答率中)	4434	46.4%	49.8%	3.7%	0.2%	
	第4五分位 (平均正答率中高)	4413	50.2%	46.6%	3.0%	0.2%	
	第5五分位 (平均正答率高)	4340	56.4%	40.8%	2.5%	0.3%	
H19_学校質問紙回答_70／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ			
	第1五分位 (平均正答率低)	4433	96.4%	3.6%			
	第2五分位 (平均正答率中低)	4413	95.4%	4.6%			
	第3五分位 (平均正答率中)	4430	93.7%	6.3%			
	第4五分位 (平均正答率中高)	4410	92.2%	7.8%			
	第5五分位 (平均正答率高)	4337	86.8%	13.2%			
H19_学校質問紙回答_71／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ			
	第1五分位 (平均正答率低)	4432	32.3%	67.7%			
	第2五分位 (平均正答率中低)	4416	26.0%	74.0%			
	第3五分位 (平均正答率中)	4431	25.0%	75.0%			
	第4五分位 (平均正答率中高)	4410	24.1%	75.9%			
	第5五分位 (平均正答率高)	4337	25.3%	74.7%			
H19_学校質問紙回答_78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ			
	第1五分位 (平均正答率低)	4444	64.3%	35.7%			
	第2五分位 (平均正答率中低)	4418	71.0%	29.0%			
	第3五分位 (平均正答率中)	4433	76.9%	23.1%			
	第4五分位 (平均正答率中高)	4417	78.4%	21.6%			
	第5五分位 (平均正答率高)	4346	77.1%	22.9%			
H19_学校質問紙回答_80／地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ			
	第1五分位 (平均正答率低)	4438	73.5%	26.5%			
	第2五分位 (平均正答率中低)	4413	78.7%	21.3%			
	第3五分位 (平均正答率中)	4434	80.7%	19.3%			
	第4五分位 (平均正答率中高)	4410	83.4%	16.6%			
	第5五分位 (平均正答率高)	4345	83.1%	16.9%			

H19 学校質問紙回答 81／学校運営協議会(コミュニティ・スクール)制度を取り入れていますか***	平均正答率別五分位	N	取り入れている	取り入れていないが、今後、取り入れる予定である	取り入れていないが、今後は未定である	取り入れていないし、今後も取り入れる予定はない	
	第1五分位 (平均正答率低)	4441	5.3%	6.7%	66.3%	21.8%	
	第2五分位 (平均正答率中低)	4416	5.5%	6.8%	65.4%	22.3%	
	第3五分位 (平均正答率中)	4433	6.3%	6.6%	64.9%	22.3%	
	第4五分位 (平均正答率中高)	4415	6.9%	7.0%	63.4%	22.7%	
	第5五分位 (平均正答率高)	4344	8.4%	7.5%	60.8%	23.4%	
H19 学校質問紙回答 83／学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか***	平均正答率別五分位	N	生かしている	どちらかといえば生かしている	どちらかといえば生かしていない	全く、または、ほとんど生かしていない	自己点検評価を行っていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4446	72.9%	24.9%	1.6%	0.0%	0.7%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4418	75.8%	23.0%	0.7%	0.1%	0.4%
	第3五分位 (平均正答率中)	4435	78.5%	20.5%	0.8%	0.0%	0.3%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4416	78.4%	20.4%	0.6%	0.1%	0.5%
	第5五分位 (平均正答率高)	4343	79.6%	19.1%	0.6%	0.0%	0.8%
H19 学校質問紙回答 86／保護者や地域の人などの外部評価者による外部評価を実施していますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない			
	第1五分位 (平均正答率低)	4441	50.7%	49.3%			
	第2五分位 (平均正答率中低)	4416	54.7%	45.3%			
	第3五分位 (平均正答率中)	4430	56.4%	43.6%			
	第4五分位 (平均正答率中高)	4414	59.1%	40.9%			
	第5五分位 (平均正答率高)	4345	58.8%	41.2%			
H19 学校質問紙回答 88／学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	
	第1五分位 (平均正答率低)	4446	49.8%	38.3%	10.1%	1.8%	
	第2五分位 (平均正答率中低)	4417	54.1%	36.5%	8.2%	1.2%	
	第3五分位 (平均正答率中)	4435	57.8%	33.9%	7.0%	1.2%	
	第4五分位 (平均正答率中高)	4417	59.5%	32.7%	6.7%	1.1%	
	第5五分位 (平均正答率高)	4344	59.9%	32.3%	6.9%	0.9%	

H19_学校質問紙回答.90／模擬授業 や事例研究など、実践的な研修を 行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、して いる	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4446	48.0%	41.8%	9.5%	0.6%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4416	50.6%	41.1%	7.8%	0.5%
	第3五分位 (平均正答率中)	4434	52.2%	38.6%	8.6%	0.5%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4417	55.5%	36.5%	7.7%	0.3%
	第5五分位 (平均正答率高)	4345	56.4%	36.1%	7.2%	0.3%
H19_学校質問紙回答.92／教員が、 他校や外部の研修機関などの学校 外での研修に積極的に参加できるよ うにしていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、して いる	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4446	45.6%	49.8%	4.5%	0.1%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4415	48.8%	47.3%	3.9%	0.0%
	第3五分位 (平均正答率中)	4435	50.8%	45.9%	3.2%	0.0%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4417	52.9%	43.9%	3.1%	0.0%
	第5五分位 (平均正答率高)	4345	55.5%	41.0%	3.4%	0.1%
H19_学校質問紙回答.97／学校には 校長の裁量経費がありますか***	平均正答率別五分位	N	ある	ない		
	第1五分位 (平均正答率低)	4438	14.8%	85.2%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4405	14.8%	85.2%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4423	16.4%	83.6%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4407	18.0%	82.0%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4336	20.2%	79.8%		

表 4.3 小学校算数 A

***<0.001,**<0.01,*<0.05		N	選択肢			
H19_学校質問紙回答.65／第6学年の児童に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか***	平均正答率別五分位	N	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4477	21.7%	52.2%	22.4%	3.7%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4352	24.5%	53.8%	18.8%	2.8%
	第3五分位 (平均正答率中)	4417	25.2%	54.3%	17.6%	2.8%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4486	26.0%	53.5%	18.1%	2.4%
	第5五分位 (平均正答率高)	4318	28.8%	51.6%	16.7%	2.9%
H19_学校質問紙回答.69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか***	平均正答率別五分位	N	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない
	第1五分位 (平均正答率低)	4476	45.1%	48.9%	5.6%	0.4%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4351	45.5%	50.0%	4.3%	0.2%
	第3五分位 (平均正答率中)	4416	46.8%	49.6%	3.3%	0.2%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4487	50.1%	46.3%	3.4%	0.1%
	第5五分位 (平均正答率高)	4319	56.6%	40.6%	2.4%	0.3%
H19_学校質問紙回答.70／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	4468	95.1%	4.9%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4349	94.9%	5.1%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4412	93.5%	6.5%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4483	91.8%	8.2%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4315	89.1%	10.9%		
H19_学校質問紙回答.78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	4476	67.9%	32.1%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4353	73.6%	26.4%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4419	76.2%	23.8%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4491	75.3%	24.7%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4323	74.6%	25.4%		

H19_学校質問紙回答.80／地域の人 が自由に授業参観などができる学校 公開日を設けていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	4475	75.3%	24.7%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4350	79.2%	20.8%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4415	81.9%	18.1%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4486	81.5%	18.5%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4318	81.4%	18.6%		
H19_学校質問紙回答.86／保護者や 地域の人などの外部評価者による外 部評価を実施していますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない		
	第1五分位 (平均正答率低)	4472	51.1%	48.9%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4350	54.9%	45.1%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4417	56.7%	43.3%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4490	57.7%	42.3%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4321	59.4%	40.6%		
H19_学校質問紙回答.89／基礎学力 の定着について、研修を行っています か***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、してし	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4478	34.9%	52.0%	12.5%	0.6%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4353	36.8%	49.9%	12.7%	0.6%
	第3五分位 (平均正答率中)	4419	38.4%	49.0%	12.1%	0.5%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4490	38.6%	48.6%	12.3%	0.5%
	第5五分位 (平均正答率高)	4322	42.4%	46.6%	10.5%	0.4%

H19_学校質問紙回答.90／模擬授業 や事例研究など、実践的な研修を 行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、して いる	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4478	48.4%	42.0%	9.1%	0.6%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4353	51.9%	39.0%	8.6%	0.5%
	第3五分位 (平均正答率中)	4419	53.4%	38.0%	8.3%	0.4%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4490	53.7%	38.0%	7.6%	0.6%
	第5五分位 (平均正答率高)	4322	55.2%	37.1%	7.4%	0.3%
H19_学校質問紙回答.92／教員が、 他校や外部の研修機関などの学校 外での研修に積極的に参加できるよ うにしていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、して いる	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4478	46.2%	49.5%	4.2%	0.1%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4353	49.3%	47.0%	3.7%	0.0%
	第3五分位 (平均正答率中)	4419	51.1%	45.3%	3.6%	0.0%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4490	52.2%	44.2%	3.5%	0.0%
	第5五分位 (平均正答率高)	4322	54.9%	41.9%	3.1%	0.1%
H19_学校質問紙回答.97／学校には 校長の裁量経費がありますか***	平均正答率別五分位	N	ある	ない		
	第1五分位 (平均正答率低)	4466	14.1%	85.9%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4343	16.8%	83.2%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4410	17.3%	82.7%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4480	16.9%	83.1%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4314	19.1%	80.9%		

表 4.4 小学校算数 B

***<0.001,**<0.01,*<0.05		N	選択肢						
	平均正答率別五分位	N	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない			
H19_学校質問紙回答_65／第6学年の児童に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか****	第1五分位 (平均正答率低)	4411	22.5%	51.1%	22.2%	4.2%			
	第2五分位 (平均正答率中低)	4499	23.7%	53.4%	19.8%	3.0%			
	第3五分位 (平均正答率中)	4353	25.5%	54.5%	17.8%	2.2%			
	第4五分位 (平均正答率中高)	4417	25.6%	55.3%	17.0%	2.1%			
	第5五分位 (平均正答率高)	4367	29.0%	51.1%	16.9%	3.0%			
H19_学校質問紙回答_69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか****	平均正答率別五分位	N	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない			
	第1五分位 (平均正答率低)	4408	47.5%	46.9%	5.2%	0.4%			
	第2五分位 (平均正答率中低)	4499	44.9%	50.4%	4.6%	0.2%			
	第3五分位 (平均正答率中)	4353	47.6%	48.8%	3.5%	0.1%			
	第4五分位 (平均正答率中高)	4418	49.6%	47.1%	3.2%	0.1%			
	第5五分位 (平均正答率高)	4368	54.6%	42.4%	2.7%	0.4%			
H19_学校質問紙回答_70／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか****	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ					
	第1五分位 (平均正答率低)	4403	96.3%	3.7%					
	第2五分位 (平均正答率中低)	4497	95.2%	4.8%					
	第3五分位 (平均正答率中)	4348	94.1%	5.9%					
	第4五分位 (平均正答率中高)	4414	92.0%	8.0%					
	第5五分位 (平均正答率高)	4362	86.8%	13.2%					
H19_学校質問紙回答_71／第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか****	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ					
	第1五分位 (平均正答率低)	4404	30.3%	69.7%					
	第2五分位 (平均正答率中低)	4497	26.9%	73.1%					
	第3五分位 (平均正答率中)	4349	25.2%	74.8%					
	第4五分位 (平均正答率中高)	4415	24.9%	75.1%					
	第5五分位 (平均正答率高)	4362	25.4%	74.6%					
H19_学校質問紙回答_76／家庭への定期的な連絡方法として、学級便り又は学年便りを発行しましたか****	平均正答率別五分位	N	1週間に1回以上発行した	2週間に1回程度発行した	1か月に1回程度発行した	学期に1回程度発行した	年間に1回だけ発行した	必要に応じて発行した	全く発行しなかった
	第1五分位 (平均正答率低)	4409	44.5%	20.4%	31.6%	0.7%	0.0%	2.0%	0.8%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4498	37.9%	21.7%	38.8%	0.4%	0.0%	1.1%	0.1%
	第3五分位 (平均正答率中)	4351	35.6%	22.2%	40.3%	0.4%	0.0%	1.3%	0.1%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4416	32.7%	22.0%	43.8%	0.3%	0.0%	1.1%	0.0%
	第5五分位 (平均正答率高)	4367	36.0%	20.7%	40.7%	0.5%	0.0%	1.7%	0.4%

H19_学校質問紙回答.78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか****	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ				
	第1五分位 (平均正答率低)	4413	63.7%	36.3%				
	第2五分位 (平均正答率中低)	4496	71.7%	28.3%				
	第3五分位 (平均正答率中)	4353	74.9%	25.1%				
	第4五分位 (平均正答率中高)	4423	79.4%	20.6%				
	第5五分位 (平均正答率高)	4374	78.0%	22.0%				
H19_学校質問紙回答.80／地域の人 が自由に授業参観などができる学校 公開日を設けていますか****	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ				
	第1五分位 (平均正答率低)	4409	74.2%	25.8%				
	第2五分位 (平均正答率中低)	4494	79.7%	20.3%				
	第3五分位 (平均正答率中)	4349	81.1%	18.9%				
	第4五分位 (平均正答率中高)	4420	82.3%	17.7%				
	第5五分位 (平均正答率高)	4369	82.0%	18.0%				
H19_学校質問紙回答.84／学校の ホームページを利用して、自己点検 評価の結果を公表していますか****	平均正答率別五分位	N	公表している	ホームページは利用 していないが、学校便り などを利用して公表	公表していないが、今 後、公表する予定	公表していないが、今 後は未定である	公表していないし、今 後も公表する予定はな い	自己点検評価を行っ ていない
	第1五分位 (平均正答率低)	4414	6.9%	44.7%	8.2%	32.7%	6.2%	1.3%
	第2五分位 (平均正答率中低)	4498	8.2%	47.4%	7.5%	30.7%	4.9%	1.3%
	第3五分位 (平均正答率中)	4349	9.8%	46.7%	8.4%	29.3%	4.7%	1.0%
	第4五分位 (平均正答率中高)	4420	10.5%	47.8%	7.5%	28.1%	5.1%	0.9%
	第5五分位 (平均正答率高)	4370	12.3%	46.6%	6.6%	27.8%	5.4%	1.3%
H19_学校質問紙回答.86／保護者や 地域の人などの外部評価者による外 部評価を実施していますか****	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない				
	第1五分位 (平均正答率低)	4410	51.0%	49.0%				
	第2五分位 (平均正答率中低)	4495	53.4%	46.6%				
	第3五分位 (平均正答率中)	4349	57.3%	42.7%				
	第4五分位 (平均正答率中高)	4419	58.7%	41.3%				
	第5五分位 (平均正答率高)	4374	59.5%	40.5%				
H19_学校質問紙回答.88／学校で テーマを決め、講師を招聘するなどの 校内研修を行っていますか****	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、し て いる	あまりしていない	全くしていない		
	第1五分位 (平均正答率低)	4414	50.3%	38.0%	9.9%	1.8%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	4499	54.7%	36.1%	7.9%	1.2%		
	第3五分位 (平均正答率中)	4353	58.2%	33.7%	6.9%	1.2%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	4421	58.6%	33.7%	6.8%	0.8%		
	第5五分位 (平均正答率高)	4373	59.2%	32.2%	7.5%	1.2%		

H19. 学校質問紙回答 90. 模範授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか****	平均正常率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない						
	第1五分位 (平均正常率低)	4415	48.7%	41.6%	8.1%	0.6%						
	第2五分位 (平均正常率中低)	4499	50.3%	40.2%	8.9%	0.5%						
	第3五分位 (平均正常率中)	4352	53.2%	38.7%	7.6%	0.5%						
	第4五分位 (平均正常率中高)	4420	54.8%	36.9%	7.9%	0.4%						
	第5五分位 (平均正常率高)	4373	55.6%	36.7%	7.4%	0.3%						
H19. 学校質問紙回答 92. 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか****	平均正常率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない						
	第1五分位 (平均正常率低)	4415	46.6%	48.9%	4.4%	0.1%						
	第2五分位 (平均正常率中低)	4498	48.9%	47.3%	3.8%	0.0%						
	第3五分位 (平均正常率中)	4352	50.5%	45.7%	3.7%	0.0%						
	第4五分位 (平均正常率中高)	4421	53.2%	44.1%	2.6%	0.1%						
	第5五分位 (平均正常率高)	4373	54.4%	42.0%	3.6%	0.0%						
H19. 正常率五分位. 国A * H19. 学校質問紙回答 94. 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか****	平均正常率別五分位	N	年間15回以上	年間13回から14回	年間11回から12回	年間9回から10回	年間7回から8回	年間5回から6回	年間3回から4回	年間1回から2回	全く実施していない	
	第1五分位 (平均正常率低)	4413	16.6%	4.5%	7.2%	9.4%	17.3%	23.0%	18.3%	3.4%	0.3%	
	第2五分位 (平均正常率中低)	4498	22.8%	5.4%	7.8%	9.8%	17.6%	21.2%	13.3%	1.9%	0.2%	
	第3五分位 (平均正常率中)	4349	23.7%	5.0%	7.7%	10.9%	19.0%	18.7%	12.6%	2.1%	0.1%	
	第4五分位 (平均正常率中高)	4418	23.8%	5.4%	7.8%	10.2%	18.6%	19.5%	12.7%	1.9%	0.1%	
	第5五分位 (平均正常率高)	4367	21.6%	4.9%	8.0%	10.7%	17.4%	21.3%	13.7%	2.2%	0.3%	

表 4.5 中学校国語A

***<0.001,**<0.01,*<0.05		N	選択肢			
H19_学校質問紙回答_65／第6学年の生徒に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか***	平均正答率別五分位	N	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2103	11.90%	42.90%	30.30%	14.80%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2105	13.40%	44.20%	31.60%	10.70%
	第3五分位 (平均正答率中)	2104	15.40%	45.20%	29.40%	9.90%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2102	14.30%	44.00%	31.00%	10.70%
	第5五分位 (平均正答率高)	2102	17.80%	43.80%	25.70%	12.70%
H19_学校質問紙回答_68／職場見学や職場体験活動を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない		
	第1五分位 (平均正答率低)	2104	93.20%	6.80%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2103	96.10%	3.90%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2104	96.00%	4.00%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2102	96.10%	3.90%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2098	86.70%	13.30%		
H19_学校質問紙回答_69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか***	平均正答率別五分位	N	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない
	第1五分位 (平均正答率低)	2101	36.50%	52.50%	9.80%	1.30%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2104	37.60%	53.40%	8.50%	0.50%
	第3五分位 (平均正答率中)	2105	42.90%	50.10%	6.60%	0.30%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2101	44.60%	48.60%	6.30%	0.50%
	第5五分位 (平均正答率高)	2097	46.40%	44.80%	6.60%	2.20%
H19_学校質問紙回答_70／第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2092	86.20%	13.80%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2103	83.00%	17.00%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2101	83.60%	16.40%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2100	80.60%	19.40%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2099	72.10%	27.90%		
H19_学校質問紙回答_71／第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2094	42.60%	57.40%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2102	39.00%	61.00%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2099	39.30%	60.70%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2099	37.70%	62.30%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2099	29.50%	70.50%		
H19_学校質問紙回答_78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2084	69.20%	30.80%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2097	73.80%	26.20%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2098	72.30%	27.70%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2095	73.50%	26.50%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2090	77.70%	22.30%		

H19_学校質問紙回答.82／学校評議員(類似の制度によるものを含む)制度を取り入れていますか***	平均正答率別五分位	N	取り入れている	取り入れていないが、今後、取り入れる予定である	取り入れていないが、今後は未定である	取り入れていないし、今後も取り入れる予定はない
	第1五分位 (平均正答率低)	2087	87.00%	3.90%	7.10%	2.00%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2095	90.50%	2.70%	5.20%	1.60%
	第3五分位 (平均正答率中)	2097	89.50%	3.30%	5.80%	1.50%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2093	88.10%	3.50%	7.30%	1.10%
	第5五分位 (平均正答率高)	2090	78.90%	3.50%	13.20%	4.40%
H19_学校質問紙回答.85／生徒による授業評価を実施していますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない		
	第1五分位 (平均正答率低)	2087	47.20%	52.80%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2096	50.00%	50.00%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2097	55.80%	44.20%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2095	55.70%	44.30%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2089	58.50%	41.50%		
H19_学校質問紙回答.89／基礎学力の定着について、研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2087	24.60%	52.20%	21.80%	1.30%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2098	24.50%	53.50%	21.00%	1.00%
	第3五分位 (平均正答率中)	2097	26.20%	53.20%	19.80%	0.90%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2093	24.70%	54.80%	18.80%	1.60%
	第5五分位 (平均正答率高)	2094	29.90%	48.00%	19.80%	2.20%
H19_学校質問紙回答.90／模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2087	27.60%	48.30%	22.40%	1.80%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2098	27.10%	48.30%	23.20%	1.40%
	第3五分位 (平均正答率中)	2097	31.00%	49.80%	18.00%	1.10%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2094	32.70%	47.70%	18.30%	1.30%
	第5五分位 (平均正答率高)	2092	37.60%	41.80%	18.70%	1.80%
H19_学校質問紙回答.92／教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2084	31.70%	58.90%	9.30%	0.00%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2098	30.20%	59.10%	10.60%	0.10%
	第3五分位 (平均正答率中)	2098	34.20%	57.60%	7.90%	0.30%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2094	35.60%	55.10%	9.20%	0.10%
	第5五分位 (平均正答率高)	2089	42.00%	50.20%	7.60%	0.20%
H19_学校質問紙回答.95／学校運営に校長のリーダーシップが発揮できていると思いますか***	平均正答率別五分位	N	十分に発揮できている	発揮できている	あまり発揮できていない	全く発揮できていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2082	19.20%	71.30%	9.40%	0.00%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2097	18.20%	72.40%	9.30%	0.00%
	第3五分位 (平均正答率中)	2096	18.80%	72.60%	8.60%	0.00%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2091	20.20%	71.40%	8.40%	0.00%
	第5五分位 (平均正答率高)	2086	24.80%	67.40%	7.70%	0.00%

表 4.6 中学校国語 B

***<0.001,**<0.01,*<0.05		N	選択肢			
H19_学校質問紙回答.65／第6学年の生徒に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか***	平均正答率別五分位	N	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2101	11.40%	43.60%	30.70%	14.40%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2104	13.90%	44.90%	30.40%	10.80%
	第3五分位 (平均正答率中)	2104	14.80%	42.70%	31.80%	10.60%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2105	14.40%	46.20%	29.10%	10.40%
	第5五分位 (平均正答率高)	2099	18.50%	42.80%	26.20%	12.50%
H19_学校質問紙回答.68／職場見学や職場体験活動を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない		
	第1五分位 (平均正答率低)	2103	92.80%	7.20%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2101	96.10%	3.90%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2104	96.50%	3.50%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2105	95.30%	4.70%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2095	87.40%	12.60%		
H19_学校質問紙回答.69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか***	平均正答率別五分位	N	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない
	第1五分位 (平均正答率低)	2099	35.20%	52.80%	10.80%	1.20%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2103	38.70%	54.00%	6.80%	0.60%
	第3五分位 (平均正答率中)	2105	41.30%	50.60%	7.60%	0.50%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2103	45.20%	48.40%	6.00%	0.40%
	第5五分位 (平均正答率高)	2095	47.70%	43.70%	6.50%	2.10%
H19_学校質問紙回答.70／第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2094	87.20%	12.80%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2098	83.00%	17.00%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2104	83.00%	17.00%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2103	81.00%	19.00%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2093	71.50%	28.50%		
H19_学校質問紙回答.71／第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2096	44.30%	55.70%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2097	38.90%	61.10%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2102	38.80%	61.20%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2102	35.70%	64.30%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2093	30.30%	69.70%		

H19_学校質問紙回答.78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ			
	第1五分位 (平均正答率低)	2080	68.10%	31.90%			
	第2五分位 (平均正答率中低)	2096	72.10%	27.90%			
	第3五分位 (平均正答率中)	2096	72.10%	27.90%			
	第4五分位 (平均正答率中高)	2098	76.90%	23.10%			
	第5五分位 (平均正答率高)	2091	77.20%	22.80%			
H19_学校質問紙回答.82／学校評議員(類似の制度によるものを含む)制度を取り入れていますか***	平均正答率別五分位	N	取り入れている	取り入れていないが、今後、取り入れる予定である	取り入れていないが、今後は未定である	取り入れていないし、今後もし取り入れる予定はない	
	第1五分位 (平均正答率低)	2082	86.80%	3.80%	7.30%	2.10%	
	第2五分位 (平均正答率中低)	2094	89.70%	3.20%	5.80%	1.20%	
	第3五分位 (平均正答率中)	2095	89.20%	2.90%	6.30%	1.60%	
	第4五分位 (平均正答率中高)	2099	88.90%	3.00%	6.30%	1.70%	
	第5五分位 (平均正答率高)	2089	79.30%	3.90%	12.80%	3.90%	
H19_学校質問紙回答.83／学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか***	平均正答率別五分位	N	生かしている	どちらかといえば生かしている	どちらかといえば生かしていない	全く、または、ほとんど生かしていない	自己点検評価を行っていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2084	66.00%	29.80%	2.20%	0.30%	1.70%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2097	70.50%	27.10%	1.40%	0.30%	0.70%
	第3五分位 (平均正答率中)	2095	73.10%	25.00%	1.00%	0.10%	0.90%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2098	75.10%	23.00%	0.90%	0.10%	0.90%
	第5五分位 (平均正答率高)	2091	72.60%	21.70%	1.30%	0.00%	4.30%
H19_学校質問紙回答.85／生徒による授業評価を実施していますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない			
	第1五分位 (平均正答率低)	2083	45.40%	54.60%			
	第2五分位 (平均正答率中低)	2096	51.20%	48.80%			
	第3五分位 (平均正答率中)	2095	55.20%	44.80%			
	第4五分位 (平均正答率中高)	2097	55.90%	44.10%			
	第5五分位 (平均正答率高)	2090	59.50%	40.50%			
H19_学校質問紙回答.88／学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	
	第1五分位 (平均正答率低)	2083	34.20%	48.80%	14.20%	2.70%	
	第2五分位 (平均正答率中低)	2096	33.30%	51.80%	12.90%	2.00%	
	第3五分位 (平均正答率中)	2095	33.70%	50.00%	14.40%	2.00%	
	第4五分位 (平均正答率中高)	2098	34.70%	48.00%	14.90%	2.40%	
	第5五分位 (平均正答率高)	2091	40.30%	43.10%	13.60%	3.00%	
H19_学校質問紙回答.89／基礎学力の定着について、研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	
	第1五分位 (平均正答率低)	2085	22.80%	52.70%	23.40%	1.10%	
	第2五分位 (平均正答率中低)	2095	24.50%	53.30%	21.10%	1.10%	
	第3五分位 (平均正答率中)	2096	26.00%	53.50%	19.20%	1.20%	
	第4五分位 (平均正答率中高)	2098	26.30%	53.70%	18.80%	1.30%	
	第5五分位 (平均正答率高)	2092	30.40%	48.60%	18.70%	2.30%	

H19_学校質問紙回答.90／模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2085	25.50%	48.90%	23.90%	1.70%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2096	27.90%	49.40%	21.40%	1.40%
	第3五分位 (平均正答率中)	2095	31.20%	47.70%	19.70%	1.40%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2098	32.20%	48.40%	18.30%	1.10%
	第5五分位 (平均正答率高)	2091	39.10%	41.50%	17.50%	1.90%
H19_学校質問紙回答.92／教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2082	30.50%	59.80%	9.70%	0.00%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2096	30.60%	59.20%	10.00%	0.10%
	第3五分位 (平均正答率中)	2094	33.40%	57.00%	9.40%	0.20%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2098	35.50%	55.90%	8.50%	0.10%
	第5五分位 (平均正答率高)	2090	43.60%	49.20%	7.00%	0.20%
H19_学校質問紙回答.95／学校運営に校長のリーダーシップが発揮できていると思いますか***	平均正答率別五分位	N	十分に発揮できている	発揮できている	あまり発揮できていない	全く発揮できていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2083	18.30%	71.10%	10.60%	0.10%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2091	19.80%	71.50%	8.70%	0.00%
	第3五分位 (平均正答率中)	2093	18.40%	72.70%	8.90%	0.00%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2096	20.70%	71.40%	7.90%	0.00%
	第5五分位 (平均正答率高)	2086	24.00%	68.60%	7.40%	0.00%

表 4.7 中学校数学A

***<0.001,**<0.01,*<0.05		N	選択肢			
H19_学校質問紙回答.65／第6学年の生徒に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか***	平均正答率別五分位	N	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2102	12.10%	42.80%	30.70%	14.40%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2107	14.30%	43.80%	31.10%	10.80%
	第3五分位 (平均正答率中)	2103	14.20%	45.20%	30.10%	10.60%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2102	14.50%	45.80%	30.00%	9.80%
	第5五分位 (平均正答率高)	2100	18.00%	42.50%	26.30%	13.20%
H19_学校質問紙回答.68／職場見学や職場体験活動を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない		
	第1五分位 (平均正答率低)	2102	93.20%	6.80%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2106	95.90%	4.10%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2103	96.00%	4.00%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2101	95.90%	4.10%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2097	87.10%	12.90%		
H19_学校質問紙回答.69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか***	平均正答率別五分位	N	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない
	第1五分位 (平均正答率低)	2101	36.60%	52.50%	9.70%	1.20%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2104	40.30%	51.90%	7.40%	0.50%
	第3五分位 (平均正答率中)	2104	42.00%	50.20%	7.10%	0.70%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2099	42.90%	50.70%	6.10%	0.30%
	第5五分位 (平均正答率高)	2098	46.40%	43.90%	7.60%	2.00%
H19_学校質問紙回答.70／第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2094	85.00%	15.00%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2102	82.70%	17.30%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2098	83.90%	16.10%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2100	81.50%	18.50%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2099	72.50%	27.50%		
H19_学校質問紙回答.71／第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2096	40.30%	59.70%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2101	39.60%	60.40%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2096	40.00%	60.00%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2099	36.30%	63.70%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2099	31.90%	68.10%		

H19_学校質問紙回答.78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2083	67.90%	32.10%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2097	71.80%	28.20%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2100	72.00%	28.00%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2089	75.50%	24.50%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2093	79.40%	20.60%		
H19_学校質問紙回答.85／生徒による授業評価を実施していますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない		
	第1五分位 (平均正答率低)	2085	47.90%	52.10%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2098	51.90%	48.10%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2099	54.00%	46.00%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2088	56.80%	43.20%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2092	56.70%	43.30%		
H19_学校質問紙回答.90／模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2086	27.70%	48.30%	22.40%	1.60%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2098	29.00%	48.70%	21.20%	1.10%
	第3五分位 (平均正答率中)	2100	31.00%	49.00%	18.60%	1.40%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2089	32.10%	47.70%	19.10%	1.10%
	第5五分位 (平均正答率高)	2093	36.20%	42.20%	19.40%	2.20%
H19_学校質問紙回答.92／教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2084	32.40%	58.40%	9.10%	0.00%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2097	32.10%	57.90%	9.80%	0.10%
	第3五分位 (平均正答率中)	2099	34.10%	56.70%	9.00%	0.20%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2090	35.50%	55.30%	9.00%	0.20%
	第5五分位 (平均正答率高)	2091	39.50%	52.70%	7.70%	0.10%

表 4.8 中学校数学 B

***<0.001,**<0.01,*<0.05		N	選択肢			
	平均正答率別五分位	N	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない
H19_学校質問紙回答.65／第6学年の生徒に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか***	第1五分位 (平均正答率低)	2099	12.10%	44.40%	29.80%	13.70%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2105	14.00%	43.50%	30.80%	11.80%
	第3五分位 (平均正答率中)	2101	14.90%	43.50%	31.20%	10.30%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2099	14.70%	45.10%	30.50%	9.70%
	第5五分位 (平均正答率高)	2103	17.30%	43.70%	25.80%	13.20%
H19_学校質問紙回答.68／職場見学や職場体験活動を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない		
	第1五分位 (平均正答率低)	2101	93.00%	7.00%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2104	95.40%	4.60%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2099	96.60%	3.40%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2098	95.70%	4.30%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2100	87.50%	12.50%		
H19_学校質問紙回答.69／PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか***	平均正答率別五分位	N	よく参加してくれる	参加してくれる	あまり参加してくれない	全く参加してくれない
	第1五分位 (平均正答率低)	2098	35.70%	52.90%	10.20%	1.20%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2104	40.80%	51.00%	7.70%	0.50%
	第3五分位 (平均正答率中)	2101	42.00%	51.20%	6.10%	0.70%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2097	43.20%	49.80%	6.60%	0.40%
	第5五分位 (平均正答率高)	2099	46.40%	44.50%	7.20%	1.90%
H19_学校質問紙回答.70／第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2092	85.90%	14.10%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2099	84.30%	15.70%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2100	83.20%	16.80%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2095	81.50%	18.50%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2100	70.90%	29.10%		
H19_学校質問紙回答.71／第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2095	42.50%	57.50%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2096	39.30%	60.70%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2098	38.70%	61.30%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2095	36.10%	63.90%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2100	31.50%	68.50%		

H19_学校質問紙回答.78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	はい	いいえ		
	第1五分位 (平均正答率低)	2080	67.00%	33.00%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2099	71.50%	28.50%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2093	72.30%	27.70%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2089	76.00%	24.00%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2094	79.80%	20.20%		
H19_学校質問紙回答.82／学校評議員(類似の制度によるものを含む)制度を取り入れていますか***	平均正答率別五分位	N	取り入れている	取り入れていないが、今後、取り入れる予定である	取り入れていないが、今後は未定である	取り入れていないし、今後も取り入れる予定はない
	第1五分位 (平均正答率低)	2082	86.50%	3.70%	7.80%	2.00%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2097	88.40%	3.60%	6.40%	1.50%
	第3五分位 (平均正答率中)	2093	88.20%	3.60%	6.90%	1.30%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2088	90.30%	2.90%	5.20%	1.70%
	第5五分位 (平均正答率高)	2093	80.60%	3.10%	12.30%	4.00%
H19_学校質問紙回答.85／生徒による授業評価を実施していますか***	平均正答率別五分位	N	実施している	実施していない		
	第1五分位 (平均正答率低)	2083	47.00%	53.00%		
	第2五分位 (平均正答率中低)	2098	50.80%	49.20%		
	第3五分位 (平均正答率中)	2094	55.00%	45.00%		
	第4五分位 (平均正答率中高)	2086	57.00%	43.00%		
	第5五分位 (平均正答率高)	2094	57.50%	42.50%		
H19_学校質問紙回答.90／模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2083	27.80%	47.80%	22.70%	1.70%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2100	28.50%	49.80%	20.70%	1.00%
	第3五分位 (平均正答率中)	2094	30.40%	49.00%	19.40%	1.20%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2087	32.40%	47.70%	18.30%	1.60%
	第5五分位 (平均正答率高)	2095	36.70%	41.80%	19.40%	2.10%
H19_学校質問紙回答.92／教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか***	平均正答率別五分位	N	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2081	32.20%	58.30%	9.40%	0.10%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2099	32.80%	57.00%	10.10%	0.10%
	第3五分位 (平均正答率中)	2095	33.40%	58.00%	8.50%	0.10%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2086	35.10%	55.60%	9.10%	0.30%
	第5五分位 (平均正答率高)	2093	40.10%	52.10%	7.60%	0.10%
H19_学校質問紙回答.95／学校運営に校長のリーダーシップが発揮できていると思いますか***	平均正答率別五分位	N	十分に発揮できている	発揮できている	あまり発揮できていない	全く発揮できていない
	第1五分位 (平均正答率低)	2079	18.40%	71.00%	10.40%	0.10%
	第2五分位 (平均正答率中低)	2098	19.60%	71.70%	8.70%	0.00%
	第3五分位 (平均正答率中)	2088	18.90%	72.50%	8.60%	0.00%
	第4五分位 (平均正答率中高)	2086	19.80%	72.70%	7.50%	0.10%
	第5五分位 (平均正答率高)	2092	24.50%	67.30%	8.20%	0.00%

資料

表4.9小学校記述統計

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
H19_学校質問紙回答_63／学校の教員は、特別支援教育について理解し、子どもの特性に応じた指導ができていますか	22088	1	4	1.95	.577
H19_学校質問紙回答_64／学校全体として特別支援教育の校内支援体制が機能していますか	22087	1	4	2.01	.603
H19_学校質問紙回答_65／第6学年の児童に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	22083	1	4	1.99	.746
H19_学校質問紙回答_66／第6学年の児童に対して、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	22084	1	4	2.85	.973
H19_学校質問紙回答_67／第6学年の児童に対して、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	22082	1	4	2.72	.789
H19_学校質問紙回答_68／職場見学や職場体験活動を行っていますか	22054	1	2	1.67	.469

H19_学校質問紙回答_69／P TAや地域の人が学校の諸 活動にボランティアとして参 加してくれますか	22083	1	4	1.56	.581
H19_学校質問紙回答_70／第 6学年の児童に対する家庭 訪問は、学校で決めた期間 に実施しましたか	22061	1	2	1.07	.257
H19_学校質問紙回答_71／第 6学年の児童に対する家庭 訪問は、学校で決めた期間 以外にも、普段からよく実施 しましたか	22064	1	2	1.73	.442
H19_学校質問紙回答_72／第 6学年の児童に対する家庭 訪問は、学校で決めた期間 以外に、何か問題が起きた 時にも実施しましたか	22056	1	2	1.05	.227
H19_学校質問紙回答_73／第 6学年の児童に対する家庭 訪問は、希望する児童だけを 対象に実施しましたか	22041	1	2	1.92	.270
H19_学校質問紙回答_74／第 6学年の児童に対して、前年 度、定期的な家庭訪問をどれ くらい行いましたか	22078	1	4	2.88	.615
H19_学校質問紙回答_75／第 6学年を対象とした授業参観 を、前年度、どれくらい実施し ましたか	22058	1	7	1.69	1.171

H19_学校質問紙回答_76／家庭への定期的な連絡方法として、学級便り又は学年便りを発行しましたか	22078	1	7	2.10	1.040
H19_学校質問紙回答_77／学校から家庭への定期的な連絡方法として、学校便りを発行しましたか	22082	1	5	1.27	.828
H19_学校質問紙回答_78／学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか	22096	1	2	1.27	.441
H19_学校質問紙回答_79／保護者からの意見や要望を聞くために、懇談会の開催やアンケート調査を実施していますか	22088	1	2	1.02	.148
H19_学校質問紙回答_80／地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか	22078	1	2	1.20	.401
H19_学校質問紙回答_81／学校運営協議会(コミュニティ・スクール)制度を取り入れていますか	22087	1	4	3.03	.743
H19_学校質問紙回答_82／学校評議員(類似の制度によるものを含む)制度を取り入れていますか	22095	1	4	1.22	.632

H19_学校質問紙回答_83／学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか	22096	1	5	1.26	.524
H19_学校質問紙回答_84／学校のホームページを利用して、自己点検評価の結果を公表していますか	22088	1	6	2.78	1.189
H19_学校質問紙回答_85／児童による授業評価を実施していますか	22093	1	2	1.56	.496
H19_学校質問紙回答_86／保護者や地域の人などの外部評価者による外部評価を実施していますか	22084	1	2	1.44	.496
H19_学校質問紙回答_87／保護者や地域の人意見を参考に、学校の教育目標を作成していますか	22097	1	4	2.20	.836
H19_学校質問紙回答_88／学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	22097	1	4	1.54	.692
H19_学校質問紙回答_89／基礎学力の定着について、研修を行っていますか	22096	1	4	1.75	.679
H19_学校質問紙回答_90／模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	22096	1	4	1.57	.661

H19_学校質問紙回答_91／障害のある児童に対する理解や指導方法の研究など、特別支援教育についての研修を行っていますか	22096	1	4	1.82	.696
H19_学校質問紙回答_92／教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	22096	1	4	1.53	.570
H19_学校質問紙回答_93／ICTを活用した授業のための研修を行っていますか	22079	1	4	2.34	.735
H19_学校質問紙回答_94／授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか	22082	1	9	4.29	2.201
H19_学校質問紙回答_95／学校運営に校長のリーダーシップが発揮できていると思いますか	22069	1	4	1.90	.504
H19_学校質問紙回答_96／予算に関し、教育委員会に対する校長(学校)の意向はどの程度反映されていますか	22054	1	5	2.61	.678
H19_学校質問紙回答_97／学校には校長の裁量経費がありますか	22046	1	2	1.83	.374
H19_学校質問紙回答_98／所属職員の人事に関し、教育委員会に対する校長の意見	22044	1	5	2.28	.630

はどの程度反映されていますか					
有効なケースの数（リストごと）	21782				

表4.10 中学校記述統計

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
H19_学校質問紙回答_63／ (学校の教員は、特別支援教育について理解し、子どもの特性に応じた指導ができていますか)	10680	1	4	2.10	.638
H19_学校質問紙回答_64／ (学校全体として特別支援教育の校内支援体制が機能していますか)	10679	1	4	2.21	.647
H19_学校質問紙回答_65／ (第3学年の生徒に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか)	10710	1	4	2.38	.874
H19_学校質問紙回答_66／ (第3学年の生徒に対して、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか)	10709	1	4	3.30	.869
H19_学校質問紙回答_67／ (第3学年の生徒に対して、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか)	10713	1	4	3.10	.800
H19_学校質問紙回答_68／ (職場見学や職場体験活動を行っていますか)	10705	1	2	1.06	.245

H19_学校質問紙回答_69／ (PTAや地域の人が学校の 諸活動にボランティアとして 参加してくれますか)	10701	1	4	1.68	.653
H19_学校質問紙回答_70／ (第3学年の生徒に対する家 庭訪問は、学校で決めた期 間を実施しましたか)	10689	1	2	1.19	.391
H19_学校質問紙回答_71／ (第3学年の生徒に対する家 庭訪問は、学校で決めた期 間以外にも、普段からよく実 施しましたか)	10687	1	2	1.62	.485
H19_学校質問紙回答_72／ (第3学年の生徒に対する家 庭訪問は、学校で決めた期 間以外に、何か問題が起き た時にも実施しましたか)	10686	1	2	1.05	.218
H19_学校質問紙回答_73／ (第3学年の生徒に対する家 庭訪問は、希望する生徒だ けを対象に実施しましたか)	10681	1	2	1.90	.304
H19_学校質問紙回答_74／ (第3学年の生徒に対して、 前年度、定期的な家庭訪問 をどれくらい行いましたか)	10700	1	4	2.98	.701
H19_学校質問紙回答_75／ (第3学年を対象とした授業 参観を、前年度、どれくらい 実施しましたか)	10672	1	7	2.75	1.390

H19_学校質問紙回答_76／ (家庭への定期的な連絡方法として、学級便り又は学年便りを発行しましたか)	10703	1	7	2.33	1.280
H19_学校質問紙回答_77／ (学校から家庭への定期的な連絡方法として、学校便りを発行しましたか)	10706	1	5	1.72	1.254
H19_学校質問紙回答_78／ (学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行っていますか)	10658	1	2	1.27	.443
H19_学校質問紙回答_79／ (保護者からの意見や要望を聞くために、懇談会の開催やアンケート調査を実施していますか)	10658	1	2	1.03	.175
H19_学校質問紙回答_80／ (地域の人々が自由に授業参観などができる学校公開日を設けていますか)	10655	1	2	1.27	.442
H19_学校質問紙回答_81／ (学校運営協議会(コミュニティ・スクール)制度を取り入れていますか)	10650	1	4	3.07	.738
H19_学校質問紙回答_82／ (学校評議員(類似の制度によるものを含む)制度を取り入れていますか)	10656	1	4	1.25	.684

H19_学校質問紙回答_83／ (学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか)	10662	1	5	1.35	.683
H19_学校質問紙回答_84／ (学校のホームページを利用して、自己点検評価の結果を公表していますか)	10658	1	6	2.84	1.230
H19_学校質問紙回答_85／ (生徒による授業評価を実施していますか)	10657	1	2	1.47	.499
H19_学校質問紙回答_86／ (保護者や地域の人などの外部評価者による外部評価を実施していますか)	10654	1	2	1.44	.497
H19_学校質問紙回答_87／ (保護者や地域の人意見を参考にして、学校の教育目標を作成していますか)	10657	1	4	2.30	.870
H19_学校質問紙回答_88／ (学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか)	10659	1	4	1.84	.750
H19_学校質問紙回答_89／ (基礎学力の定着について、研修を行っていますか)	10662	1	4	1.97	.720
H19_学校質問紙回答_90／ (模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか)	10661	1	4	1.92	.753

H19_学校質問紙回答_91／ (障害のある児童に対する理解や指導方法の研究など、特別支援教育についての研修を行っていますか)	10657	1	4	2.11	.747
H19_学校質問紙回答_92／ (教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか)	10656	1	4	1.75	.615
H19_学校質問紙回答_93／(ICTを活用した授業のための研修を行っていますか)	10656	1	4	2.62	.718
H19_学校質問紙回答_94／ (授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか)	10647	1	9	5.71	2.137
H19_学校質問紙回答_95／ (学校運営に校長のリーダーシップが発揮できていると思いますか)	10645	1	4	1.89	.527
H19_学校質問紙回答_96／ (予算に関し、教育委員会に対する校長(学校)の意向はどの程度反映されていますか)	10617	1	5	2.67	.789
H19_学校質問紙回答_97／ (学校には校長の裁量経費がありますか)	10633	1	2	1.84	.366

H19_学校質問紙回答_98／ (所属職員の人事に関し, 教 育委員会に対する校長の意 見はどの程度反映されてい ますか)	10614	1	5	2.38	.787
有効なケースの数 (リストごと)	10403				

第5章 学力と市町村指標

1. はじめに

本稿の目的は、市町村レベルで集計される数字、例えば雇用環境や財政などの変数と学力との関係を明らかにすることである。具体的には、2007年の「全国学力・学習状況調査」の結果と、総務省統計局が整備している「社会・人口統計体系（SSDS）」の結果を市町村単位でマッチングさせ、市町村内の平均正答率と完全失業率や財政力指数などとの関係を確認する。

「全国学力・学習状況調査」の最初の調査が2007年に実施されてから、2011年度までに4回の調査が実施された。「全国学力・学習状況調査」が実施される以前は、個々の研究者が研究グループを組織して学力に関する独自のデータセットを構築し分析していたが、「全国学力・学習状況調査」の結果が蓄積されるにつれて、この調査を用いた分析の報告も次第に増加している。分析データの形式から見ると、それらの分析は、「全国学力・学習状況調査」の公表されている集計データに依拠するものと、個票データに依拠するものの2種類がある。

都道府県単位などで公表されている集計データに分析を依拠する場合、学力の規定要因に関して児童・生徒レベル、あるいは学校レベルの詳細な情報を利用することはできない。その代わり、都道府県単位で集計されている他の統計データの情報をを用いて、「全国学力・学習状況調査」では調査されていない項目と児童・生徒の学力との関係について考察することが可能である。

例えば野崎他（2011）は、「全国学力・学習状況調査」の公表されている都道府県別集計データに、「学校基本調査」などの政府統計から入手できる小学校教育費や、地域の失業率、1人あたり雇用者報酬額などのデータをマッチングさせて、教育関連予算と学力との関係について検証している。結果、教育関連予算と都道府県の平均学力との間には統計的に有意な関係が見られないが、教育関連予算と都道府県の学力のばらつき⁽¹⁾との間には統計的に有意な関係が見られることを示している⁽²⁾。

一方、個票データに分析を依拠した場合、学力の規定要因について、児童・生徒レベル、あるいは学校レベルでより詳細に分析することが可能である。例えば赤林他（2011）は「全国学力・学習状況調査」の静岡県分のデータ、および教員や学級編成に関するデータを利用して、学級規模と学力との関係について学校レベルで検証している。赤林他（2011）は Angrist and Lavy（1999）などでも使用されている非連続回帰デザイン（RDD: Regression Discontinuity Design）を適用して、学級規模の縮小と学力との関係を厳密に検証している。結果、学級規模の縮小が学力テストの正答率を向上させる効果を持つという強い根拠は得られなかったとしている。

赤林他（2011）は、教員や学級編成に関するデータを静岡県から提供してもらうことで、「全国学力・学習状況調査」の調査項目からは外れているが、児童・生徒の学力を規定するかもしれない要因について、可能な限り把握しようと試みている⁽³⁾。ただそれでも、「全国学力・学習状況調査」の調査票の中に児童・生徒の家庭の生活水準や親の状況などに関する項目が含まれていないため、これらの項目と学力との関係を考察したり、これらの項目で分析を制御したりすることは難しくなっている。

本稿の分析は、公表されている集計データに依拠した分析と、個票データに依拠した分析の間に位置している。本稿では「全国学力・学習状況調査」の個票データから、各教科の市町村別の平均正答率を計算し、市町村の平均的な学力を示す指標として用いる。同時に、総務省統計局が整備している「社会・人口統計体系」から各市町村の雇用状況や母子家庭比率、財政力指数などのデータを入手し、これらの項目と学力との関係について検証している。先に挙げた野崎他（2011）などでも、公表されている「全国学力・学習状況調査」の集計データと他の政府統計とのマッチングが行われているが、都道府県別データの場合、サンプルサイズが1年あたり47に限られること、各都道府県内の都市部と地方部の間の異質性を十分に制御できないこと、などの制約がある。本稿の分析は、個票データから再集計した市町村別の平均正答率と「社会・人口統計体系」の市町村別データを用いることで、サンプルサイズの大幅な改善と、都道府県内の異質性の制御が図られている。

分析結果について、市町村の平均的な学力と有意な関係を持つ要因のみを先取りすると、市町村の完全失業率、離婚率、母子世帯比率と市町村の平均的な学力との間には負の関係が観察される。完全失業率、離婚率は小学校よりも中学校の学力との相関が高い。第二次産業に従事する者の比率が高い地域では学力が低い傾向が確認できる。地域の平均的な豊かさを示す1人あたり課税対象所得や親世代の大学卒比率と市町村の平均的な学力との間

には正の関係がある。

本稿の構成は以下の通りである。まず 2 節では分析に用いるデータの概略、および分析用いる変数の定義について説明する。3 節では 2 節で作成した市町村別データセットを用いて、学力と雇用環境や財政などとの関係について検証する。4 節で結論と残された課題について述べる。

2. 分析に用いるデータ

本節では本稿で用いるデータセットの作成方法について述べる。本稿で用いるデータセットは、2 つの元データの情報を市町村単位でマッチングさせたものである。

元データの 1 つは「全国学力・学習状況調査」の全国レベルの個票データである。この個票データには、教科に関する調査の結果のほか、児童・生徒質問紙の内容と学校質問紙の内容も含まれている。この個票データから教科に関する調査の結果（小学校は国語 A、B、算数 A、B、中学校は国語 A、B、数学 A、B）を取り出し、市町村単位で各教科、各問題に関する平均正答率を算出した。

元データのもう 1 つは、総務省統計局が整備する「社会・人口統計体系（SSDS）」の市町村レベルのデータである⁽⁴⁾。「社会・人口統計体系」は人口、経済、行政などに関する地域別統計データを収集し、体系的に編纂したもので、例えば人口に関しては「国勢調査」などの統計が、経済に関しては「事業所・企業統計調査」などの統計が、それぞれ収められている。本稿の分析では、この「社会・人口統計体系」から、児童・生徒の学力と関係がありそうな要因を取り出し、使用した。

上記の 2 つの元データから取り出した 2 つのデータセットを、元データ内に含まれる市町村コードを用いてマッチングさせ、1 つのデータセットを作成した。マッチングの際には、市町村立や組合立などの別に配慮した。本稿で用いるデータセットはこのマッチング済みのデータセットである。このデータセットから分析に必要な変数を作成した。具体的な変数の作成手順は以下の通りである。

労働力人口比率（女）（2005 年）

労働力人口（女）/15 歳以上人口（女）*100 で計算される。域内の女性の労働への参加率を表す。労働力人口（女）、15 歳以上人口（女）ともに「国勢調査」からの数字である。単位は%。

完全失業率（2005 年）

完全失業者数/労働力人口*100 で計算される。域内の雇用状況を表す。完全失業者数、労働力人口ともに、「国勢調査」からの数字である。単位は%。

第二次産業従業者比率（2006 年）

第二次産業従業者数/従業者数*100 で計算される。域内の産業構造を表す。第二次産業従業者数、従業者数ともに「事業所・企業統計調査」からの数字である。単位は%。

高齢化率（2005 年）

65 歳以上人口/人口総数*100 で計算される。域内の高齢化の状況を表す。65 歳以上人口、人口総数ともに「国勢調査」からの数字である。単位は%。

離婚率（2005 年）

離婚件数/人口総数*100 で計算される。域内の離婚に関する状況を表す。離婚件数は「人口動態統計」から、人口総数は「国勢調査」からの数字である。単位は%

母子世帯比率（2005 年）

母子世帯数/世帯数*100 で計算される。域内の母子世帯の割合を表す。母子世帯数、世帯数ともに「国勢調査」からの数字である。単位は%。

大学・大学院卒割合（20-49 歳男）（2000 年）

最終学歴人口（大学・大学院）20-49 歳（男）/20-49 歳人口（男）*100 で計算される。域内の児童・生徒の父親にあたる世代において、最終学歴が大学・大学院卒の者の割合を表す。最終学歴人口（大学・大学院）20-49 歳（男）、20-49 歳人口（男）ともに「国勢調査」からの数字で、5 歳刻み、または 10 歳刻みの数字を 20-49 歳の数字としてまとめた。単位は%。

大学・大学院卒割合（20-49 歳女）（2000 年）

最終学歴人口（大学・大学院）20-49 歳（女）/20-49 歳人口（女）*100 で計算される。域内の児童・生徒の母親にあたる世代において、最終学歴が大学・大学院卒の者の割合を表す。最終学歴人口（大学・大学院）20-49 歳（女）、20-49 歳人口（女）ともに「国勢調査」からの数字で、5 歳刻み、または 10 歳刻みの数字を 20-49 歳の数字としてまとめた。単位は%。

財政力指数（市町村財政）（2005 年）

基準財政収入額/基準財政需要額で計算される。当該市町村の財政力の強さを表す。市町村の標準的な税収の過去 3 年分の数字を、標準的な歳出の過去 3 年分の数字で除して、さ

らに3で割ることにより算出される。この数字が1を超えると地方交付税交付金の不交付団体となる。財政力指数については上記の計算方法により計算された値が「社会・人口統計体系」内に収められているので、これをそのまま利用する。

1人あたり児童福祉費（市町村財政）（2005年）

児童福祉費/15歳未満人口で計算される。域内の児童・生徒1人あたりの児童福祉の費用を表す。児童福祉費は「地方財政統計年報」から、15歳未満人口は「国勢調査」からの数字である。単位は万円。

1人あたり課税対象所得（2005年）

課税対象所得/納税義務者数で計算される。域内の平均的な所得水準の代理指標として使用する。域内の個人の市町村民税の所得割の課税対象となった前年の所得金額を、個人の市町村民税の所得割の納税義務者数で除すことで算出される。課税対象所得、納税義務者数ともに「市町村税課税状況等の調」からの数字である。単位は万円。

市町村単位で計算された平均正答率、および平均正答率との関係を見る市町村レベルのデータの度数分布を図5.1、図5.2に示した。

3. 学力と市町村指標との関係

本節では前節で定義した変数と学力との関係について、散布図と単回帰分析の結果から考察する。単回帰分析については、「全国学力・学習状況調査」の受験者数で重み付けした結果を示した。以下、学力と雇用状況等との関係、学力と家庭状況等との関係、学力と財政等との関係の順で検証する。

「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査の結果は2007年から2010までの4回分存在するが、すべての市町村の教科に関する調査の結果がわかるのは、悉皆調査として実施された2007年から2009年までの3回分のデータである。他方、前節で定義した変数の多くは「国勢調査」を元に算出されているので、直近の数字で利用可能なのは2005年前後の1か年分の数字に限られる。そこで以下では「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査の結果のうち、2007年の数字のみを使用して、2005年前後の市町村単位の指標との関係について検証する。

なお以下では、学力と雇用状況、家庭状況等、財政等との関係を確認するが、ここでいう関係とは主に相関関係のことで、厳密な因果関係ではないことに注意する必要がある。

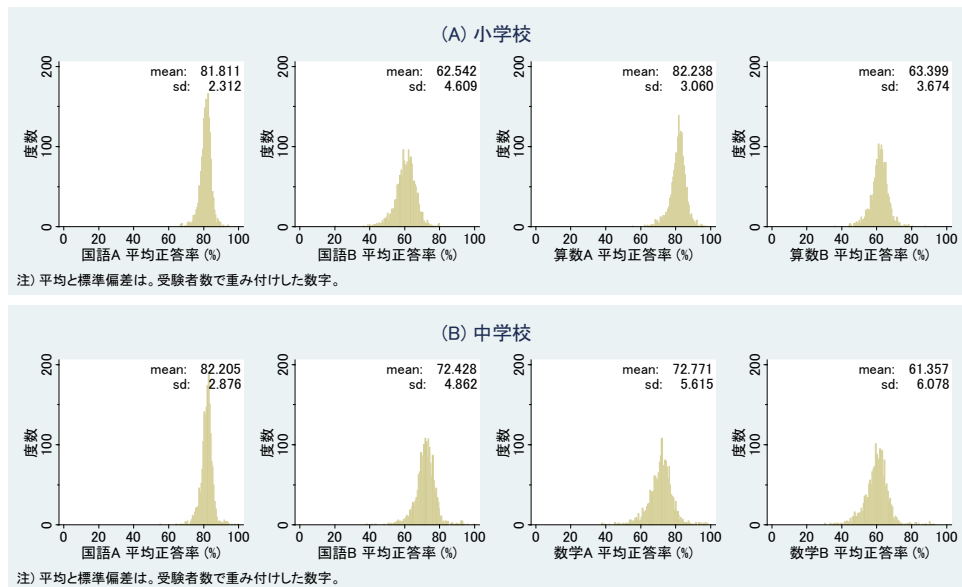


図 5.1 市町村レベルの平均正答率（2007 年）の度数分布

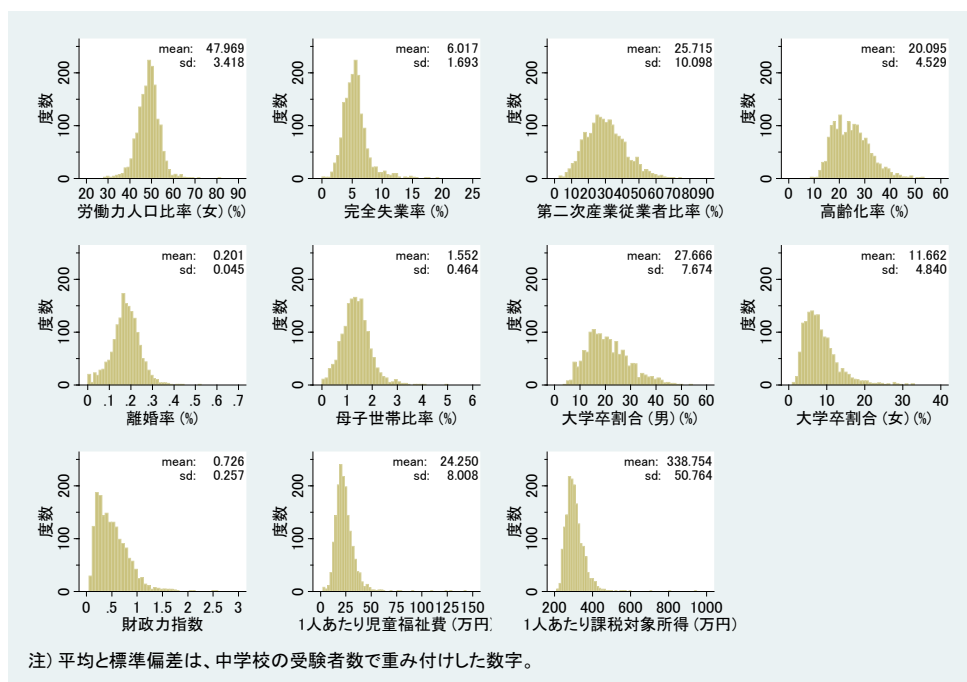


図 5.2 市町村レベルの各データの度数分布

上述したように、雇用状況や家庭状況等の変数は 2007 年の教科に関する調査よりも前の時点の数字を用いるので、時系列的には因果が逆になる可能性はない。しかし、雇用や家庭に関する観測されない要因（就労に対する選好や子どもの教育に対する態度・嗜好など）を制御しないままでは、観察された相関関係を因果関係と解釈することは困難である。

例えば母子家庭であることと学力との間に負の関係が観測されたとする（実際、以下の

本稿の分析でも母子家庭比率と学力との間には負の関係が認められる)。両者の間に負の関係が観察されたことを持って、母子家庭だと子どもの学力が低下する、と一概に結論づけることはできない。小原・大竹(2009)が述べるように、「何らかの要因が片親家庭になる確率を高めるのと同時に教育成果を低下させているならば、母子/父子家庭であることが教育成果を低下させているのではなく、家族構成に反映される別の要素が教育成果を押し下げているに過ぎない」(p. 69)という可能性があるからである。

別の例では、親の所得水準と子どもの学力との間に正の関係が観察された時、親の所得水準が高いと子どもの学力が高くなる、と結論づけることもやはりできない。親が何事に対しても熱心に取り組む姿勢を持つ人間で、その結果として高収入を得て、同時に、子どもへの教育にも熱心に取り組んでいるのなら、所得の高低と子どもの学力との関係は疑似相関である可能性がある⁽⁵⁾。

上述したような相関関係を因果関係として同定するには、操作変数法の適用やパネルデータの使用が必要となる。しかし現時点(2010年代前半)では、因果関係の同定ができるような操作変数を含んだ形で設計されたデータや、パネルデータの整備は遅れている。これらのデータの整備は今後の課題となろう。

同時に、因果関係を同定することはできなくても、学力とどの要因との相関が高いのかを明らかにすることは、分析の第一歩としては意味がある。上記で言及した点に留意しながら、以下では児童・生徒の学力と関係のありそうな要因の抽出を試みる。

3.1 学力と雇用状況等との関係

本項では学力と雇用状況等との関係について検証する。

図 5.3 は平均正答率と労働力人口比率(女)との関係を示している。小学校、中学校ともに、両者の間にはあまり明快な関係を観察することはできない。ただ、単回帰分析の結果を示した表 5.1 を確認すると、小学校においては労働力人口比率(女)と国語 A、算数 A の平均正答率との間に統計的に正に有意な関係が、中学校においては平均正答率と労働力人口比率との間に統計的に有意に正の関係が観察されている。その効果の大きさは、労働力人口比率が 1%ポイント高いと平均正答率が、小学校においては 0.06 から 0.09%ポイントほど、中学校においては 0.13 から 0.3%ポイントほど高いというものである。

女性の労働参加率が高くなると、母親と子どもが接する時間が減少することによる負の効果と、母親が就業することで世帯所得が上昇し、子どもに対する教育費が上昇するとい

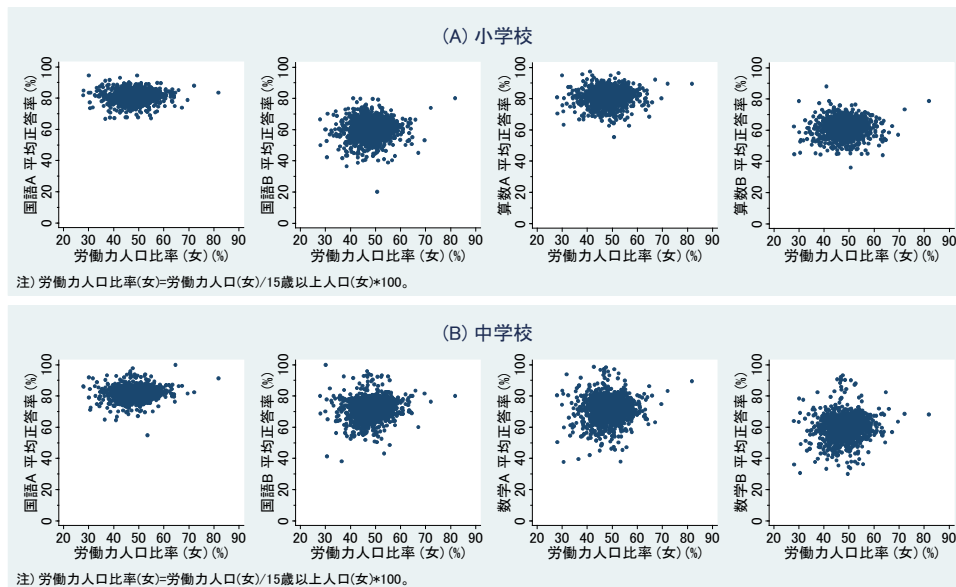


図 5.3 平均正答率（2007 年）と労働力人口比率（女）（2005 年）の関係

表 5.1 平均正答率（2007 年）と労働力人口比率（女）（2005 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
労働力人口比率(女)	0.059 * (0.023)	0.066 (0.051)	0.086 ** (0.032)	0.022 (0.039)	0.127 *** (0.024)	0.298 *** (0.043)	0.185 *** (0.048)	0.253 *** (0.050)
定数項	78.905 *** (1.167)	59.216 *** (2.586)	78.015 *** (1.577)	62.241 *** (1.937)	75.726 *** (1.210)	57.515 *** (2.176)	63.166 *** (2.351)	48.405 *** (2.479)
N	1687	1687	1687	1687	1700	1700	1700	1700
F	6.3242	1.6674	7.2994	0.3145	27.5155	47.6352	15.0181	25.7202
r ²	0.0087	0.0028	0.0103	0.0005	0.0347	0.0641	0.0188	0.0338

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1, * p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001。

う正の効果が考えられる。図 5.3 と表 5.1 を確認する限りでは、世帯所得が上昇することによる正の効果の方が大きいものと推察される⁽⁶⁾。

図 5.4 は平均正答率と完全失業率との関係を示している。小学校、中学校ともに、完全失業率が高いと平均正答率が低いという、負の関係が観察される。単回帰分析の結果を示した表 5.2 を確認すると、小学校においては完全失業率が 1%ポイント高いと平均正答率が 0.5 から 1%ポイントほど低い。中学校においては完全失業率が 1%ポイント高いと平均正答率が 0.7 から 1.4%ポイントほど低い。

完全失業率の 1%ポイントの変化というのは、全国レベルで考えた場合には相当に大きな変化である。ただ市町村レベルだと、域内にある大規模な工場や大型の商業施設が閉鎖されると、完全失業率の 1%ポイント程度の変化は十分にあり得る。そのような大きな雇用環境の変化が域内で生じた場合、おそらくは世帯所得の減少を通じて、子どもの学力に

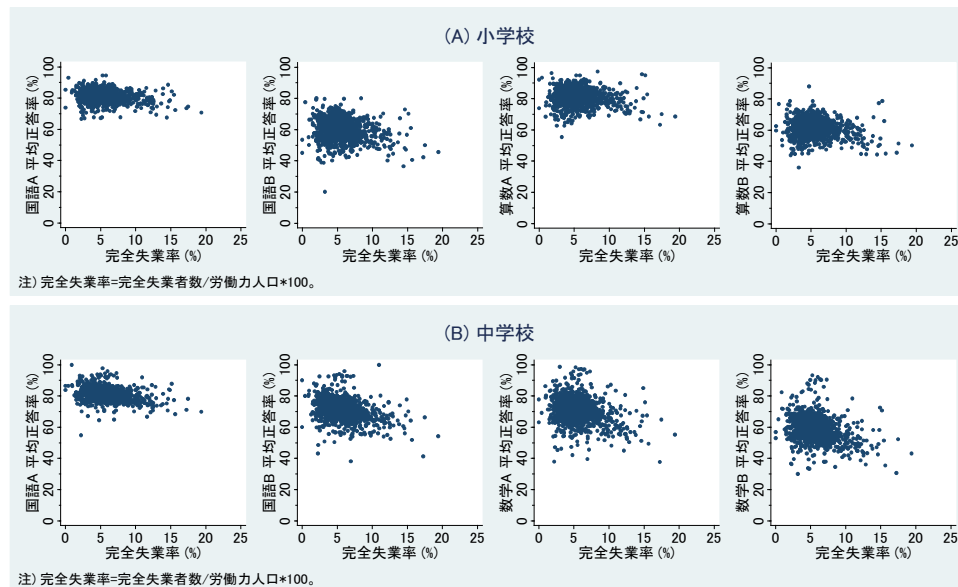


図 5.4 平均正答率（2007 年）と完全失業率（2005 年）の関係

表 5.2 平均正答率（2007 年）と完全失業率（2005 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
完全失業率	-0.459 *** (0.053)	-1.002 *** (0.096)	-0.554 *** (0.067)	-0.772 *** (0.091)	-0.663 *** (0.068)	-1.169 *** (0.077)	-1.194 *** (0.135)	-1.385 *** (0.106)
定数項	84.475 *** (0.319)	68.411 *** (0.604)	85.455 *** (0.395)	67.918 *** (0.548)	85.821 *** (0.375)	78.859 *** (0.424)	79.234 *** (0.761)	68.854 *** (0.591)
N	1687	1687	1687	1687	1700	1700	1700	1700
F	73.8980	108.6432	67.8502	72.1515	96.5214	230.2272	78.2264	169.8115
r ²	0.1293	0.1583	0.1052	0.1503	0.2310	0.2414	0.1914	0.2492

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1, * p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001。

負の影響を与える可能性がある。

図 5.5 は平均正答率と第二次産業従業者比率との関係を示している。小学校、中学校ともに、両者の間にはあまり明確な関係を観察することはできない。単回帰分析の結果を示した表 5.3 を確認すると、中学校においては第二次産業従業者比率と平均正答率との間に統計的に有意な関係は観察されないものの、小学校においては両者の間に統計的に有意に負の関係が観察されている。ただその効果の大きさは、第二次産業従業者比率が 1%ポイント高いと平均正答率が 0.02 から 0.08%ポイントほど低いという程度で、第二次産業従業者比率の高低と学力の高低との関連性は薄い。第二次産業従業者比率が高いと世帯所得がわずかに低くなり、それが子どもへの教育費の減少を通して、子どもの学力にわずかに負の影響を与えているのかもしれない。

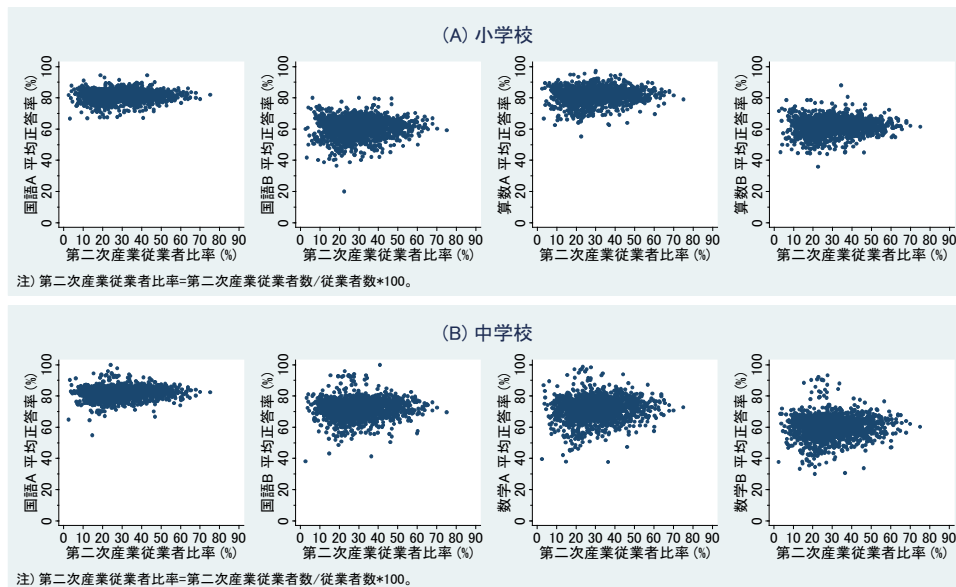


図 5.5 平均正答率（2007 年）と第二次産業従業者比率（2006 年）の関係

表 5.3 平均正答率（2007 年）と第二次産業従業者比率（2006 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
第二次産業従業者比率	-0.029 ** (0.009)	-0.081 *** (0.018)	-0.019 (0.011)	-0.059 *** (0.015)	0.011 (0.009)	0.011 (0.016)	0.020 (0.018)	0.005 (0.019)
定数項	82.425 *** (0.296)	64.347 *** (0.611)	82.570 *** (0.365)	64.694 *** (0.473)	81.508 *** (0.301)	71.479 *** (0.531)	71.460 *** (0.571)	60.309 *** (0.618)
N	1784	1784	1784	1784	1797	1797	1797	1797
F	10.7920	19.9827	2.6773	16.4472	1.4030	0.4765	1.2807	0.0603
r ²	0.0182	0.0364	0.0041	0.0306	0.0021	0.0007	0.0019	0.0001

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1、* p < 0.05、** p < 0.01、*** p < 0.001。

3.2 学力と家庭状況等との関係

本項では学力と家庭状況等との関係について検証する。

図 5.6 は平均正答率と高齢化率との関係を示している。小学校、中学校ともに、両者の間にはあまり明確な関係を観察することはできないが、小学校の国語 B、算数 B にのみ、負の関係を認めることができる。単回帰分析の結果を示した表 5.4 を確認すると、中学校においては高齢化率と平均正答率との間に統計的に有意な関係は観察されないことが多い。他方、小学校においては両者の間に統計的に有意に負の関係が観察されている。図 5.6 で見た国語 B と算数 B における負の関係も確認できる。その効果の大きさは、高齢化率が 1% ポイント高いと平均正答率が 0.17 から 0.22% ポイント低いというものである。

この関係の大きさは一見すると小さく見える。ただ、日本全体の高齢化率が 2000 年の 17.4% から 2010 年の 23.0%（総務省統計局「国勢調査」より）まで 10 年間で 5.6% ポイ

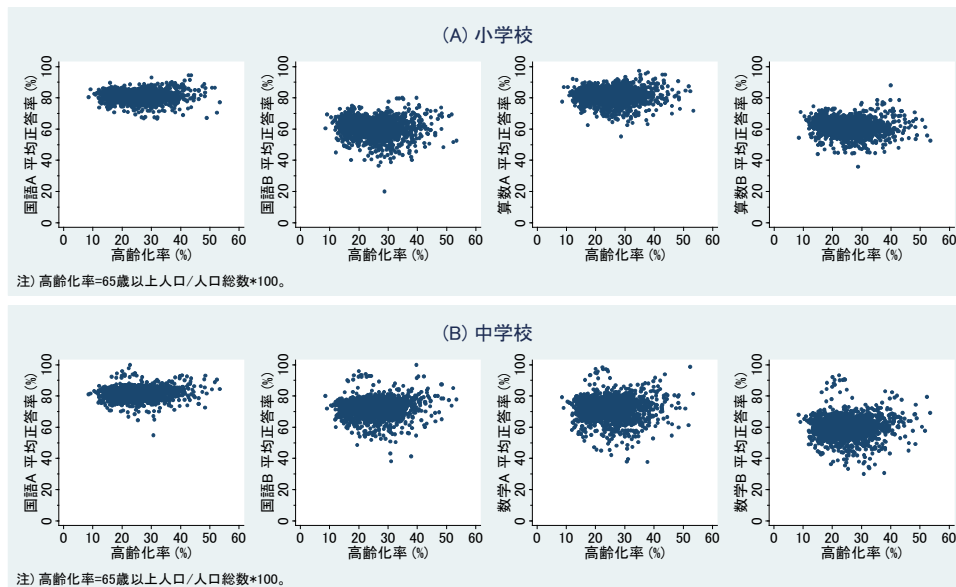


図 5.6 平均正答率（2007 年）と高齢化率（2005 年）の関係

表 5.4 平均正答率（2007 年）と高齢化率（2005 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
高齢化率	-0.032 * (0.015)	-0.218 *** (0.032)	-0.028 (0.021)	-0.169 *** (0.025)	0.038 * (0.015)	0.026 (0.024)	-0.008 (0.031)	-0.042 (0.029)
定数項	82.348 *** (0.349)	66.706 *** (0.767)	82.686 *** (0.461)	66.617 *** (0.594)	81.066 *** (0.349)	71.298 *** (0.568)	72.200 *** (0.737)	61.364 *** (0.701)
N	1687	1687	1687	1687	1700	1700	1700	1700
F	4.4481	45.3340	1.8897	44.2260	6.5850	1.2040	0.0587	2.0378
r ²	0.0043	0.0509	0.0019	0.0487	0.0054	0.0009	0.0001	0.0016

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1, * p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001。

ント、1990 年の 12.1% からだと 20 年間で 10.9% ポイント上昇したことを考えると、特に高齢化が急速に進行する市町村においては無視できない関係とも言える。上記の表 5.4 の結果を別の言葉で言い換えれば、高齢化率が 10% ポイント（＝20 年間の全国の高齢化率の上昇幅とほぼ同一）高ければ平均正答率が 1.7 から 2.2% ポイント低いということになる。高齢化のような指標は毎年の変化は小さいものの、長期の視点で検証すれば、学力に対して大きな負の効果を与えている可能性がある。

高齢化率が、特に小学校の国語 B と算数 B と相関しているのは、これらの問題を解くために必要な学力を獲得するために、多額の予算投入を必要とするからかもしれない。そしてその予算は、市町村の財政状況が逼迫する中では、高齢者向けの支出とトレードオフの関係になる可能性がある⁽⁷⁾。高齢化が進展している地方部において、この問題はより明確に現れる可能性がある。

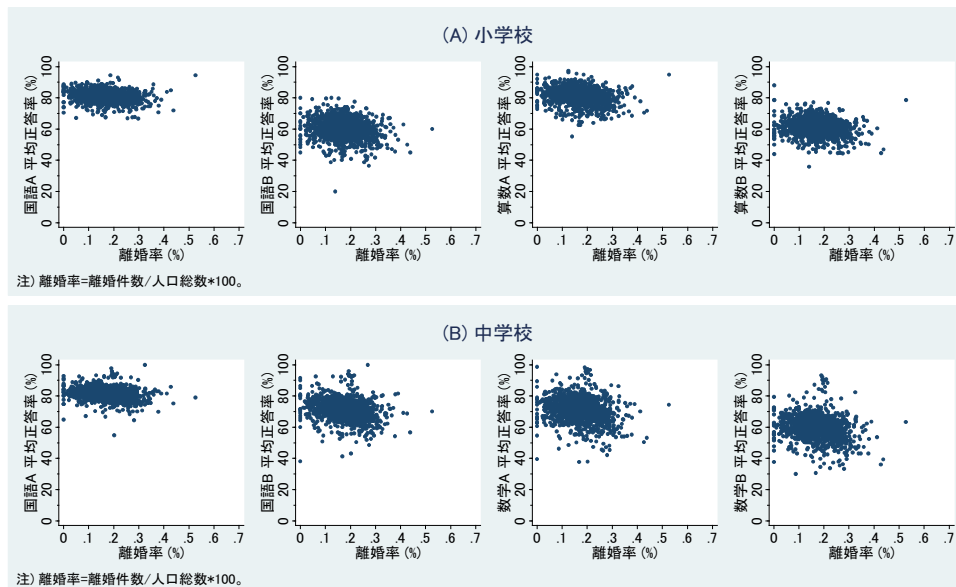


図 5.7 平均正答率（2007 年）と離婚率（2005 年）の関係

表 5.5 平均正答率（2007 年）と離婚率（2005 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
離婚率	-13.625 *** (2.182)	-23.748 *** (3.733)	-19.213 *** (2.286)	-19.204 *** (2.647)	-19.834 *** (2.093)	-35.070 *** (4.228)	-37.157 *** (3.759)	-38.564 *** (4.306)
定数項	84.478 *** (0.407)	67.199 *** (0.719)	86.019 *** (0.441)	67.169 *** (0.522)	85.825 *** (0.387)	78.887 *** (0.771)	79.531 *** (0.703)	68.287 *** (0.796)
N	1687	1687	1687	1687	1700	1700	1700	1700
F	38.9979	40.4799	70.6652	52.6514	89.8093	68.8035	97.7180	80.2088
r ²	0.0792	0.0617	0.0879	0.0646	0.1480	0.1556	0.1327	0.1384

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1, * p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001。

図 5.7 は平均正答率と離婚率との関係を示している。小学校、中学校ともに、離婚率が高いと平均正答率が低いという、負の関係が観察される。単回帰分析の結果を示した表 5.5 を確認すると、小学校においては離婚率が 0.1%ポイント高いと平均正答率が 1.4 から 1.9%ポイントほど低い。中学校においては離婚率が 0.1%ポイント高いと平均正答率が 2.0 から 3.8%ポイントほど低い。

離婚率は 1980 年代から 1990 年代にかけて上昇し、2002 年に 0.23%を付けた後、2008 年の 0.199%まで低下している（厚生労働省「人口動態統計特殊報告」のうち「離婚に関する統計」より）。年齢別に見た離婚率は 1990 年代から 2000 年代にかけて上昇傾向にあるが、人口構成が高齢化しており、高齢者ほど離婚率が低いので、全体の離婚率は 2000 年代に入って減少傾向にある。

2000 年代中の変化が 0.03%程度であることを考えると、離婚率が 0.1%変化するという

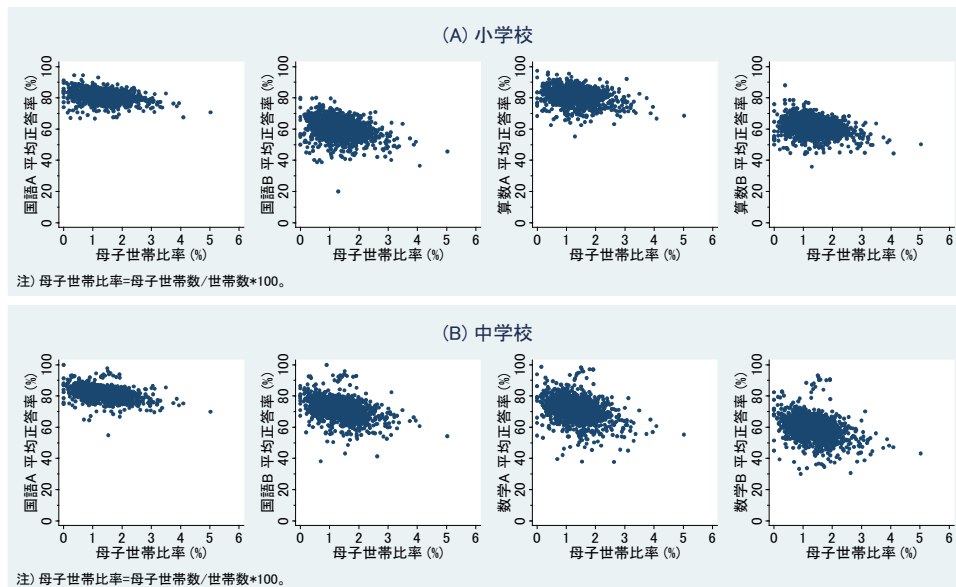


図 5.8 平均正答率（2007 年）と母子世帯比率（2005 年）の関係

表 5.6 平均正答率（2007 年）と母子世帯比率（2005 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
母子世帯比率	-2.026 *** (0.187)	-5.016 *** (0.331)	-2.551 *** (0.242)	-3.716 *** (0.264)	-2.316 *** (0.237)	-4.016 *** (0.355)	-3.829 *** (0.452)	-4.707 *** (0.387)
定数項	84.841 *** (0.268)	70.125 *** (0.524)	86.060 *** (0.366)	69.010 *** (0.419)	85.424 *** (0.348)	78.057 *** (0.474)	77.990 *** (0.683)	67.824 *** (0.539)
N	1687	1687	1687	1687	1700	1700	1700	1700
F	117.0108	230.1698	110.8311	197.9321	95.3774	128.3319	71.9118	147.6224
r ²	0.1906	0.3000	0.1687	0.2635	0.2117	0.2141	0.1479	0.2162

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1、* p < 0.05、** p < 0.01、*** p < 0.001。

のは相当に大きな変化であることがわかる。ただ仮に、0.03%程度の差であったとしても、それだけで中学校の数学 B の平均正答率は 1%ポイント以上変化することになる。離婚による子どもへの影響は、精神的なダメージや収入の減少など複数考えられるが、特に児童・生徒の親の世代にあたる 20 歳代後半から 30 歳代の層での離婚率が高いことを考えると、離婚による子どもの学力への負の影響は、本稿のような市町村平均のデータで見るとより深刻な可能性がある。

図 5.8 は平均正答率と母子世帯比率との関係を示している。小学校、中学校ともに、母子世帯比率が高いと平均正答率が低いという、負の関係が観察される。単回帰分析の結果を示した表 5.6 を確認すると、小学校においては母子世帯比率が 1%ポイント高いと平均正答率が 2 から 5%ポイントほど低い。中学校においては母子世帯比率が 1%ポイント高いと平均正答率が 2.3 から 4.7%ポイントほど低い。

日本では離婚後に、子どもの親権を母親が持つケースが多いとされ、父子世帯数より母子世帯数が多い。母子世帯数は1990年代前半に一旦減少した後に、1990年代後半から2000年代にかけて増加し、2009年には752万世帯と推計されている（厚生労働省「国民生活基礎調査」より）。母子世帯比率は、1998年の1.1%から2009年の1.6%まで0.5%ポイント上昇した（同）。表5.6の結果と併せて考えると、もし母子世帯比率が0.5%ポイント異なれば、小学校でも中学校でも、1から2.5%ポイントほど平均正答率が異なることになる。

平均正答率のこのような大きな変化は、おそらくは母子世帯に低所得世帯が多く含まれていることや、母親が就業することにより、母親と子どもが接する時間が短くなることに起因している。ただ前節の労働力人口比率に関する分析からは、母親の就業自体は直接は平均正答率に影響しない可能性が示されている。そうすると、就業はしているが世帯所得が低い母子世帯が多く⁽⁸⁾、子どもに十分な教育費をかけられないことが、子どもの学力に負の影響を与えている可能性が示唆される。

図5.9は平均正答率と児童・生徒の親の世代にあたる年齢層の男性の大学卒割合との関係を示している。小学校、中学校ともに、男性の大学卒割合が高いと平均正答率が高いという、正の関係が観察される。単回帰分析の結果を示した表5.7を確認すると、小学校においては男性の大学卒割合が1%ポイント高いと平均正答率が0.1から0.3%ポイントほど高い。中学校においては男性の大学卒割合が1%ポイント高いと平均正答率が0.07から0.2%ポイントほど高い。

図5.10は平均正答率と児童・生徒の親の世代にあたる年齢層の女性の大学卒割合との関係を示している。小学校、中学校ともに、女性の大学卒割合が高いと平均正答率が高いという、正の関係が観察される。単回帰分析の結果を示した表5.8を確認すると、小学校においては女性の大学卒割合が1%ポイント高いと平均正答率が0.17から0.5%ポイントほど高い。中学校においては女性の大学卒割合が1%ポイント高いと平均正答率が0.08から0.27%ポイントほど高い。

親の学歴と子どもの教育的達成との関係についての研究は、特に教育社会学を中心に膨大な研究の蓄積がある。ただ、親の学歴と子どもの学力との直接的な関係については、管見の限りでは、研究の蓄積はまだ少ないようである。表5.7、表5.8の結果は、市町村レベルで見れば、親の学歴と特に小学校の子どもの学力との間に正の関係があることを示唆している⁽⁹⁾。またA問題の平均正答率との相関よりは、B問題の平均正答率との相関の方が大きく推定されている。加えて、母親世代の大学卒割合と児童・生徒の平均正答率との

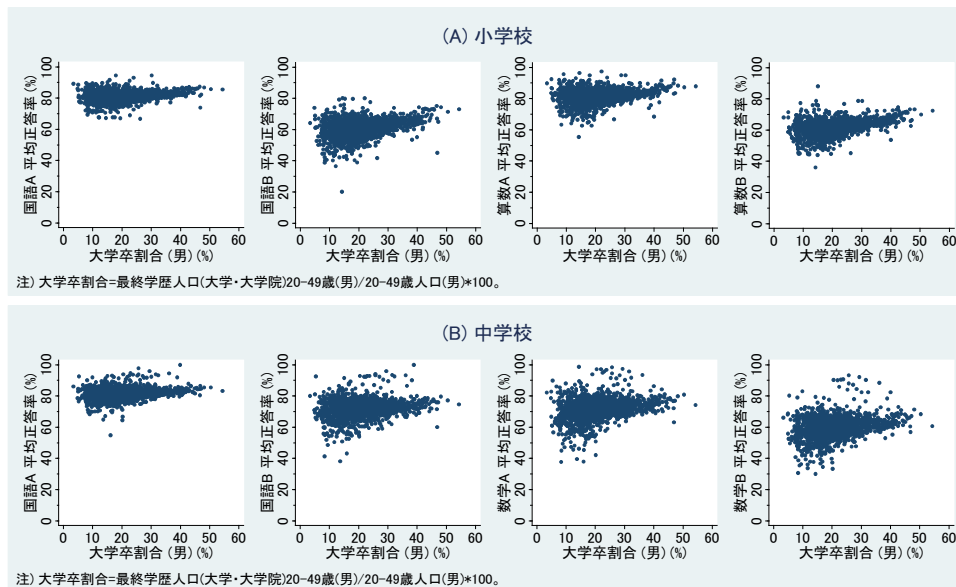


図 5.9 平均正答率（2007 年）と大学卒割合（男）（2000 年）の関係

表 5.7 平均正答率（2007 年）と大学卒割合（男）（2000 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
大学卒割合(男)	0.108 *** (0.011)	0.310 *** (0.018)	0.142 *** (0.016)	0.255 *** (0.014)	0.070 *** (0.012)	0.118 *** (0.015)	0.191 *** (0.026)	0.213 *** (0.019)
定数項	78.668 *** (0.320)	53.656 *** (0.534)	78.110 *** (0.444)	56.126 *** (0.419)	79.865 *** (0.337)	68.447 *** (0.503)	66.709 *** (0.697)	54.581 *** (0.572)
N	1491	1491	1491	1491	1504	1504	1504	1504
F	102.4732	292.5056	80.9608	317.0798	35.2044	58.2615	53.4568	127.1914
r ²	0.1524	0.3275	0.1491	0.3544	0.0539	0.0509	0.1029	0.1223

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1, * p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001。

関係は、父親世代の大学卒割合と児童・生徒の平均正答率との関係よりも強く推定されている。これは母親の学歴の方が子どもの学力に対して、より強く影響する可能性を示唆している。

大学進学率は、1990 年代初めの 20%から 2000 年代後半の約 50%まで、約 20 年間で約 30%上昇している（文部科学省「学校基本調査」より）。2010 年代以降、大学進学率がどのように推移するかは不明だが、子どもの親の世代の大学卒割合が、2010 年代以降もしばらくは増加することは、過去の大学進学率の推移から見て確実である。そして、この大学卒割合の上昇幅はかなり大きくなると推測される。もし母親世代の大学卒割合の変化が 1%ポイントではなく 10%ポイントであれば、平均正答率は小学校においては 1.7 から 5%ポイントほど、中学校においては 0.8 から 2.7%ほど、それぞれ高いことになる。

同時に、2000 年代において母親世代の大学卒の割合がまだ小さいことは、女性の中でも

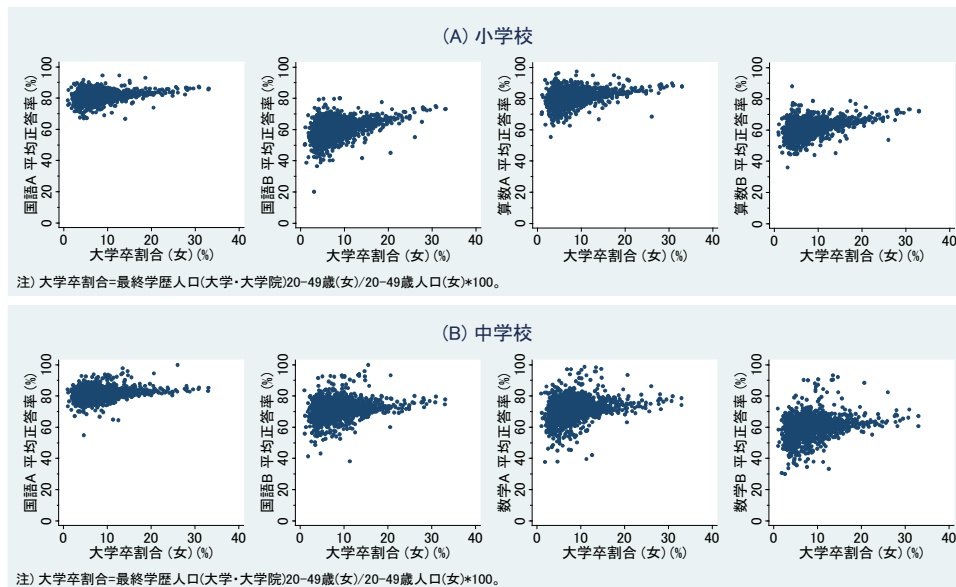


図 5.10 平均正答率（2007 年）と大学卒割合（女）（2000 年）の関係

表 5.8 平均正答率（2007 年）と大学卒割合（女）（2000 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
大学卒割合(女)	0.169 *** (0.014)	0.487 *** (0.022)	0.230 *** (0.024)	0.396 *** (0.020)	0.084 *** (0.017)	0.139 *** (0.022)	0.236 *** (0.039)	0.268 *** (0.027)
定数項	79.663 *** (0.204)	56.524 *** (0.337)	79.351 *** (0.299)	58.540 *** (0.265)	80.811 *** (0.222)	70.086 *** (0.352)	69.245 *** (0.452)	57.343 *** (0.396)
N	1491	1491	1491	1491	1504	1504	1504	1504
F	142.0503	476.6439	92.1831	412.6582	25.6092	38.9617	37.3520	97.7976
r ²	0.1603	0.3439	0.1654	0.3634	0.0313	0.0281	0.0625	0.0772

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1, * p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001。

特に能力が高く、資金面でも制約が少なかった者だけが過去に大学に進学していたことを表している可能性がある。今後、大学進学率が上昇し、大学卒の女性の存在がより一般的になるにつれて、母親世代の学歴と児童・生徒の平均正答率との関係も変化するかもしれない。前段で計算した値はもう少し小さくなる可能性がある。

3.3 学力と財政等との関係

本項では学力と財政等との関係について検証する。

図 5.11 は平均正答率と財政力指数との関係を示している。小学校、中学校ともに、正の関係とも負の関係とも取れるような不明瞭な関係を両者の間に認めることができる。単回帰分析の結果を示した表 5.9 を確認すると、財政力指数と平均正答率の関係は統計的に正で有意であることがわかる。小学校においては財政力指数が 1 高いと平均正答率が 0.8 か

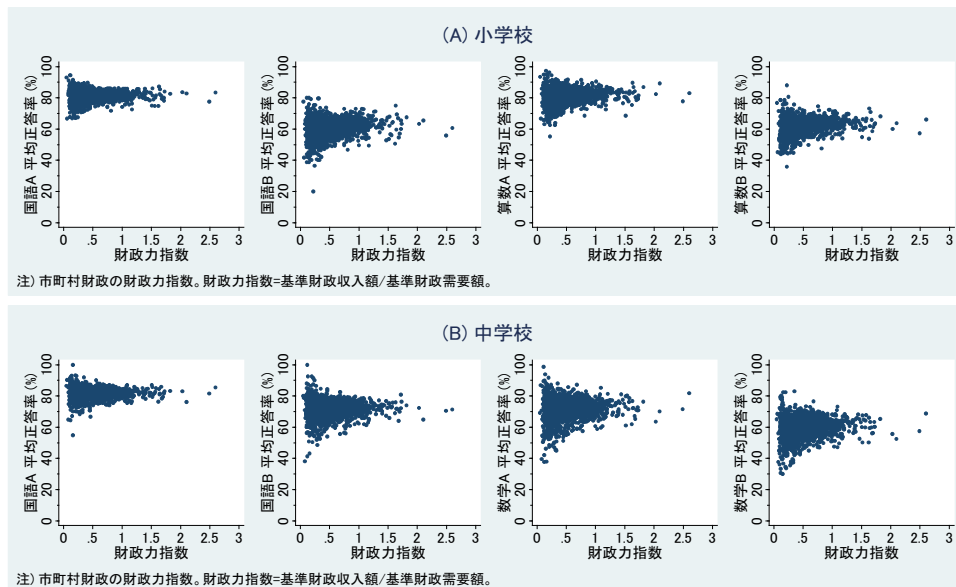


図 5.11 平均正答率（2007 年）と財政力指数（市町村財政）（2005 年）の関係

表 5.9 平均正答率（2007 年）と財政力指数（市町村財政）（2005 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
財政力指数	0.810 * (0.321)	4.997 *** (0.627)	1.488 *** (0.367)	4.282 *** (0.461)	0.642 * (0.286)	1.337 ** (0.494)	2.895 *** (0.592)	3.543 *** (0.586)
定数項	81.022 *** (0.216)	58.406 *** (0.404)	80.903 *** (0.286)	59.897 *** (0.318)	81.331 *** (0.212)	70.802 *** (0.327)	69.901 *** (0.420)	57.860 *** (0.403)
N	1753	1753	1753	1753	1747	1747	1747	1747
F	6.3800	63.4632	16.4892	86.1889	5.0517	7.3158	23.9629	36.5272
r ²	0.0094	0.0947	0.0174	0.1112	0.0051	0.0075	0.0264	0.0392

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1, * p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001。

ら 5%ポイントほど高い。中学校においては財政力指数が 1 高いと平均正答率が 0.6 から 3.5%ポイントほど高い。

ただ財政力指数が 1 増えるというのはかなり大きな変化であり、一部の裕福な市町村を除けば、この指標は通常は 1 を下回る領域で推移する。もし財政力指数の変化幅を 1 ではなく 0.1 とすれば、平均正答率は小学校で 0.5%ポイント、中学校で 0.35%ポイント高いということになり、それほど大きな変化とは言えないかもしれない。

財政力指数は市町村の財政力の強さの代理指標だが、この指標が高いと特に B 問題の平均正答率が高くなる傾向が、小学校と中学校の両者に確認できる。先の高齢化率の項でも触れたが、B 問題を解くために必要な学力を獲得するためには、多額の予算投入を必要とし、財政力に余裕のある市町村の方が有利なのかもしれない。

図 5.12 は平均正答率と 1 人あたり児童福祉費との関係を示している。小学校、中学校

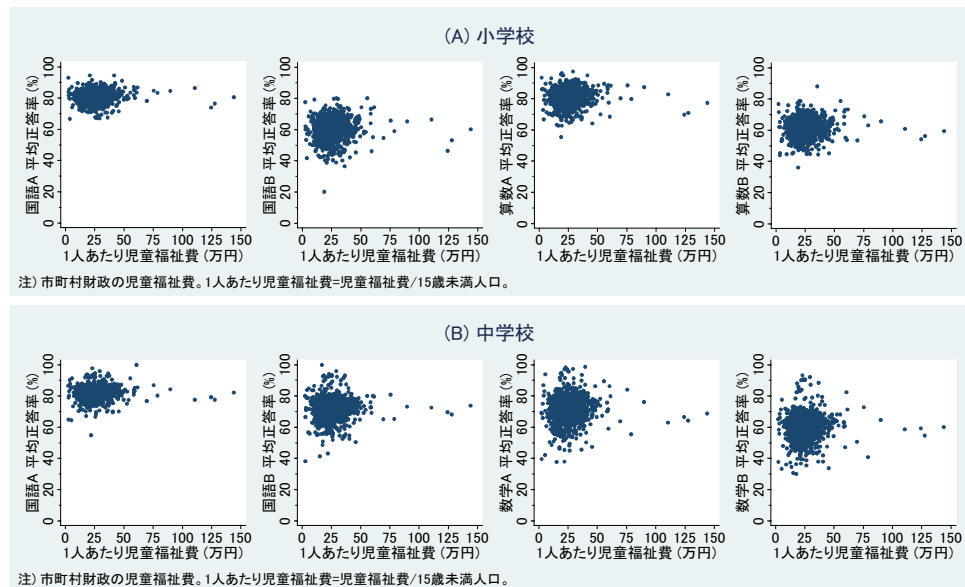


図 5.12 平均正答率（2007 年）と 1 人あたり児童福祉費（市町村財政）（2005 年）の関係

表 5.10 平均正答率（2007 年）と 1 人あたり児童福祉費（市町村財政）（2005 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
1人あたり児童福祉費	0.017 (0.015)	0.035 (0.027)	0.039 + (0.020)	0.036 (0.022)	-0.014 (0.012)	-0.039 (0.027)	-0.020 (0.021)	-0.031 (0.025)
定数項	81.298 *** (0.326)	61.537 *** (0.637)	81.169 *** (0.473)	62.402 *** (0.523)	82.158 *** (0.274)	72.772 *** (0.581)	72.536 *** (0.487)	61.278 *** (0.548)
N	1687	1687	1687	1687	1700	1700	1700	1700
F	1.3514	1.6492	3.8057	2.6469	1.2776	2.1797	0.9611	1.6243
r ²	0.0041	0.0043	0.0119	0.0074	0.0021	0.0060	0.0012	0.0028

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1, * p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001。

ともに、両者の間にはあまり明確な関係を観察することはできない。単回帰分析の結果を示した表 5.10 を確認しても、1 人あたり児童福祉費と平均正答率との間に統計的に有意な関係は観察されない。

前項の母子世帯のところでも述べたように、世帯所得が低いことは子どもの学力に負の影響を与えている可能性がある。児童福祉費は、保育所等の児童福祉施設に係る経費や児童手当の支給事業など、低所得世帯の生活を支援するような形で支出されており、低所得層の子どもの学力維持に一定の効果を示すことが期待される。しかし、表 5.10 を見る限りではそのような効果は特に観察されない。

図 5.13 は平均正答率と 1 人あたり課税対象所得との関係を示している。小学校、中学校ともに、緩やかな正の関係が観察されるように見える。ここまでの議論で何度か出てきた、所得の水準と学力との正の関係をここでも確認することができる。単回帰分析の結果を示

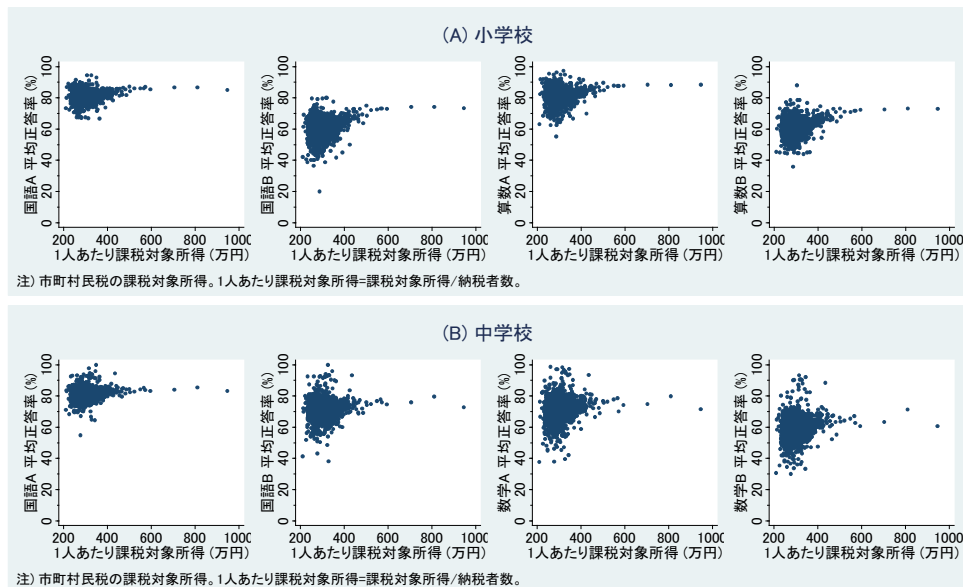


図 5.13 平均正答率（2007 年）と 1 人あたり課税対象所得（2005 年）の関係

表 5.11 平均正答率（2007 年）と 1 人あたり課税対象所得（2005 年）の関係

従属変数	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)	係数 (標準誤差)
1人あたり課税対象所得	0.011 *** (0.002)	0.039 *** (0.003)	0.016 *** (0.002)	0.032 *** (0.003)	0.005 *** (0.002)	0.009 *** (0.002)	0.016 *** (0.003)	0.021 *** (0.003)
定数項	77.810 *** (0.526)	49.017 *** (1.124)	76.777 *** (0.656)	52.286 *** (0.858)	80.122 *** (0.515)	68.780 *** (0.775)	66.511 *** (1.150)	53.536 *** (1.025)
N	1662	1662	1662	1662	1675	1675	1675	1675
F	56.1923	140.2774	68.6912	166.3737	11.4919	16.4474	22.4493	48.0999
r ²	0.0815	0.2463	0.0857	0.2669	0.0120	0.0128	0.0323	0.0499

注) 括弧内は頑健な標準誤差。受験者数で重み付けした推定結果。+ p < 0.1、* p < 0.05、** p < 0.01、*** p < 0.001。

した表 5.11 を確認すると、1 人あたり課税対象所得と平均正答率の関係は統計的に正で有意であることがわかる。小学校においては 1 人あたり課税対象所得が 100 万円高いと平均正答率が 1 から 4%ポイントほど高い。中学校においては 1 人あたり課税対象所得が 100 万円高いと平均正答率が 0.5 から 2%ポイントほど高い。1 人あたり課税対象所得は域内の平均的な所得水準の代理指標だが、域内の所得水準が高いと特に小学校の平均正答率が高いこと、A 問題よりも B 問題の平均正答率が高いことがわかる。

4. 結論と今後の課題

本稿では、2007 年の「全国学力・学習状況調査」を市町村別に再集計した結果と、雇用環境や財政に関する市町村別データをマッチングさせ、市町村単位で見た平均的な学力と

関係がある要因の抽出を試みた。結果、市町村の完全失業率や離婚率、母子世帯比率と市町村の平均的な学力との間には負の関係が確認された。また、地域の平均的な豊かさを示す1人あたり課税対象所得や親世代の大学卒比率と市町村の平均的な学力との間には正の関係が観察された。

学力に関する個票データを用いたいくつかの先行研究は、児童・生徒の家庭環境や親学歴などが、児童・生徒の学力に対して影響を及ぼす可能性について指摘している。本稿で用いた市町村単位で集計されたデータにおいても、基本的には先行研究と同様の関係が観察された。加えて、地域の雇用環境や経済構造も児童・生徒の学力に影響している可能性がある。児童・生徒の学力を規定する要因は学校の内と外に存在するが、本稿の結果は、学校の外で発生する要因が児童・生徒の学力に相当に強い影響を及ぼしている可能性を示唆している。

本稿では市町村レベルで見た学力とその他の要因との関係を考察することに注力したため、複数の要因を同時に用いた多変量解析的な作業がまだ残されている。これは今後の課題としたい。本稿で作業したような単回帰分析においては学力と有意に関係のあった要因でも、多変量解析に投入した時には学力との関係がみられなくなる可能性があり、その意味で、本稿の結果には一定の留保が付いている。

また、先行研究において、学力の規定要因として最も多くの研究の蓄積がある要因は学級規模だが、学力と学級規模との関係についての検証も残されている。本稿で用いたデータの中にも市町村平均の学級規模を表す変数は存在しているが、学級規模の大小が児童・生徒の学力の高低とどのように関係しているかを検証するには、学級規模が持つ内生性を除去するなど、慎重な作業が必要となる。この分析についても今後の課題としたい。

[注]

- (1) 具体的には、都道府県別に公表されている「全国学力・学習状況調査」の正答数分布から中位数と下位10%点を計算し、中位数と下位10%点との乖離を「下方分散」と定義して、学力のばらつきを示す指標として用いている。
- (2) 他にも例えば赤林・中村（2011）は、横浜市に対して情報公開請求を行い、「全国学力・学習状況調査」の学校別テストスコアを入手し、これに通学地域の平均地価など

の変数を組み合わせて、学級規模縮小がテストスコアに対して与える効果について検証している。結果、小学校 6 年生において、学級規模 1 人分の縮小が国語の（偏差値化された）テストスコアを 0.1118 ポイント有意に上昇させることを明らかにしている。小原・大竹（2009）は「全国学力・学習状況調査」と「人口動態統計」の都道府県別結果を用いて、失業率が高い時期に生まれた子どもの出生時体重が軽いこと、また、出生時体重とその後の学力との間に正の相関があることを指摘している。

- (3) 同様の分析方針を採った研究として、例えば篠崎（2008）は千葉県から特別に提供を受けた「全国学力・学習状況調査」の個票データと、千葉県から別途提供された教員に関する情報などを組み合わせて、児童・生徒の学力を規定する要因について検証している。結果、学級規模の大小と学力の高低との関係が、教員研修の多寡によって異なる可能性があることを示している。
- (4) 「社会・人口統計体系」のデータは総務省統計局が整備しているが、データの提供は（財）統計情報研究開発センターが有償で行っている。データは市町村単位のものとは都道府県単位のものとの 2 種類がある。
- (5) Blau（1999）はパネルデータを利用することで、母親および子どもに固有の観測されない要因を制御して分析し、親の所得の高低と子どもの教育成果との直接的な関係は小さいことを示している。
- (6) ただし、この正の効果が持続するかどうかは不明である。Tanaka（2008）は「日本版総合的社会調査」（JGSS: Japanese General Social Surveys）を用いた分析から、母親のパートタイム就業や自営業就業は子どもの教育的達成（教育年数）に対して負の影響を与えるが、母親のフルタイム就業は男の子どもの教育的達成に対してのみ負の影響を与え、女の子どもの教育的達成に対しては特に有意な影響を与えないことを示している。さらに、フルタイム就業の母親を持つ女の子どもは、自身もフルタイムで就業する確率が高くなることを明らかにしている。
- (7) 井上・大重・中神（2007）や Ohtake and Sano（2010）は都道府県別データを用いて、高齢化率と義務教育費との関係を検証し、両者の間に負の関係があることを示している。Ohtake and Sano（2010）は期間別にも分析し、1990 年代前半までは高齢化率と義務教育費との関係は正だったが、1990 年代後半以降は両者の関係が負になったことを示している。
- (8) 厚生労働省の「国民生活基礎調査」を用いた国立社会保障・人口問題研究所の計算に

よると、母子世帯の親の相対的貧困率は2007年に54.9%、2010年に48.2%である(男女共同参画会議 基本問題・影響調査専門調査会 女性と経済 ワーキング・グループ(第8回)資料3より)。また厚生労働省の「福祉行政報告例」によれば、母子世帯のうち生活保護を受給している世帯の割合は2009年に13.24%である。この割合は全世帯に占める生活保護受給世帯の割合の2.65%を大きく上回る。

- (9) 北條(2011)は「国際数学・理科教育動向調査」(TIMSS: Trends in International Mathematics and Science Study)のデータを用い、Angrist and Lavy(1999)などで使用された非連続回帰デザインの手法を適用して、数学と理科のテストスコアに対する学級規模の効果を厳密に検証している。結果、学級規模の3次項までを導入しても、学級規模とテストスコアとの間に統計的に有意な関係は観察されず、数学と理科のテストスコアを最もよく説明したのは、両親の学歴や世帯所得の代理指標である蔵書数などであった。この結果は、他の欧米諸国と同様に、日本においても学力の規定要因として、親の学歴や所得水準など、子どもの家庭の状況が重要であることを示している。

[参考文献]

- Angrist, J.D. and V. Lavy (1999), "Using Maimonides' Rule to Estimate the Effect of Class Size on Scholastic Achievement," *Quarterly Journal of Economics*, Vol. 114, No. 2, pp. 533-575.
- Blau, D.M. (1999), "The Effect of Income on Child Development," *Review of Economics and Statistics*, Vol. 81, No. 2, pp. 261-276.
- Ohtake, F and S. Sano (2010), "The Effects of Demographic Change on Public Education in Japan," Ito, T and A. Rose, eds., *The Demographic Transition in the Pacific Rim (NBER Book Series)*, NBER-EASE Vol. 19, pp. 193-223.
- Tanaka, R. (2008), "The Gender-asymmetric Effect of Working Mothers on Children's Education: Evidence from Japan," *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 22, No. 4, pp. 586-604.
- 赤林英夫・中村亮介(2011)、「学級規模縮小が学力に与えた効果の分析——横浜市公開デ

ータにもとづく実証分析」、慶應/京都連携グローバル COE ディスカッションペーパー、DP2011-005。

赤林英夫・中村亮介・佐野晋平・直井道生（2011）、「少人数教育の計量経済分析：静岡県における全国学力・学習状況調査を用いた検証」、日本経済学会 2011 年秋季大会報告論文。

井上智夫・大重斉・中神康博（2007）、「高齢化は教育費に影響するか？：日本の義務教育の場合」、中神康博・T. Kim 編、『教育の政治経済分析』第 III 部第 9 章、pp. 207-250、シーエーピー出版。

小原美紀・大竹文雄（2009）、「子どもの教育成果の決定要因」、『日本労働研究雑誌』、No. 588、pp. 67-84。

篠崎武久（2008）、「教育資源と学力の関係」、千葉県検証改善委員会、『平成 19 年度「全国学力・学習状況調査」分析報告書』第 7 章、pp. 73-97。

野崎祐子・平木耕平・篠崎武久・妹尾渉（2011）、「学力の生産関数の推定——底上げをどう図るか」、広島大学経済学部 Discussion Paper Series、No. 2011-03。

北條雅一（2011）、「学力の決定要因——経済学の視点から」、『日本労働研究雑誌』、No. 614、pp. 16-27。

篠崎武久（早稲田大学理工学術院）

第6章 学力層別の学力達成の規定要因分析

～市町村パネルデータを用いて～

1. 問題設定

学力達成とその規定要因との関係性は、学力層ごとに異なるかもしれない。すなわち、学力上位層、中位層あるいは下位層の間で、学力達成を規定する要因そのものが異なる可能性もあるし、さらには規定要因は同じだとしても、それらがアウトカムに至るまでの学力形成プロセスや影響の度合いが異なっている可能性は十分にある。教科指導の場面においては、教師は児童生徒と面（つまり、学級単位）で接している。教室には、学力の異なる児童生徒が混在しており、教師の同じひとつの指導や発話であっても、各児童生徒の受け止め方やそのことによる学力達成の結果は異なるかもしれない。また、教師は、学力の異なる児童生徒のうちでも同じ教室にいる学力中位層に指導の関心をおいているかもしれない。そうであれば、同じ1コマの授業を実施しても、成績上位層や下位層には、教師の指導は十分には届いていないかもしれない。

このような問題関心から、本稿では、『全国学力・学習状況調査』データを用いて、学力層別に学力達成の規定要因を探ることを試みる。本稿の意義としては以下3点である。

第一に、学力達成というアウトカムとその規定要因であるインプットとの関係性を学力層ごとに確認したことである。この分野における既存研究の多くは「学力水準（平均点）」そのものや平均点を中心とする「学力水準のばらつき（標準偏差）」を学力達成のアウトカム指標として採用している。しかしながら、悉皆調査である『全国学力・学習状況調査』の得点分布（図6.1）からわかるのは母集団における学力分布のゆがみである。つまり、学力を分析する際に暗に仮定されている学力の正規分布性がここではみられず、これまでの平均や平均周りのアウトカム指標を用いた分析は必ずしも適切とはいえないことがわかる。そこで、本稿では、このような分布のゆがみに着目し、平均に加え、学力上位層（90 パーセンタイル値）、中位層（50 パーセンタイル値）、下位層（10 パーセンタイル値）それぞれの各グループ層ごとに学力達成の規定要因の分析を行った。

あわせて、図6.1からは、得点分布のピーク（最頻値）から正答数の低くなる左側にその

分布が伸びる傾向がみられ、学力の下位層においてその分布にばらつきが大きいことがうかがえる。公教育をナショナルミニマムとして最低限の学力を身につける場と位置づけるときに、その学力のばらつき、特に「学力の下方へのばらつき」に力点を置き、これを政策的に縮小させられるか、という視点も今後は重要になると考えられる。

第二に、『全国学力・学習状況調査』における市町村別3か年パネルデータ（2007～2009年度実施[悉皆調査]）を利用したことで、学力達成の規定要因を分析する際の観測不能な変数の存在による推定バイアスや内生性といった問題をできるだけ回避することを試みている。これにより、児童生徒の能力、地域特有の要因といった観測不能な規定要因があったとしても、それが時間を通じて変化しない変数であれば、これが原因となる推計バイアスはある程度回避できる。

第三に、学力と学級規模の関係性を複数の推計モデルで確認していることである。学力と学級規模の関係は、学級規模が大きい（小さい）と学力が低い（高い）といった単純な正比例または反比例の関係だけではないかもしれない。たとえば、ある学級規模までは学力と負の相関がみられるが、学級規模がある水準に達すると正の関係となるというように、学級規模の水準によって学力との関係性が非線形に複数に変化している可能性もある。これら学力と学級規模の関係性については先験的には明らかでないため、今回の分析では試行的に推計モデルに2乗項、3乗項を追加することによって、非線形な関係性が統計的に有意か否かを確認することとした。

以下、2節ではデータおよび推計モデルについて、3節では推計結果と考察、4節ではまとめと今後の課題について述べる。

2. データおよび推計モデルについて

学力達成の規定要因における日本の実証研究は、国際機関における学力調査（TIMSS（1995年より4年毎に実施）、PISA（2000年より3年毎に実施））、全国学力・学習状況調査（文部科学省・国立教育政策研究所、2007年より毎年実施）、各自治体による学力調査（主に2000年以降）等の実施およびその一部データの公開により、ようやく緒についたばかりである。TIMSSを利用した先行研究としては、北條(2011)が、また、『全国学力・学習状況調査』のデータを利用した先行研究としては、篠崎(2008)、文部科学省（2009）、志水ほか（2009）、赤林・中村（2011）、赤林・中村・佐野・直井（2011）、が挙げられる。

しかしながら、これらの先行研究は、①一時点の学力データを用いている⁽¹⁾、②分析地域・対象者が限定されている、③「学力水準（平均点）」または「標準偏差（平均周りのばらつき）」のみに注目している、といった点でいくつかの課題がみられる。よって本稿では、全国学力・学習状況調査における市町村別の3か年パネル・データ（2007～2009年度実施）を利用することで、観測不能な変数の存在による推定バイアスや内生性といった問題をできるだけ回避しながら、全国的な傾向をみることにする（前述①②への対応）。加えて、前節で述べたように、「学力水準（平均点）」に加えて「上位層（90パーセンタイル値）」、「中位層（50パーセンタイル値）」および「下位層（10パーセンタイル値）」を学力達成のアウトカム指標として用いて推計を行った（前述③への対応）。同調査は、日本全国の小学校6年生、中学校3年生全員を対象とし、小学校では国語、算数、中学校では国語、数学の2科目についてそれぞれ基礎力を問うA問題、活用力を問うB問題の2種類の学力調査が行われている。

推計モデルは以下の通りである。

$$Y_{it} = \alpha + \beta S_{it} + \gamma K_{it} + Z_i + u_{it} \quad (i = 1, \dots, m \text{ and } t = 1, \dots, T)$$

ここで Y_{it} は i 市町村における t 期の教育アウトプットである学力テストの結果である。これはインプットである学校内要因 S_{it} 、児童・家庭・地域の属性といった学校外要因 K_{it} 、固定効果 Z_i により規定される。 u_{it} は誤差項である。推計は、各々の学力獲得指標について、プーリング OLS 推定、時点効果や個体効果をパラメーターとして扱う固定効果モデル推定、それらを確率変数として扱う変量効果モデル推定によりおこなった。学力テストの結果 Y_{it} については、「平均正答数」、「上位層（90パーセンタイル値）」、「中位層（50パーセンタイル値）」および「下位層（10パーセンタイル値）」を用いた（図 6.2 参照）。学校内要因 S_{it} の代理変数として、一学級当りの児童生徒数を、児童・家庭・地域といった学校外要因 K_{it} の代理変数として、就学援助割合、僻地校の在籍者割合、通塾割合を用いている。その他、推定期間における年ダミー変数を使用した。記述統計量は、表 6.3 の通りである⁽²⁾。各科目の平均点と中位 50 パーセンタイル値にズレみられることから、ここからも学力分布が正規分布となっていないことが確認できる。

3. 推計結果と考察

表 6.4～6.7 は小学 6 年生の、表 6.8～6.11 は中学 3 年生の、それぞれの学力を被説明変数としたときの推計結果を示している⁽³⁾。

小学校の推計結果からは、学校外要因として、就学援助割合が高い（低い）と学力達成が低く（高く）となる有意な関係がみられる。また、進学塾に通う割合が高いと学力が高く、補習塾に通う割合が高いと、学力が低くなるという有意な相関がみられる。これは、塾の効果というよりも、もともと学力が高い児童が進学塾に通い、学力が低い児童は補習塾に通っていることを示しているのかもしれない。また、学校内要因として、一学級当り児童数については、学力層や教科を問わず、なんらかの有意な相関がみられる。ただし、その傾向については、各学力層や教科でさまざまである。また、「上位層（90 パーセンタイル値）」、「下位層（10 パーセンタイル値）」においては、一学級当りの児童数 2 乗項、一学級当りの児童数 3 乗項と有意な関係性がみられることから、これらの学力層においては学級規模の水準によって学力との関係性が複雑に変化している可能性が示唆されている⁽⁴⁾。

中学校の推計結果からは、学校外要因として、就学援助割合は小学校の場合と比較して有意とならないケースが増える。さらに、国語 A、国語 B など一部の教科においては想定される符号（負）とは逆になっている。また、小学校と同様に、進学塾に通う割合が高いと学力が高く、補習塾に通う割合が高いと、学力が低くなるという有意な相関がみられる。学校内要因として、一学級当り生徒数については、やはり学力層や教科を問わず、なんらかの有意な相関がみられる。ただし、その傾向については、各学力層や教科でさまざまである。また、一学級当りの生徒数 2 乗項、一学級当りの生徒数 3 乗項と有意な関係性がみられることから、やはり学級規模の水準によって学力との関係性が複雑に変化している様子が示唆されている。

4. まとめと今後の課題

本稿では、『全国学力・学習状況調査』の市町村パネルデータ（2007～2009 年度）を利用して、「平均点」、「上位層（90 パーセンタイル値）」、「中位層（50 パーセンタイル値）」、「下位層（10 パーセンタイル値）」それぞれの学力層別に学力達成の規定要因を探った。分析の結果、各学力層で学力達成の規定要因やこれら規定要因の影響の度合いが異なっている可能性が示唆された。また、学校外要因を統制した上で、一学級当り児童生徒数といっ

た学校内要因が学力達成と有意な関係性にあることが示唆された。また併せて、学力と一学級当り児童生徒数との間には、単純な正比例・反比例といった線形関係だけではなく、非線形な関係性が存在している可能性も示唆された。

最後に、本稿の分析については教育のアウトカム指標として「学力達成」のみに限定していることに留意されたい。つまり、一般に人的資本として考慮される学力以外の側面（たとえば、勤勉性、忍耐力、対人能力、自己規律、協調性といった非認知能力、また、健康や基礎体力、市民的・社会的関心）を教育成果の指標とした場合、本稿で示された学校内要因、学校外要因は異なる関係性を持つ可能性があることも指摘しておく。

[注]

- (1) 最近では、山崎編（2010）、赤林・中村（2011）が2時点における学力調査結果を利用したパネルデータによる分析を行っている。もっとも、これらの先行研究においても分析対象地域が沖縄県、横浜市とそれぞれ限定されている。
- (2) 市町村ごとの各科目の平均点は受験者の総得点を受験者の総問題数で割って算出している（数値結果は単純平均と一致する）。就学援助割合については、該当する区分の学校に在籍する児童生徒の割合を市町村の全児童生徒で割って算出している。また、通塾に関する変数については、市町村の全児童生徒のうち各項目に該当する児童生徒の割合を算出している。
- (3) F検定、Breusch-Pagan LM検定、Hausman検定の結果、それぞれ1%有意水準で固定効果モデルが支持されたため、以降では固定効果モデルの結果のみを示す。
- (4) 最近では、赤林・中村（2011）、赤林・中村・佐野・直井（2011）、北條（2011）らのように非連続回帰分析を利用した厳密なクラスサイズ効果の測定が行われるようになってきたが、これらの推計はクラスサイズ効果の非線形性を前提としていない点で注意が必要である。

[参考文献]

赤林英夫・中村亮介（2011）,「学級規模縮小が学力に与えた効果の分析—横浜市公開データにもとづく実証分析—」, KEIO/KYOTO GLOBAL COE DISCUSSION PAPER SERIES, DP2011-005.

赤林英夫・中村亮介・佐野晋平・直井道生（2011）、「少人数教育の計量経済分析：静岡県における全国学力・学習状況調査を用いた検証」、日本経済学会 2011 年秋季大会報告論文。

篠崎武久（2008）、「教育資源と学力の関係」、千葉県検証改善委員会『平成 19 年度全国学力・学習状況調査分析報告書』，第 7 章, pp.73-97.

志水宏吉・山田哲也・鈴木勇・石原陽子・前馬優策・知念渉・古田美貴・中村瑛仁（2009），「学力政策の比較社会学（その 1）」，日本教育社会学会第 61 回大会報告.

北條雅一（2011）、「学力の決定要因—経済学の視点から」，『日本労働研究雑誌』、No.614, pp.16-27.

文部科学省（2009）『平成 19・20 年度 全国学力・学習状況調査 追加分析報告書』

山崎博敏編（2010）、『地方自治体の学力調査と接合したパネルデータを用いた学力の規定要因の分析』

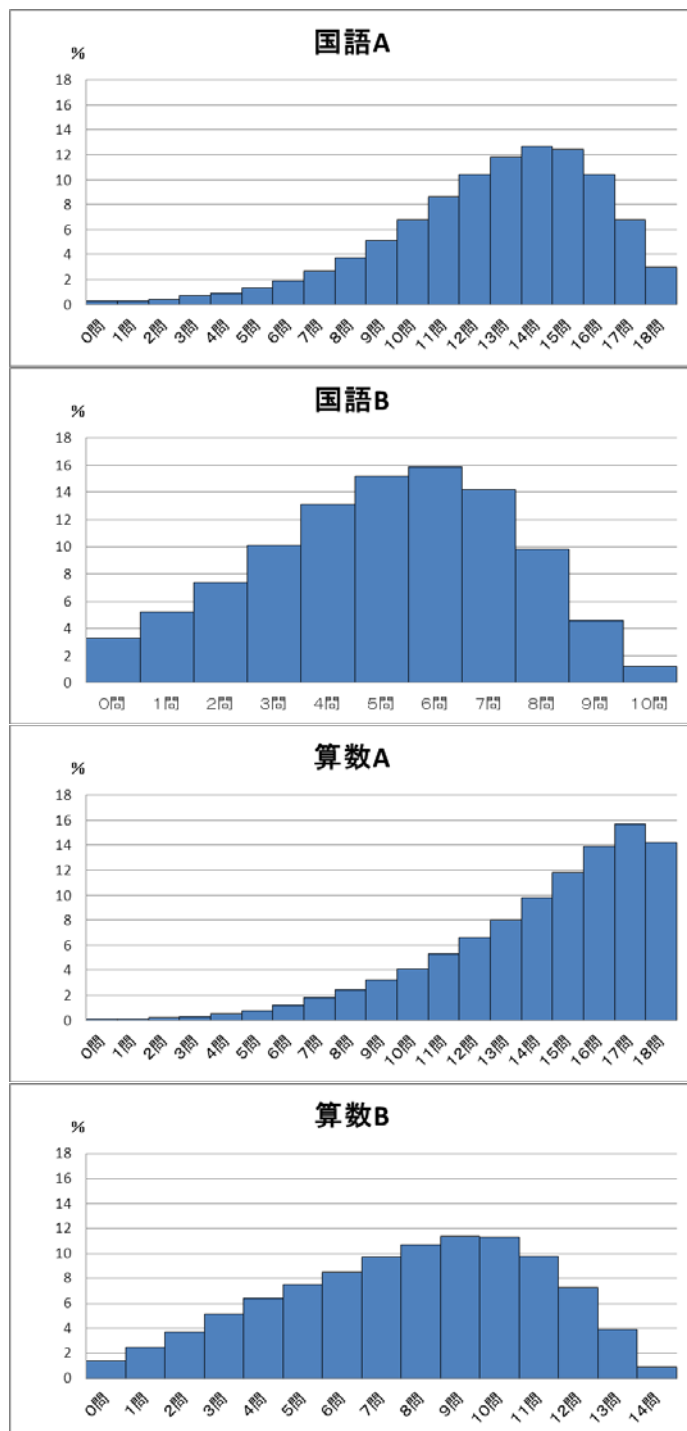
妹尾 渉（国立教育政策研究所）

北條雅一（新潟大学経済学部）

篠崎武久（早稲田大学理工学術院）

[図表]

図 6.1 学力の得点分布



『全国学力・学習状況調査(平成 21 年度)』 小学校(公立)集計結果より作成

図 6.2 学力指標について

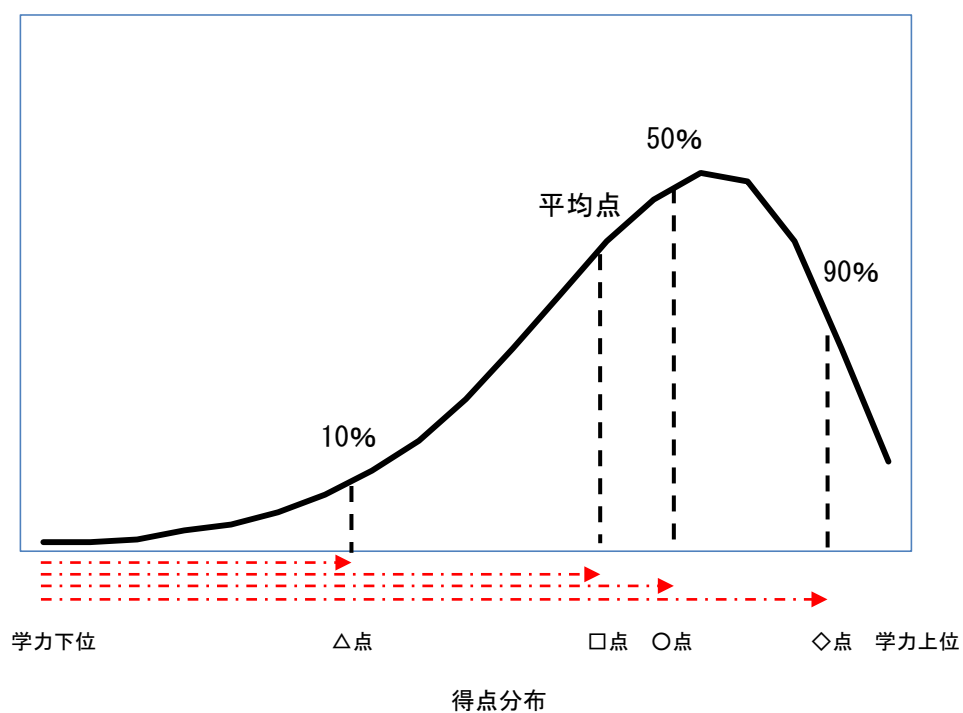


表 6.3 記述統計量

記述統計量 (full sample)							
変数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	変数	平均値	標準偏差
小学6年生				中学3年生			
国語A問題: 平均点	12.86	1.50	5.00	17.00	国語A問題: 平均点	26.94	2.70
国語A問題: 上位90%	16.60	0.92	5	18	国語A問題: 上位90%	32.53	2.11
国語A問題: 中位50%	13.28	1.65	5	17	国語A問題: 中位50%	28.19	2.74
国語A問題: 下位10%	8.53	2.31	0	17	国語A問題: 下位10%	19.54	3.94
国語B問題: 平均点	5.61	0.79	1.00	8.89	国語B問題: 平均点	7.17	1.06
国語B問題: 上位90%	8.88	1.06	2	12	国語B問題: 上位90%	9.94	0.88
国語B問題: 中位50%	5.78	0.98	1	10	国語B問題: 中位50%	7.66	1.26
国語B問題: 下位10%	1.96	0.86	0	8	国語B問題: 下位10%	3.63	1.35
算数A問題: 平均点	14.34	1.20	3.67	18.50	数学A問題: 平均点	22.89	3.21
算数A問題: 上位90%	18.03	0.82	8	19	数学A問題: 上位90%	32.43	2.59
算数A問題: 中位50%	15.06	1.38	3	19	数学A問題: 中位50%	23.98	4.11
算数A問題: 下位10%	9.62	1.79	0	18	数学A問題: 下位10%	11.44	3.54
算数B問題: 平均点	7.49	1.11	0.67	12.33	数学B問題: 平均点	8.67	1.59
算数B問題: 上位90%	11.29	1.12	2	14	数学B問題: 上位90%	13.54	1.67
算数B問題: 中位50%	7.67	1.28	0	12	数学B問題: 中位50%	8.86	1.92
算数B問題: 下位10%	3.43	1.26	0	12	数学B問題: 下位10%	3.50	1.50
一学級当り児童数(人)	26.13	6.92	1	42	一学級当り生徒数(人)	29.7	6.3
僻地在籍者割合	0.180	0.349	0.000	1.000	僻地在籍者割合	0.166	0.346
就学援助割合(在籍していない)	0.167	0.255	0.000	1.000	就学援助割合(在籍していない)	0.074	0.219
就学援助割合(5%未満)	0.239	0.277	0.000	1.000	就学援助割合(5%未満)	0.234	0.338
就学援助割合(5%以上)	0.256	0.264	0.000	1.000	就学援助割合(5%以上)	0.314	0.349
就学援助割合(10%以上)	0.304	0.307	0.000	1.000	就学援助割合(10%以上)	0.347	0.375
就学援助割合(30%以上)	0.279	0.907	0.000	1.000	就学援助割合(30%以上)	0.028	0.117
就学援助割合(50%以上)	0.006	0.041	0.000	1.000	就学援助割合(50%以上)	0.003	0.034
学習塾に通っていない	0.609	0.129	0.000	1.000	学習塾に通っていない	0.478	0.182
進学塾に通っている	0.171	0.091	0.000	0.600	進学塾に通っている	0.146	0.082
補習塾に通っている	0.073	0.035	0.000	0.833	補習塾に通っている	0.091	0.041
進学&補習塾に通っている	0.059	0.034	0.000	0.333	進学&補習塾に通っている	0.203	0.099
進学&補習塾以外の塾に通	0.088	0.042	0.000	0.500	進学&補習塾以外の塾に通	0.082	0.045
標本サイズ: 5361					標本サイズ: 5253		
グループ数: 1787					グループ数: 1751		
期間: 3期 (2007、2008、2009)				期間: 3期 (2007、2008、2009)			

表 6.4 国語 A の推計結果 (小学 6 年)

	平均			上位90%		中位50%		下位10%				
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9	モデル10	モデル11	モデル12
一学級当たり児童数	-0.0094	-0.0007	-0.0198	-0.0037	0.0607	0.103	-0.0101	0.0065	0.0461	-0.0158	-0.07	-0.2114
	[-2.93]***	[-0.06]	[-0.73]	[-0.97]	[4.25]***	[3.27]***	[-2.45]**	[0.41]	[1.33]	[-2.46]**	[-2.86]***	[-3.91]***
一学級当たり児童数2乗項		-0.0002	0.0008		-0.0013	-0.0036		-0.0003	-0.0024		0.0011	0.0086
		[-0.74]	[0.63]		[-4.67]***	[-2.37]**		[-1.09]	[-1.47]		[2.30]**	[3.32]***
一学級当たり児童数3乗項			0.0000			0.0000			0.0000			-0.0001
			[-0.79]			[1.50]			[1.28]			[-2.93]***
僻地在籍割合	-0.2871	-0.2676	-0.2652	-1.007	-0.8634	-0.8687	-0.2568	-0.2199	-0.2249	1.0112	0.8902	0.9079
	[-1.17]	[-1.08]	[-1.07]	[-3.51]***	[-3.00]***	[-3.02]***	[-0.82]	[-0.70]	[-0.71]	[2.06]**	[1.81]*	[1.84]*
就学援助割合(5%未満)	-0.1677	-0.1732	-0.1739	0.0247	-0.0158	-0.0142	-0.1676	-0.178	-0.1766	-0.2483	-0.2142	-0.2195
	[-2.86]***	[-2.93]***	[-2.94]***	[0.36]	[-0.23]	[-0.21]	[-2.24]**	[-2.36]**	[-2.34]**	[-2.13]**	[-1.82]*	[-1.87]*
就学援助割合(5%以上)	-0.2077	-0.213	-0.2125	-0.0165	-0.0552	-0.0563	-0.1615	-0.1715	-0.1725	-0.2445	-0.2118	-0.2082
	[-3.47]***	[-3.54]***	[-3.53]***	[-0.24]	[-0.79]	[-0.81]	[-2.12]**	[-2.23]**	[-2.24]**	[-2.05]**	[-1.77]*	[-1.74]*
就学援助割合(10%以上)	-0.3743	-0.3786	-0.3782	-0.0229	-0.0543	-0.0553	-0.3557	-0.3638	-0.3647	-0.5728	-0.5463	-0.5431
	[-6.10]***	[-6.14]***	[-6.14]***	[-0.32]	[-0.76]	[-0.77]	[-4.54]***	[-4.62]***	[-4.64]***	[-4.68]***	[-4.45]***	[-4.43]***
就学援助割合(30%以上)	-0.5274	-0.5246	-0.5286	-0.2398	-0.2185	-0.2096	-0.4531	-0.4476	-0.4393	-1.1866	-1.2045	-1.2343
	[-3.57]***	[-3.55]***	[-3.57]***	[-1.39]	[-1.27]	[-1.22]	[-2.40]**	[-2.37]**	[-2.33]**	[-4.03]***	[-4.09]***	[-4.19]***
就学援助割合(50%以上)	-1.6067	-1.5941	-1.6052	-1.9313	-1.8385	-1.8139	-1.92	-1.8961	-1.873	-1.2941	-1.3722	-1.4546
	[-6.52]***	[-6.45]***	[-6.48]***	[-6.72]***	[-6.40]***	[-6.31]***	[-6.10]***	[-6.01]***	[-5.93]***	[-2.63]***	[-2.79]***	[-2.95]***
進学塾	0.3736	0.3666	0.3728	0.51	0.4583	0.4447	0.2209	0.2076	0.1948	0.6582	0.7017	0.7473
	[1.72]*	[1.69]*	[1.71]*	[2.02]**	[1.81]*	[1.76]*	[0.80]	[0.75]	[0.70]	[1.52]	[1.62]	[1.73]*
補習塾	-1.1776	-1.1863	-1.1796	-0.8281	-0.8923	-0.9074	-0.743	-0.7595	-0.7736	-2.1828	-2.1287	-2.0784
	[-4.20]***	[-4.23]***	[-4.20]***	[-2.54]**	[-2.74]***	[-2.78]***	[-2.08]**	[-2.12]**	[-2.16]**	[-3.91]***	[-3.81]***	[-3.72]***
進学&補習塾	-0.5088	-0.5238	-0.5098	-0.8615	-0.9722	-1.0033	-0.7498	-0.7782	-0.8073	-0.9088	-0.8156	-0.7118
	[-1.41]	[-1.45]	[-1.41]	[-2.05]**	[-2.32]**	[-2.39]**	[-1.63]	[-1.69]*	[-1.75]*	[-1.27]	[-1.13]	[-0.99]
それ以外の塾	-0.2074	-0.2112	-0.2114	0.0279	-0.0002	0.0001	-0.233	-0.2403	-0.24	-0.1898	-0.1661	-0.1671
	[-0.86]	[-0.87]	[-0.87]	[0.10]	[-0.00]	[0.00]	[-0.75]	[-0.78]	[-0.78]	[-0.39]	[-0.34]	[-0.35]
d2008	-3.0168	-3.0169	-3.0174	-1.0782	-1.0786	-1.0773	-3.2731	-3.2732	-3.272	-4.5529	-4.5525	-4.5568
	[-161.81]*	[-161.80]*	[-161.70]*	[-49.63]**	[-49.80]**	[-49.71]**	[-137.53]*	[-137.54]*	[-137.40]*	[-122.52]*	[-122.59]*	[-122.74]*
d2009	-2.185	-2.1847	-2.1851	-1.2348	-1.2323	-1.2314	-2.2758	-2.2752	-2.2744	-3.0375	-3.0396	-3.0426
	[-118.22]*	[-118.16]*	[-118.13]*	[-57.35]**	[-57.38]**	[-57.33]**	[-96.47]**	[-96.42]**	[-96.35]**	[-82.46]**	[-82.54]**	[-82.68]**
定数項	15.1953	15.1036	15.1948	17.6957	17.0203	16.818	15.7285	15.555	15.3654	11.7425	12.3116	12.9876
	[130.67]**	[88.68]***	[73.77]***	[130.62]**	[86.03]***	[70.30]**	[105.96]**	[71.56]**	[58.45]**	[50.67]**	[36.29]**	[31.69]**
N	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361
決定係数	0.9059	0.9059	0.906	0.5731	0.5757	0.5759	0.8722	0.8722	0.8723	0.8432	0.8435	0.8438
* p<0.1, ** p<0.05, *** p<0.01												
推計結果は固定効果モデル、[]内はt値												

表 6.5 国語Bの推定結果（小学6年）

	平均			上位90%			中位50%			下位10%			
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9	モデル10	モデル11	モデル12	
一学級当たり児童数	-0.0079 [-3.17]***	0.0115 [1.21]	0.0274 [1.31]	0.0049 [1.51]	0.0524 [4.23]***	0.1543 [5.65]***	-0.0073 [-1.97]**	0.0157 [1.12]	0.0329 [1.06]	-0.0132 [-3.23]***	-0.0642 [-4.12]***	-0.1605 [-4.66]***	
一学級当たり児童数2乗項		-0.0004 [-2.11]**	-0.0012 [-1.24]		-0.001 [-3.98]***	-0.0064 [-4.87]***	-0.0005 [-1.69]*	-0.0014 [-0.93]		0.0011 [3.39]***	0.0011 [3.72]***	0.0061 [3.72]***	
一学級当たり児童数3乗項						0.0001 [4.18]***			0.0000 [0.62]			-0.0001 [-3.13]***	
僻地在籍者割合	-0.4393 [-2.31]**	-0.3961 [-2.07]**	-0.3982 [-2.08]**	-1.0953 [-4.41]***	-0.9893 [-3.97]***	-1.0021 [-4.03]***	-0.8951 [-3.18]***	-0.8438 [-2.98]***	-0.846 [-2.99]***	0.4294 [1.37]	0.3156 [1.00]	0.3277 [1.04]	
就学援助割合(5%未満)	-0.0601 [-1.33]	-0.0723 [-1.58]	-0.0717 [-1.57]	-0.0126 [-0.21]	-0.0425 [-0.71]	-0.0387 [-0.65]	-0.0157 [-0.23]	-0.0302 [-0.45]	-0.0295 [-0.44]	-0.2673 [-3.58]***	-0.2352 [-3.13]***	-0.2388 [-3.19]***	
就学援助割合(5%以上)	-0.1167 [-2.53]**	-0.1284 [-2.76]***	-0.1288 [-2.77]***	-0.0538 [-0.89]	-0.0824 [-1.36]	-0.085 [-1.40]	-0.051 [-0.75]	-0.0649 [-0.94]	-0.0653 [-0.95]	-0.2894 [-3.81]***	-0.2587 [-3.38]***	-0.2562 [-3.35]***	
就学援助割合(10%以上)	-0.1791 [-3.78]***	-0.1886 [-3.96]***	-0.1889 [-3.97]***	-0.0958 [-1.55]	-0.119 [-1.92]*	-0.1213 [-1.96]*	-0.1076 [-1.53]	-0.1188 [-1.69]*	-0.1192 [-1.69]*	-0.3776 [-4.84]***	-0.3527 [-4.51]***	-0.3505 [-4.48]***	
就学援助割合(30%以上)	-0.2667 [-2.33]**	-0.2603 [-2.28]**	-0.2569 [-2.25]**	-0.5019 [-3.36]***	-0.4862 [-3.26]***	-0.4648 [-3.13]***	-0.2377 [-1.41]	-0.2301 [-1.36]	-0.2265 [-1.34]	-0.2013 [-1.07]	-0.2181 [-1.16]	-0.2384 [-1.27]	
就学援助割合(50%以上)	-1.4122 [-7.41]***	-1.3843 [-7.25]***	-1.375 [-7.19]***	-2.2017 [-8.84]***	-2.1332 [-8.57]***	-2.0738 [-8.33]***	-1.3412 [-4.75]***	-1.3081 [-4.63]***	-1.298 [-4.58]***	-0.484 [-2.92]***	-0.5576 [-2.78]***	-0.6136 [-2.68]***	
進学塾	0.1665 [0.99]	0.151 [0.90]	0.1458 [0.87]	0.2604 [1.19]	0.2222 [1.01]	0.1894 [0.87]	0.1526 [0.61]	0.1341 [0.54]	0.1286 [0.52]	0.1723 [0.62]	0.2133 [0.77]	0.2444 [0.89]	
補習塾	-0.9533 [-4.40]***	-0.9727 [-4.49]***	-0.9784 [-4.51]***	-0.7517 [-2.66]***	-0.7991 [-2.83]***	-0.8354 [-2.96]***	-0.9465 [-2.95]***	-0.9694 [-3.02]***	-0.9756 [-3.04]***	-1.041 [-2.92]***	-0.99 [-2.78]***	-0.9558 [-2.68]***	
進学&補習塾	0.023 [0.08]	-0.0103 [-0.04]	-0.022 [-0.08]	-0.0998 [-0.27]	-0.1814 [-0.50]	-0.2563 [-0.71]	0.0985 [0.24]	0.059 [0.14]	0.0464 [0.11]	-0.0378 [-0.08]	0.0499 [0.11]	0.1206 [0.26]	
それ以外の塾	-0.6266 [-3.35]***	-0.635 [-3.40]***	-0.6349 [-3.40]***	-0.8777 [-3.59]***	-0.8984 [-3.69]***	-0.8977 [-3.69]***	-0.7188 [-2.60]***	-0.7288 [-2.63]***	-0.7287 [-2.63]***	-0.4468 [-1.45]	-0.4245 [-1.38]	-0.4252 [-1.39]	
d2008	-0.1581 [-10.97]**	-0.1583 [-10.99]**	-0.1578 [-10.94]**	0.8077 [42.91]***	0.8074 [42.98]***	0.8105 [43.21]***	-0.3936 [-18.45]**	-0.3938 [-18.47]**	-0.3932 [-18.43]**	-0.6942 [-29.27]**	-0.6938 [-29.30]**	-0.6968 [-29.44]**	
d2009	-1.1377 [-79.63]**	-1.137 [-79.59]**	-1.1366 [-79.53]**	-1.2748 [-68.31]**	-1.2729 [-68.33]**	-1.2707 [-68.35]**	-1.3508 [-63.89]**	-1.3499 [-63.85]**	-1.3496 [-63.80]**	-0.5353 [-22.77]**	-0.5373 [-22.88]**	-0.5393 [-22.99]**	
定数項	6.5318 [72.66]***	6.3286 [48.09]***	6.2521 [39.28]***	9.2728 [78.98]***	8.7742 [51.13]***	8.2869 [40.02]***	6.8797 [51.72]***	6.6386 [27.83]***	6.5561 [27.83]***	2.9849 [20.18]***	3.5203 [16.27]***	3.9807 [15.24]***	
N	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	
決定係数	0.7179	0.7183	0.7184	0.8078	0.8087	0.8096	0.5961	0.5965	0.2662	0.2685	0.2705		
* * p<0.1, ** p<0.05, *** p<0.01													
推計結果は固定効果モデル、[]内はt値													

表 6.6 算数 A の推計結果（小学 6 年）

	平均			上位90%			中位50%			下位10%		
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9	モデル10	モデル11	モデル12
一学級当たり児童数	-0.006 [-1.74]*	-0.0033 [-0.25]	0.0254 [0.87]	0.0005 [0.17]	0.0635 [5.82]***	0.1566 [6.51]***	-0.0035 [-0.80]	-0.002 [-0.12]	0.0059 [0.16]	-0.0121 [-1.67]*	-0.0663 [-2.41]**	-0.0653 [-1.07]
一学級当たり児童数2乗項		-0.0001 [-0.21]	-0.0016 [-1.13]		-0.0013 [-5.98]***	-0.0062 [-5.40]***		0 [-0.09]	-0.0004 [-0.25]		0.0011 [2.04]**	0.0011 [0.37]
一学級当たり児童数3乗項			0.0000 [1.11]			0.0001 [4.34]***			0.0000 [0.24]			0.0000 [0.02]
僻地在籍者割合	0.1658 [0.63]	0.1718 [0.65]	0.1682 [0.63]	-0.3829 [-1.74]*	-0.2423 [-1.10]	-0.254 [-1.16]	0.1993 [0.60]	0.2026 [0.61]	0.2016 [0.60]	0.4784 [0.87]	0.3575 [0.64]	0.3574 [0.64]
就学援助割合(5%未満)	-0.0474 [-0.76]	-0.0491 [-0.78]	-0.0481 [-0.76]	0.0767 [1.47]	0.0371 [0.71]	0.0406 [0.77]	-0.1678 [-2.12]**	-0.1688 [-2.12]**	-0.1685 [-2.11]**	-0.1315 [-1.00]	-0.0974 [-0.74]	-0.0974 [-0.73]
就学援助割合(5%以上)	-0.1385 [-2.17]**	-0.1402 [-2.17]**	-0.1409 [-2.19]**	0.0552 [1.03]	0.0172 [0.32]	0.0149 [0.28]	-0.2547 [-3.16]***	-0.2556 [-3.14]***	-0.2558 [-3.15]***	-0.1767 [-1.32]	-0.1441 [-1.07]	-0.1441 [-1.07]
就学援助割合(10%以上)	-0.2664 [-4.06]***	-0.2677 [-4.06]***	-0.2684 [-4.07]***	0.0555 [1.01]	0.0247 [0.45]	0.0227 [0.41]	-0.2753 [-3.32]***	-0.276 [-3.32]***	-0.2762 [-3.32]***	-0.5795 [-4.21]***	-0.553 [-4.00]***	-0.5531 [-4.00]***
就学援助割合(30%以上)	0.0444 [0.28]	0.0453 [0.29]	0.0513 [0.32]	-0.0406 [-0.31]	-0.0198 [-0.15]	-0.0002 [-0.00]	0.2391 [1.20]	0.2396 [1.20]	0.2412 [1.21]	-0.0669 [-0.20]	-0.0848 [-0.26]	-0.0846 [-0.26]
就学援助割合(50%以上)	-0.6626 [-2.51]**	-0.6587 [-2.49]**	-0.642 [-2.42]**	-1.0311 [-4.69]***	-0.9403 [-4.28]***	-0.8861 [-4.04]***	-0.4823 [-1.45]	-0.4802 [-1.44]	-0.4756 [-1.42]	-0.5453 [-0.99]	-0.6234 [-1.12]	-0.6228 [-1.12]
進学塾	0.1646 [0.71]	0.1625 [0.70]	0.1532 [0.66]	-0.0213 [-0.11]	-0.0719 [-0.37]	-0.102 [-0.53]	-0.3469 [-1.18]	-0.3481 [-1.19]	-0.3507 [-1.19]	0.4502 [0.92]	0.4937 [1.01]	0.4934 [1.01]
補習塾	-1.385 [-4.62]***	-1.3877 [-4.62]***	-1.3979 [-4.65]***	-0.7058 [-2.82]***	-0.7687 [-3.08]***	-0.8018 [-3.22]***	-0.9461 [-2.50]**	-0.9475 [-2.50]**	-0.9503 [-2.51]**	-2.1463 [-3.41]***	-2.0922 [-3.33]***	-2.0926 [-3.32]***
進学&補習塾	-0.5914 [-1.53]	-0.5961 [-1.54]	-0.6171 [-1.60]	-0.1981 [-0.62]	-0.3064 [-0.96]	-0.3747 [-1.17]	-0.938 [-1.93]*	-0.9405 [-1.93]*	-0.9463 [-1.94]*	-0.7314 [-0.91]	-0.6382 [-0.79]	-0.6389 [-0.79]
それ以外の塾	-0.4812 [-1.86]*	-0.4824 [-1.86]*	-0.4822 [-1.86]*	-0.7215 [-3.34]***	-0.7491 [-3.49]***	-0.7484 [-3.49]***	-0.4984 [-1.53]	-0.4991 [-1.53]	-0.499 [-1.53]	-0.4738 [-0.87]	-0.4501 [-0.83]	-0.4501 [-0.83]
d2008	-1.8935 [-94.89]**	-1.8935 [-94.88]**	-1.8927 [-94.76]**	-1.215 [-73.02]**	-1.2155 [-73.40]**	-1.2127 [-73.36]**	-2.1757 [-86.46]**	-2.1757 [-86.45]**	-2.1754 [-86.36]**	-2.1341 [-51.04]**	-2.1337 [-51.05]**	-2.1337 [-51.00]**
d2009	-1.4268 [-72.13]**	-1.4267 [-72.09]**	-1.426 [-72.03]**	-1.1724 [-71.08]**	-1.17 [-71.25]**	-1.168 [-71.28]**	-1.6103 [-64.55]**	-1.6102 [-64.52]**	-1.61 [-64.48]**	-1.3223 [-31.90]**	-1.3243 [-31.95]**	-1.3243 [-31.94]**
定数項	15.8487 [127.34]**	15.8205 [86.78]**	15.6834 [71.14]**	18.9743 [182.82]**	18.3131 [121.07]**	17.868 [97.92]**	16.7841 [106.94]**	16.7688 [72.94]**	16.731 [60.17]**	11.4182 [43.78]**	11.9868 [31.40]**	11.9822 [25.95]**
N	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361
決定係数	0.7751	0.7751	0.7752	0.707	0.7099	0.7114	0.737	0.737	0.737	0.4886	0.4892	0.4892
* p<0.1, ** p<0.05, *** p<0.01												
推計結果は固定効果モデル、[]内はt値												

表 6.7 算数Bの推計結果（小学6年）

	平均			上位90%			中位50%			下位10%			
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9	モデル10	モデル11	モデル12	
一学級当たり児童数	-0.0064	0.0208	0.0462	0.0011	0.0875	0.2797	-0.0092	0.0141	0.0357	-0.0135	-0.0545	-0.1712	
	[-2.36]**	[2.01]**	[2.02]**	[0.30]	[6.15]**	[8.95]**	[-2.44]**	[0.97]	[1.12]	[-3.02]**	[-3.21]**	[-4.57]**	
一学級当たり児童数2乗項		-0.0006	-0.0019		-0.0018	-0.0119		-0.0005	-0.0016		0.0009	0.007	
		[-2.73]**	[-1.74]*		[-6.29]**	[-7.97]**		[-1.67]*	[-1.07]		[2.50]**	[3.91]**	
一学級当たり児童数3乗項			0.0000			0.0002			0.0000			-0.0001	
			[1.24]			[6.89]**			[0.76]			[-3.49]**	
僻地在籍者割合	0.2193	0.2802	0.277	-0.0702	0.1225	0.0983	0.0687	0.1206	0.1179	0.4712	0.3797	0.3944	
	[1.06]	[1.34]	[1.33]	[-0.24]	[0.43]	[0.35]	[0.24]	[0.41]	[0.41]	[1.38]	[1.11]	[1.16]	
就学援助割合(5%未満)	-0.1082	-0.1253	-0.1244	-0.0444	-0.0987	-0.0915	-0.1025	-0.1172	-0.1164	-0.2053	-0.1795	-0.1839	
	[-2.19]**	[-2.51]**	[-2.50]**	[-0.65]	[-1.44]	[-1.35]	[-1.49]	[-1.69]*	[-1.68]*	[-2.53]**	[-2.20]**	[-2.26]**	
就学援助割合(5%以上)	-0.1581	-0.1745	-0.1751	-0.0062	-0.0582	-0.0631	-0.2126	-0.2266	-0.2272	-0.247	-0.2223	-0.2194	
	[-3.13]**	[-3.44]**	[-3.45]**	[-0.09]	[-0.83]	[-0.91]	[-3.03]**	[-3.20]**	[-3.21]**	[-2.99]**	[-2.67]**	[-2.64]**	
就学援助割合(10%以上)	-0.3271	-0.3405	-0.341	-0.1282	-0.1704	-0.1747	-0.4247	-0.4361	-0.4365	-0.4888	-0.4687	-0.4661	
	[-6.32]**	[-6.55]**	[-6.56]**	[-1.79]*	[-2.39]**	[-2.46]**	[-5.89]**	[-6.02]**	[-6.03]**	[-5.76]**	[-5.50]**	[-5.48]**	
就学援助割合(30%以上)	-0.4569	-0.4479	-0.4425	-0.5347	-0.5062	-0.4657	-0.4113	-0.4036	-0.399	-0.3272	-0.3408	-0.3653	
	[-3.66]**	[-3.59]**	[-3.55]**	[-3.11]**	[-2.96]**	[-2.73]**	[-2.37]**	[-2.32]**	[-2.30]**	[-1.60]	[-1.67]*	[-1.79]*	
就学援助割合(50%以上)	-1.2233	-1.184	-1.1692	-1.7057	-1.5812	-1.4693	-1.2685	-1.235	-1.2224	-0.6789	-0.7381	-0.806	
	[-5.88]**	[-5.68]**	[-5.60]**	[-5.94]**	[-5.52]**	[-5.16]**	[-4.38]**	[-4.25]**	[-4.20]**	[-1.99]**	[-2.16]**	[-2.36]**	
進学塾	0.3709	0.349	0.3408	0.396	0.3266	0.2646	0.3235	0.3048	0.2978	0.1869	0.2199	0.2576	
	[2.02]**	[1.90]*	[1.86]*	[1.56]	[1.30]	[1.06]	[1.27]	[1.19]	[1.16]	[0.62]	[0.73]	[0.86]	
補習塾	-1.6731	-1.7004	-1.7094	-0.6384	-0.7247	-0.7931	-1.4423	-1.4655	-1.4732	-2.7301	-2.6891	-2.6476	
	[-7.07]**	[-7.19]**	[-7.22]**	[-1.96]*	[-2.23]**	[-2.45]**	[-4.38]**	[-4.45]**	[-4.47]**	[-7.04]**	[-6.94]**	[-6.84]**	
進学&補習塾	-0.5364	-0.5832	-0.6018	-0.1991	-0.3476	-0.4887	-0.7688	-0.8088	-0.8247	-0.7931	-0.7226	-0.6369	
	[-1.76]*	[-1.92]*	[-1.98]**	[-0.47]	[-0.83]	[-1.18]	[-1.82]*	[-1.91]*	[-1.94]*	[-1.59]	[-1.45]	[-1.28]	
それ以外の塾	-0.2211	-0.233	-0.2328	0.4951	0.4574	0.4587	-0.1654	-0.1756	-0.1754	-0.3102	-0.2923	-0.2931	
	[-1.08]	[-1.14]	[-1.14]	[1.76]*	[1.63]	[1.65]*	[-0.58]	[-0.62]	[-0.62]	[-0.93]	[-0.87]	[-0.88]	
d2008	-2.1263	-2.1265	-2.1257	-2.0239	-2.0246	-2.0187	-2.277	-2.2771	-2.2765	-2.0665	-2.0662	-2.0698	
	[-135.10]**	[-135.24]**	[-135.09]**	[-93.19]**	[-93.72]**	[-93.99]**	[-103.94]**	[-103.97]**	[-103.85]**	[-80.15]**	[-80.20]**	[-80.40]**	
d2009	-1.2017	-1.2007	-1.2001	-0.7763	-0.773	-0.7689	-1.197	-1.1961	-1.1956	-1.6807	-1.6823	-1.6848	
	[-77.03]**	[-77.01]**	[-76.95]**	[-36.06]**	[-36.09]**	[-36.12]**	[-55.12]**	[-55.08]**	[-55.03]**	[-65.76]**	[-65.85]**	[-66.03]**	
定数項	9.0275	8.7412	8.6202	12.2294	11.3231	10.404	9.3933	9.1489	9.0454	5.4631	5.8936	6.4517	
	[91.97]**	[60.86]**	[49.63]**	[90.29]**	[57.39]**	[43.88]**	[68.75]**	[45.73]**	[37.38]**	[33.97]**	[25.04]**	[22.70]**	
N	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	5361	
決定係数	0.8655	0.8658	0.8658	0.7491	0.7519	0.7552	0.791	0.7911	0.7912	0.7228	0.7233	0.7243	
* * p<0.1, ** p<0.05, *** p<0.01													
推計結果は固定効果モデル、[]内はt値													

表 6.8 国語 A の推計結果 (中学 3 年)

	平均			上位90%			中位50%			下位10%		
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9	モデル10	モデル11	モデル12
一学級当たり生徒数	0.0042 [0.87]	-0.0004 [-0.02]	-0.0702 [-1.36]	0.0094 [2.30]**	0.0908 [5.05]***	0.3405 [7.93]***	0.0098 [1.84]*	0.0318 [1.35]	0.0412 [0.73]	-0.0238 [-2.04]**	-0.194 [-3.76]***	-0.7324 [-5.94]***
一学級当たり生徒数2乗項		0.0001 [0.22]	0.0035 [1.50]		-0.0015 [-4.65]***	-0.0136 [-7.10]***		-0.0004 [-0.96]	-0.0009 [-0.34]		0.0032 [3.39]***	0.0291 [5.31]***
一学級当たり生徒数3乗項			0.0000 [-1.49]			0.0002 [6.40]***			0.0000 [0.18]			-0.0004 [-4.80]***
僻地在籍者割合	1.2953 [4.34]***	1.2864 [4.27]***	1.2734 [4.23]***	0.4827 [1.93]*	0.6394 [2.55]**	0.6858 [2.75]***	1.5054 [4.63]***	1.5476 [4.71]***	1.5494 [4.72]***	1.4759 [2.06]**	1.1486 [1.59]	1.0486 [1.46]
就学援助割合(5%未満)	-0.0163 [-0.18]	-0.0137 [-0.15]	-0.0048 [-0.05]	0.1286 [1.68]*	0.0814 [1.05]	0.0499 [0.65]	-0.0374 [-0.37]	-0.0502 [-0.50]	-0.0513 [-0.51]	0.2372 [1.08]	0.3359 [1.52]	0.4039 [1.83]*
就学援助割合(5%以上)	-0.0022 [-0.02]	0.0007 [0.01]	0.0114 [0.12]	0.1009 [1.30]	0.0503 [0.64]	0.0121 [0.16]	0.0121 [0.12]	-0.0016 [-0.02]	-0.003 [-0.03]	0.2297 [1.03]	0.3355 [1.50]	0.4178 [1.87]*
就学援助割合(10%以上)	0.0755 [0.77]	0.0785 [0.80]	0.0906 [0.91]	0.187 [2.29]**	0.1351 [1.64]	0.0919 [1.12]	0.1605 [1.51]	0.1465 [1.36]	0.1449 [1.34]	0.0779 [0.33]	0.1862 [0.79]	0.2794 [1.18]
就学援助割合(30%以上)	0.5473 [2.62]***	0.5496 [2.63]***	0.5463 [2.61]***	-0.0461 [-0.26]	-0.0862 [-0.49]	-0.0744 [-0.43]	0.2395 [1.05]	0.2286 [1.00]	0.2291 [1.01]	1.8823 [3.76]***	1.9661 [3.93]***	1.9406 [3.89]***
就学援助割合(50%以上)	1.1423 [2.57]**	1.144 [2.57]**	1.1531 [2.59]***	1.136 [3.05]***	1.1061 [2.98]***	1.0735 [2.91]***	1.1107 [2.29]**	1.1027 [2.27]**	1.1014 [2.27]**	2.1298 [2.00]**	2.192 [2.06]**	2.2825 [2.13]**
進学塾	0.9956 [2.38]**	1.0009 [2.39]**	1.0132 [2.42]**	0.3662 [1.05]	0.2737 [0.78]	0.2299 [0.66]	1.0392 [2.28]**	1.0142 [2.22]**	1.0126 [2.22]**	0.728 [0.73]	0.9212 [0.92]	1.0156 [1.02]
補習塾	-1.1971 [-2.64]***	-1.1987 [-2.64]***	-1.1877 [-2.61]***	0.2989 [0.79]	0.3257 [0.86]	0.2864 [0.76]	-1.1059 [-2.23]**	-1.0987 [-2.22]**	-1.1002 [-2.22]**	-2.1856 [-2.01]**	-2.2417 [-2.06]**	-2.1569 [-1.99]**
進学&補習塾	1.3563 [3.76]***	1.3615 [3.76]***	1.4126 [3.89]***	1.4628 [4.84]***	1.3726 [4.55]***	1.1897 [3.95]***	0.5741 [1.46]	0.5497 [1.39]	0.5428 [1.37]	2.074 [2.40]**	2.2624 [2.61]***	2.6569 [3.06]***
それ以外の塾	-2.2138 [-5.86]***	-2.216 [-5.86]***	-2.2271 [-5.89]***	-0.4371 [-1.38]	-0.3982 [-1.26]	-0.3585 [-1.14]	-2.0605 [-5.00]***	-2.05 [-4.97]***	-2.0485 [-4.97]***	-5.3208 [-5.87]***	-5.402 [-5.97]***	-5.4875 [-6.08]***
d2008	-5.1103 [-161.67]**	-5.1105 [-161.62]**	-5.11 [-161.63]**	-4.2931 [-162.28]**	-4.2906 [-162.63]**	-4.2922 [-163.61]**	-5.4763 [-158.83]**	-5.4756 [-158.78]**	-5.4756 [-158.75]**	-5.533 [-73.03]**	-5.5383 [-73.19]**	-5.5347 [-73.37]**
d2009	-4.6818 [-153.71]**	-4.6821 [-153.61]**	-4.6799 [-153.39]**	-3.9389 [-154.52]**	-3.9348 [-154.72]**	-3.9425 [-155.73]**	-4.4508 [-133.96]**	-4.4497 [-133.85]**	-4.45 [-133.69]**	-6.2587 [-85.73]**	-6.2672 [-85.92]**	-6.2506 [-85.87]**
定数項	29.6941 [142.85]**	29.7497 [91.16]***	30.1056 [74.37]***	34.4426 [197.97]**	33.4666 [122.91]**	32.1945 [95.85]**	30.9015 [136.28]**	30.6382 [86.08]**	30.59 [69.27]**	23.8285 [47.82]**	25.8674 [33.12]**	28.6108 [29.62]**
N	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253
決定係数	0.9301	0.9301	0.9301	0.9285	0.929	0.9298	0.9214	0.9215	0.9215	0.7781	0.7789	0.7803
* p<0.1, ** p<0.05, *** p<0.01												
推計結果は固定効果モデル、[]内はt値												

表 6.9 国語Bの推定結果（中学3年）

	平均		上位90%		モデル5		モデル6		中位50%		下位10%	
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9	モデル10	モデル11	モデル12
一学級当たり生徒数	-0.0026 [-1.18]	-0.0371 [-3.78]***	-0.074 [-3.14]***	0.001 [0.53]	0.0385 [4.50]***	0.163 [8.16]***	-0.0004 [-0.14]	-0.0253 [-1.80]*	0.0059 [0.18]	-0.0112 [-2.25]**	-0.1455 [-6.66]***	-0.3337 [-6.37]***
一学級当たり生徒数2乗項		0.0006 [3.61]***	0.0024 [2.31]**		-0.0007 [-4.50]***	-0.0069 [-7.56]***		0.0005 [1.82]*	-0.001 [-0.69]		0.0025 [6.31]***	0.0116 [4.97]***
一学級当たり生徒数3乗項			0.0000 [-1.72]*			0.0001 [6.90]***			0.0000 [1.02]			-0.0001 [-3.95]***
僻地在籍割合	0.5637 [4.14]***	0.4974 [3.63]***	0.4906 [3.58]***	0.1948 [1.64]	0.2669 [2.23]**	0.2906 [2.45]**	0.4116 [2.11]**	0.3637 [1.85]*	0.3695 [1.88]*	0.4888 [1.61]	0.2304 [0.75]	0.1954 [0.64]
就学援助割合(5%未満)	0.0221 [0.53]	0.0421 [1.00]	0.0467 [1.11]	0.0698 [1.91]*	0.0481 [1.31]	0.0319 [0.87]	0.017 [0.28]	0.0314 [0.52]	0.0275 [0.45]	0.0791 [0.85]	0.1569 [1.67]*	0.1807 [1.93]*
就学援助割合(5%以上)	0.0048 [0.11]	0.0262 [0.62]	0.0319 [0.75]	0.0115 [0.31]	-0.0118 [-0.32]	-0.0313 [-0.85]	0.0026 [0.04]	0.0181 [0.30]	0.0133 [0.22]	0.0235 [0.25]	0.1069 [1.13]	0.1357 [1.43]
就学援助割合(10%以上)	0.0013 [0.03]	0.0233 [0.52]	0.0297 [0.66]	-0.0009 [-0.02]	-0.0248 [-0.63]	-0.0469 [-1.20]	0.04 [0.63]	0.0559 [0.87]	0.0505 [0.78]	-0.0696 [-0.70]	0.0159 [0.16]	0.0485 [0.48]
就学援助割合(30%以上)	0.1169 [1.23]	0.1338 [1.41]	0.1321 [1.39]	0.0255 [0.31]	0.0071 [0.09]	0.0131 [0.16]	0.0272 [0.20]	0.0394 [0.29]	0.0409 [0.30]	0.4205 [1.98]**	0.4866 [2.30]**	0.4777 [2.26]**
就学援助割合(50%以上)	0.4882 [2.40]**	0.5008 [2.47]**	0.5056 [2.49]**	0.3479 [1.96]**	0.3342 [1.89]*	0.3175 [1.81]*	0.7343 [2.53]**	0.7434 [2.56]**	0.7393 [2.54]**	0.6424 [1.42]	0.6916 [1.53]	0.7162 [1.59]
進学塾	0.1146 [0.60]	0.1537 [0.81]	0.1602 [0.84]	-0.1348 [-0.81]	-0.1773 [-1.07]	-0.1997 [-1.21]	0.0755 [0.28]	0.1038 [0.38]	0.0983 [0.36]	0.0542 [0.13]	0.2067 [0.49]	0.2397 [0.57]
補習塾	-0.5119 [-2.47]**	-0.5233 [-2.53]**	-0.5175 [-2.50]**	-0.2581 [-1.43]	-0.2457 [-1.36]	-0.2658 [-1.48]	-0.7305 [-2.46]**	-0.7387 [-2.49]**	-0.7436 [-2.51]**	-0.2009 [-0.43]	-0.2452 [-0.53]	-0.2156 [-0.47]
進学&補習塾	0.7155 [4.34]***	0.7537 [4.57]***	0.7808 [4.72]***	0.3164 [2.20]**	0.2749 [1.91]*	0.1813 [1.27]	0.8152 [3.46]***	0.8428 [3.57]***	0.8199 [3.46]***	1.1346 [3.08]***	1.2833 [3.50]***	1.4211 [3.86]***
それ以外の塾	-0.63 [-3.65]***	-0.6465 [-3.76]***	-0.6523 [-3.79]***	-0.0148 [-0.10]	0.0031 [0.02]	0.0234 [0.16]	-0.6374 [-2.58]***	-0.6493 [-2.63]***	-0.6444 [-2.61]***	-0.6088 [-1.58]	-0.673 [-1.76]*	-0.7028 [-1.84]*
d2008	-1.0722 [-74.36]**	-1.0733 [-74.54]**	-1.073 [-74.54]**	-0.9009 [-71.62]**	-0.8998 [-71.71]**	-0.9006 [-72.25]**	-1.3439 [-65.11]**	-1.3446 [-65.16]**	-1.3448 [-65.16]**	-0.9785 [-30.36]**	-0.9827 [-30.65]**	-0.9814 [-30.67]**
d2009	1.0809 [77.79]***	1.0792 [77.76]***	1.0804 [77.77]***	1.0729 [88.51]***	1.0747 [88.86]***	1.0708 [89.03]***	1.1891 [59.79]***	1.1879 [59.71]***	1.1869 [59.60]***	0.8294 [26.70]***	0.8226 [26.61]***	0.8284 [26.83]***
定数項	7.0786 [74.64]***	7.4916 [50.42]***	7.6797 [41.67]***	9.7807 [118.24]**	9.3319 [72.07]***	8.6806 [54.40]***	7.5748 [55.81]***	7.8733 [36.97]***	7.714 [29.19]***	3.7454 [17.67]***	5.3551 [16.18]***	6.3136 [15.41]***
N	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253
決定係数	0.8994	0.8998	0.8998	0.9076	0.9081	0.9094	0.8582	0.8584	0.8584	0.5598	0.5648	0.5667
* p<0.1, ** p<0.05, *** p<0.01												
推計結果は固定効果モデル、[]内はt値												

表 6.10 数学 A の推計結果（中学 3 年）

	平均			上位90%			中位50%			下位10%		
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9	モデル10	モデル11	モデル12
一学級当たり生徒数	-0.0236 [-3.07]***	-0.1732 [-5.11]***	-0.2756 [-3.39]***	0.0038 [0.55]	0.1303 [4.46]***	0.5504 [7.55]***	-0.0276 [-2.75]***	-0.2273 [-5.14]***	-0.4241 [-4.00]***	-0.0424 [-3.38]***	-0.396 [-7.19]***	-0.9388 [-7.12]***
一学級当たり生徒数2乗項		0.0028 [4.53]***	0.0077 [2.13]**		-0.0025 [-4.45]***	-0.0224 [-6.92]***		0.0037 [4.64]***	0.0132 [2.80]***		0.0066 [6.59]***	0.0327 [5.58]***
一学級当たり生徒数3乗項			-0.0001 [-1.38]			0.0003 [6.25]***			-0.0001 [-2.04]**			-0.0004 [-4.53]***
僻地在籍者割合	2.0092 [4.27]***	1.7212 [3.64]***	1.7022 [3.59]***	0.6016 [1.42]	0.8564 [2.01]**	0.9334 [2.20]**	2.5994 [4.24]***	2.2151 [3.59]***	2.1785 [3.53]***	2.2305 [2.91]***	1.55 [2.01]**	1.4491 [1.89]*
就学援助割合(5%未満)	-0.3412 [-2.36]**	-0.2545 [-1.75]*	-0.2416 [-1.66]*	0.0711 [0.55]	-0.0057 [-0.04]	-0.058 [-0.44]	-0.184 [-0.98]	-0.0683 [-0.36]	-0.0434 [-0.23]	-0.5224 [-2.22]**	-0.3174 [-1.34]	-0.2488 [-1.05]
就学援助割合(5%以上)	-0.4618 [-3.16]***	-0.3688 [-2.51]**	-0.3531 [-2.39]**	-0.0958 [-0.73]	-0.1781 [-1.34]	-0.2414 [-1.83]*	-0.364 [-1.91]*	-0.2398 [-1.25]	-0.2098 [-1.09]	-0.5997 [-2.52]**	-0.3798 [-1.59]	-0.2969 [-1.24]
就学援助割合(10%以上)	-0.5138 [-3.33]***	-0.4185 [-2.70]***	-0.4008 [-2.57]**	-0.0413 [-0.30]	-0.1256 [-0.90]	-0.1973 [-1.41]	-0.4278 [-2.13]**	-0.3007 [-1.49]	-0.2666 [-1.31]	-0.9234 [-3.67]***	-0.6983 [-2.77]***	-0.6044 [-2.39]**
就学援助割合(30%以上)	0.2108 [0.64]	0.2844 [0.87]	0.2796 [0.85]	-0.1077 [-0.36]	-0.1729 [-0.58]	-0.1534 [-0.52]	0.3279 [0.76]	0.4262 [0.99]	0.4169 [0.97]	0.7635 [1.42]	0.9376 [1.76]*	0.9119 [1.71]*
就学援助割合(50%以上)	1.5903 [2.27]**	1.645 [2.35]**	1.6584 [2.37]**	1.1797 [1.87]*	1.1312 [1.79]*	1.077 [1.72]*	2.0874 [2.28]**	2.1605 [2.37]**	2.1862 [2.40]**	1.6515 [1.44]	1.781 [1.56]	1.8519 [1.63]
進学塾	3.1908 [4.84]***	3.3607 [5.10]***	3.3787 [5.13]***	1.269 [2.14]**	1.1186 [1.88]*	1.046 [1.77]*	3.7638 [4.38]***	3.9907 [4.65]***	4.0252 [4.69]***	2.8685 [2.67]***	3.2702 [3.05]***	3.3653 [3.15]***
補習塾	-1.6417 [-2.29]**	-1.6911 [-2.37]**	-1.675 [-2.34]**	-0.2637 [-0.41]	-0.22 [-0.34]	-0.2852 [-0.45]	-1.7709 [-1.89]*	-1.8368 [-1.97]**	-1.8058 [-1.94]*	-2.3282 [-1.99]**	-2.4448 [-2.10]**	-2.3594 [-2.04]**
進学&補習塾	3.1669 [5.56]***	3.3327 [5.86]***	3.4076 [5.96]***	1.3084 [2.55]**	1.1616 [2.27]**	0.8583 [1.68]*	4.6413 [6.25]***	4.8625 [6.55]***	5.0067 [6.72]***	1.9208 [2.07]**	2.3125 [2.50]**	2.7101 [2.92]***
それ以外の塾	-1.3016 [-2.18]**	-1.373 [-2.31]**	-1.3893 [-2.34]**	-1.7433 [-3.25]***	-1.6801 [-3.14]***	-1.6143 [-3.03]***	-1.5926 [-2.05]**	-1.688 [-2.18]**	-1.7192 [-2.22]**	0.2908 [0.30]	0.1219 [0.13]	0.0357 [0.04]
d2008	-3.2252 [-64.69]**	-3.2298 [-64.95]**	-3.2291 [-64.94]**	-1.5205 [-33.86]**	-1.5164 [-33.85]**	-1.5191 [-34.09]**	-4.3077 [-66.25]**	-4.3138 [-66.52]**	-4.3125 [-66.53]**	-2.9966 [-36.86]**	-3.0076 [-37.21]**	-3.004 [-37.27]**
d2009	-5.1665 [-107.53]**	-5.1739 [-107.93]**	-5.1708 [-107.76]**	-4.8801 [-112.77]**	-4.8735 [-112.86]**	-4.8862 [-113.64]**	-6.7972 [-108.48]**	-6.8072 [-108.90]**	-6.8012 [-108.73]**	-2.4444 [-31.20]**	-2.4621 [-31.60]**	-2.4454 [-31.44]**
定数項	25.5892 [78.04]***	27.3828 [53.35]***	27.9041 [43.83]***	34.0888 [115.42]**	32.5014 [70.30]***	30.3913 [53.27]**	27.1603 [63.51]**	29.5542 [44.16]**	30.5566 [36.82]**	14.126 [26.42]**	18.3647 [22.02]**	21.1298 [20.48]**
N	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253
決定係数	0.8185	0.8196	0.8197	0.8345	0.8354	0.8372	0.8211	0.8222	0.8224	0.3904	0.3979	0.4014
* p<0.1, ** p<0.05, *** p<0.01												
推計結果は固定効果モデル、[]内はt値												

表 6.11 数学 B の推計結果（中学 3 年）

	平均	上位90%			中位50%			下位10%				
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9	モデル10	モデル11	モデル12
一学級当たり生徒数	-0.0021	-0.0336	-0.0552	0.0055	0.0719	0.2837	-0.0051	-0.0551	-0.1274	-0.0103	-0.0944	-0.2906
	[-0.58]	[-2.13]**	[-1.46]	[1.38]	[4.09]***	[6.74]***	[-1.02]	[-2.49]**	[-2.40]**	[-1.95]*	[-4.06]***	[-5.21]***
		0.0006	0.0016		-0.0012	-0.0114		0.0009	0.0044		0.0016	0.011
一学級当たり生徒数2乗項		[2.06]**	[0.97]		[-3.87]***	[-6.11]***		[2.32]**	[1.87]*		[3.71]***	[4.44]***
一学級当たり生徒数3乗項			0.0000			0.0001			0.0000			-0.0001
			[-0.63]			[5.53]***			[-1.50]			[-3.87]***
僻地在籍割合	0.8683	0.8076	0.8036	0.0396	0.1674	0.2067	1.3559	1.2597	1.2463	0.6713	0.5094	0.473
	[3.98]***	[3.67]***	[3.65]***	[0.16]	[0.68]	[0.84]	[4.43]***	[4.08]***	[4.04]***	[2.08]**	[1.57]	[1.46]
	-0.0573	-0.0391	-0.0363	0.1714	0.1329	0.1061	-0.083	-0.054	-0.0449	-0.2418	-0.1931	-0.1683
就学援助割合(5%未満)		[-0.58]	[-0.54]	[2.28]**	[1.76]*	[1.41]	[-0.88]	[-0.57]	[-0.47]	[-2.44]**	[-1.93]*	[-1.68]*
	-0.1447	-0.1251	-0.1218	0.1057	0.0644	0.032	-0.2019	-0.1709	-0.1598	-0.3265	-0.2742	-0.2442
	[-2.14]**	[-1.83]*	[-1.77]*	[1.39]	[0.84]	[0.42]	[-2.12]**	[-1.78]*	[-1.66]*	[-3.26]***	[-2.71]***	[-2.41]**
就学援助割合(10%以上)	-0.1293	-0.1092	-0.1054	0.1111	0.0688	0.0322	-0.1014	-0.0696	-0.0571	-0.3587	-0.3051	-0.2712
		[-1.81]*	[-1.46]	[1.39]	[0.85]	[0.40]	[-1.01]	[-0.69]	[-0.56]	[-3.39]***	[-2.86]***	[-2.54]**
	0.2165	0.2321	0.231	0.4294	0.3967	0.4067	0.0027	0.0273	0.0239	0.4268	0.4682	0.459
就学援助割合(30%以上)	[1.42]	[1.52]	[1.51]	[2.51]**	[2.32]**	[2.39]**	[0.01]	[0.13]	[0.11]	[1.89]*	[2.07]**	[2.04]**
	0.4787	0.4903	0.4931	0.6148	0.5905	0.5628	0.6543	0.6726	0.682	0.438	0.4688	0.4944
		[1.47]	[1.51]	[1.69]*	[1.62]	[1.55]	[1.43]	[1.47]	[1.49]	[0.91]	[0.97]	[1.03]
進学塾	1.2374	1.2732	1.277	1.5272	1.4518	1.4147	1.8416	1.8983	1.911	0.4352	0.5307	0.5651
	[4.05]***	[4.16]***	[4.17]***	[4.46]***	[4.24]***	[4.15]***	[4.29]***	[4.42]***	[4.45]***	[0.96]	[1.17]	[1.25]
	-0.9615	-0.9719	-0.9685	-0.5498	-0.5279	-0.5612	-1.0465	-1.063	-1.0516	-1.467	-1.4947	-1.4639
補習塾	[-2.89]***	[-2.93]***	[-2.91]***	[-1.48]	[-1.42]	[-1.52]	[-2.24]**	[-2.28]**	[-2.26]**	[-2.98]***	[-3.05]***	[-2.99]***
	1.3221	1.357	1.3729	1.0007	0.9271	0.772	1.5944	1.6497	1.7027	0.6864	0.7796	0.9232
	[5.01]***	[5.13]***	[5.17]***	[3.38]***	[3.13]***	[2.61]***	[4.30]***	[4.44]***	[4.57]***	[1.76]*	[1.99]**	[2.36]**
進学&補習塾	-0.1122	-0.1273	-0.1307	-0.556	-0.5243	-0.4907	-0.2561	-0.28	-0.2915	-0.3605	-0.4006	-0.4318
		[-0.46]	[-0.47]	[-1.80]*	[-1.70]*	[-1.59]	[-0.66]	[-0.72]	[-0.75]	[-0.88]	[-0.98]	[-1.06]
	-2.8764	-2.8773	-2.8772	-3.3867	-3.3846	-3.386	-3.243	-3.2445	-3.244	-1.7197	-1.7223	-1.721
d2008	[-124.40]*	[-124.47]*	[-124.45]*	[-130.80]*	[-130.95]*	[-131.55]*	[-99.93]**	[-100.02]*	[-100.02]*	[-50.27]**	[-50.43]**	[-50.49]**
	-1.6885	-1.6901	-1.6894	-1.9569	-1.9535	-1.96	-1.9163	-1.9188	-1.9166	-0.9519	-0.9561	-0.9501
	[-75.78]**	[-75.84]**	[-75.72]**	[-78.43]**	[-78.41]**	[-78.91]**	[-61.28]**	[-61.36]**	[-61.24]**	[-28.88]**	[-29.04]**	[-28.88]**
定数項	9.8548	10.2327	10.343	14.6913	13.8953	12.8165	10.1469	10.7459	11.1141	4.8169	5.8251	6.8244
	[64.81]***	[42.89]***	[34.94]***	[86.28]***	[52.09]***	[38.89]***	[47.55]***	[32.10]***	[26.76]***	[21.41]***	[16.53]***	[15.64]***
N	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253	5253
決定係数	0.8633	0.8635	0.8635	0.8753	0.8759	0.8769	0.8036	0.8039	0.8041	0.5154	0.5174	0.5194
* p<0.1, ** p<0.05, *** p<0.01												
推計結果は固定効果モデル、[]内はt値												

第7章 新体力テストとその他諸変数との関連性分析

1. 問題設定

従前から、テストスコアやIQに代表される測定可能な認知能力を人的資本として捉え、これらがその後の教育達成、さらには成人後の賃金や健康といったものに影響をもつ可能性が指摘されてきた。その一方、近年では、健康や基礎体力といった身体的な側面や対人能力・自己規律・粘り強さといった非認知能力についても人的資本の一部として重要な要素であることが種々の研究から明らかになりつつある（Grossman（2006）、Heckman, Stixrud and Urzua(2006)）。そこで、本章では、身体的な側面からみた人的資本の要素としての「基礎体力」に着目する。

この分野の先行研究においては、学生時代や就職後のスポーツ経験の有無が、新卒時の就職活動、その後の昇進や賃金に影響を与えていることが報告されており（梅崎（2004）、松繁（2004）、大竹・佐々木（2009））、基礎体力あるいは運動を通じて形成された協調性や統率力といった非認知能力がその後のライフパスに影響を与えている可能性が指摘されている。また、中学生の3年間追跡調査から保健体育の授業時間の増加が新体力テストの結果向上につながっていること（中西・鈴木・鈴木（2011））、小学生の3年間追跡調査からは、低体力層において特に朝食摂取状況の改善のような基本的な生活習慣と体力向上との間に強い関係性が認められること（鈴木・西嶋・鈴木（2010））なども報告されており、学校や家庭の取り組みが基礎体力といった人的資本の蓄積を促す経路として機能している可能性が示されている。

また、最近では、身体的な側面が人的資本の要素としてその後にどのような影響を持ちうるかといった関心に加え、基礎体力や運動が直接的に教育達成へもたらす影響といった人的資本の要素間の相互補完関係にも関心が高まっており、諸外国の先行研究においてはその実証研究がすすめられているところである（Taras(2005)、Singh, Mechelen and Chinapaw(2012)）。例えば、Irlandoust and Karlsson(2002)は、1週間当たりの運動時間が多い大学生ほど良い成績を修める確率が高まることを明らかにすると同時に、1週間当たりの運動時間が6時間を超えるとその効果が下がることを示し、運動が集中力といった非認知能力や良好な健康状態の形成を通じて教育達成に影響を与えている可能性について言及している。その他、Donnelly et. al(2009)は、ランダム化実験の結果、小学校での運動プログラムの導入が肥満の抑制につながると同時に学力の向上をもたらしたことを明らかにしている。

もっとも、このような身体的な人的資本を規定する要因やこれらに起因する結果については、さまざまな直接的・間接的な因果経路が想定される。これらのメカニズムを識別することは実証研究上における近年の重要な課題となっているが、まずは、その前段階とし

て、「基礎体力」とそれをめぐる諸変数の関係を探索的に確認しておくことは因果経路を解明する上でも重要な作業であると考えられる。したがって、本章では、『全国学力・学習状況調査』を用いながら、人的資本の身体的側面を捉えた「基礎体力」（つまり、「新体力テスト」の結果）とそれとの相関または因果関係が想定される学校質問紙、児童生徒質問紙の各項目との関係性を確認することを目的としたい。

以下、2 節では、「新体力テスト」の概要について紹介し、続く 3 節では、「新体力テスト」とその他の変数との関連性についての分析を行う。最後に 4 節で、まとめと今後の課題について述べる。

2. 新体力テストについて

文部科学省 web サイトによれば、文科省は「国民の体力・運動能力の現状を明らかにし、体育・スポーツ活動の指導と、行政上の基礎資料として広く活用」する目的で、昭和 39 年から「体力・運動能力調査」を実施している。平成 11 年度からは「国民の体位の変化、スポーツ医・科学の進歩、高齢化の進展等を踏まえ、これまでのテストを全面的に見直して、現状に合ったもの」となり、「新体力テスト」と名称を変え、引き続きこれを実施している。

小学生に該当する 6～11 歳（4 月 1 日時点）の場合は、「握力」、「上体起し」、「長座体前屈」、「反復横とび」、「20m シャトルラン（往復持久走）」、「50m 走」、「立ち幅とび」、「ソフトボール投げ」の 8 種目の結果を各 10 点満点で採点し、その合計点の高いほうから A、B、C、D、E の順に 5 段階の総合評価をうける（表 7.1、7.2 を参照）。また、中学生を含む 12～19 歳（4 月 1 日時点）についても、ほぼ同様の方式であるが、8 種目のうち「20m シャトルラン（往復持久走）」が「持久走」との選択になるほか、「ソフトボール投げ」が「ハンドボール投げ」にかわる。また、各種目の得点表と合計点の基準となる総合評価基準表は、6～11 歳のものとは異なる基準を使用することになる（表 7.3、7.4 を参照）。次節以降では、この「新体力テスト」における 5 段階の総合評価の結果と『全国学力・学習状況調査』にある変数との関係についてみていくことにする。

3. 新体力テストの結果とその他の変数との関係について

「基礎体力」とそれをめぐるその他の変数との関係として、まず、着目するのは、こちらと同様に人的資本の要素と考えられる「教育達成」との関連性である。「基礎体力」と「教育達成」との関連性については、①体力から教育への因果関係（ex. 健康な児童生徒と不健康な児童生徒がいた場合、後者のほうが欠席日数が増える結果、学業に支障をきたす）、②教育から体力への因果関係（ex. 認知能力が高い児童生徒とそうでない児童生徒では「食育」によって健康・体力にもたらされる結果がかわってくる）、などの因果経路が想定される。その一方で、①や②に関連性がみられたとしても、③除外された第 3 の変数が影響を

もっていることによる見せかけの相関関係（ex. 家庭の所得水準が子どもへの教育投資や健康や体力投資の多寡を決めていて、それぞれは直接の因果関係にはない）、といったメカニズムも想定される点には注意が必要である。これらのメカニズムを識別することは実証研究上における近年の重要な課題となっているが、その前段階として、「基礎体力」や「教育成果」といった変数とその他の変数の間の関係を探索的に確認しておくことは因果経路を解明する上でも重要な作業であると考えられる。

よって、本節では、まず第一に、新体力テストの結果を基礎的な「体力」として、「教育達成」の代理変数としての学力テストの結果との関係を確認する。第二に、③の除外された第3の変数の候補として、家庭の所得水準を想定し、新体力テストの結果と就学援助割合の関係を確認する。また、就学援助割合を統制したうえでも「体力」と「教育達成」との間に相関がみられることを示す。第三に、新体力テストと『全国学力・学習状況調査』の児童・生徒質問紙と学校質問紙にある、学校の環境や取り組み、児童・生徒個人の状況といったそのほかの各項目との関係を確認することとする。

分析に利用した「新体力テスト」の結果は、学校質問紙のなかで、次のように尋ねられている。

調査対象である第6（第3）学年の児童（生徒）に対して、前年度実施した新体力テストの総合評価をAからEの段階別に、その人数を記入してください。（転校等により現在在籍していない児童（生徒）も含めてください。）

- (101) 総合評価がAだった児童は、何人でしたか。
- (102) 総合評価がBだった児童は、何人でしたか。
- (103) 総合評価がCだった児童は、何人でしたか。
- (104) 総合評価がDだった児童は、何人でしたか。
- (105) 総合評価がEだった児童は、何人でしたか。

この設問からは、学校単位の5段階（A、B、C、D、E）の総合評価の相対度数分布がわかる。さらに、これらの各5段階の評価基準は全国一律の基準となっていることから、それぞれの評価の各度数を合計（ ΣA 、 ΣB 、 ΣC 、 ΣD 、 ΣE ）すると、新体力テスト受験者全体（小学6年生；637,503人、中学3年生；787,136人、それぞれ公立校のみ）の相対度数分布がわかる。これを表わしたものが図7.5（小学6年生）および図7.6（中学3年生）である。これをみると、小学6年生と中学3年生の間でC評価の比率にはそれほどおおきな違いはみられない。その一方で、小学6年生よりも中学3年生のほうがA評価、B評価の割合が増え、同時にD評価、E評価の割合が減る傾向がみてとれる。また、A評価またはB評価の児童生徒の割合は、小学6年生では39.1%、中学3年生では43.0%であった。

3.1 新体力テストと学力の関係

ここでは「基礎体力」と「教育達成」との関係性について確認していきたい。それぞれの代理的な指標としては、新体力テストの結果と学力テストの結果を用いる。ただし、『全国学力・学習状況調査』のデータセットからは、児童生徒個人の学力テストの結果はわかるものの、先に述べたように児童生徒個人の新体力テストの結果はわからない（学校単位の新体力テストの相対度数分布のみが把握できる）。そこで、次善の策として、A評価とB評価を合わせた割合を基準にして、その割合が1) 0.3未満の学校、2) 0.3以上0.5未満の学校、3) 0.5以上0.7未満の学校、4) 0.7以上の学校に区分し、それぞれの学校群に在籍する児童生徒の学力テストの正答数を確認することとした。また、以下では、4月～7月に新体力テストを実施した、学年の児童・生徒数13人以上の公立校のデータにサンプルを限定する（小学6年生；476,493人、中学3年生；699,966人）。これを図示したのがそれぞれ図7.7、7.8（小学6年生）、図7.9、7.10（中学3年生）、である。

ここからわかるのは、学年や教科を問わず、AまたはB評価の児童生徒の割合が低い学校群の児童生徒においては、正答数が低くなることでその相対度数が高まる傾向にあることである。逆に、AまたはB評価の児童生徒の割合が高い学校群の児童生徒においては、正答数が高いところで相対度数が高まる傾向にある。つまり、新体力テストの結果がよい学校に在籍している児童生徒ほど正答数が高い傾向にあり、逆に、新体力テストの結果がよくない学校に在籍している児童生徒ほど正答数が低い傾向にあることがわかる。ここからは、日本の個票データにおいても、「基礎体力」と「教育達成」の間には、正の相関があることが確認できる。

さらに図からは、このような関係が生じる変節点の存在をみることができる。たとえば、小学6年生の国語（図7.7）では、正答数の少ないほうから19～20問辺りまでは、AまたはB評価の児童生徒の割合が低い学校群に在籍する児童生徒の相対度数が高いのに対して、正答数が21問を超えると、AまたはB評価の児童生徒の割合が高い学校群に在籍する児童生徒の相対度数が高まる。同様に、小学6年生の算数では23問辺りで、中学3年生の国語では38～39問辺り、数学では38～39問辺りで、その変節点がみられる。また、この変節点はどの分布においても分布のピークよりも左側に位置しているという特徴がある。

ただし、新体力テストでAまたはB評価が0.7以上の学校群の児童生徒においては、必ずしも新体力テストと学力との正の相関が観察されるわけではない。たとえば、正答数が低いところで0.7以上の学校群の児童生徒の相対度数が高い傾向や、逆に、正答数が高いところで児童生徒の相対度数が低くなる傾向も散見される。つまり、基礎体力が高い（低い）と学力が高い（低い）という単純な線形関係でなく、基礎体力と学力の正の相関がある水準で逆に負の相関になる可能性を示唆している。たとえば、適度な運動で体力水準が高まれば学習時の集中力が高まるかもしれないが、ある体力水準を超えると運動の疲労で逆に集中力が下がってしまう、あるいは運動時間と勉強時間や睡眠時間といったその他の時間使用の間にトレードオフが存在している、というような関係性も想定できる。

3.2 新体力テストと就学援助割合との関係

「基礎体力」と「教育達成」は直接的な関係にはなく、児童生徒の家庭属性（たとえば、世帯所得、親の学歴、就業状況など）が、その体力投資や教育投資の多寡を決めている可能性もある。そこで、家庭属性の代理指標として就学援助割合を用いながら、これが新体力テストの結果とどのような関係性をもっているか確認しておきたい。

分析に利用した「就学援助割合」は、学校質問紙のなかで、次のように尋ねられている。

調査対象である小学 6（中学 3）年生の児童（生徒）のうち、就学援助を受けている児童（生徒）の割合は、どれくらいですか。

1. 在籍していない
2. 5%未満
3. 5%以上、10%未満
4. 10%以上、30%未満
5. 30%以上、50%未満
6. 50%以上

ここでも、児童生徒個人の就学援助の受給状況は識別できないため、次善の策ではあるが、就学援助を受けている児童生徒が、1) 在籍していない学校、2) 5%未満の学校、3) 5%以上、10%未満の学校、4) 10%以上、30%未満の学校、5) 30%以上、50%未満の学校、6) 50%以上の学校に区分し、それぞれの学校群に在籍する児童生徒の新体力テストの A～E の 5 段階評価の分布を確認することとした。つまり、図 7.5、7.6 の分布を就学援助割合を基準とする学校群別にわけて新体力テストの総合評価の分布を確認することになる。これを図示したものがそれぞれ図 7.11（小学 6 年生）、図 7.12（中学 3 年生）である。

新体力テストの相対度数の分布を確認すると、A 評価、B 評価といった総合評価の高いところでは、就学援助割合の低い学校群の児童生徒の相対度数が高い一方で、就学援助割合の高い学校群の児童生徒の相対度数が低くなっている。逆に、C 評価、D 評価、E 評価と総合評価の低くなるにつれて、就学援助割合の低い学校群の児童生徒の相対度数が低くなり、就学援助割合の高い学校群の児童生徒の相対度数が高くなる傾向が確認できる。つまり、基礎体力と就学援助割合との間に負の相関が観測できる。図 7.11 と図 7.12 を比較すると、小学 6 年生よりも中学 3 年生でよりこの傾向が顕著にでている。ここから、3.1 でみた基礎体力と学力の相関が家庭属性のような除外された第 3 の変数の存在による見せかけの相関である可能性も考えられることから、図 7.13（小学 6 年生）、図 7.14（中学 3 年生）では、家庭属性の候補である就学援助の割合を統制したうえで、それぞれの正答数の平均を確認した。その結果、一部例外はあるものの、同じ就学援助割合の学校であっても、やはり新体力テストの結果が良好な学校では各科目の平均正答数が多くなるという正の相関が確認できる。

3.3 新体力テストとその他の変数との関係

次に、新体力テストの結果と「学校質問紙」、「児童生徒質問紙」の回答との関連性を確認したい。

3.3.1 学校質問紙

学校質問紙からは、1) 学校規模、2) 教職員、3) 児童生徒の態度、4) 施設・設備、5) 学校の体力向上に向けた取り組み（中学校では部活動も含む）、を中心に関係性を確認する。

【小学6年生】

1) 学校規模

全児童数との関係（図 7.15）では、児童数が少ないほど、A、B 評価の相対度数が高い傾向がうかがえる。全学級数との関係（図 7.16）では、学級数が少ないほど新体力テストの結果がよいほうでの相対度数の高まりがみられる。当該学年の学級数との関係（図 7.17）では、一定方向への関係性は明確ではないが、学級数によって分布に差があることがわかる。当該学年の 1 学級当たりの児童数との関係（図 7.18）では、学級当たりの児童数が少なくなるほど新体力テストの結果がよい関係が示唆されている。

2) 教職員

教職員の年齢構成との関係（20 代（図 7.19）、30 代（図 7.20）、40 代（図 7.21）、50 代（図 7.22））では、30 代、40 代の教員比率が高いと、A、B 評価の相対度数が高まる傾向にある。ただし、C 評価については、30 代の教員比率が高いとその相対度数が高まるのに対し、40 代の教員比率が高まるとその相対度数が低下するという逆の関係がみえる。その一方で、50 代の教員比率が高いと、A、B 評価の相対度数が低くなる傾向がわかる。20 代については明確な傾向はみられない。

3) 児童の態度

児童の勉強熱意との関係（図 7.23）では、熱意が高いと学校が認識しているほど A、B 評価の相対度数が高い傾向がうかがえる。児童の授業中私語との関係（図 7.24）では、私語がないと学校が認識しているほうが A、B 評価の相対度数が高くなる傾向がうかがえる。児童の礼儀との関係（図 7.25）では、学校が児童は礼儀正しいと認識しているほど、A、B 評価の相対度数が高くなる傾向がうかがえる。

4) 施設・整備

教育用コンピュータの 1 台当たりの児童数との関係（図 7.26）では、1 台当たりの児童数が少ないほど、A、B 評価の相対度数が高い傾向がうかがえる。その一方で、普通教室の教育用コンピュータ設置状況や普通教室への無線 LAN 整備では新体力テストの分布と

の間でその関係性（図 7.27、図 7.28）は確認できない。また、学校図書館の図書標準との関係（図 7.29）も確認できない。

5) 学校の体力向上に向けた取り組み

始業前や休み時間における学校の体力の取り組みとの関係（図 7.30）では、学校の取り組みの頻度が高まるほど、A、B 評価の相対度数が高まる傾向がうかがえる。

【中学 3 年生】

1) 学校規模

全生徒数との関係（図 7.31）では、生徒数が少ないほど、A、B 評価の相対度数が高い傾向がうかがえる。全学級数との関係（図 7.32）では、学級数が少ないほど A、B 評価の相対度数の高まりがみられる。当該学年の学級数との関係（図 7.33）では、学級数が少ないほど A、B 評価の相対度数が高い傾向がうかがえる。当該学年の 1 学級当たりの生徒数との関係（図 7.34）では、一定方向への関係性は明確ではないが、学級数によって分布に差があることを示唆している。

2) 教職員

教職員の年齢構成との関係（20 代（図 7.35）、30 代（図 7.36）、40 代（図 7.37）、50 代（図 7.38））では、30 代の教員比率が高いと A 評価の相対度数が低下する関係が観測できる。また、その関係が B 評価ではいったん分布にほとんど差がなくなり、C 評価では、30 代の教員比率が高いとその相対度数が高まるという傾向が伺える。また、40 代の教員比率が高いと A、B 評価の相対度数が高い傾向に、50 代の教員比率が高いと、A、B 評価の相対度数が低くなる向がわかる。20 代については明確な傾向がみられない。

3) 生徒の態度

生徒の勉強熱意との関係（図 7.39）では、熱意が高いと学校が認識しているほど A、B 評価の相対度数が高い傾向がうかがえる。生徒の授業中私語との関係（図 7.40）では、私語がないと学校が認識しているほうが A、B 評価の相対度数が高くなる傾向がうかがえる。生徒の礼儀との関係（図表 7.41）では、学校が生徒は礼儀正しいと認識しているほど、A、B 評価の相対度数が高くなる傾向がうかがえる。

4) 施設・整備

教育用コンピュータの 1 台当たりの生徒数との関係（図 7.42）では、1 台当たりの生徒数が少ないほど、A、B 評価の相対度数が高い傾向がうかがえる。普通教室の教育用コンピュータ設置有無との関係（図 7.43）では、設置されているほうが A、B 評価の相対度数が若干高い傾向がうかがえる。普通教室への無線 LAN 整備有無との関係（図 7.44）では、整備されているほうが A、B 評価の相対度数が高い傾向がうかがえる。学校図書館の図書

標準との関係（図 7.45）は確認できない。

5) 学校の体力向上に向けた取り組み、部活動

始業前や休み時間における学校の体力の取り組みとの関係（図 7.46）では、学校の取り組みの頻度が高まるほど、A、B 評価の相対度数が高まる傾向がうかがえる。

また、部活動との関係については、当該学年の運動部に所属している生徒の割合が高いほど A、B 評価の相対度数が高まる傾向（図 47）が伺える。その一方で、当該学年の文化部に所属している生徒の割合との関係（図 7.48）については、相対度数の分布に差はみられるものの明確な関係性は指摘できない。

3.3.2 児童生徒質問紙

【小学 6 年生】

屋外活動、運動・スポーツの頻度との関係（図 7.49）では、新体力テストで A または B 評価を受けた児童の割合が高い学校ほど、外に出て遊んだりスポーツ等をしていたりしている児童の割合が高い。

授業以外の運動時間との関係（図 7.50）では、A または B 評価を受けた児童の割合が高い学校ほど、平日 1 日にスポーツ等をしている時間（体育の授業時間を除く）が 2 時間以上 3 時間未満の児童の割合が高く、30 分以下および全くしない児童の割合が低い。

家の人との一緒にする運動・スポーツの頻度との関係（図 7.51）では、A または B 評価を受けた児童の割合が高い学校ほど、家の人といっしょにスポーツ等をしている児童の割合が高い。

野外活動との関係（図 7.52）では、学校ごとの児童の体力水準と、児童が海、山、湖、川などで遊んだ経験との間に A または B 評価を受けた児童の割合が高い学校ほど、している児童の割合が高い。

スポーツの選好との関係では、A または B 評価を受けた児童の割合が高い学校ほど、スポーツを「すること」が好きな児童の割合が高く（図 7.53）、スポーツを「見ること」が好きな児童の割合が高い（図 7.54）。また、A または B 評価を受けた児童の割合が高い学校ほど、スポーツを「することが得意」な児童の割合が高い（図 7.55）。

【中学 3 年生】

運動・スポーツの頻度との関係（図 7.56）では、A または B 評価を受けた生徒の割合が高い学校ほど、スポーツ等をしていたりしている生徒の割合が高い。

授業以外の運動時間との関係（図 7.57）では、A または B 評価を受けた生徒の割合が高い学校ほど、平日 1 日にスポーツ等をしている時間（体育の授業時間を除く）が 2 時間以上 3 時間未満の生徒の割合が高く、30 分以下および全くしない生徒の割合が低い。

家の人との一緒にする運動・スポーツの頻度との関係（図 7.58）では、A または B 評価を受けた生徒の割合が高い学校ほど、家の人といっしょにスポーツ等を全くしていない生

徒の割合が低い。

野外活動との関係（図 7.59）では、学校ごとの生徒の体力水準と、生徒が海、山、湖、川などで遊んだ経験との間に、明瞭な関係は見られない。

スポーツの選好との関係では、A または B 評価を受けた生徒の割合が高い学校ほど、スポーツを「すること」が好きな生徒の割合が高く（図 7.60）、A または B 評価を受けた生徒の割合が高い学校ほど、スポーツを「見ること」が好きな生徒の割合が高い（図 7.61）。また、A または B 評価を受けた生徒の割合が高い学校ほど、スポーツを「することが得意」な生徒の割合が高い（図 7.62）。

部活動との関係（図 7.63）では、A または B 評価を受けた生徒の割合が高い学校ほど、運動部にだけ参加している生徒の割合が高く、運動部、文化部のどちらにも参加していない生徒の割合が低い。

4. まとめ

本稿の分析からは主に以下の 3 点が確認できた。まず、第一に、基礎体力の水準が高い児童生徒が多い学校では学力水準も高い、つまり、「基礎体力」と「教育達成」との間に正の相関を確認することができた。第二に、就学援助割合が高いと児童生徒の基礎体力が低くなるという負の相関がみられ、家庭の属性と基礎的な「体力」水準との関連性を確認することができた。第三に、基礎体力と関連性をもつ複数の学校内・外の変数の存在を確認できた。

この結果からは、さまざまな因果関係のメカニズムを想定できるが、もし、「基礎体力」と「教育達成」が直接的・間接的な因果関係にあるとすれば、学力向上といった「教育成果」のみならず、学校や家庭を通じた基礎体力の向上といった人的資本の蓄積もまた義務教育政策上の重要な達成目標（アウトカム指標）となる可能性がある。その一方で、これらの関係が就学援助といったような家庭の要因に大きな影響を受けているのであれば、特に負の影響が生じやすい児童生徒に対しては公的な支援が必要であろう。また、本稿の分析からは、児童生徒個人の運動への取り組みや家庭属性といった学校外の変数と同時に、体力向上に向けた学校の取り組みや部活動といった学校内の変数と基礎体力の間にも正の相関が確認されている。基礎体力の高い児童生徒が多い学校ほど、このような取り組みが容易であるという側面もあるが、もし学校内の取り組みから基礎体力の向上へといった因果経路が存在するのであれば、それもまた政策的な取り組みとしての可能性を持つことになる。もっとも、これらの変数間の因果関係のメカニズムについては依然不明な点も多く、この分野の実証研究においては引き続き問題解明のための努力が求められる。

【参考文献】

梅崎修（2004）, 「成績・クラブ活動と就職－新規大卒資料における OB ネットワークの利用」 松繁寿和編著『大学教育効果の実証分析』, 日本評論社, 第 2 章, pp.29-48.

- 大竹文雄・佐々木勝(2009),「スポーツ活動と昇進」, 日本労働研究雑誌, No.587, pp.62-89.
- 中西純・鈴木和弘・鈴木宏哉(2011),「授業時数の増加が中学生の体力向上に及ぼす影響: 縦断データによる長期追跡」, 『発育発達研究』, No.51, pp.27-36.
- 鈴木宏哉・西嶋尚彦・鈴木和弘(2010),「小学生における体力向上に関連する基本的生活習慣の改善: 3年間の追跡調査による検証」, 『発育発達研究』 No.46, pp.27-36.
- 松繁寿和(2004)「英語力と昇進・所得—イングリッシュ・ディバイドは生じているか」
松繁寿和編著『大学教育効果の実証分析』日本評論社、第4章、pp.67-88.
- 文部科学省;「新体力テストの実施要項」
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/stamina/03040901.htm
- Donnelly, J., J. Greene, C. Gibson, et al. (2009), “Physical Activity Across the Curriculum(PAAC): a randomized controlled trial to promote physical activity and diminish overweight and obesity in elementary school children”, *Preventive Medicine*, 49(4), pp. 336-341.
- Grossman, Michael (2006), “Education and Nonmarket Outcomes”, *Handbook of the Economics of Education*, Vol.1, edited by Eric Hanushek and Finis Welch, Elsevier, Amsterdam, pp.577-633.
- Heckman, J., J. Stixrud and S. Urzua (2006), “The Effects of Cognitive and Noncognitive Abilities on Labor Market Outcomes and Social Behavior”, *Journal of Labor Economics*, 24(3), pp. 411-482.
- Irandoost, M. and N. Karlsson (2002), “Impact of Preferences, Curriculum, and Learning Strategies on Academic Success”, *Education Economics*, 10(1), pp. 41-48.
- Singh, A., W. Mechelen and M. Chinapaw(2012) “Physical Activity and Performance at School”, *Archives of Pediatrics and Adolescent Medicine*, Vol.166(1), pp.49-55.
- Taras, Howard (2005), “Physical Activity and Student Performance at School”, *Journal of School Health*, 75(6), pp. 214-218.

妹尾 渉 (国立教育政策研究所)

日下田岳史 (東京大学大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員)

篠崎武久 (早稲田大学理工学術院)

[図表]

表 7.1 新体力テストの項目別得点表（6～11 歳）

男子									
得点	握 力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	得点
10	26kg以上	26回以上	49cm以上	50点以上	80回以上	8.0秒以下	192cm以上	40m以上	10
9	23～25	23～25	43～48	46～49	69～79	8.1～8.4	180～191	35～39	9
8	20～22	20～22	38～42	42～45	57～68	8.5～8.8	168～179	30～34	8
7	17～19	18～19	34～37	38～41	45～56	8.9～9.3	156～167	24～29	7
6	14～16	15～17	30～33	34～37	33～44	9.4～9.9	143～155	18～23	6
5	11～13	12～14	27～29	30～33	23～32	10.0～10.6	130～142	13～17	5
4	9～10	9～11	23～26	26～29	15～22	10.7～11.4	117～129	10～12	4
3	7～8	6～8	19～22	22～25	10～14	11.5～12.2	105～116	7～9	3
2	5～6	3～5	15～18	18～21	8～9	12.3～13.0	93～104	5～6	2
1	4kg以下	2回以下	14cm以下	17点以下	7回以下	13.1秒以上	92cm以下	4m以下	1

女子									
得点	握 力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	得点
10	25kg以上	23回以上	52cm以上	47点以上	64回以上	8.3秒以下	181cm以上	25m以上	10
9	22～24	20～22	46～51	43～46	54～63	8.4～8.7	170～180	21～24	9
8	19～21	18～19	41～45	40～42	44～53	8.8～9.1	160～169	17～20	8
7	16～18	16～17	37～40	36～39	35～43	9.2～9.6	147～159	14～16	7
6	13～15	14～15	33～36	32～35	26～34	9.7～10.2	134～146	11～13	6
5	11～12	12～13	29～32	28～31	19～25	10.3～10.9	121～133	8～10	5
4	9～10	9～11	25～28	25～27	14～18	11.0～11.6	109～120	6～7	4
3	7～8	6～8	21～24	21～24	10～13	11.7～12.4	98～108	5	3
2	4～6	3～5	18～20	17～20	8～9	12.5～13.2	85～97	4	2
1	3kg以下	2回以下	17cm以下	16点以下	7回以下	13.3秒以上	84cm以下	3m以下	1

「新体力テスト実施要項」より抜粋

表 7.2 新体力テストの総合評価基準表（6～11 歳）

段階	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	段階
A	39以上	47以上	53以上	59以上	65以上	71以上	A
B	33～38	41～46	46～52	52～58	58～64	63～70	B
C	27～32	34～40	39～45	45～51	50～57	55～62	C
D	22～26	27～33	32～38	38～44	42～49	46～54	D
E	21以下	26以下	31以下	37以下	41以下	45以下	E

「新体力テスト実施要項」より抜粋

表 7.3 新体力テストの項目別得点表（12～19 歳）

男子										
得点	握 力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	得点
10	56kg以上	35回以上	64cm以上	63点以上	4' 59"以下	125回以上	6.6秒以下	265cm以上	37m以上	10
9	51～55	33～34	58～63	60～62	5' 00"～5' 16"	113～124	6.7～6.8	254～264	34～36	9
8	47～50	30～32	53～57	56～59	5' 17"～5' 33"	102～112	6.9～7.0	242～253	31～33	8
7	43～46	27～29	49～52	53～55	5' 34"～5' 55"	90～101	7.1～7.2	230～241	28～30	7
6	38～42	25～26	44～48	49～52	5' 56"～6' 22"	76～89	7.3～7.5	218～229	25～27	6
5	33～37	22～24	39～43	45～48	6' 23"～6' 50"	63～75	7.6～7.9	203～217	22～24	5
4	28～32	19～21	33～38	41～44	6' 51"～7' 30"	51～62	8.0～8.4	188～202	19～21	4
3	23～27	16～18	28～32	37～40	7' 31"～8' 19"	37～50	8.5～9.0	170～187	16～18	3
2	18～22	13～15	21～27	30～36	8' 20"～9' 20"	26～36	9.1～9.7	150～169	13～15	2
1	17kg以下	12回以下	20cm以下	29点以下	9' 21"以上	25回以下	9.8秒以上	149cm以下	12m以下	1

女子										
得点	握 力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	得点
10	36kg以上	29回以上	63cm以上	53点以上	3' 49"以下	88回以上	7.7秒以下	210cm以上	23m以上	10
9	33～35	26～28	58～62	50～52	3' 50"～4' 02"	76～87	7.8～8.0	200～209	20～22	9
8	30～32	23～25	54～57	48～49	4' 03"～4' 19"	64～75	8.1～8.3	190～199	18～19	8
7	28～29	20～22	50～53	45～47	4' 20"～4' 37"	54～63	8.4～8.6	179～189	16～17	7
6	25～27	18～19	45～49	42～44	4' 38"～4' 56"	44～53	8.7～8.9	168～178	14～15	6
5	23～24	15～17	40～44	39～41	4' 57"～5' 18"	35～43	9.0～9.3	157～167	12～13	5
4	20～22	13～14	35～39	36～38	5' 19"～5' 42"	27～34	9.4～9.8	145～156	11	4
3	17～19	11～12	30～34	32～35	5' 43"～6' 14"	21～26	9.9～10.3	132～144	10	3
2	14～16	8～10	23～29	27～31	6' 15"～6' 57"	15～20	10.4～11.2	118～131	8～9	2
1	13kg以下	7回以下	22cm以下	26点以下	6' 58"以上	14回以下	11.3秒以上	117cm以下	7m以下	1

「新体力テスト実施要項」より抜粋

表 7.4 新体力テストの総合評価基準表（12～19 歳）

段階	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	段階
A	51以上	57以上	60以上	61以上	63以上	65以上	65以上	65以上	A
B	41～50	47～56	51～59	52～60	53～62	54～64	54～64	54～64	B
C	32～40	37～46	41～50	41～51	42～52	43～53	43～53	43～53	C
D	22～31	27～36	31～40	31～40	31～41	31～42	31～42	31～42	D
E	21以下	26以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	E

「新体力テスト実施要項」より抜粋

図 7.5 新体カテストの分布（小学 6 年生）

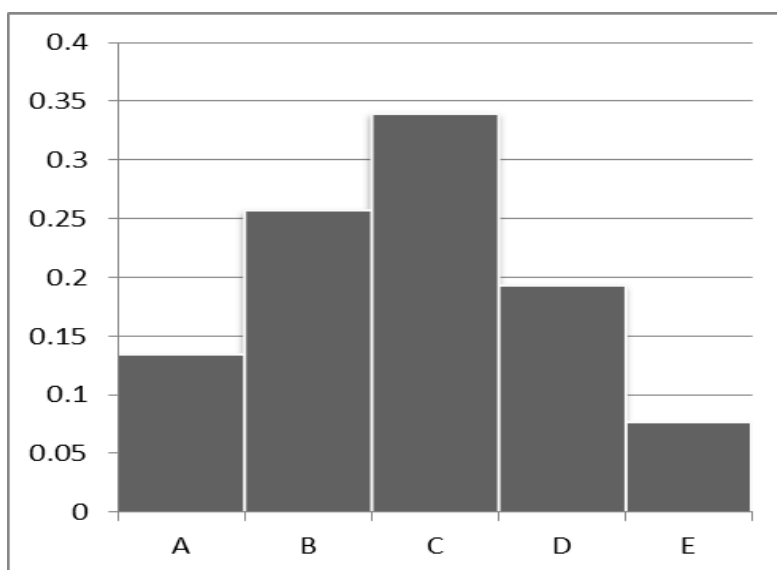


図 7.6 新体カテストの分布（中学 3 年生）

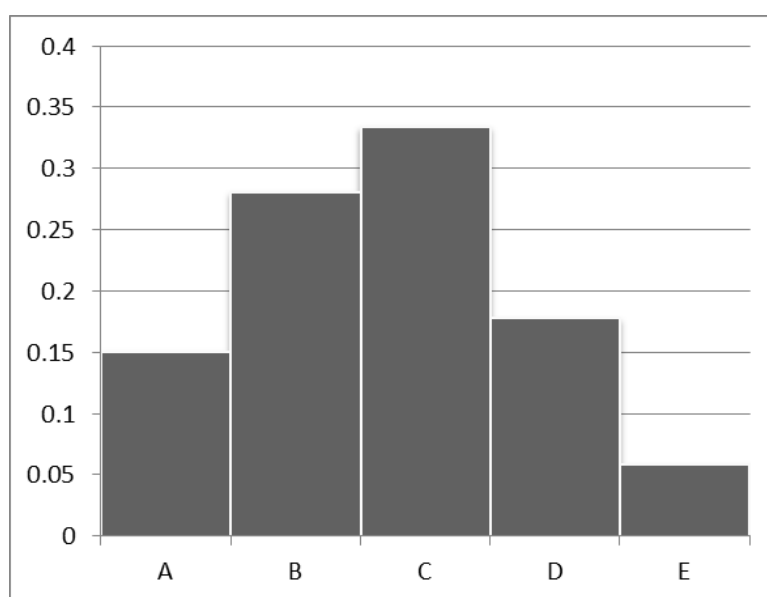


図 7.7 新体力テストと国語 A&B 問題（小学 6 年生）

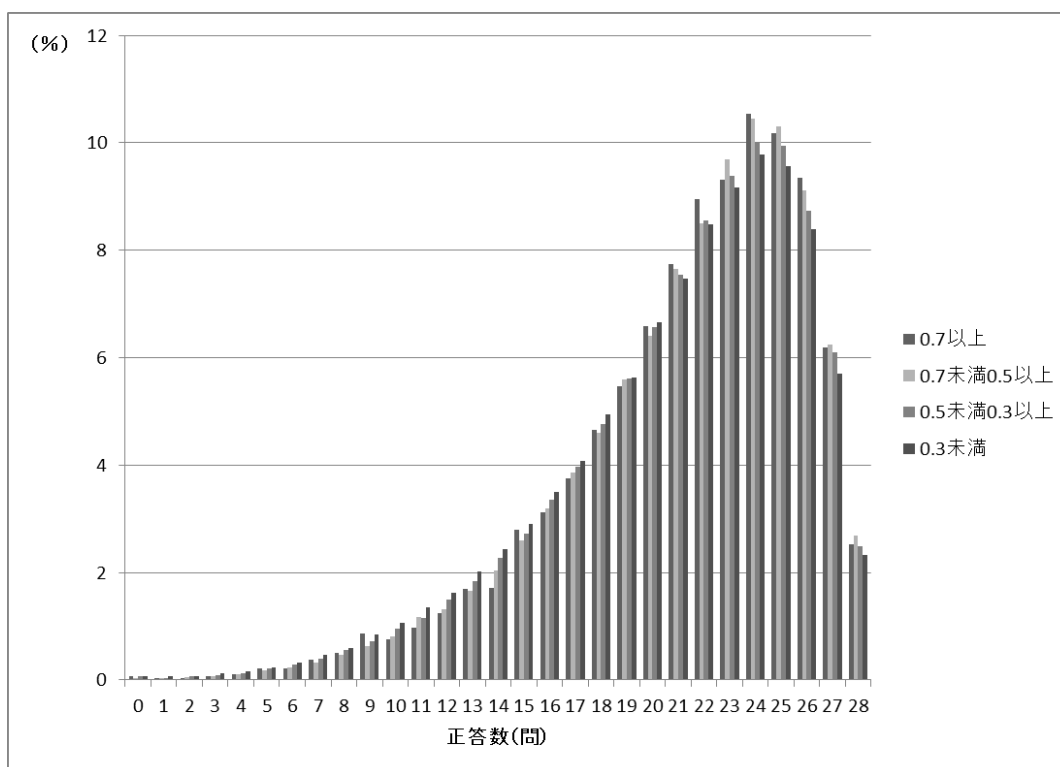


図 7.8 新体力テストと算数 A&B 問題（小学 6 年生）

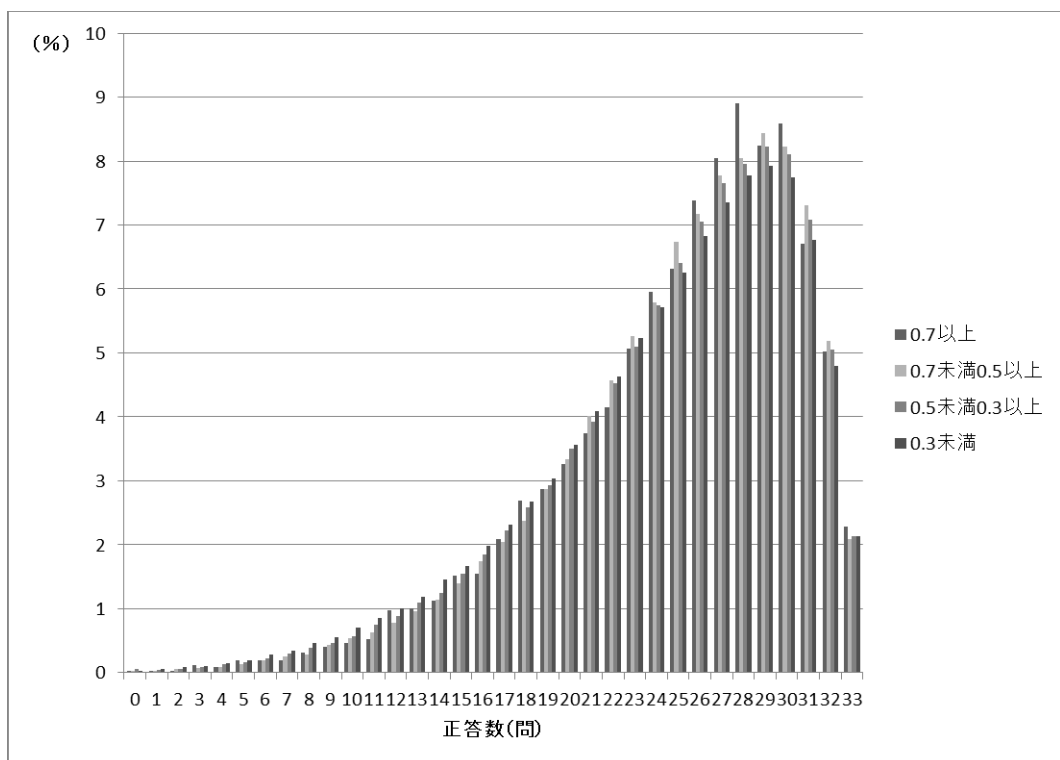


図 7.9 新体力テストと国語 A&B 問題（中学 3 年生）

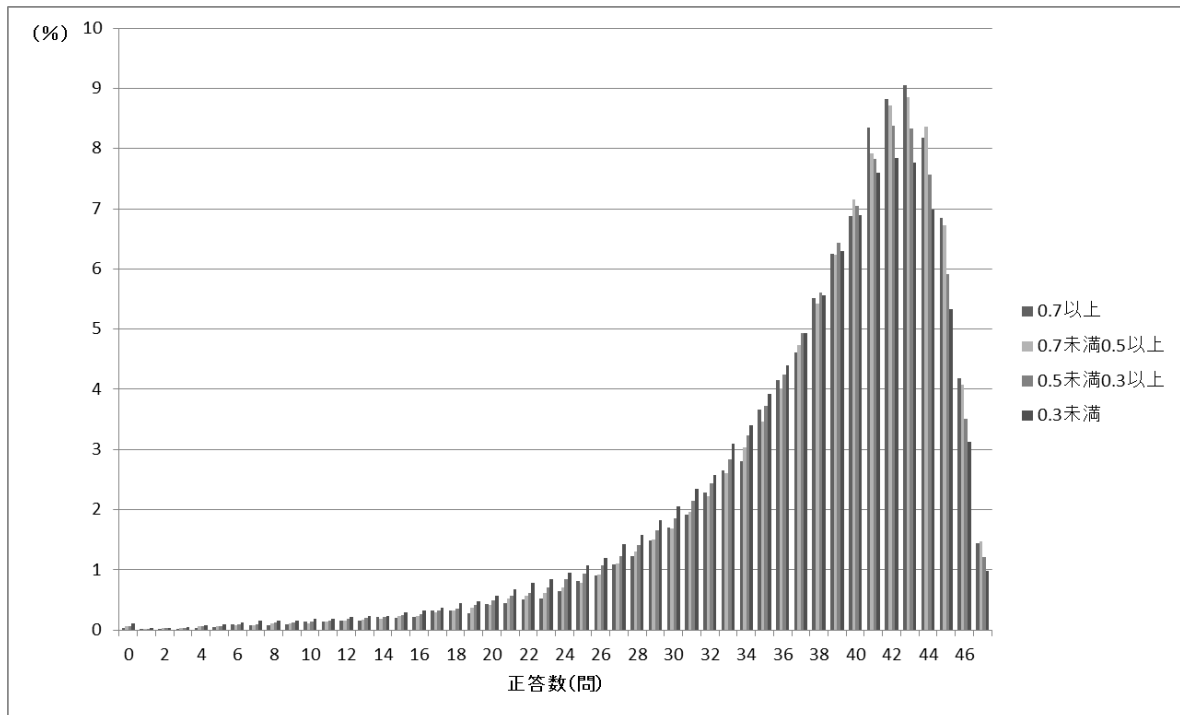


図 7.10 新体力テストと数学 A&B 問題（中学 3 年生）

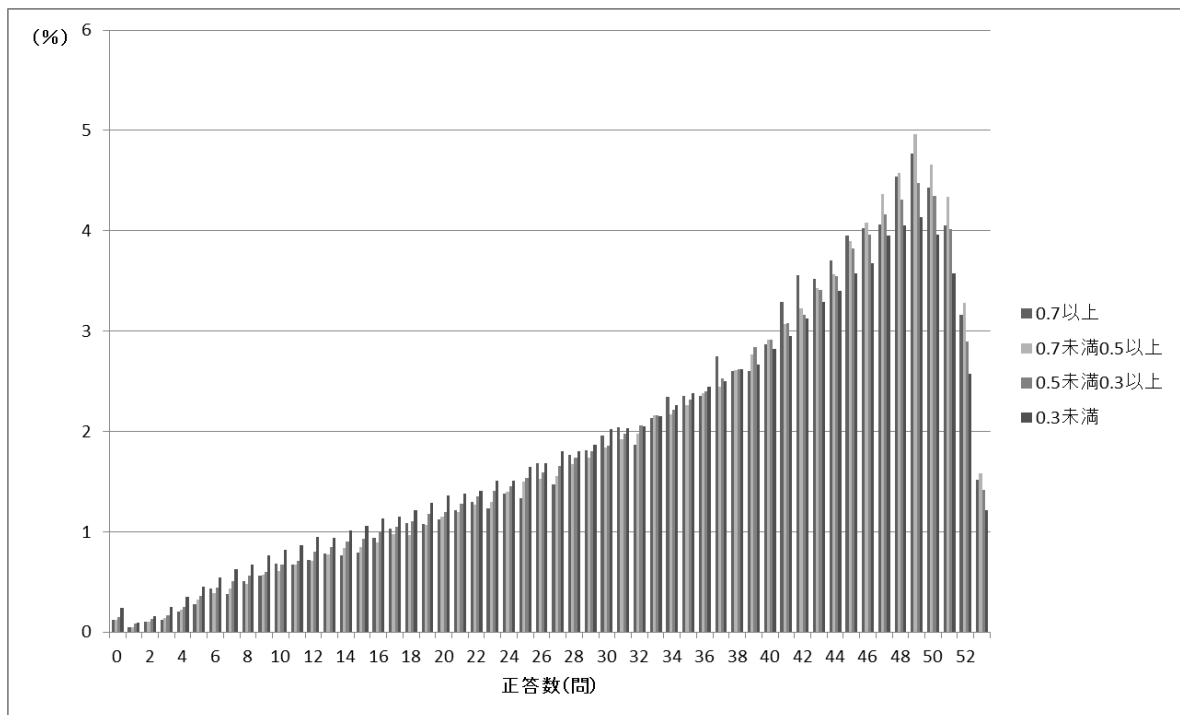


図 7.11 新体力テストと就学援助割合（小学 6 年生）

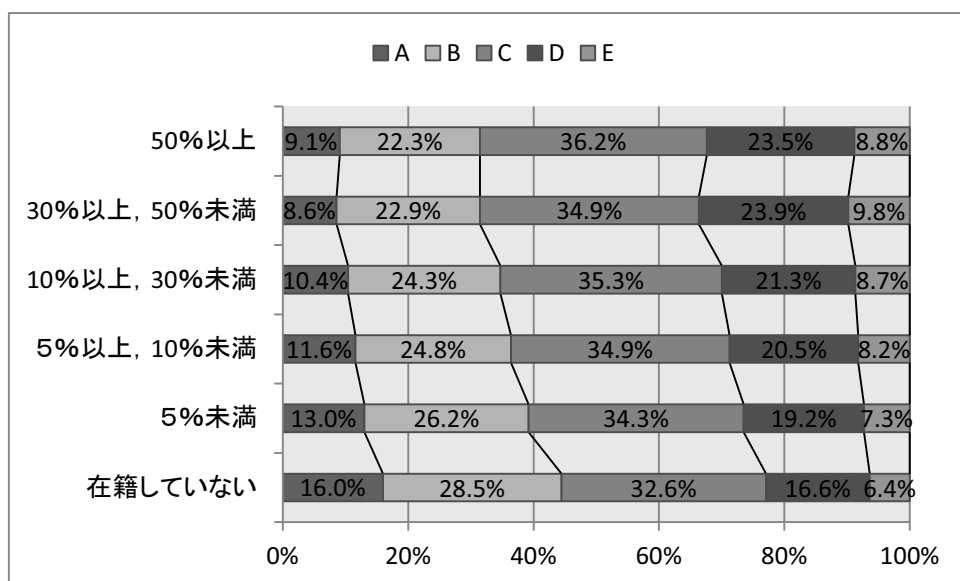


図 7.12 新体力テストと就学援助割合（中学 3 年生）

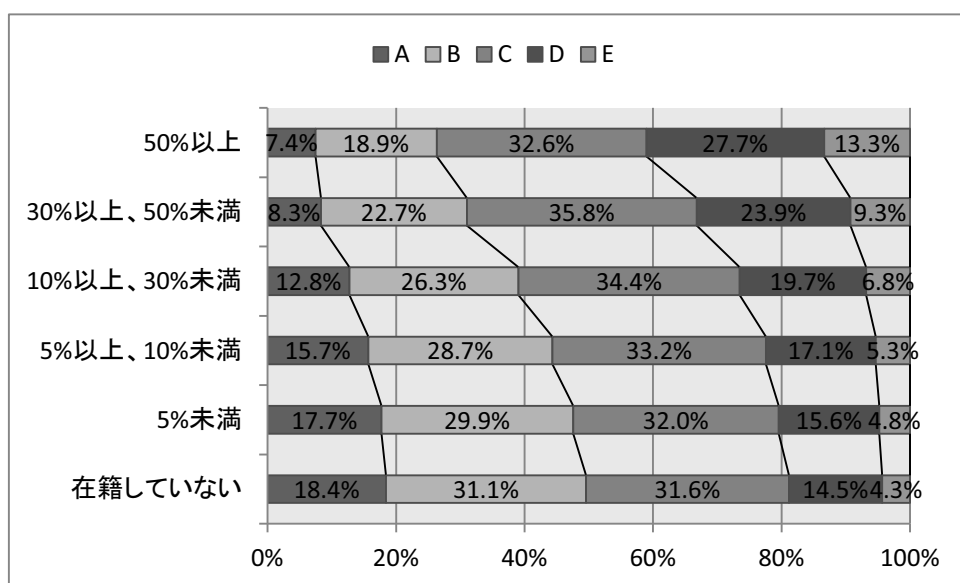


図 7.13 新体力テストと学力との関係/就学援助比率別（小学 6 年生）

		就学援助比率					
	小6/国語(正答数)	在籍していない	5%未満	5%以上、10%未満	10%以上、30%未満	30%以上、50%未満	50%以上
で体の 割合 A & テスト B	0.7以上	21.51	21.47	21.27	21.25	20.01	18.38
	0.7未満0.5以上	21.25	21.39	21.34	21.30	21.19	20.17
	0.5未満0.3以上	21.07	21.27	21.12	21.00	20.39	19.91
	0.3未満	21.04	21.11	21.02	20.76	20.08	19.46
		就学援助比率					
	小6/算数(正答数)	在籍していない	5%未満	5%以上、10%未満	10%以上、30%未満	30%以上、50%未満	50%以上
で体の 割合 A & テスト B	0.7以上	25.15	25.16	24.97	24.77	23.63	22.56
	0.7未満0.5以上	24.95	24.99	24.99	24.87	24.61	22.86
	0.5未満0.3以上	24.66	24.92	24.70	24.63	23.95	23.24
	0.3未満	24.64	24.81	24.60	24.27	23.33	22.23

図 7.14 新体力テストと学力との関係/就学援助比率別（中学 3 年生）

		就学援助比率					
	中3/国語(正答数)	在籍していない	5%未満	5%以上、10%未満	10%以上、30%未満	30%以上、50%未満	50%以上
で体の 割合 A & テスト B	0.7以上	38.65	38.25	38.25	37.68	40.25	N/A
	0.7未満0.5以上	38.35	38.36	38.16	37.64	36.39	34.08
	0.5未満0.3以上	37.92	38.06	37.72	37.20	36.26	34.77
	0.3未満	37.70	37.69	37.54	36.71	35.83	34.26
		就学援助比率					
	中3/数学(正答数)	在籍していない	5%未満	5%以上、10%未満	10%以上、30%未満	30%以上、50%未満	50%以上
で体の 割合 A & テスト B	0.7以上	38.30	37.20	36.83	36.05	43.90	N/A
	0.7未満0.5以上	37.85	37.61	37.43	36.28	34.13	30.60
	0.5未満0.3以上	36.72	37.27	36.73	35.91	33.82	31.14
	0.3未満	36.93	36.76	36.58	35.00	33.07	30.46

《学校質問紙》学校の回答別・新体力テスト評価の分布
【小学校】

1) 学校規模

図 7.15 学校の全児童数は、次のどれに当てはまりますか

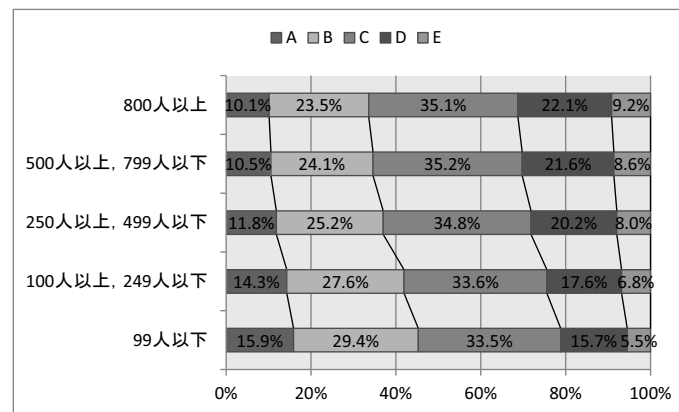


図 7.16 学校の特別支援学級を除くすべての学級数は、次のどれに当てはまりますか

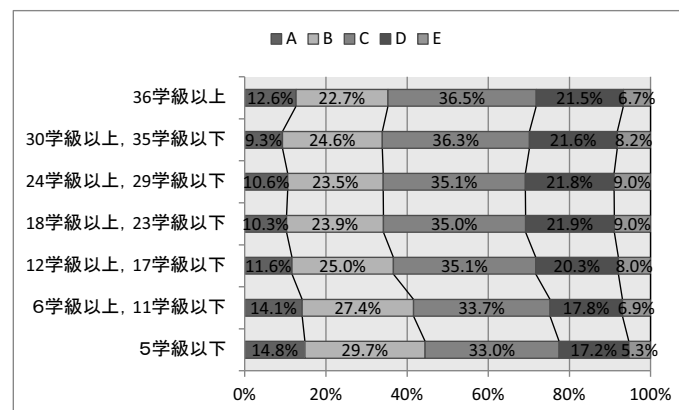


図 7.17 調査対象である第6学年の学級数(特別支援学級は除きます)は、何学級ですか

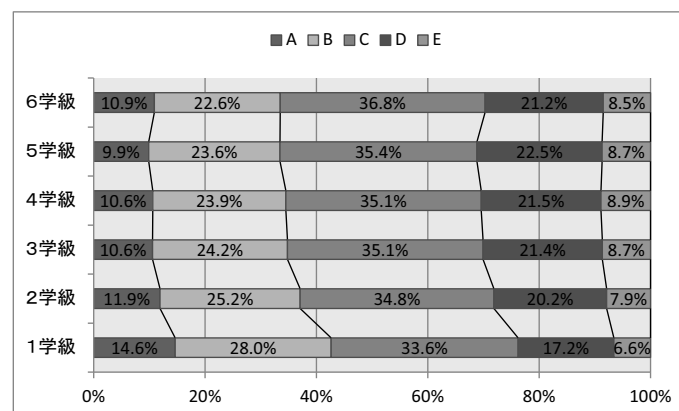
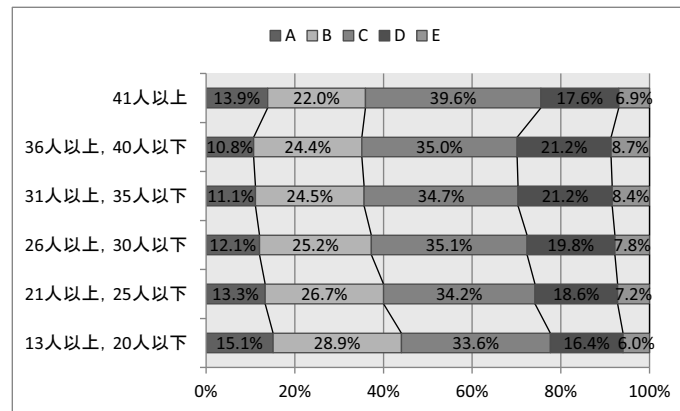


図 7.18 調査対象である第 6 学年の 1 学級当たりの児童数は、次のどれに当てはまりますか



2) 教育職員

図 7.19 (教育職員の年齢構成) 29歳以下

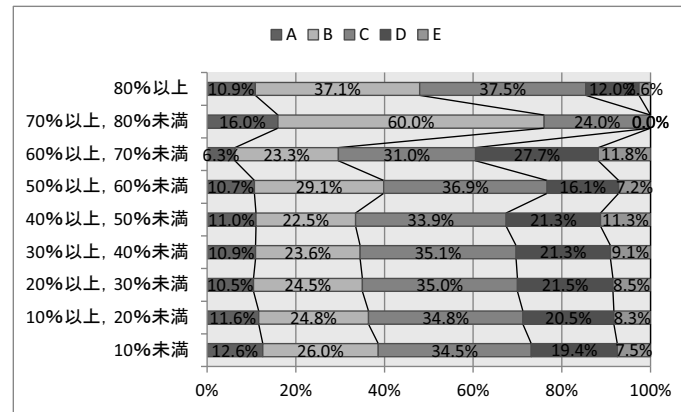


図 7.20 (教育職員の年齢構成) 30歳以上, 39歳以下

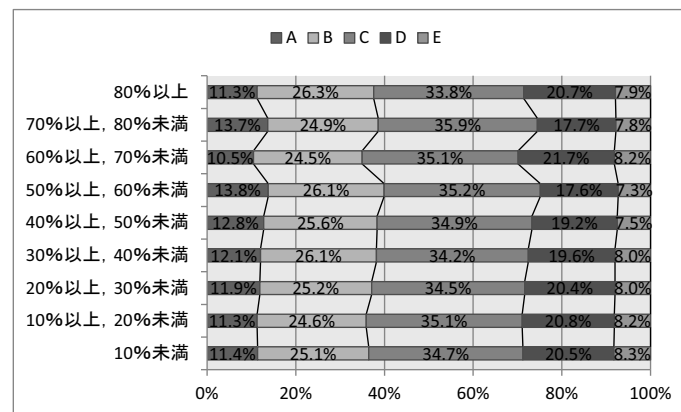


図 7.21 (教育職員の年齢構成) 40歳以上, 49歳以下

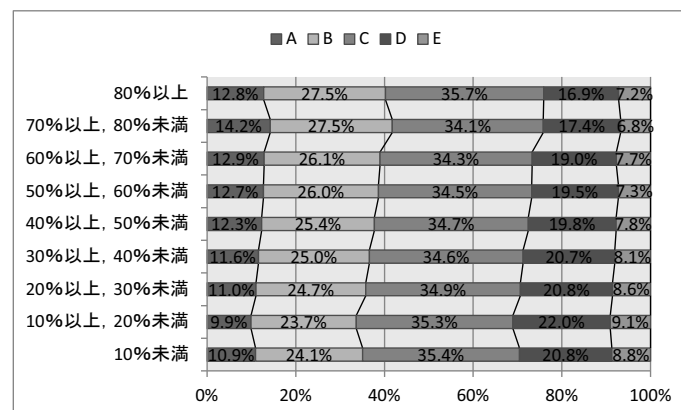
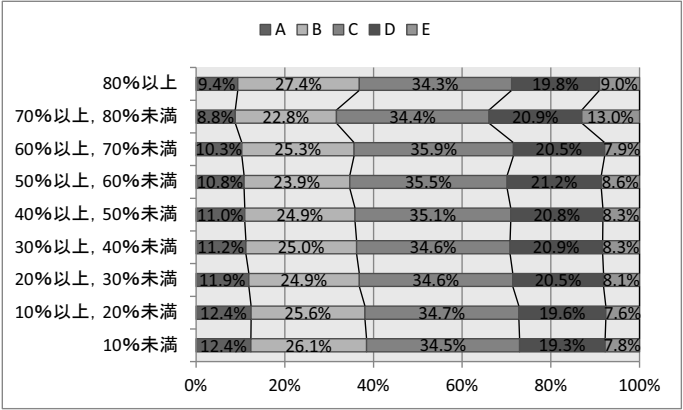


図 7.22 （教育職員の年齢構成） 5 0 歳以上， 5 9 歳以下



3) 児童の態度

図 7.23 児童は熱意をもって勉強している

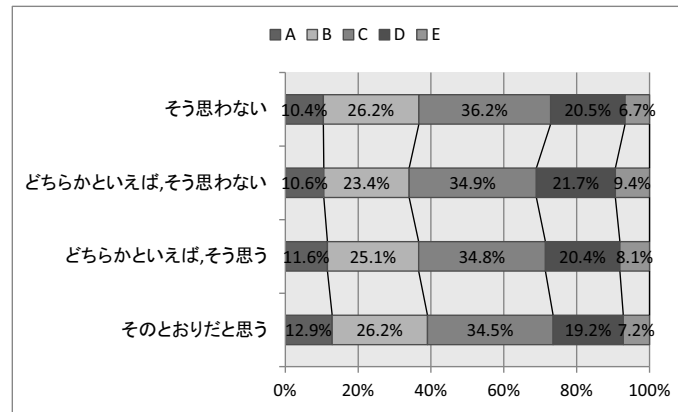


図 7.24 児童は授業中の私語が少なく、落ち着いている

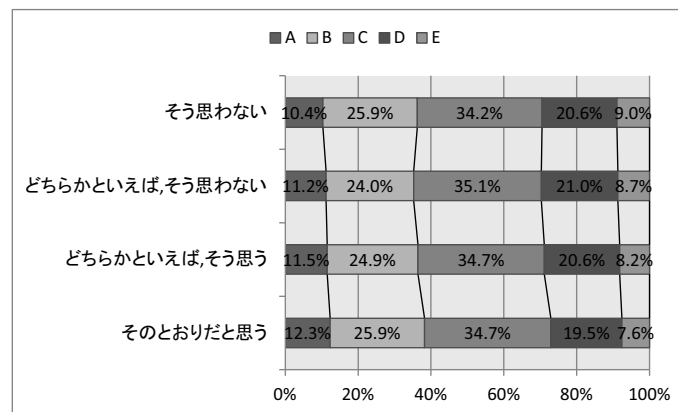
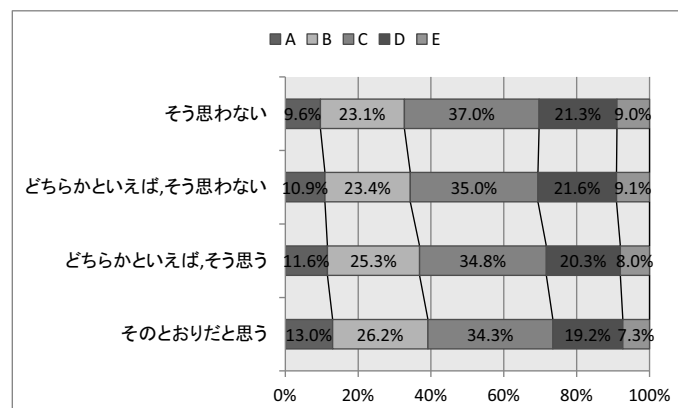


図 7.25 児童は礼儀正しい



4) 施設・設備

図 7.26 学校の教育用コンピュータ 1 台当たりの児童数は、約何人ですか

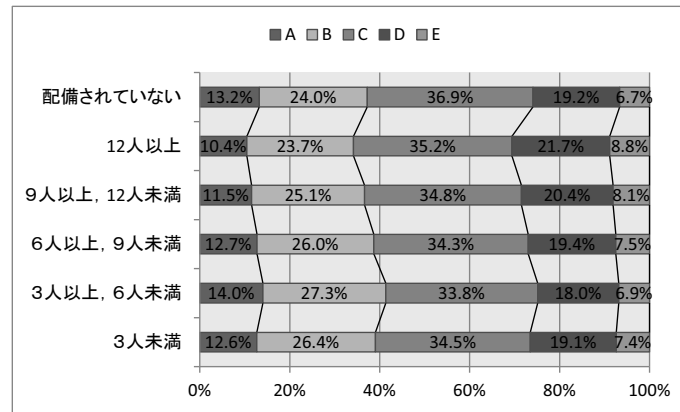


図 7.27 普通教室に教育用コンピュータが設置されている

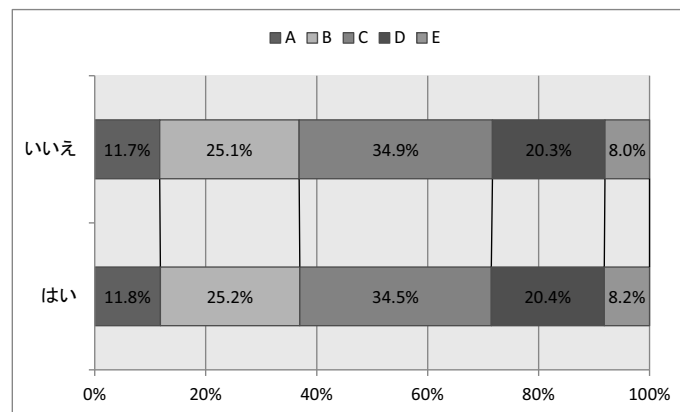


図 7.28 普通教室にLANが整備されている

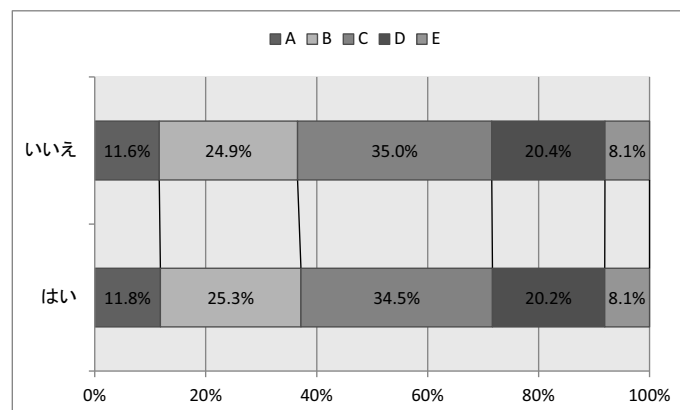
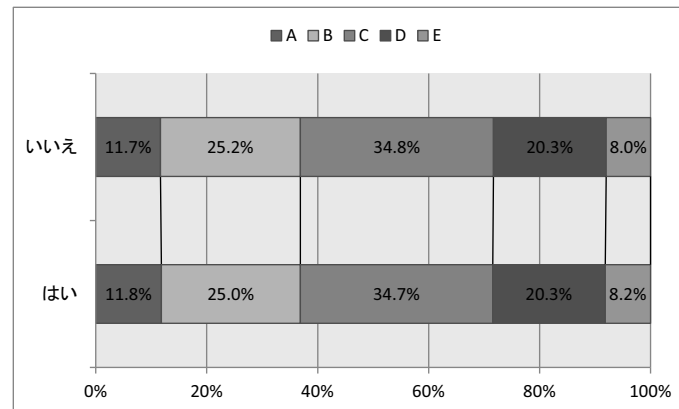
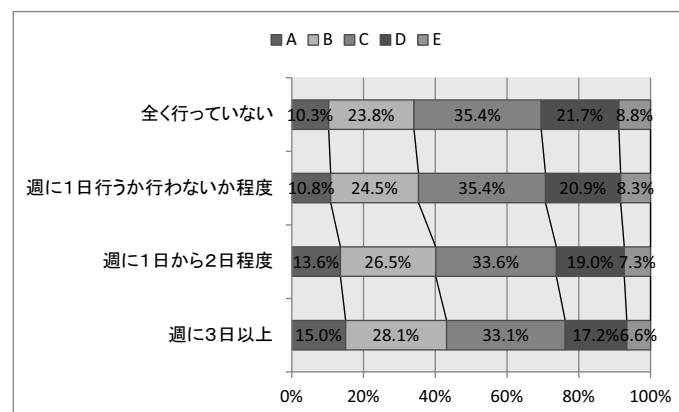


図 7.29 学校図書館図書標準が達成されている



5) 学校の体力向上に向けた取組

図 7.30 あなたの学校では、始業前や休み時間等において、学校全体で組織的・計画的に、児童の体力向上のための取組を週に何日くらい行っていますか



《学校質問紙》学校の回答別、新体力テスト評価の分布
【中学校】

1) 学校規模

図 7.31 学校の全生徒数は、次のどれに当てはまりますか

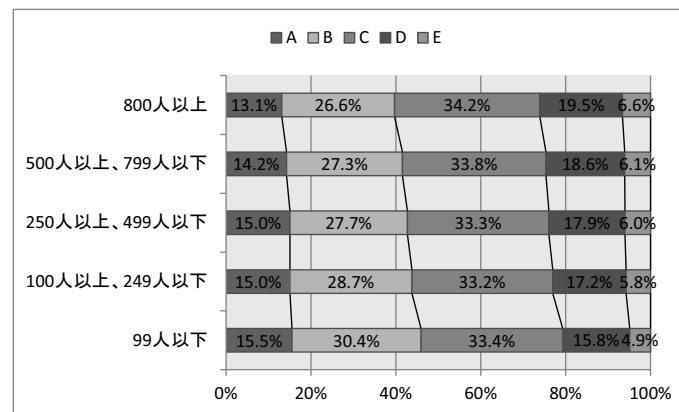


図 7.32 学校の特別支援学級を除くすべての学級数は、次のどれに当てはまりますか

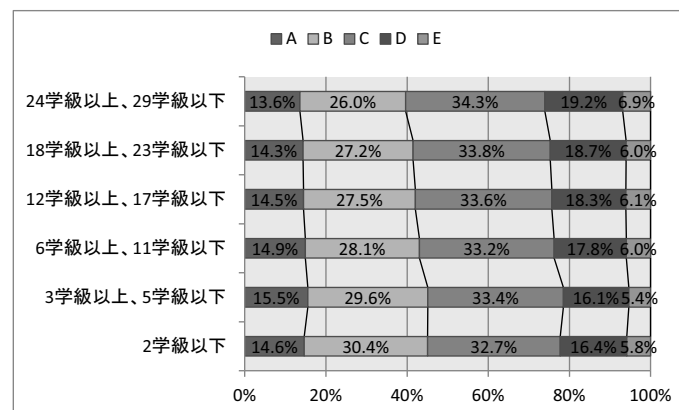


図 7.33 調査対象である第3学年の学級数は、何学級ですか

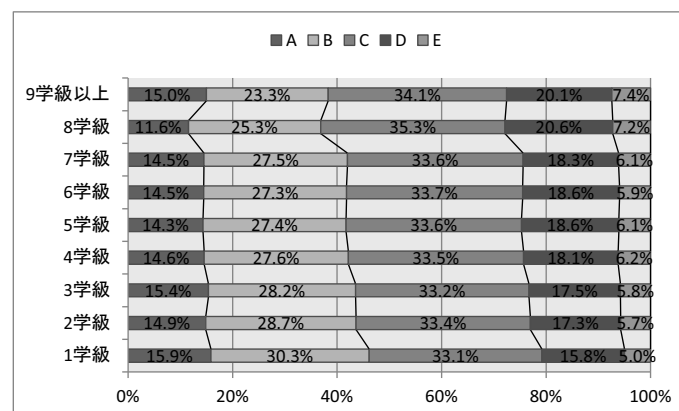
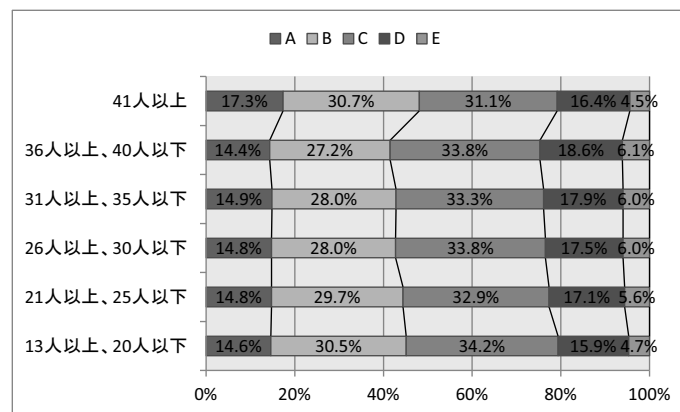


図 7.34 調査対象である第3学年の1学級当たりの生徒数は、次のどれに当てはまりますか



2) 教育職員

図 7.35 (教育職員の年齢構成) 29歳以下

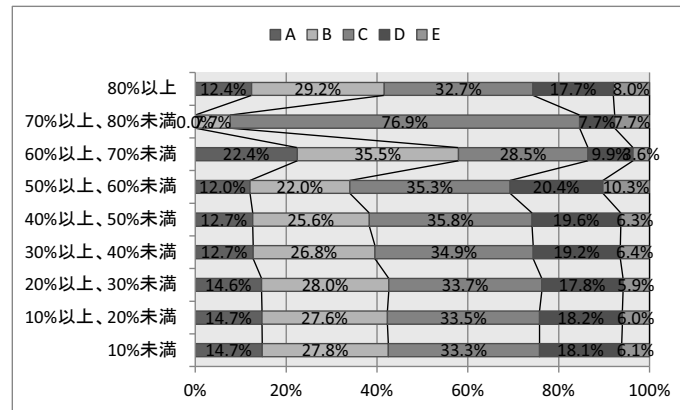


図 7.36 (教育職員の年齢構成) 30歳以上、39歳以下

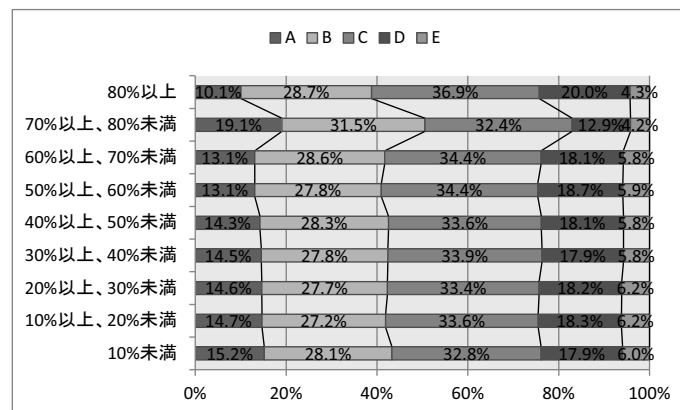


図 7.37 (教育職員の年齢構成) 40歳以上、49歳以下

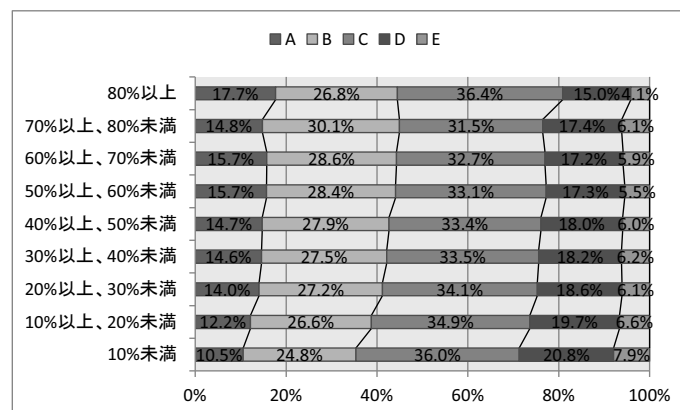
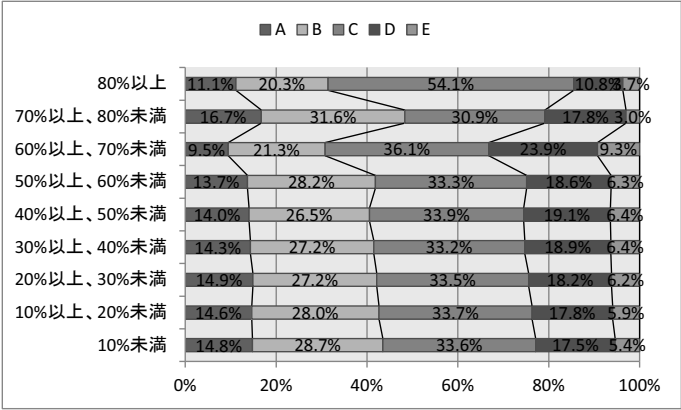


図 7.38 （教育職員の年齢構成）50歳以上、59歳以下



3) 生徒

図 7.39 生徒は熱意をもって勉強している

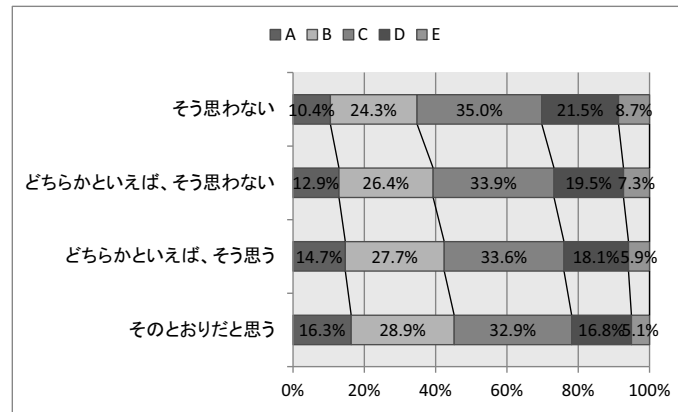


図 7.40 生徒は授業中の私語が少なく、落ち着いている

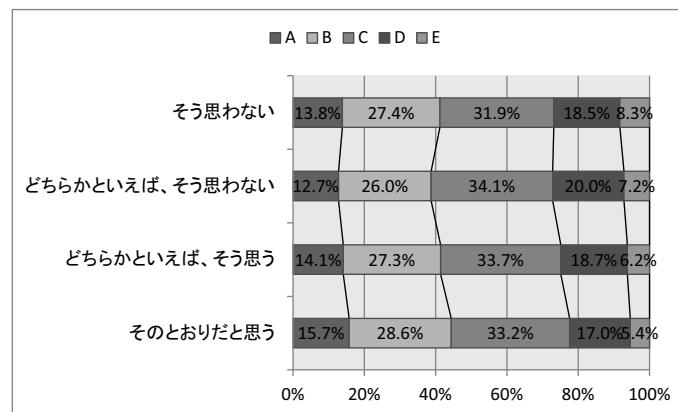
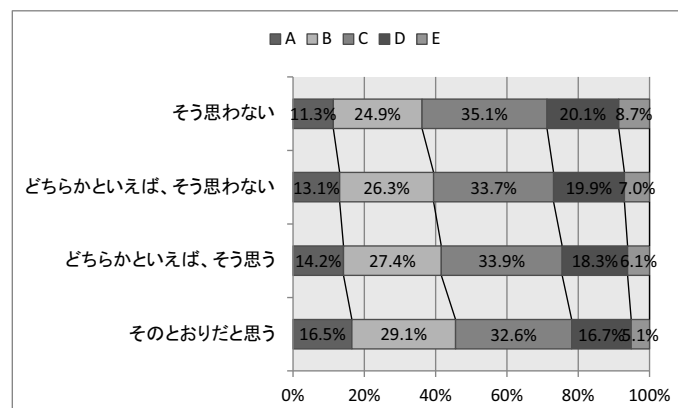


図 7.41 生徒は礼儀正しい



4) 施設・設備

図 7.42 学校の教育用コンピュータ 1 台当たりの生徒数は、約何人ですか

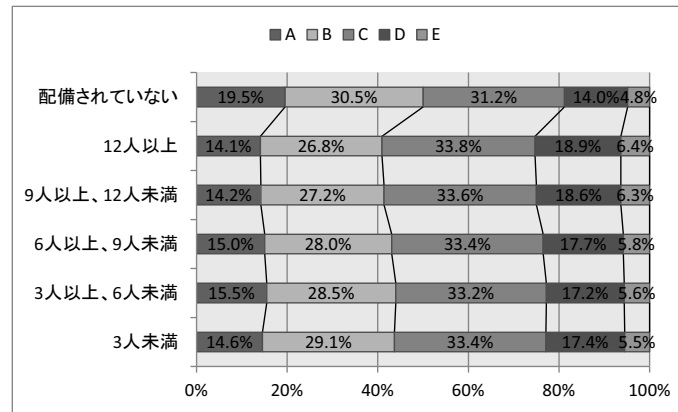


図 7.43 普通教室に教育用コンピュータが設置されている

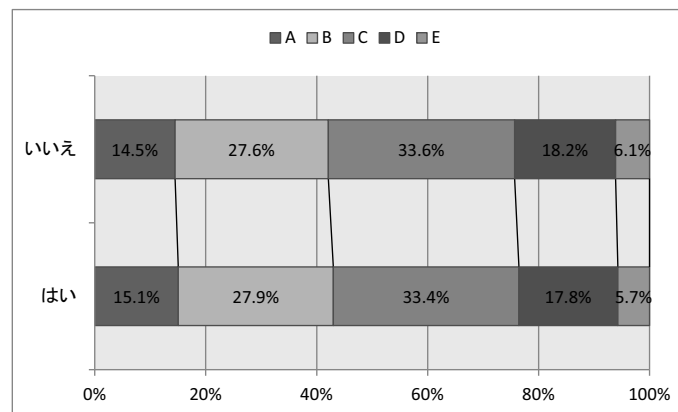


図 7.44 普通教室にLANが整備されている

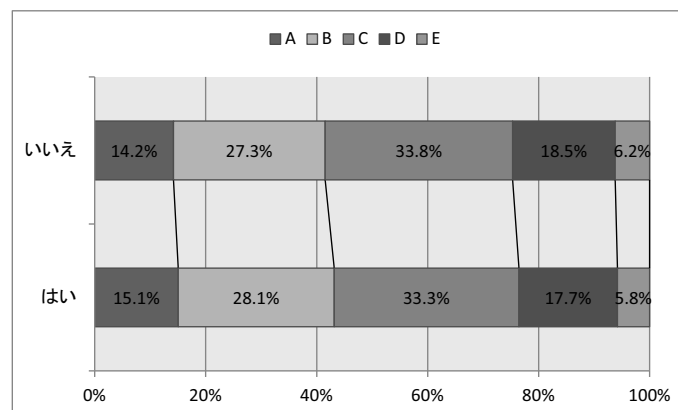
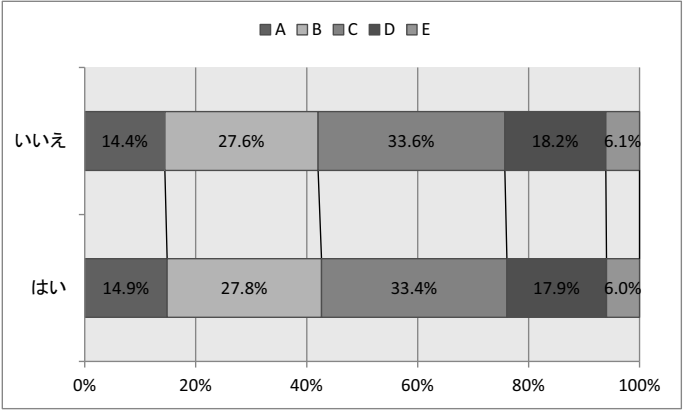


図 7.45 学校図書館図書標準が達成されている



5) 学校の体力向上に向けた取組、部活動

図 7. 46 あなたの学校では、始業前や休み時間等において、学校全体で組織的・計画的に、生徒の体力向上のための取組を週に何日くらい行っていますか。

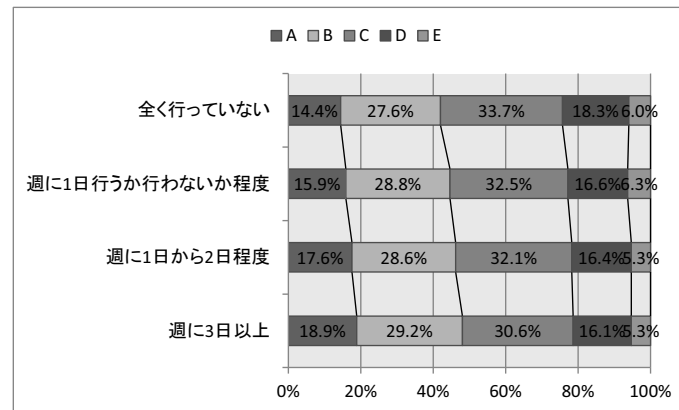


図 7. 47 調査対象である第3学年の生徒のうち、学校の運動部に所属している生徒の割合は、どれくらいですか

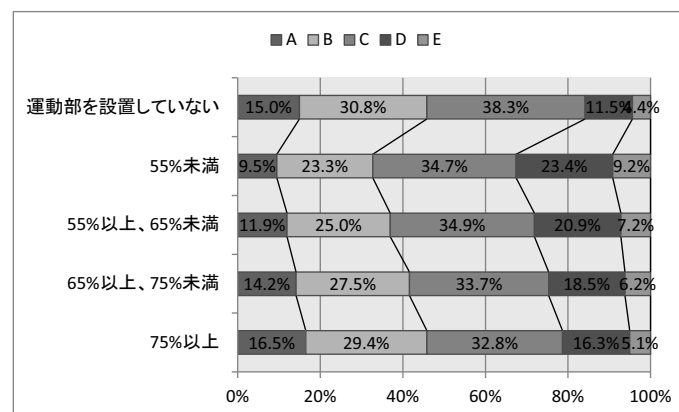
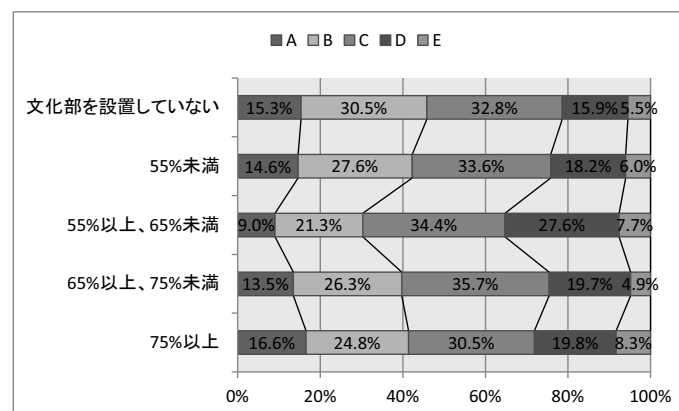


図 7. 48 調査対象である第3学年の生徒のうち、学校の文化部に所属している生徒の割合は、どれくらいですか



《児童生徒質問紙》新体カテストの評価がAまたはBの児童が占める比率別の回答分布
【小学校】

図 7.49 外に出て遊んだり、運動・スポーツをして体を動かしている

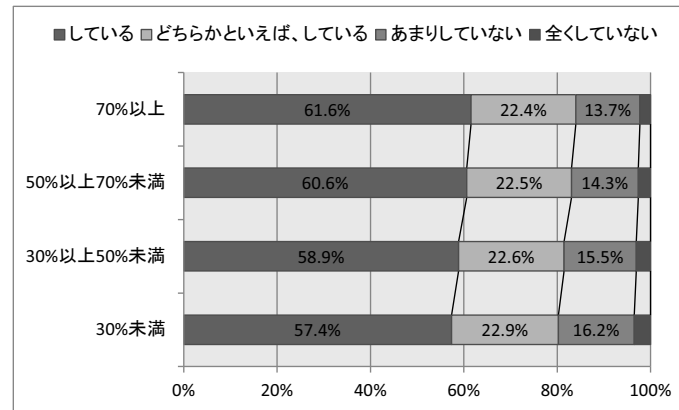


図 7.50 体育の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、運動・スポーツをしますか

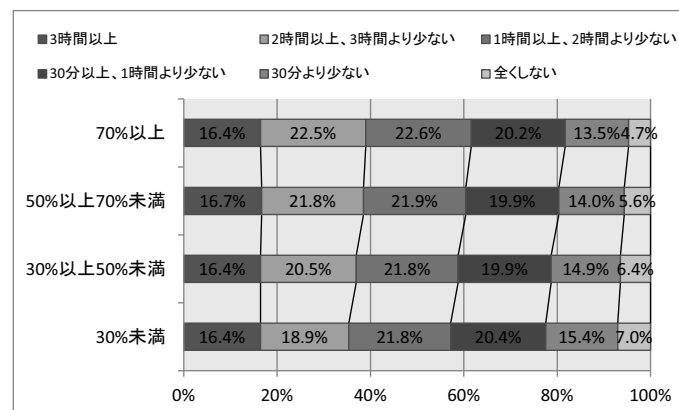


図 7.51 （家の人と）いっしょに運動・スポーツをする

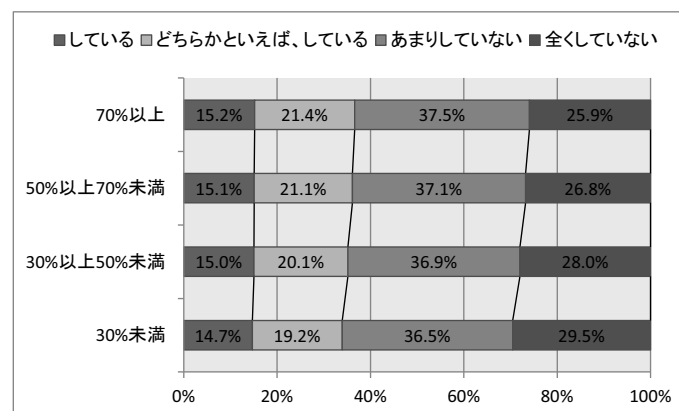


図 7.52 海、山、湖、川などで遊んだこと

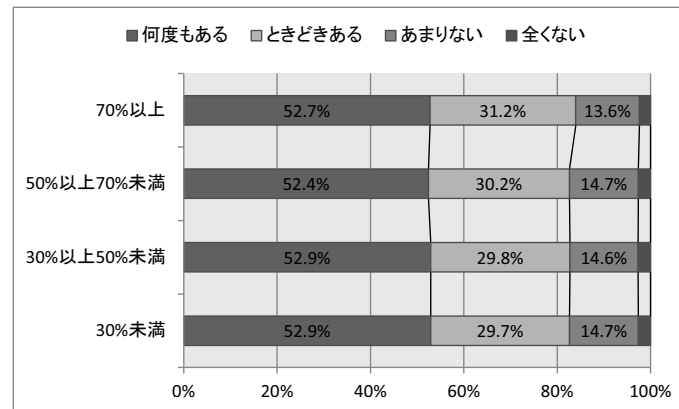


図 7.53 スポーツをすることが好きだ

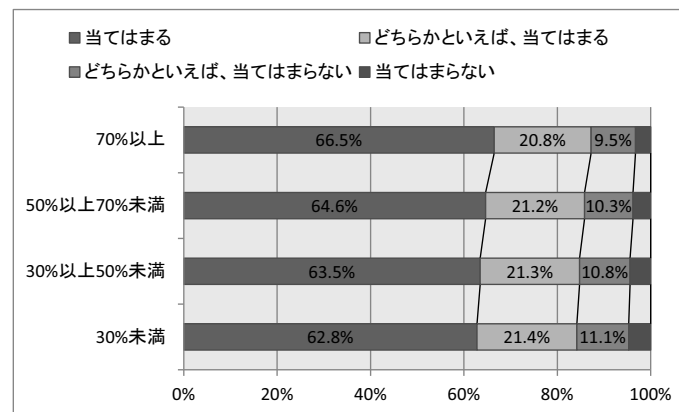


図 7.54 スポーツを見るのが好きだ

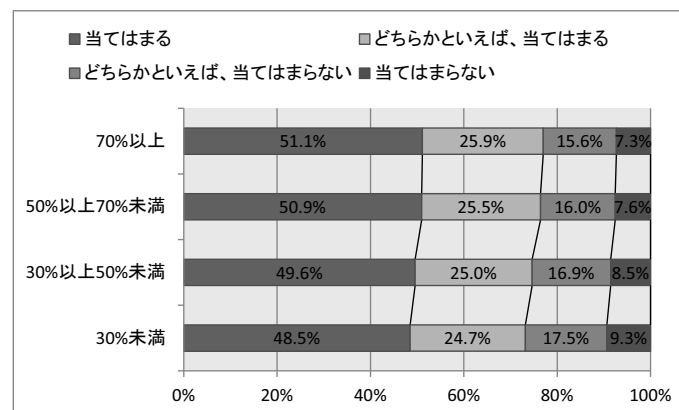
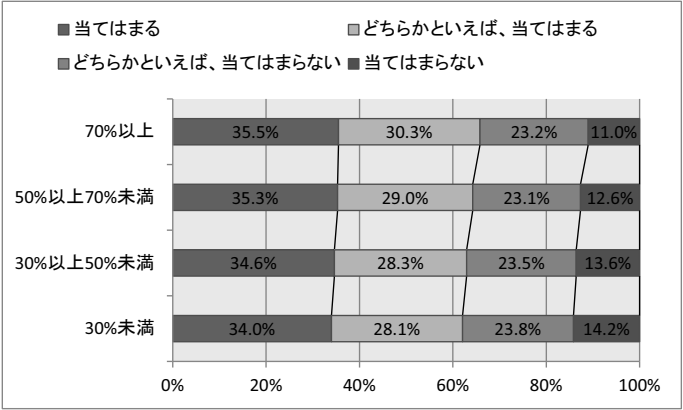


図 7.55 スポーツをすることが得意だ



《児童生徒質問紙》新体カテストの評価がA または B の生徒が占める比率別の回答分布
【中学校】

図 7.56 運動・スポーツをして体を動かしている

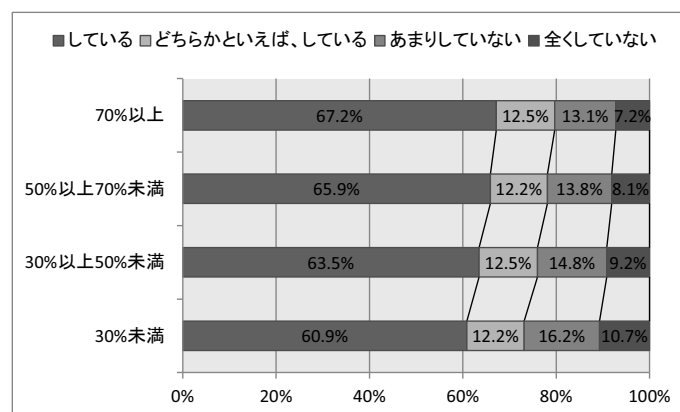


図 7.57 保健体育の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日あたりどれくらいの時間、運動・スポーツをしますか。

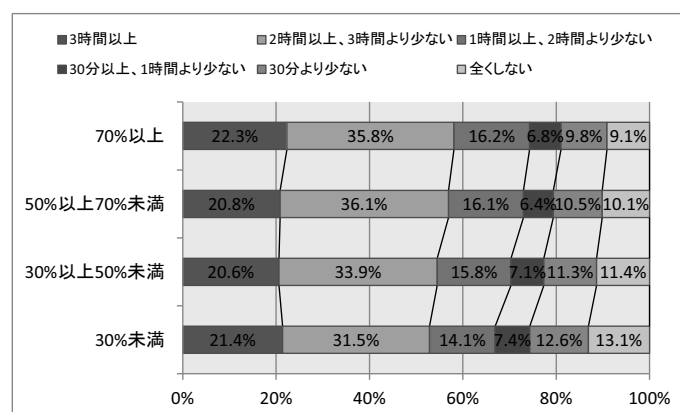


図 7.58 （家の人と）一緒に運動・スポーツをする

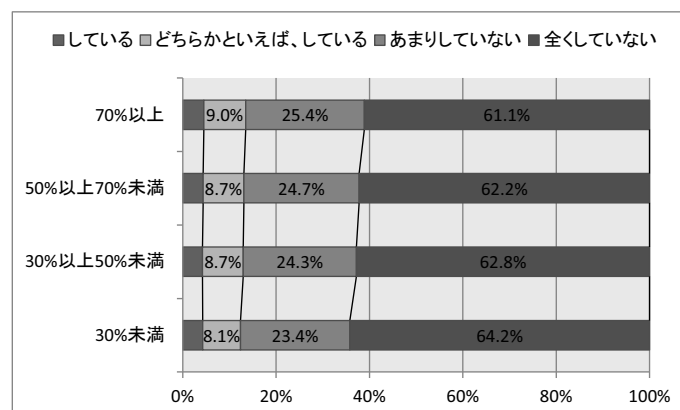


図 7.59 海、山、湖、川などで遊んだこと

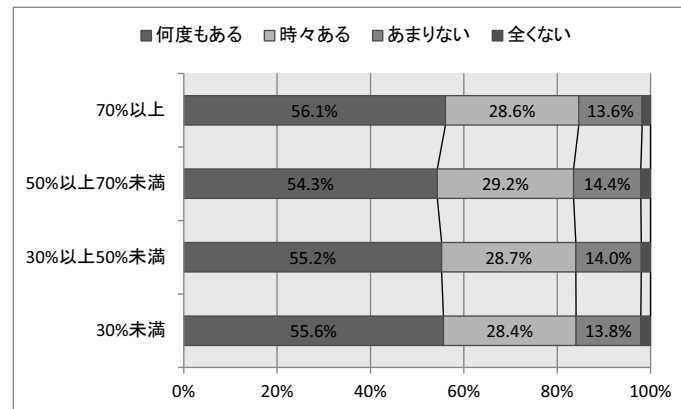


図 7.60 スポーツをすることが好きだ

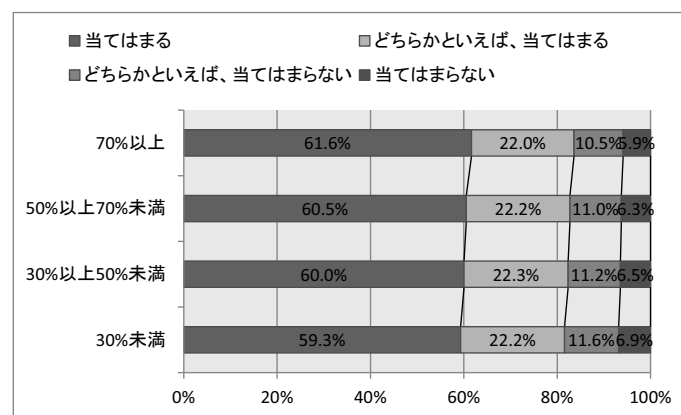


図 7.61 スポーツを見るのが好きだ

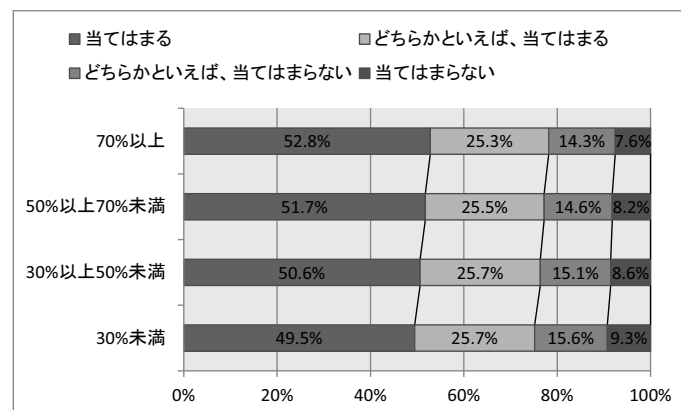


図 7.62 スポーツをすることが得意だ

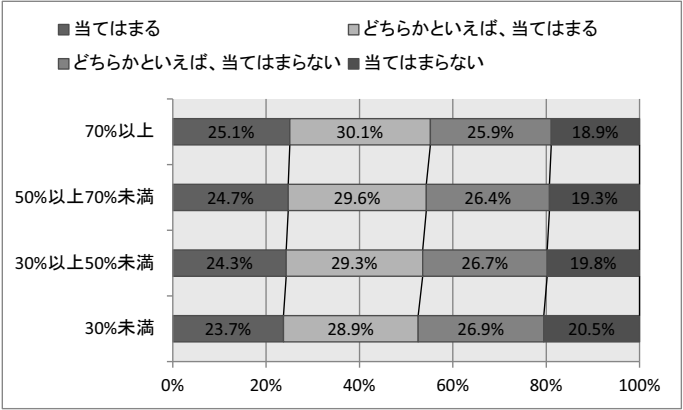
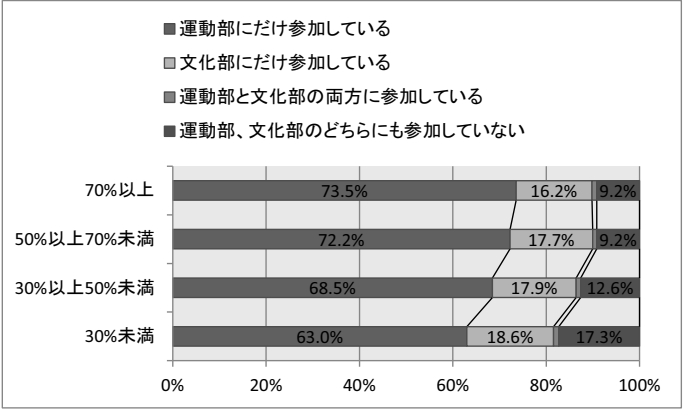


図 7.63 学校の部活動に参加していますか



論文要旨

論文要旨

第1章 就学援助比率が示すもの：児童・生徒質問紙の分析

北條雅一（新潟大学）

本稿は、学校レベルで計測される就学援助比率の指標と、児童・生徒質問紙への回答分布の関係を整理し、就学援助比率の高い学校に通う児童・生徒に見られる傾向を網羅的に把握することを目的としている。分析の結果、就学援助比率は児童生徒の学習・娯楽時間、学習への意欲・関心、社会への興味関心、通塾、基本的生活習慣の5側面と強く関連していることが示された。就学援助比率は児童生徒の経済的困窮度だけでなく、学習態度や生活など幅広い側面と関連する多面的な指標である。

第2章 就学援助率と学力、学校の取り組みとの関係

日下田岳史（東京大学大学院博士課程）

北條雅一（新潟大学）

就学援助率が50%以上の学校の学力のばらつきは、大きくない。就学援助率が50%以上の学校は、学習規律の維持や学習方法の指導に熱心で、補習等の学力向上に向けた取組は、就学援助率が高い学校ほどよく行われている。こうした取組が、就学援助率の高い学校の学力を底支えしている可能性がある。就学援助率が高い学校は、家庭や地域の協力が得られにくい、家庭学習・家庭との連携の程度は就学援助率が低い学校と同程度であり、このような取組への努力が窺われる。

第3章 学力および学習状況の男女差とその経年変化

日下田岳史（東京大学大学院博士課程）

北條雅一（新潟大学）

算数・数学について、小学6年次では、学力に男女差はないにも関わらず、学習に対する構えに男女差が生じている。中学3年次になると、女子は低学力層および高学力層が薄くなり、算数の学習への構えの男女差が明確化している。男女差は行動よりもむしろ意識に表れやすい。理工系分野で女子の活躍が進む環境を整備していく上では、義務教育段階で算数・数学の学習への関心差・意欲差が男女間で顕在化していることを念頭に置き、年齢的に早い段階からの政策対応が求められる。

第4章 学校運営関係係数と学校別平均正答率との関連性の分析

末富芳（日本大学）

学校長のリーダーシップ、学校裁量予算、保護者・地域住の学校参画、教員研修等、学校運営に関連する学質問項目（以下、学校運営関係変数）が、学校別の平均正答率とどのような関連性を見せるのかについて、クロス表分析を行った。学校運営が優れているからテストスコアが上昇するというような因果関係というよりは、低学力校ゆえに取り組みにくい事項（保護者や地域への情報開示、教員の校外研修への参加）があるというような、学校の実態が学校運営を規定している場合が多いといえる。ただし学校運営が、学力向上に関与している可能性のある質問項目(学校評価の学校運営改善への活用、校長のリーダーシップの発揮等)も確認できた。

第5章 学力と市町村指標

篠崎武久（早稲田大学）

本稿では、2007年の「全国学力・学習状況調査」を市町村別に再集計した結果と、雇用環境や財政に関する市町村別データをマッチングさせ、市町村単位で見た平均的な学力と関係がある要因の抽出を試みた。結果、市町村の完全失業率や離婚率、母子世帯比率と市町村の平均的な学力との間には負の関係が確認された。また、地域の平均的な豊かさを示す1人あたり課税対象所得や親世代の大学卒比率と市町村の平均的な学力との間には正の関係が観察された。

第6章 学力層別の学力達成の規定要因分析

妹尾渉（国立教育政策研究所）

北條雅一（新潟大学）

篠崎武久（早稲田大学）

本稿では、『全国学力・学習状況調査』の市町村パネルデータ（2007～2009年度）を利用して、「平均点」、「上位層（90パーセンタイル値）」、「中位層（50パーセンタイル値）」、「下位層（10パーセンタイル値）」それぞれの学力層別に学力達成の規定要因を探った。分析の結果、各学力層で学力達成の規定要因やこれら規定要因の影響の度合いが異なっている可能性が示唆された。また、学校外要因を統制した上で、一学級当り児童生徒数といった学校内要因が学力達成と有意な関係性にあることが示唆された。また併せて、学力と一学級当り児童生徒数との間には、単純な正比例・反比例といった線形関係だけではなく、非線形な関係性が存在している可能性も示唆された。

第7章 新体力テストとその他諸変数との関連性分析

妹尾渉（国立教育政策研究所）

日下田岳史（東京大学大学院博士課程）

篠崎武久（早稲田大学）

本稿の分析からは主に以下の3点が確認できた。まず、第一に、基礎体力の水準が高い児童生徒が多い学校は学力水準も高い、つまり、「基礎体力」と「教育成果」との間に正の相関を確認することができた。第二に、就学援助割合が高いと児童生徒の基礎体力が低くなるという負の相関がみられ、家庭の属性と基礎的な「体力」水準との関連性を確認することができた。第三に、基礎体力と関連性をもつ複数の学校内・外の変数の存在を確認できた。

初等中等教育における教育財政に関する調査研究
最終報告書

平成 24 年（2012 年）3 月

発行者 国立教育政策研究所

住 所 〒100-8951

東京都千代田区霞が関 3 丁目 2 番 2 号

印 刷 株式会社 進英プリント

リサイクル適性 (B)

この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。